聖徒の道 1976年8月20日発行（毎月1回20日発行） 第20巻第8号
昭和42年12月16日第3種郵便物認可

聖徒の道

8 1976

末日聖徒イエス・キリスト教会

1976年 8月号

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
デルバート・L・ステイプレー
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービンJ・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト

諮問委員会

ハワード・W・ハンター
デビッド・B・ヘイト
ロバート・D・ヘイルズ
O・レスリー・ストーン

教会誌編集主幹

ディーン・L・ラーセン

国際機関誌

ラリー・ヒラー（編集主幹）
キャロル・ラーセン（編集副主幹）
ロジャー・ギリング（デザイナー）

「聖徒の道」

八木沼 修一（日本語コーディネーター）

聖徒の道 8月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5－8－10

配送 東京ディストリビューション・センター
東京都港区南麻布5－10－25

定価 年間予約1,700円 1部 150円
海外予約1,700円

INTERNATIONAL MAGAZINE Printed in Japan

もくじ

人手によらずに切り出された石……スペンサー・W・キンボール…… 314
望みなき夜明けから喜びの朝へ……トーマス・S・モンソン…… 320
レーマン人は権威と力を得て立つに違いない…J・トーマス・ファイアンズ…… 323
エライジャのメッセージ……マーク・E・ピーターセン…… 325
1975年統計記録…… 328
あの御方は神の御子……デビッド・B・ヘイト …… 329
静かな細い声……S・デルワース・ヤング…… 332
最も価値あるあなた……ジョン・H・バンデンバーグ…… 334
知恵の言葉……セオドア・M・バートン…… 337
霊の「ワニ」……ボイド・K・パッカー …… 339
神権－その権能と力……H・バーク・ピーターソン…… 342
「富を求めずして知恵を求めよ」……フランクリン・D・リチャーズ …… 345
伝道の機会に感謝して……カーロス・E・エイシー…… 348
従順と奉仕を通じて……M・ラッセル・バラード・ジュニア…… 350
召しを受けて……ジョン・H・グローバーグ…… 351
屋根の上から叫びなさい……ジェイコブ・ディエガー …… 352
あなたは神権を尊んでいるか……N・エルドン・タナー…… 354
少年たちは身近かに英雄を必要としている……スペンサー・W・キンボール…… 358
この地の神に仕えすれば……N・エルドン・タナー…… 362
家族の交流……マービン・J・アシュトン…… 366
「わたしもその中にいるのである」……ジョセフ・B・ワースリン…… 369
4つの事柄……ロバート・L・シンプソン…… 372
「正直な人は神、最高の傑作」……ゴードン・B・ヒンクレー…… 375
「人は自分のまいたものを」……L・トム・ペリー …… 380
生ける予言者……ローレン・C・ダン …… 383
イエスはどのような御方か……エルドレッド・G・スミス…… 385
神の家族……ウイリアム・グランド・バンガーター…… 388
選択の権利……ヘンリー・D・テイラー…… 390
「いちじくの葉は出始めている」……バーナード・P・ブロックバンク…… 392
復活祭に思う……デルバート・L・ステイプレー …… 394
命の道……マリオン・G・ロムニー…… 397
聖典の価値……リグランド・リチャーズ…… 400
モルモン経……ジェームズ・A・カリモア …… 403
個人の証……ジョセフ・アンダーソン…… 406
人の価値……チャールズ・A・ディディエ…… 408
偉大な回復の予言者ジョセフ・スミス……ブルース・R・マッコンキー…… 410
キリストの模範に従っているだろうか……ウイリアム・R・ブラッドフォード …… 413
神殿建設のもたらす祝福……アドニー・Y・小松 …… 415
あなたは宣教師だろうか……ジーン・R・クック …… 417
彼らもひとつとなるため……ハワード・W・ハンター…… 419
永遠の富を求めて……スペンサー・W・キンボール…… 421
福祉活動における教会と家庭……ビクター・L・ブラウン…… 425
教会雇用制度……H・バーク・ピーターソン…… 428
食糧貯蔵……ボーン・J・フェザーストーン …… 430
末日聖徒の女性たちに自給自足を教える……バーバラ・B・スミス…… 433
教会福祉活動の基本原則……マリオン・G・ロムニー…… 435
家族の備え……スペンサー・W・キンボール…… 438

末日聖徒イエス・キリスト教会
第146回半期総大会報告

主は、聖典は「主の意」、「主の精神」、「主の言」、そして「主の声」、さらには「世を救いに導く神の能力」であると言っておられる（教義と聖約68：4）。

1976年4月総大会に集った教会員は、特別な機会に恵まれた。ふたつの示現を高価なる真珠に追加するという、大管長会ならびに十二使徒評議員会の決定に対して、支持と承認の挙手を行なったのである。この結果教会の標準聖典は、正式にその量を増すこととなった。

聖文として追加された示現とは、1836年に予言者ジョセフ・スミスに与えられた「日の光栄の王国に関する示現」、ならびに1918年にジョセフ・F・スミス大管長に与えられた「死者の贖いに関する示現」のふたつである。前者は福音の知識なくして死んだ人の救いについてのもの、後者は、十字架上でお亡くなりになってから復活されるまでの間の、救い主の霊界への訪問に関するもので、特に後者は、死者の贖いの教義を明らかにするものである。このふたつの示現は、「子らの心にその先祖を思わしめ」る業（ジョセフ・スミス2：38）に教会員がさらに精力を傾けて邁進しなければならないという今日の教会幹部の勧告を、大いに強調するものである。(聖文の全文については本書p. 441を参照)

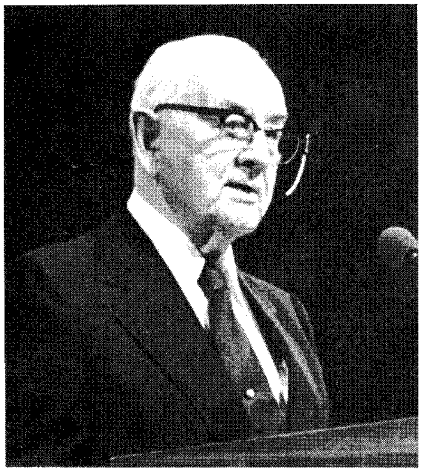
今総大会は、予言者、聖見者、啓示を受ける者、そして教会の管理大祭司であるスペンサー・W・キンボール大管長の管理の下に行なわれた。日程は次の通り。4月3日(土) 7：00 （福祉事業集会）；10：00、14：00(一般大会)；19：00(神権会)、4月4日(日) 10：00、14：00（一般大会)、4月6日(火) 10：00、14：00（一般大会)。大会最終日の火曜日は、1830年4月6日に教会が組織されて以来、第146回目の記念日にあたる。

これに付随して、4月5日（月）に十二使徒会地区代表セミナーが開催された。

大会はテンプルスクウェアのタバナクルで開かれたが、収容人員の関係上タバナクルに入場できない人々のために、テンプルスクウェアのアッセンブリーホールとテンプルスクウェアから1ブロック離れたソルトパレスにおいて大会の模様がテレビ中継された。このふたつの会場は教会幹部が交替で管理した。

土曜日の午後の大会で、大管長会のN・エルドン・タナー第一副管長が、ふたつの示現を高価なる真珠に追加するという大管長会および十二使徒評議員会の決定を発表し、出席している指導者ならびに会員に支持と承認の挙手を求めた。またタナー副管長は、新たに七十人第一定員会に加わる4名の兄弟を発表した。ユタ州プロボのカーロス・E・エイシー、カナダ・トロント伝道部長のM・ラッセル・バラード・ジュニア、アイダホ州アイダホフォールズのジョン・H・グローバーグ、オランダ、ナイメーヘンのジェイコブ・ディエガーの各長老である。これで教会幹部総数は54名となった。

大会の模様は世界各国に中継された。合衆国およびカナダでは、210 を越えるテレビ局が日曜日の大会の模様を2時間中継し、他の30局は、1週間後にビデオテープで放映した。メキシコや中央アメリカ、南アメリカでは、90局が2時間の大会を衛星中継で放送し、オーストラリアでは、32局がスペンサー・W・キンボール大管長の声明を30分もののレポートとして放送した。その他、海底ケーブルにより大会の一部が放送された地域も多い。ヨーロッパでは、大会のふたつのセッションの模様が全ヨーロッパ90の礼拝堂に送られ、説教がフランス語、ドイツ語、オランダ語に通訳された。神権会は、合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、韓国、沖縄、フィリピンの1,056に及ぶ会場に中継された。



人手によらずに切り出された石

ダニエルの予言の成就として、現在、福音は全地に満ちるべく広められている。

大管長
スペンサー・W・キンボール

愛する兄弟姉妹の皆様、私たちは、今ここに再び、ソルトレーク・シティーのテンプルスクウェアにあるこの歴史的なタバナクルに集まっている。世の人々にとり、教会員にとり、私たち自身にとり、大切な事柄を考えるためである。

この数ヵ月は、私たちにとって、極めて興味深い日々であった。

2月から3月初めにかけて、私たちは、南太平洋の国々と海の島々を旅した。最も高い権能を持つ人々も含めて、教会の代表者たちの大団体が、南半球に渡り、成長、進展共に著しい南太平洋の国々の人々と、しばしの時を過ごしたのである。

南太平洋地域には10万以上の会員が住んでいるがその大部分はソルトレーク・シティーで開かれる総大会に出席することができない。そのため私たちは、かの地で地域大会を開催することにした。そこで、ニュージーランドとオーストラリアの3都市、そしてサモア、トンガ、フィージー、タヒチにおいて、そこに住む聖徒たちが、教会幹部に会い、指導者に支持の挙手をする機会を持ち、そして教会を指導している幹部たちから説教を聞くことができるよう、これらの地域を訪れたのである。

私たちは手厚い歓迎ともてなしとを受け、南の国々の立派な聖徒たちに深い愛情を抱きつつ帰国した。

興味深いことであるが、教会は、このアメリカ合衆国においても、また他の数多くの国々においても、同じように急速な成長を続けている。

現在、教会員の国籍は66ヵ国にわたり、その大部分の国で福音が説かれている。さらに、宣教師は23,000人以上に及び、そのうちの2,000人以上は、自国から召された青年男女である。

1938年に私がステーキ部長に召されたとき、そのステーキ部は、世界で124番目のものであった。しかるに現在では750に及ぶステーキ部が存在する。また、私が伝道を終えた頃には、伝道部は20を少し越える程しかなかったが、現在では134の伝道部がある。

私たちの住んでいる合衆国のみならず南アメリカ、東洋、南太平洋、南アフリカ、ヨーロッパ、その他多くの地域で教会員が増えている。毎年、何千何万という人々が、福音はその霊的欲求を満たしてくれるものである、ということに気付き、改宗している。

教会幹部の兄弟たちは絶えず世界の各地を巡り、新しい地域の人々のために、新会員に必要な訓練や教えを施そうと、精力を傾けている。

死者のための業も大いに進んでいる。現在、16の神殿で儀式が間断なく続けられており、なおかつ増加の一途をたどっている。ブラジルのサンパウロ、日本の東京、ワシントン州のシアトルにそれぞれ新しい神殿が建設されることが発表された。生者と死者のためのこの偉大な業を継続していくために、なお多くの神殿が建設される予定である。

私たちは庭に野菜を植え、果樹を栽培し、住いをきれいにし、もっと住みよくするよう訴えてきた。教会員の皆さんが私たちのこの心からの訴えに実によく応えて下さったことを深く感謝している。

訪問する先々で、裏庭が美しい菜園に変わり、とうもろこし、にんじん、じゃがいも、たまねぎ、かぼちゃが植えられている光景を目にした。また、これまでの花壇が菜園に変わった所もあり、花壇と菜園が相半ばしている所もある。

菜園のことで、もうひとつ賞賛すべきことは、隣人と収穫物を交換し合い、それによって交友を深め、隣人愛の精神を養っていることである。

もし家族が皆菜園を持ち、地方の家族が牛や鶏を飼い、果樹を植え、菜園を持つならば、ほとんどの家族が自給自足できるようになることであろう。これは全くもって驚嘆すべきことである。

私たちは、自分自身のためにも、子供たちのためにも、労働が必要であると信じている。私たちは福祉事業に携わり、また生産の需要に応ずるために、労働時間を提供している。私たちは子供たちにも働くようしつけるべきである。子供たちも、家庭や菜園の責任を分担する必要がある。どんなに粗末な家であっても、それを整理整頓する責任を子供たちにも与えるべきである。

また菜園を世話する責任を与えてもよいであろう。いずれにせよ、子供たちをテレビの前に長時間座らせておくより、はるかに良いことである。

子供たちは暇があり過ぎると退屈する。そして、その気晴らしのために、段々と高価なものを欲しがるようになるとしても、それは当然のことである。私たちは、家庭や菜園の仕事を分担して果たすことの貴さを教えなければならない。

ひとりの森林警備隊員から、次のような手紙をいただいた。

「ある日、500名に及ぶ青年たちが、ゴミ屑や石を拾い集め、またキャンプ場やハイキングコースにある400以上のテーブルや橋や便所のペンキ塗りをしてくれました。貴教会の27のステーキ部がこの活動に参加して下さいました。歴史的な出来事と言えましょう。一丸となって重労働に励む青年たちの熱意、活気、それに奉仕の精神は、末日聖徒イエス・キリスト教会の最も優れた伝統と教えと模範だと思います。」

教会の青少年に、適切な責任と指示が与えられると、彼らは驚く程のことをすることができるのである。

ブリガム・ヤング大管長は次のように言っている。

「私の信仰によれば、主が私たちに焼き上がった豚肉や、バターの塗ってあるパンなどを与えて下さるとは思えない。主は私たちに様々な能力を与えて下さる。その能力を用いて、穀物を育て、地に産する果物を手に入れ、住居を造り、板を集めて箱を作るのである。そして主の助けにより穀物が収穫できたら、今度は、私たちの手でそれを貯蔵する。1年分、2年分、5年分、そして7年分と、手元に麦を貯蔵するのである。そうすれば、自給するに足るだけの麦を充分貯蔵できるし、保護を求めてここに来る人々のためにも貯蔵できる。……

何物も無駄にしてはならない。まず冷静に物事を考えて、あらゆるものを拾い集め、何物も無駄にしてはならない。……

細心の注意を払って、あらゆる物を貯えておきなさい。多くのものが集まって自分で処理できなくなったら、その処置について隣人の助けを求めなさい。

子供たちがパンのかけらを粗末に扱っても許される程、自分の周囲には食糧が十分あるなどと決して思ってはならない。たとえ何百万トンという穀物を持っている人がいたとしても、その人も、召使いに向かってパンくずを炉の中へ掃き捨ててよろしいと言う資格はないのである。何か他の動物に食べさせるか、大地に還元するかしなさい。そうすれば、小麦の育った目的が達成されるのである。このことを忘れないで欲しい。何物も無駄にしてはならない。あらゆる物を大切に扱いなさい。

ふたりだけの家族であろうと、あるいは、3人、4人、5人の家族であろうと、この町の中に、その食卓から、また子供たちの食べ残したものから十分貯えができるのに、それを炉の中や屋外に掃き捨ててしまわなければならないような家族はないはずである。そのような食べ残しでも、養豚にあてることができる。そうでなければ、自分たちで全部食べるべきである。

この地域の最も貧しい家庭のところへ行ってみなさい。あえて申し上げよう。そのような家族でも、毎年子供たちに必要な教科書を買える程の布切を無駄にしている。あるいは、無駄はもっと多いかもしれない。

豊かになりたいと思うのなら、手に入れたものを貯えておきなさい。愚かな者でもお金を稼ぐことはできる。だが賢明な人は、それを貯えて、そこから自分の利となることに使う。

神が私たちに注いで下さる祝福を上手に使えば、私たち自身に利益をもたらすことができるのである。もし私たちがそれを賢明に使わないなら、神が私たちに受け継がせようとしておられる力と栄光を切り捨ててしまうことになる。私たちは、用意周到さと倹約の精神、それに神が与えて下さった判断力とを賢明に行使してはじめて、穀物を貯蔵し、家畜を養い、妻子を養い、家屋や土地を維持し、さらにまたこれらのものを増やしていくことができるのである。こうして絶えず、個人的には、私たち一人一人が、そして全体的には神の王国が、その力と影響力とを蓄えていくのである。」（*Discourses of Brigham Young*「ブリガム・ヤング説教集」p.291、292）

借金に関して、ブリガム・ヤングは次のように語っている。

「借金を返済しなさい。私たちはその手助けをしてあげよう。だが二度と借金しないようにしなさい。

何事にも迅速にあたり、特に借金の返済は迅速にしなさい。」（「説教集」p.303）

私たちはこれまで、借金の返済について度々説いてきた。しかしながら、現在では、消費を推進し、分割払いで買い、さらには支払いを翌年に延ばしてまでも物を購入しようとする傾向に陥っている。

1836年、主はマーテン・ハリスに対し、教義と聖約19：35に記されている次の啓示を与えられた。「印刷業者に借りたる汝の負債を支払いて束縛より免れよ。」

「返済できる見込みもないのに借財しようとする人は、立派に統制のとれた社会に見られる諸原則を理解していないのである。そうでなければ、故意に不正直なことをしているのである。

返済に必要な財力を持ちながら、正直にその負債を支払おうとしない人は、もはや末日聖徒ではない。

敵から借りながら、それを返済しないのは、良くないことである。いや極めて悪いことである。そのようなことは、人としてあるまじき行為である。だが、友人や、とりわけ貧しい人々から借金しながら、それを返済しない人々は、聖徒としての特権を受ける資格もない人々である。」（「説教集」p.303、4）

離婚承認書に関する手紙の中に、次のような一文があった。

「この離婚の原因は、夫に経済上の責任感がなく、また夫婦双方共、家計のやりくりが不得手であったためと思われる。申請者である妻は、夫が不貞な行為をしたなどという記憶はないと

述べているし、夫の側でも、結婚生活中、妻を裏切ったことは一度もないと強く主張している。」

それでもこの夫婦は、経済上生活に支障を来たしたために、結婚生活に終止符を打ったのである。この家族はひとつの典型である。もし入念に予算計画を立て、それを実行していたならば、この家族はお互いに傷付け合うこともなく、幸福でいたことであろう。

私たちは前回の総大会で、各家族に入念な予算計画を立てるよう勧告した。この勧告に従えば、家族のもめ事の大半は防ぐことができるし、多くの誤解も生じないはずである。

「わたしを主よ、主よ、と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。」（ルカ6：46）

この主御自身からの問いかけは、極めて力があり、私たちにとって重要なものである。

なぜ教会幹部たちは総大会の度ごとに、同じことを説教するのかといぶかしく思う人もいるかもしれない。しかし、何世紀にもわたる予言者たちの言葉を研究してみると、その説教の型式は極めて明確である。アルマの言葉を借りて言えば、私たちは人々に「常に罪悪を憎むこと」を教えたいと願っているのである。また、「悔い改めねばならぬこと、主イエス・キリストを信ずること」（アルマ37：32、33）をテーマに説教している。謙遜さを称えている。さらに「主イエス・キリストを信ずる信仰を以って悪魔の誘惑をことごとくうち破ること」（アルマ37：33）などを教えたいと願っている。また、「善を行って決して飽」（アルマ37：34）きることのないよう教えている。

予言者たちが同じことを説教するのは、私たちが根本的には同じ問題に直面しているからである。兄弟姉妹、そうした問題に対する解決法は、何ら変わらないのである。入港する船舶を誘導するたびに異なった信号を出すような灯台は、信頼のおけない灯台である。また、安全な山道を知りながら、疑わずについて来る登山隊を人跡未踏の危険な道へ連れて行くような山岳ガイドは、やはり信頼のおけないガイドである。

私は今日、全世界のあらゆる人々に対し、特別に訴えたい気持を強く感じている。救いと昇栄の教えを持つ、イエス・キリストの回復された福音を研究していただきたい。

今日私の声に耳を傾けているすべての人々に、真心から、万感の思いを込めて次のように宣言する。この末日聖徒イエス・キリスト教会こそ、今日この地上にあって、文字通りの神の権能を有する王国である。

救い主なる主イエス・キリスト御自身が、その大能と栄光とをもって、この教会の頭に立っておられる。また主御自身が指名し、支持しておられる予言者と使徒たちを通して、この教会の運営全般を指導しておられるのである。

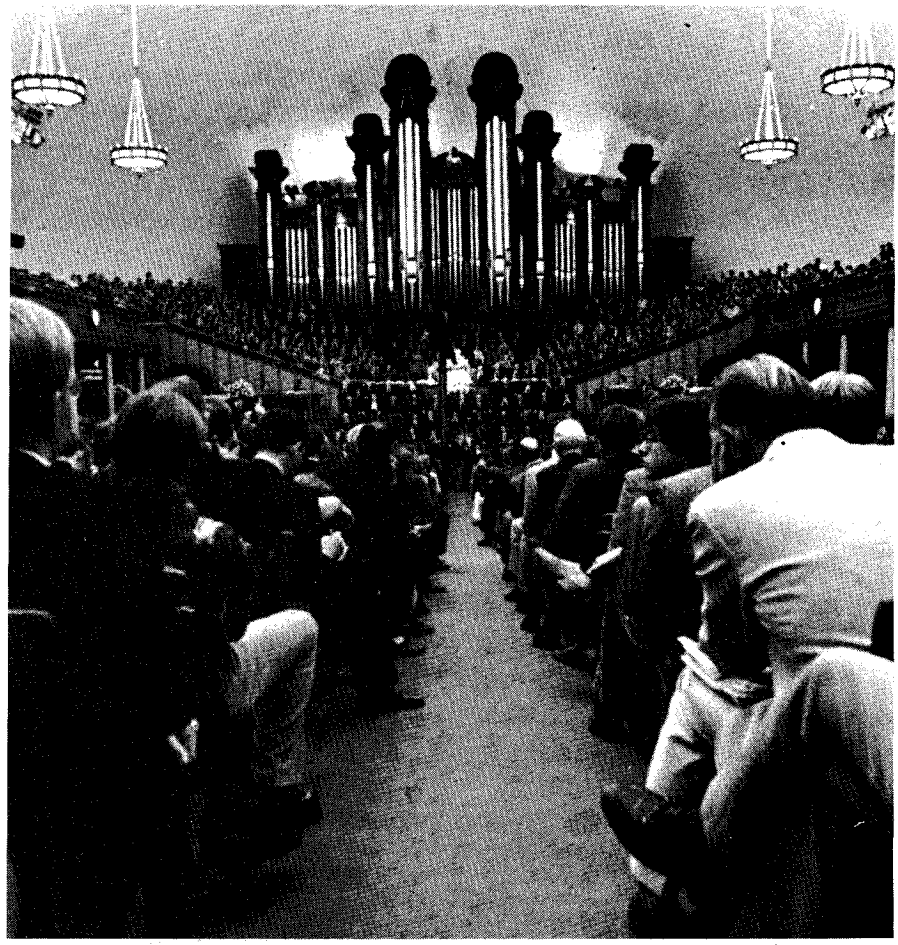
その主から指名された僕たちの中でも、最も小さい者のひとりとして、私はこの麗しい山々の頂から、声を大にして、次のように言明する。広く「モルモン教会」として知られているこのイエス・キリスト教会こそ、救いを得させる神の力である。

私は真心から約束する。回復された福音を研究しようと決意したその日は、あなたの生涯のうちで最も重要な日となることであろう。

その決意さえあれば、啓示された福音の真理に至る望みも大きく開かれ、霊性と愛と平安を増し加える数限りない道が開かれることであろう。

あなたと神との関係も、一層よく理解できるはずである。また、あなたがどこから来たのか、なぜここにいるのか、死後どこへ行くのか、といった一連の重要な質問に対する答えも用意されている。

キリストの真の教会へ入るために正しい権能を持つ者から受けるバプテスマは、栄光に満ちた永遠の王国において昇栄を得るための門を開くものであ



大会のひとこま

る。そしてその昇栄は、悔い改め、義にかなった生活を送り、主の戒めを守り、同胞に奉仕することによって得られるのである。

イエス・キリストの福音は、全世界のための、そして全人類のための福音である。私たちは、神が御父であり、全人類が皆兄弟であると宣言している。またイエス・キリストが神の御子であり、十字架にかけられたと宣言している。その聖なる犠牲は、全人類のための贖いの犠牲であった。私たちは、イエスが復活されたことを、そして今日主が生きておられ、神の右に立って、地上における神の王国のみ業を導いておられることを証する。

イエス・キリストの教会を研究してみれば、それは、キリストと共に地上で働いていた人々からの継承を主張する宗教でも、プロテスタントの宗教でもないことがわかるであろう。それは、キリストの地上の王国が神によって回復されたものであり、初期の教会と同様、「使徒、予言者、監督、教師、祝福師等」（信仰箇条第6条）の組織を持つものなのである。

この回復された教会を研究する人々には、この教会に神権という、天より回復された権威、権能が存在することがわかるであろう。この聖なる権能により、そしてこの権能を通してのみ、福音の救いの儀式が執り行なわれ、この世と永遠にわたって結び固めることを可能にするのである。私は、私の声に耳を傾けるすべての人々に向かい、このことを証する。

いわゆるモルモン教会が、成長著しい、活気に満ちた教会であり、人生の、そして生活のあらゆる面に影響を及ぼす教会なのである。

神より与えられた戒めにより、私たちの教会は伝道を行なっている。現在23,000人以上の宣教師が世界各地に赴いて、時間と金銭と才能を犠牲にして、この回復のメッセージを宣べ伝えている。すでに大部分の自由主義諸国に派遣されている。彼らの伝えるメッセージは、全人類に与えられる。カトリックやプロテスタントといったいわゆるキリスト教世界の人々にも、またヒンズー教、仏教、回教、ユダヤ教、神道、儒教を信奉する人々にも、人種や信条を問わず、すべての人々に伝えられるのである。

私たちは、あらゆる人々が末日聖徒の宣教師のメッセージに耳を傾けるよう勧めるものである。今後、この現世にあっても、来世にあっても、これほどまでに大きな衝撃を与え、良い影響をもたらすメッセージを聞くことはないはずである。

真理を求める心正しい人々に与えられる報いは、比類なく大きい。

主は言われた。「王国を与えられたる……人々よ聴け。地の礎を据え諸々の天と天の万群とを造り、生きて動き実在するすべてのものを造りたる者の言を聴きて耳を傾けよ。

また言う、死の汝らを捕えざる様わが言を聴け。すなわち、うかと過すひと時に夏は過ぎ去り、刈り入れは終りて汝らは救われざるなり。

御父と人との仲保者にして、また御父の前にとりなしをする者の言に耳を傾けよ。……

またかくの如く、わが永遠の誓約を世に遣りて世の光となし、またわが民とこの光を求め来る異邦人とのために一つの旗となし、わが前に道を備うるためわが前に立つ一人の使となしたり。

この故に汝らこの光に来るべし。これに来る者にわれ古え人に為せると同じく道理を論じ、われ汝らにわが強固なる論拠を示さん。」

（教義と聖約45：1－3、9、10）

当教会は回復された教会である。地上における神の王国である。この王国を組織したのは、他ならぬイエス・キリスト御自身だからである。

歴史のまだ浅い頃、言わばまだ生成の過程にある頃起こったひとつの事件を思い出していただきたい。この歴史上重大な時代は、キリスト生誕に先立つわずか600ないし700年前のことであった。主はこの時、将来起こるべきことを極めて珍しい方法で明らかにすることが適当であると考えられた。

バビロンの王ネブカデネザルがエルサレムを包囲し、エルサレムの民を捕われの身にしたときのことである。この囚人の中に、ダニエルとその仲間がいた。ダニエルたちは、高い標準を守り、王や王の部下たちと酒を飲もうとしなかった。

聖典には次のように書かれている。「王が彼らにさまざまの事を尋ねてみると、彼らは知恵と理解において、全国の博士、法術士にまさること十倍であった。」（ダニエル1：20）

ネブカデネザル王はある夢を見た。そこで王は、博士や法術士や占い師たちに命じて、夢と解き明かしとを示すように言った。それに失敗した場合には刑罰が与えられることになった。すなわち、その夢とその解き明かしとを示せない場合には死刑に処されるのである。それに対して彼らは、王に、夢を再現して解き明かしのできるような人はどこにもいないと説得しようとした。

ネブカデネザル王は激しく怒り、バビロンの知者たちをすべて滅ぼすよう命じた。

そこでダニエルは王に会い、しばらくの時を与えてくれるよう求め、ダニエル自身がその夢を解き明かすと約束した。ダニエルは次のように記録している。

「ついに夜の幻（示現）のうちにこの秘密がダニエルに示されたので、ダニエルは天の神をほめたたえた。」（ダニエル2：19）

霊感に満たされたダニエルは、主を讃美し、次のように言った。

「神のみ名は永遠より永遠に至るまでほむべきかな、知恵と権能とは神のものである。

神は時と季節とを変じ、王を廃し、王を立て、知者に知恵を与え、賢者に知識を授けられる。

神は深妙、秘密の事をあらわし、暗黒にあるものを知り、光をご自身のうちに宿す。

わが先祖たちの神よ、あなたはわたしに知恵と力とを賜い、今われわれがあなたに請い求めたところのものをわたしに示し、王の求めたことをわれわれに示されたので、わたしはあなたに感謝し、あなたをさんびします。」（ダニエル2：20－23）

こうして、将来に関する知識を啓示されたダニエルは、占い師や知者たちの助命を願った。

王はダニエルを呼んで尋ねた。

「あなたはわたしが見た夢と、その解き明かしとをわたしに知らせることができるのか。」（ダニエル2：26）

これに答えてダニエルは、王の知者や法術士や博士や占い師には王の秘密を解き明かすことも、示すこともできないと言った。

「しかし秘密をあらわすひとりの神が天におられます。彼は後の日に起こるべき事を、ネブカデネザル王に知らされたのです。」（ダニエル2：28）

ダニエルは王に、その夢は世界の歴史を写し出したものであると説明した。その夢の中には、ひとつの大きな像が登場し、その像の頭は純金、胸と両腕とは銀、腹とももとは青銅、すねは鉄、足は鉄と粘土であった。啓示は続いて与えられた。

「あなたが見ておられたとき、一つの石が人手によらずに切り出されて、その像の鉄と粘土との足を撃ち、これを砕きました。」（ダニエル2：34）

そして、像の各部は粉々に砕け、「夏の打ち場のもみがらのようになり、風に吹き払われて、あとかたもなくなりました。」　風が吹いて、粉々に砕けたものを吹き払ったのである。「ところがその像を撃った石は、大きな山となって全地に満ちました。」（ダニエル2：35）

続いて、その解き明かしが与えられている。

ネブカデネザルは、金の頭で象徴されていて、諸王の王を表わし、世界の権力の代表であった。

また別の国が起こり、全世界を治めるはずであった。

その解き明かしには、他の王国の統治にも触れている。メデアやペルシアを治めたキュロス（クロス）大王は、フィリッポスやアレクサンダーに率いられたギリシャやマケドニアの王国と取って代わられるはずであった。だがこの世界的権力もローマ帝国に取って代わられるのである。

世界の歴史を短く描写したあと、真の啓示が与えられている。ダニエルは次のように言った。

「それらの王たち（つまりヨーロッパ諸国のこと）の世に、天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく、その主権は他の民にわたされず、かえってこれらのもろもろの国を打ち破って滅ぼすでしょう。そしてこの国は立って永遠に至るのです。

一つの石が人手によらずに山から切り出され、その石が鉄と、青銅と、粘土と、銀と、金とを打ち砕いたのを、あなたが見られたのはこの事です。大いなる神がこの後に起るべきことを、王に知らされたのです。その夢はまことであって、この解き明かしは確かです。」（ダニエル2：44、45）

これは世界の歴史に関する啓示である。ひとつの世界的な権力が他の権力に代わり、やがて無数の小国が林立し、地上の勢力を分け合うというのであった。

そして、これらの国々の王たちの時代になると、権威は人に渡されることなく、天の神がひとつの王国を立てられるはずであった。打ち滅ぼされることのない神の王国が地上に立てられるのであった。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、神より数々の啓示を与えられた後、1830年に回復された。そして、これこそ、天の神によって立てられた王国であり、滅ぼされることも、取って代わられることもないものである。また、人手によらずに切り出され、大きな山となって全地を満たした、あの石である。

歴史は進み、世界中に為政者が次々と現われ、しばらくの間世界を統治しては消えていった。しかし19世紀の初頭、遂にその日はやって来た。新世界アメリカが発見され、移民が行なわれ、定住が進められていた。独立を勝ち取り、憲法も承認され、人々に自由が与えられていた。人々の心の中には、真理を確立し、それによって治めようという思想が芽生えた。

いかなる王も支配者も、この歴史を予見することはできなかった。しかし年若い、心の清い、そしてふさわしい予言者ダニエルは、神から啓示を受けてそれを予知することができたのである。

世界の歴史がこのように明らかにされたのは、目的があってのことである。この出来事の結果、心の正直な人々は予言の成就を期待し、また神の啓示についての知識を持ち、将来を見通すことのできる無数の善男善女は、その日を待ち望んできたのであった。

それは、極平凡な過程を経て起こった。神の教えを求める14歳のひとりの少年が、聖書だけから将来についての知識を得ることに困難を感じていた。そのため彼は、木立茂る森の中へ入り、主に向かい知恵を求めて祈ったのである。

時はすでに到来していた。しかし、福音と共に永遠の権能がことごとく回復されることを見通していた敵対者サタンは、全力を振り絞ってこの若者を、ひいては回復のおとずれを滅ぼそうとした。しかし、悪魔の抵抗にもかかわらず、この汚れない、探究心に富む若者の前に、壮大な示現が開かれた。若者が全力を振り絞り、また主の強さを求めた結果、暗黒の力が取り除かれたのである。サタンは退き、示現が開けた。少年の頭上にひとつの光の柱が現われたのである。太陽にも増して輝く光であった。その光は次第に降りてくると、若者の上に留まった。若きジョセフはその後の出来事を次のように記

している。

「その光の柱が現われるや否や、私はわが身を縛った敵から救い出された事に気が付いた。そしてその光が私の上に留まった時、私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有ちたもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまい、他のお一人を指して『こはわが愛子なり、彼に聞け』と仰せられた。」（ジョセフ・スミス2：17）

御父が御子をこのように正式に紹介されたことは、極めて重要なことである。それは、これが、イエス・キリストの世界となり、イエス・キリストの教会となり、イエス・キリストの王国となるからである。

彼が尋ねた質問に主は答えられ、永遠の真理が告げられた。さらに、若く汚れのないジョセフは、もし彼が主の前にふさわしく、また清い生活を送るなら、教会と福音と神の権威権能の回復に関する責任が託されることを告げられた。

若く汚れのない青年へと成長するにつれ、天からはあたかも大洪水が押し寄せるように、様々な導きが与えられた。指示が与えられ、権能が授けられ、知識が与えられ、いと高き所より啓示がほとんど絶え間なく下された。時が来ていたからである。機は熟していた。数多くの人々が完全な真理を受け入れる準備ができていたのである。

続いて間もなく、他の使者たちも訪れた。ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、すなわち王国の鍵と、神権と永遠の祝福の鍵を持っていたあの3人が、この青年の前に現われ、彼らが地上にいたときに持っていた権威と権能とを回復した。

また、ヘロデに首を切られたバプテスマのヨハネが、復活体をもって地上に戻って来て、予言者ジョセフの頭上に手をおき、アロン神権を与えた。

古代のあの大いなるモーセも、日の光栄の体をもって地上に戻り、イスラエルの集合の鍵を回復した。

死者のための永遠の業にかかわりをもつ予言者エライジャ（エリヤ）も戻って来て、偉大な神殿活動と、福音を聞く機会なく死んだ人々へ福音を回復する業のために道を備えた。

だれが教会を組織すべきかについて、主は次のように言われた。

「わが僕ジョセフ・スミス（二代目）のほか、何人たりともこの教会に於てわが誡命と啓示とを受くるために任命せらるることなし。そは、彼は正にモーセの如くわれより啓示と誡命とを受くる者なればなり。」（教義と聖約28：2）

さらに予言者モロナイがジョセフに現われ、長い時間、アメリカ大陸にニーファイの民が移住したことについて、またやがて掘り出されて翻訳されるモルモン経について説明した。この経典はキリストがアメリカを訪れたことの新たな証となり、さらにまた、イエスがユダヤ人にとっても異邦人にとっても永遠の神なるキリストであることを証するものである。また、モルモン経と呼ばれるこの記録は、主イエス・キリストが神の御子であることを明らかにする助けを与えるものである。

このようにして予言が成就し始めたのである。規則に規則を加え、戒めに戒めを加えて福音は啓示され、真理は回復された。権威が与えられ、権能が授けられて、次第に光が射し、十分な数の人々が、ダニエルが2,500年前に見たこの神の王国を組織するために集まって来たのである。

教会は組織された。当初教会は、わずか6人しか会員のいない小さなものであった。それは、人手によらずに山から切り出されて、他の国々を粉々に打ち砕き、転がって全地を満たすはずのあの石とは比較にならない程小さなものであった。

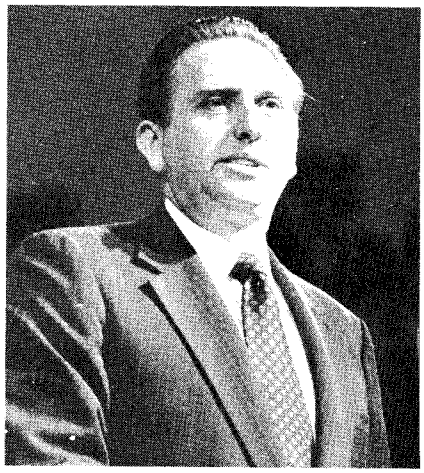
小さな王国の前途には、難関が待ち受けていた。予言者たちは暗殺された。迫害と追放が始まり、急速に成長する小さな教会の会員たちを悩ました。西部の山岳地方への大脱出が啓示によって指示された。西部への移住が始まった。しかし、大きな試練に出会い、血が流され、飢えは人々の命を奪った。しかしながら現在、その石は転がり出て、全地を満たそうとしているのである。

23,000人に及ぶ若い宣教師たちが、それぞれの任地で数千数万の人々にこの真理を宣べ伝えている。福音は世界各国に広められ、神がダニエルを通して下された、全地を満たすというあの約束の成就に少しずつ近づいている。あらゆる国籍、国語の民が大勢多くの国々で福音を受け入れている。教会と王国は成長発展の途にある。私たちは皆さんにはっきりと証申し上げる。この王国は、ダニエルの言葉を借りて言えば、「いつまでも滅びることがなく、その主権は他の民にわたされず、……この国は立って永遠に至るのです。」（ダニエル2：44）

数々の啓示が会員たちには明らかにされている。その目標とする永遠の生命は、必要な儀式を受け、さらに神の戒めに従って生活をすることにより、得ることができるのである。

これらの真理を皆さんに、俗世的な傲慢や高慢の心からでなく、心の底から真心と思いやりとを込めて差しあげたいと思う。計り知れない価値ある福音、真理の福音、救いと昇栄の福音である。

私はこれが真実であることを知っている。神から与えられたものであることを知っている。私はこれが人手によらずに山から切り出された小さな石であることを知っている。私はこれが、救い主イエス・キリストが昇天される直前に予言し、命じられたように、やがて全地を満たすことを知っている。救い主は11人の使徒に向かい、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」と言われた。あらゆる国々、部族、国語の民に伝えるのである。（マルコ16：15参照）私は、アダムの誕生からダニエルの時代に至るまで、またジョセフ・スミスの時代に至り、さらに今日に至るまで、この福音が真実であることを知っている。私たちは皆さんにこれを無償で差し上げたい。私たちは、皆さんがその戒めに厳格に従うなら、永遠の生命を受けると約束するものである。この証をイエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



望みなき夜明けから喜びの朝へ

主は真理を恵みたまい、悲しむときに私たちを慰め、闇から光に伴って下さる。

十二使徒評議員会会員
トーマス・S・モンソン

教会の大管長、神の予言者スペンサー・W・キンボール長老に引き続きこの壇上に立つことは、私にとって格別の栄誉である。きょう私は、大管長の先祖の地、イギリスを心に浮かべている。

イギリスのロンドンは歴史の都である。トラファルガー広場やバッキンガム宮殿、ビッグベン、それにウエストミンスター寺院やテームズ川の名を耳にしたことのない者はいるだろうか。さして有名ではないが非常に価値あるのが、この文化の町に散在する素晴らしい画廊である。

あるどんよりと曇った冬の昼下がり、私は名高いテート画廊を訪れた。ゲインズバラの風景画やレンブラントの肖像画、コンスタブルの嵐を呼ぶ雲に私は感嘆の目をみはった。そして4階の静かな一隅にひっそりと掛かっていたある作品に、私は釘づけになった。画家フランク・ブラムリーの描く、波高い海を前にした粗末な小屋であった。老女のわきに、まだ若い妻がひざを突き、悲しみをいっぱいに船乗りの夫の死を嘆いていた。窓棚の燃え尽きたろうそくが、空しく過ぎた一夜を物語り、灰色の雲だけが嵐の夜の名残をとどめている。

彼女の寂しさはよくわかった。絶望感も感じ取ることができた。画家が作品に与えた題は真に迫って、悲劇を語っていた。「望みなき夜明け」と。

あの若いやもめは、ロバート・ルイス・スチーブンソンの「レクイエム」のこの言葉をどんなにか望んでいたことであろう。

「船乗りは家に、かの海原から帰り来たる。狩人はそして、かの山から家に。」

あのやもめや、愛する人を失った大勢の人たちにとって、夜明けは望みなく、空しい。死は終りで不死不滅は夢に過ぎないと考える人々にはそう思えるのである。

有名な科学者マリー・キュリー夫人は、パリの路上で事故死した夫ピエール・キュリーの葬儀の晩、家へ帰ってから日記にこう書いている。

「墓に納め、花束を散らした。すべては終った。ピエールは地下で最後の眠りについた。それはすべての終り。すべての。すべての。」

（ビンセント・シーハン訳　*Madame Curie : A Biography by Eve Curie*「キュリー夫人伝」イブ・キュリー著 p. 249）

無神論者のバートランド・ラッセルは遺言書のあとにこう書き加えている。「何の熱情も何のヒロイズムも思想と感情の何の高潔さも、人の命を死のかなたまで守ってはくれぬ。」またドイツの哲学者、悲観論者のショーペンハウエルはさらに手厳しい。彼はこのように記述した。「不死不滅を望むのは、大きな誤りを永遠に望むことだ。」

事実思索する人々は、かの無欠の義人ヨブが何世紀もの昔に語った普遍の疑問を、自分の胸に問うてきた。「人がもし死ねば、また生きるでしょうか。」（ヨブ14：14）　ヨブは主からの霊感によって自分の疑問に答えた。

「どうか、わたしの言葉が、書きとめられるように。どうか、わたしの言葉が、書物にしるされるように。

鉄の筆と鉛とをもって、ながく岩に刻みつけられるように。

わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。

……わたしは肉に在って神を見るであろう。」（欽定訳ヨブ19：23－26）

パウロがコリント人に送った書簡ほど、神聖な真理をはっきりと教えている聖句は少ない。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」（Ⅰコリント15：22）

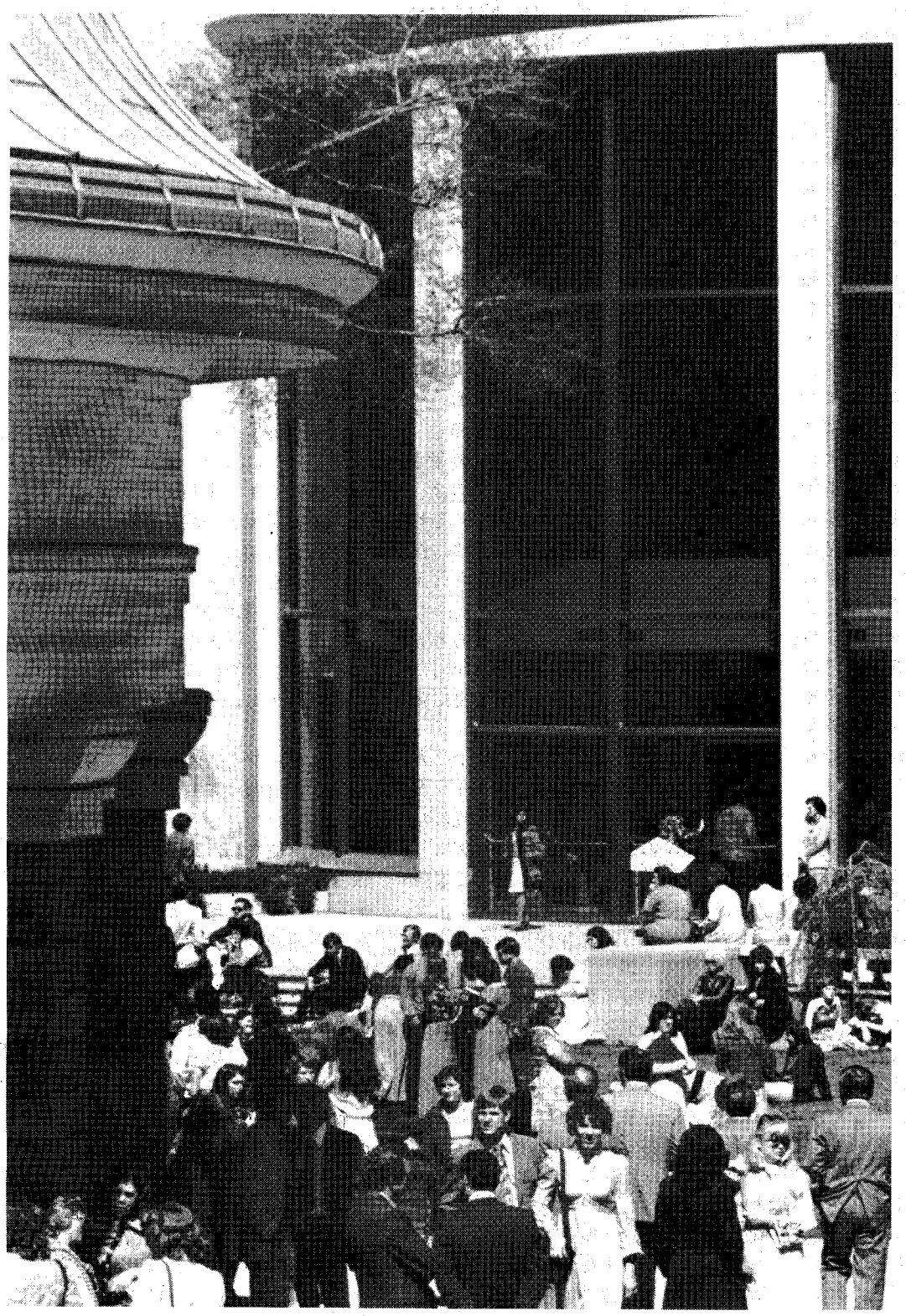
おおかたの死は闖入者としてやって来る。それは、人生の饗宴の真最中に突然現われて、あかりとさざめきを吹き消して行く敵である。それはよろめく足を踏みしめつつ歩む老人のもとを訪れる。人生の旅路のなかばに行きついたばかりの人がその召喚状を受け、ときには幼な子の笑い声が奪い去られる。死は私たちの愛する人にも重い手を置き、私たちを苦悩と疑惑に取り残しもする。非常な苦痛を伴う病いに伏している人などにとっては、死も時として慈悲の天使となることもあろう。しかしほとんどの場合、私たちは死を人の幸福の敵と考える。

例を取れば、やもめ暮しの悲しさは聖典によく出てくる。ザレパテのやもめが思い出されるであろう。彼女は夫に先立たれた。乏しい食物も底をついて、行く手には餓死が待っていた。そこへ神の予言者エリヤ（エライジャ）が来て、彼女の信仰により神の平安を恵まれたのである。

またナインのやもめもいる。彼女は息子の死を嘆き悲しんでいた。その変わらぬ信仰と熱心な祈りが神の賜をもたらし、主イエス・キリストが彼女の大切な息子の命を呼び戻して下さった。

では現在はどうであろうか。嘆き悲しむ心に慰めは存在するだろうか。神はなお、やもめの苦労をかえりみられるだろうか。

このタバナクルからそう遠くない所



大会の合間のひととき。
左：タバナクル、
右：訪問者センター

に、ふたりの姉妹が住んでいた。どちらにもふたりのかわいい息子がいた。愛する夫もいた。ふたりとも健康で、何不自由なく平安に暮らしていた。そんなときに恐ろしい刈り手が彼女たちの家を襲った。まず両方ともひとりの息子を亡くし、次に父親である夫を亡くした。友人たちがやってきて話すことは幾らかの慰めにはなったが、悲しみから抜け出すことはできなかった。

それから月日が過ぎた。しかし心はいやされないままであった。ふたりの姉妹は人なかを避け、ひきこもりがちで、まわりの世界を拒否していた。自分だけで悲しみに浸っていたのである。そのような状態の所へふたりをよく知っていた末日の神の予言者が、主の霊感に導かれてやって来た。ハロルド・B・リー長老が多忙な仕事をさいて、孤独な未亡人たちの家を訪問したのである。彼は姉妹たちの言葉に耳を傾け、その胸の悲しみをじかに感じた。そして彼はふたりの姉妹を神と人への奉仕に召した。姉妹たちはそれぞれに他人の生活に目を向け、神の面を仰ぎ見るようになった。平安が動揺にとって変わり、信頼が芽生えて絶望が去った。こうして神はやもめに心をお向けになり、予言者により神の慰めをたまわったのである。死の闇は啓示された真理の光によって追放できる。「イエスは彼女に言われた、『わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない……』」(ヨハネ11：25、26)

死を越えて生きるという保証、この神聖な確証とさえ言えるものは、救い主が弟子たちに約束したあの平安であろう。

「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14：27)

「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。……わたしのおるところにあなたがたもおらせるためである。」(ヨハネ14：2、3)

カルバリの恐ろしい暗闇から、子羊の声が聞こえた。「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。」(ルカ23：46)子羊は御父のみそばに昇り、闇はもはや闇でなくなった。御子は神のみもとから来て、神のみまえに帰って行かれた。この地上での旅路を神と共に歩む者たちは、祝福を経験して、神は御自身に信頼を寄せる子供たちをお見捨てにならないということを知っているのである。死の夕べに、主の存在こそは「光よりすぐれ、既知の道にまさって安全である。」(マニー・ルイス・ハスキンス *God knows*「神は知りたもう」より)

殉教者ステパノは天を仰いで叫び、復活の真実を告げた。「ああ、天が開けて、人の子が神の右に立っておいでになるのが見える」(使徒7：56)

ダマスコへ行く途中で復活し昇栄されたキリストを示現に見たパウロは、真理の擁護者、主の召しにあって恐れを知らぬ勇敢な宣教師として、後に復活された主をコリントの聖徒たちに証した。

「キリストが、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだこと、そして葬られたこと、聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえったこと、ケパに現れ、次に、十二人に現れたことである。そののち、五百人以上の兄弟たちに、同時に現れた。……そののち、ヤコブに現れ、次に、すべての使徒たちに現れ、そして最後に、いわば、月足らずに生まれたようなわたしにも、現れたのである。」(Ⅰコリント15：3－8)

私たちの神権時代に予言者ジョセフ・スミスは、シドニー・リグドンと共に、これと同じ証を大胆に語っている。

「さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』こと是なり。われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。すなわち諸々の世界は彼の手により、彼の手を経て、また彼に因りて先に作られ、また現に作られ、これに住む者たちも皆神より生れたる息子と娘なることを証したもう。」(教義と聖約76：22－24)

これこそ、人を支える知識である。人を慰める真理である。悲しみにうなだれる人々を陰から光に導く確信である。

この助けは老人や教育のある人、特別に選ばれた人だけに限られたものではない。それは万人のものである。

数年前、ソルトレーク・シティーの新聞に親しい友人の死亡広告が載った。人生の盛りに亡くなったのは一家の主婦である。霊安所では、取り乱した夫と母をなくした子供たちのために弔問客が列をなしていた。私もその中に加わった。すると末子のケリーが私を見つけ、私の手を両手でつかんで「一緒に来て」と言う。彼女は私を愛する母の遺体が安置された棺のそばへ連れて行き、こう言った。「私、泣かないわ。おじさんもそうよね。ママは死ぬことや天のお父様と一緒に住むことを何度も何度もお話してくれたの。私はママやパパのもの。みんなの、また一緒になるのよ。」私の胸に、詩篇の言葉が浮かんできた。「あなたの栄光は……みどりごと、ちのみごとの口によって、ほめたたえられています。」(詩篇8：1、2)

涙に濡れたその両の目に、私は小さな友人の信仰に満ちた美しいほほえみを見た。かわいい手でまだ私の手を握っていた彼女には、望みなき夜明けは決してめぐって来ないであろう。命が墓のかなたにも続くと知った彼女の確かな信仰に力を得て、彼女と父親と兄弟姉妹と、さらには神よりのこの真理を知ったすべての人々は、世にこう告げるのである。「夜はよもすがら泣きかなしんでも、朝と共に喜びが来る。」(詩篇30：5)

私は、神が生きておられること、神の愛子は復活の初穂であり、イエス・キリストの福音こそは、あらゆる人の望みなき夜明けを喜びの朝に変える力強い光であることを心から証する。

イエス・キリストのみ名によって。アーメン。

レーマン人は権威と力を得て立つに違いない

メキシコおよび中央アメリカにおける驚異的な教会の発展に見る予言の成就。

十二使徒評議員会補助
J・トーマス・ファイアンズ

長年人々は予言者から霊感と指示を受け、未来に起こる事柄を告げ知らされてきた。この大会の開会を宣言する予言者の言葉に耳を傾けながら、私はこのことを思い返していた。

現在の神権時代においても、予言者の言葉がこの地上にいる私たちに向けられている。

予言者ジョセフ・スミスは次のように語った。「永遠の完き福音に関して、末日聖徒の教会の教えで最も大切なもののひとつは、イスラエル（レーマン人はその一部を成す）の集合である。」（*History of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*「教会歴史」　2：357）

回復された教会の十二使徒会による1845年の宣言の中に、南北アメリカのレーマン人に関するものがある。「彼らはその先祖と完き福音を知り、それを信じて、イスラエルの家の義しき枝となるであろう。」（1845年4月6日、末日聖徒イエス・キリスト教会十二使徒会による宣言）

ブリガム・ヤング大管長は、レーマン人の改宗について次のように語った。「燃える炎の如き、激流の如き、天使の大軍の如き彼らを見るであろう。」（*Young Woman's Journal*「若い女性ジャーナル」　1890年5月号　p.263）

ジョン・テイラー大管長は次のように語っている。「異邦人の国々から集められるイスラエルの民におけると同様、リーハイの家にも同じ神権組織が取り入れられ、維持されるに違いない。（1882年10月18日付、リバプールに住むA・カーリントンへの手紙）

ウイルフォード・ウッドラフ大管長は、未来を見通して次のように述べた。「シオンは必ずや立ちて栄え、レーマン人は山上のバラの如く咲きほこるであろう。……神が彼らについて語られた言葉はことごとく成就し、やがて彼らは福音を受け入れるであろう。神の力が彼らのうちに現われる時がきて、一日にしてひとつの国家が形成されることであろう。」（*Journal of Discourses*「説教集」　15：282）

ここで、現代の予言者スペンサー・W・キンボール大管長による今日の啓示、「レーマン人は権威と力を得て立つに違いない」（*Conference Reports*「大会報告」　1947年10月　p.22）ということについて考えてみよう。

この予言は、1947年10月3日に述べられたものである。当時中央アメリカには会員が100人、あの偉大な国メキシコにおいてさえ5,000人足らずであった。しかもその半数はモルモン入植地の人々である。「レーマン人は権威を得て立つに違いない。」　繰り返すが、この予言が述べられた当時、中央アメリカの教会員は100人足らず。それが今日、4万人以上にもなって咲きほこっている。また当時5,000人足らずのメキシコの会員は、今やすでに刈り入れを待つ畑に、15万人という豊かな実りを見せている。実に現在は2ヵ月間で1947年の会員総数に当たる人々がこの教会に改宗しているのである。

さらにキンボール大管長はこのように言っている。「彼らが経済的自立を成し遂げ、文化、教養、教育を身につけ、農場や事業や産業を自らの手で営み、専門職および教育の分野に従事する日が来ることを、私たちは心から待ち望むべきである。」

この言葉が述べられた1947年当時、メキシコおよび中央アメリカの教会内で専門職を持っていた人は、5本の指にも満たない数であった。また、車を持ち、近代的な設備の整った家を持つ人の数も同様であった。

「彼らは農場を営むであろう」とキンボール大管長は語ったが、現にあるステーキ部長は7つの養鶏場を経営し、40万羽を越える鶏を飼育している。

キンボール大管長は続けて、「事業や産業を自らの手で営み、専門職および教育の分野に従事する」と語った。メキシコ・シティーのステーキ部長会高等評議員、監督会の職業をあげてみよう。建築家、弁護士、エンジニア（農業経営学、生化学、機械工学、航空工学、石油工学、地質学、都市計画、電気工学）、外科、小児科、歯科を含む医師、看護婦、経営支配人、仕立屋、大工、建築請負人、教師、校長、自動車整備士、事務器修理工、鍛造工、保険外交員、農夫など数え上げれば切りがない。

こうした事実は、この国家の発展を

物語っている。

古代トルテカ文明が栄えたメキシコの地に、ラテンアメリカ最大の精油所がある。ここには、何百キロも離れた地点から山谷を越えて原油が送られ、精油されている。また、文明の遺跡の傍らに、発電所がそびえ、多くの都市に豊かな電力を供給している。そこはかつて、私たちが今求めている平和を究めた人々が栄華を誇っていたところである。

さらにキンボール大管長は続けている。「彼らはシオンのステーキ部とワード部を組織するであろう。」　1日のうちに15のステーキ部が組織された。そしてさらに多くのユニットが許可を待っている。

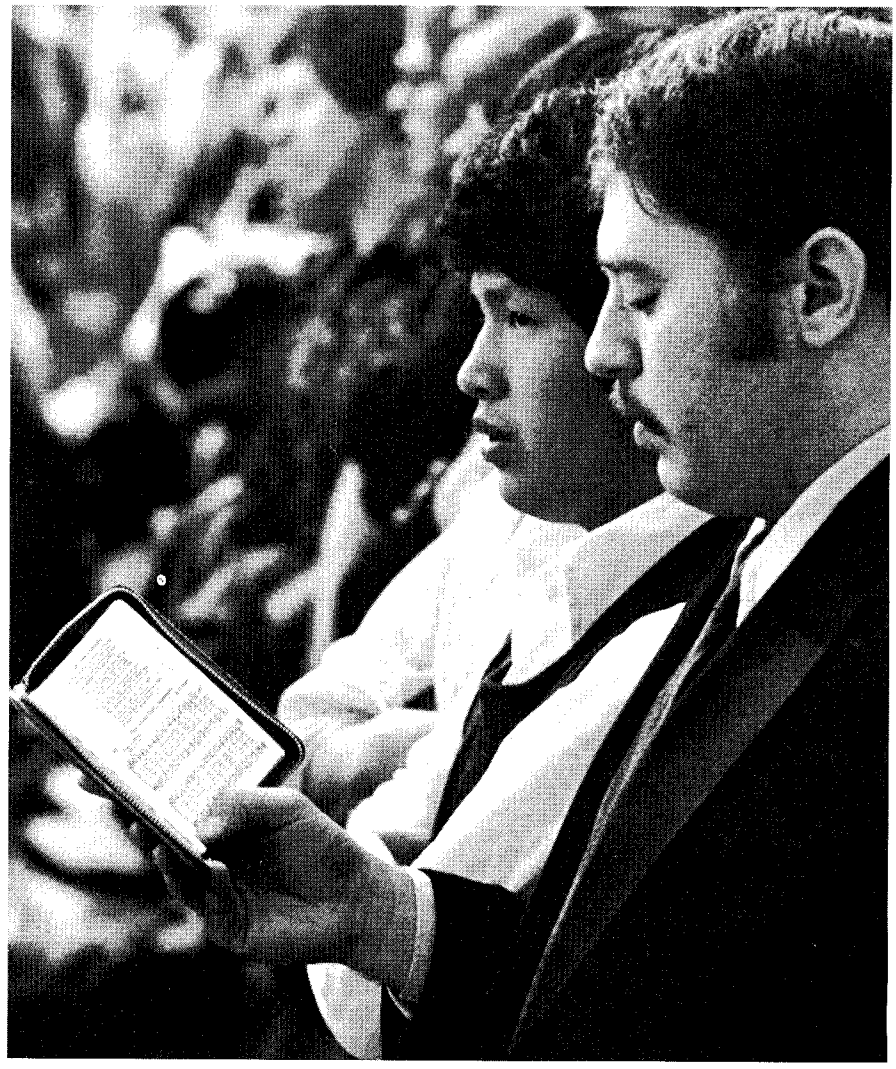
メキシコと中央アメリカからおいでの兄弟たち、どうぞお立ち下さい。

この兄弟たちは、31のステーキ部と171のワード部と支部の指導者の代表である。これに9つの伝道部と38の地方部、215の支部を加えると、メキシコと中央アメリカには合計456の教会ユニットがあることになる。主のぶどう園は豊かな実を実らせている。まことに、20万になんなんとする肉体をまとった永遠の霊が現在教会に加わっているのである。これこそ、予言が成就しつつあることを示す生きた証拠である。

兄弟たち、どうもありがとう。どうぞお座り下さい。

最近私は、太平洋に面した海岸に立って、打ち寄せる波を見ていた。波は次第に砂浜深くに打ち上げ、昨日来、到達し得なかった地点にまで波打ち際が伸びていく。海底からのうねりが高く高く盛り上がって砂浜に打ち寄せる波のごとく、かつての主の約束の記憶が主の子らによみがえりつつある。距離と時間の隔りによりその記憶が薄らいではいるが、彼らは目下、長い間到達し得なかった水準にまで記憶をたどり、到達しようとしている。波のように休むことなく、内なる力が放射され、素晴らしい奉仕の業によって、彼らはより高くうねりを増し、目的に達するに違いない。

キンボール大管長、主はあなたの予言の言葉を成就されました。



シオンの歌を歌う聖徒たち

皆さん、大管長はどのようにして知ったのであろうか。将来を見通す力をだれがお与えになったのだろうか。彼の口から恐れを取り去ったのは何だろうか。

私たちは知的な手段で予言者を理解することはできない。キンボール大管長が今日話されたことは、予言者であることを証明するためのものではない。それは内なる力が外に表われ出たものである。またそれは、あらゆる永遠の真理の源と神の力が結びついていることを証するものである。それは決して証拠立てるものではない。

主はアブラハム、イサク、ヤコブに教えを与え、彼らの受けた霊感は今日の私たちのために守られた。エレミヤ、イザヤ、マラキ、その他の予言者も聖なる記録を残している。そして今日も予言者は私たちに語りかけている。

私は古代におけると同様現代も予言者がいることを証する。昔の時代のような履きものを履き、衣を身にまとってはいないが、権能と、ビジョンと、現在および将来を見通す力をもっている。

主は私たちの光であり、その光は予言者を通じてもたらされる。私はこのことをイエス・キリストのみ名により証申し上げる。アーメン。

☆　　☆

エライジャのメッセージ

神は私たち一人一人に自らの親族を救う責任を課しておられる。

十二使徒評議員会会員
マーク・E・ピーターセン

私たち末日聖徒には、世の人々に対する神のメッセージが託されている。それは、神がこの末の日に再び天から語られ、主イエス・キリストの福音を、その大いなる新たなみこころの啓示のもとにもう一度私たちに与えて下さったというメッセージである。

神がこの時代に語られるということに、あなた方は驚いてはいないだろうか。2千年前の人々と比べて、今日の私たちは主にとってその価値の劣る者と言えようか。主は人々を偏り見る御方であろうか。

ペテロやパウロの時代におけると同様に私たちが救われるためにも、同じ福音が必要なのではないだろうか。福音はただひとつであり、救い主もただ御ひとりである。そしてこの救い主は私たちに、救いに至る唯一の狭くて細い道を与えられた。しかし残念なことに、「それを見いだす者が少ない。」(マタイ7：14)

過去数世紀の間、人類は初めのキリスト教の教えから大きく離反し、その結果数多くの異なった宗派が生まれた。

しかしキリストを分けることはできない。本当のキリストは分けられない。このことは、コリント人へ手紙を書き送り、彼らの中にある紛争をとがめた使徒パウロの言葉に十分説かれている。

「キリストは、いくつにも分けられたのか。」パウロは彼らに問うている。「パウロは、あなたがたのために十字架につけられたことがあるのか。それとも、あなたがたは、パウロの名によってバプテスマを受けたのか。」(Ⅰコリント1：13)

彼はそのように問いかけて言った。「あなたがたがそれぞれ、『わたしはパウロにつく』『わたしはアポロに』『わたしはケパに』『わたしはキリストに』と言い合っていることである。」(Ⅰコリント1：12)　これは、パウロが改宗に導いて間もない人々の間に分裂が生じていたことを示している。しかしこのことは、その時代のひとつの徴候、すなわちパウロの時代においてさえ、キリスト教界が分裂し始めていたことの証拠である。

聖典から明らかなように、古代の使徒にはあらかじめ神の予知の力によって、キリスト教界がやがて分裂し、キリストが祈っておられた教会員の一致が空しいものと化し、最初の真理からの背教が起こることが示されていた。

しかし主は、分裂したキリスト教界を見捨てるようなことはなさらなかった。人類が従うならば、救いを与えようとされたのである。それ故主は、背教が起こることを予知し、末の時代に元通りの真理を回復する備えをしておられた。使徒ペテロは、主の再臨について語った折に、このことをも合わせて語っている。主の再臨に先立って末の日に福音の回復があり、神が聖なる予言者たちの口を通して世の初めから語ってこられた万物の更新があることを、ペテロは説いている。(使徒3：21参照)

この予言の成就にはどのようなことが必要であったのだろうか。聖典は何か告げているだろうか。然り、確かに告げている。福音は天使によってこの世にもたらされることを聖典は告げている。この天使は神の裁きの時に「中空を」飛び、「あらゆる国民、部族、国語、民族に」この真理が宣べ伝えられるとある。(黙示14：6)

さらに聖典は、第二の天使が訪れることを、この大いなる新たな神の啓示の一部として告げている。しかもその名前さえも明らかにされているのである。この第二の天使とは、死を味わうことなく天に取り上げられた古代のエライジャである。

私たちは、最初の天使はすでに訪れ、一世紀半前に予言者ジョセフ・スミスに福音を託したことを証する。私たち末日聖徒は、その福音の守り手であり、現在自由主義諸国にそれを宣べ伝えているのである。

では、第二の天使についてはどうであろうか。最初の天使が福音をもたらしたのであれば、第二の天使の訪れにはどのような目的があったのだろうか。この末日に、エライジャがなぜ再び地上に遣わされなければならなかったのか。

予言者マラキがこのことを説明している。マラキの言うように、エライジャは主の大いなる恐るべき日が来る前に、地上に来ることになっていた。

「彼は父の心をその子供たちに向け

させ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもって地を撃つことのないようにするためである。」（マラキ4：5、6欽定訳より和訳）

この聖句は、聖書学者が非常に理解に苦しんだ箇所である。彼らにはその意味するところがわからなかった。多くの学者は様々に憶測を重ねたが、結局のところだれにも真実がわからなかった。

この聖句は何を意味するのだろうか。エライジャはなぜ地上に戻って来なければならなかったのか。父の心をその子供たちに、また子供たちの心をその父に向けさせるということから、家族の結び付きに何らかの関係があることは明らかである。では、一体それは何だろうか。

この聖句の意味は、最初の天使が福音を回復するまでわからなかった。事実、エライジャの来訪の目的に対して私たちの心を開いたのは、回復された福音であった。

これまでこの世に生を受けたすべての人々は、主イエス・キリストを信じるだけで、アダムの時代の死者に至るまでことごとく救いを得ることができるというのがその意味である。すなわち、生者も死者も共に救いを得ることができるのである。

では、そのためにはどのようにすればよいのだろうか。

イエスが言われたように、主は生者と死者双方の神であり、死者は実際に主にあって生きる。（ルカ20：38参照）

しかし主の福音はただひとつである。生者も死者も主にあって同じであるからには、共に同じ福音の原則によって救われるに違いないのである。主は決して人々を偏り見る御方ではない。

救いは、主イエス・キリストを信じる信仰と罪の悔改め、また権能を有する者によって施される罪を赦すために水に沈めるバプテスマによってのみもたらされるのである。

では、死者はこれらの条件に従うことができるであろうか。その通り、彼らが望むならばできる。では、どのようにして可能であろうか。

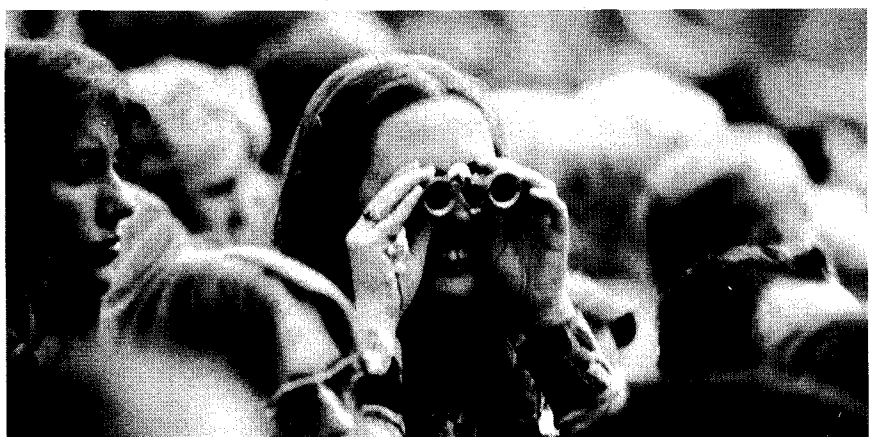
ペテロが説いたように、十字架の刑の後、キリストの体が墓に横たえられていた間、その永遠の霊は死者の住む国へ行った。そこで死者は、霊の存在として生きていたのである。それぞれの霊は別個の存在であった。それぞれが聞き、理解する能力を具えていた。現にイエスは、この世で行なわれたと全く同じように、彼らに福音を教えられたのである。（Ⅰペテロ3章参照）

さらにペテロは言っている。「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである。」（Ⅰペテロ4：6）

もし死者が聞き、理解する能力を具えていなければ、イエスは彼らに宣べ伝えられたであろうか。もし彼らが信じ、悔い改めることができなければ、イエスは信仰と悔改めを説かれたであろうか。救い主は実在の御方のはずではないだろうか。

では、バプテスマやその他の救いの儀式についてはどうであろうか。

ここでは、パウロの言葉が助けとなる。パウロが告げているように、当時の教会では、生者が死者のためにバプテスマを施す手配がなされており、実際に世を去った人々のためにバプテスマが行なわれていた。



では、だれが、何の権能によってこれを行なえるのだろうか。この業を行なうために、どのような手段をもってその死者を明らかにすることができるだろうか。

エライジャがマラキの予言を成就するために来たのはこの理由による。そして私たちは、エライジャが訪れたこと、丁度140年前の今日、すなわち1836年4月3日にカートランド神殿に現われたことを証するものである。

エライジャの訪れは、この世に住む私たちに、死者も救われ得ること、また私たちが神のみ手の道具となってこれをもたらす助けをしなければならないことを教えるためであった。このようにして、エライジャの訪れは私たちの心を亡き親族に向けさせているのである。

死者は現在、彼らの住んでいる国で福音を聞いている。そして、救いの儀式が私たちにより身代りによって施されることを知った死者は、自分たちのためにこの業が行なわれるように望みつつ、必然的にその心を私たちに向けるのである。このことによって、エライジャの使命は達成されている。

私たち末日聖徒は、この偉大な業を推し進めてきた。これらの身代りの儀式を執り行なう聖なる神殿を建て、また亡き親族に関する情報を求めることのできる、世界で最も素晴らしい系図図書館を建ててきた。

にもかかわらず、まだ大勢の人々はこの教義を理解しておらず、またそれに伴う責任をも感じていないのである。

この世に生きている人はみな、自分の亡き親族の救いを手伝う責任を負っていることを知っていただきたい。私たち自身の救いは、ほとんどそれに依存しているのである。私たちは先祖なしには完全となれず、また先祖も私たちなしには完全となれない。（ヘブル11：40参照）　それはなぜだろうか。

主は、それぞれの夫婦が永遠にまで及ぶ結婚をし、またそれぞれの子供が聖なる神権の権能によってその両親に結ばれる必要があると定めておられる。

これは私たちに系図の情報が得られる限り過去にさかのぼって実施しなけ

ればならない。この儀式は、私たちが亡き先祖のために執り行なうことのできるバプテスマに追加されるものである。

この業を行なわない者は、自分自身の救いをも危うくしているのである。

では、私たちはどのような義務を負っているのであろうか。私たちは皆、いやしくも福音に従おうとするならば、自分の亡き先祖を調べ出し、彼らのためにこれらの救いの儀式を執り行なわなければならない。

「神殿に行く」ことだけで自分の責任を果たしていると考える人が多い。だがこれは全く正しいとは言えない。確かに私たちは、頻繁に神殿に行かなければならない。しかし、もしもまだ自分の死んだ先祖の記録を手に入れていなければ、彼らのために探求し、あらゆる手段を尽くして救いに貢献しようではないか。

私たちが神殿に行っているとしても、自分の死んだ先祖のためでなければ、私たちは義務の一部しか果たしていないことになる。というのは、神殿に行って特に自分自身の死んだ親族を救い、聖なる神殿の力によって様々の世代と結ばれる必要があるからである。

私たちは、「神殿に行く」ことだけで責任を完全に果たしているという考えを心からぬぐい去らなければならない。そうではないからである。これだけでは十分でない。

私たちは具体的に事を進め、自分自身の死んだ先祖のために業を行なわなければならない。

神は私たち一人一人に自分の親族、特に自分自身を救う責任を課しておられる。

ある時、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、このことを次のように語った。

「ほかのことで何をするように召されていようと、どんな地位に就いていようと、他のことで教会においていかに忠実に働いていようと問題ではない。この大いなる義務〔死者のための神殿儀式〕を免除される者はひとりとしていないのである。

これはワード部や支部で働く長老におけると同様、使徒にとっても必要である。教会中央や伝道部、あるいはシオンのステーキ部のいずれにおいても、どのような地位にあっても、またどれほどの期間奉仕しようとも、すなわちどこで、どのような働きをしようと、死者の救いに携わることを免除される資格は与えられないのである。

什分の一を納め、定例集会に出席し、その他の義務を果たし、貧しい人々を養うために持ち物を与え、また1、2年あるいはそれ以上の期間世に福音を宣べ伝えるならば、それ以上の義務は免除されると考える人がいるかもしれない。

しかし、すべての人に課せられている最も偉大にしてかつ重要な義務は、死者のために働くことである。私たちは報いを得るために、これら他の事柄すべて行なう必要がある。しかし、もしそれにも増して大きな特権と戒めを無視するならば、たとえ他に良き業を行なったとしても、私たちは必ずや厳しいとがめを受けることだろう。」（*Seeking after Our Dead*「死者を尋ね求める」p.35、36）

特に私たちは血縁のために働かなければならないと言われているが、それはどういう意味であろうか。

その意味は、まず私たち自身の先祖とその家族を明らかにするための系図探求を行なうということである。それから私たちは神殿に行き、系図探求によって明らかにしたこれらの親族のために必要な儀式を施すのである。さらに私たちは、個々の神権の系統の内に自分自身の先祖に結び固められる。そして先祖と私たちは互いに結び固められるのである。

しかし、まず先祖の名前を調べない限り、直系を幾世代にもわたって結ぶことはできないのである。このことを覚えていただきたい。各家族でよく組織立った系図プログラムを行なう必要があるのは、実にこのためなのである。

私が今このようにはっきり申し上げることを赦していただきたい。私の心にある事柄を話すすべをほかに知らないためである。

予言者ジョセフ・スミスは、すでに世を去った人々も、これから生まれてくる人々も共に私たちと救いにあずかる必要があると語った。神殿で行なわれるこれらの儀式がなければ、私たちも死んだ先祖も、永遠の進歩を得ることができないと、予言者は言っている。（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.356参照）

予言者ジョセフが言っているように、窮極の救いを得たいと願う者は皆、「自分自身に対すると同様、彼ら〔親族〕一人一人のために、バプテスマから聖任に至るまで、すべての儀式を行ない、……また自分自身の場合と同様、神権の鍵と力をすべて受けなければならない。」（「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.363）

予言者はまた言っている。「私たちが自分の死んだ先祖を贖い、先祖との結びつきを持ち、またその先祖が第一の復活によみがえることができるように結び固めるのは、エライジャのみたまによる。このことを理解してほしい。」（同上、p.337、338）

さらに予言者は言っている。「彼ら〔聖徒たち〕はどのようにしてシオン山の救い手となるのだろうか。」彼は自らこの問いに答えている。「神殿を建て、バプテスマフォントを築き、すでに死んでいるすべての先祖のために儀式をことごとく受けることによる。」（同上、p.330）

福音の回復を信じるならば、エライジャの使命も信じるに違いないのである。私たちはエライジャが地上に来て、その業の鍵を予言者ジョセフ・スミスに渡したことを宣言するものである。そしてその働きの結果、先祖と子孫の心は互いに向かいあい、この救いにかかわる業が進行しているのである。

しかし私たちは皆、自分の死んだ親族のために本分を尽くさなければならない。日々の生活の中でそれを優先することが大切である。聖徒たちがこの業を優先して行なえるよう、イエス・キリストの聖いみ名によってへりくだり祈るものである。アーメン。

1975年度統計記録

大管長会は1975年度末現在での、教会員数に関する以下の統計記録を発表した。

—管理監督会作成—

教会ユニット

ステーキ部数…… 737
ワード部数…… 5,095
独立支部数…… 1,295
ステーキ部内の
ワード部、独立支部の合計…… 6,390
伝道部数…… 1,761
伝道部内支部数…… 134

教会員数(1975年12月31日現在)

ステーキ部内…… 3,126,469
伝道部内…… 445,733
合計…… 3,572,202

1975年度中の会員数の増加

幼児祝福数……79,723
子供のバプテスマ数……50,263
改宗者のバプテスマ数……95,412

一般統計(ステーキ部、伝道部からの資料に基づく)

出生率(1,000人当り)…… 27.79
結婚率(1,000人当り)…… 13.75
死亡率(1,000人当り)……4.36

神権

アロン神権者(1975年12月31日現在)
執事…… 140,832
教師…… 106,934
祭司…… 178,241
アロン神権者合計…… 426,007
メルケゼデク神権者
(1975年12月31日現在)
長老…… 308,863
七十人……25,734
大祭司…… 113,189
メルケゼデク神権者合計…… 447,786
神権者総計…… 873,793
(1975年度中に32,051人の増加)

教会組織登録会員数

扶助協会…… 954,957
日曜学校…… 3,243,531
アロン神権の年齢に相当する
若い男性…… 257,082
若い女性…… 223,440
初等協会…… 484,261

福祉計画

被援助者数…… 112,715
雇用者数……20,078
労働奉仕日数累計(推定)…… 330,000
福祉操業日数累計……10,045

系図協会

神殿儀式のために
処理した名前の数…… 3,394,762

年度内に37ヵ国において、収録された系図記録は、100フィートのマイクロフィルムで876,532本となり、これは300頁の本で4,219,504冊分に相当する。

神殿の儀式

16の神殿で執行されたエンダウメント
生者……47,142
死者…… 3,027,956
合計…… 3,075,098

教会教育機関

在籍者数(インスティテュート、セミナリーを含む)…… 324,670

あの御方は神の御子

教会員である私たちには、この偉大な真理を人々に教える責任がある。

十二使徒評議員会会員
デビッド・B・ヘイト

皆さんは、初等協会のコーラスをお聞きになり、みたまがこの会の雰囲気をさらに高めてくれたことを感じられたと思う。この歌の伝えるメッセージをお聞きになったであろうか。歌詞を覚えておいでだろうか。

主の来られるとき
備えあるか
み顔を見上げて、祈るために

(「主の来られるとき」マーラ・グリーンウッド・セイン)

予言者アルマは、神は賢人や博学の人の知識も及ばないみ言葉をしばしば子供たちに与えたもうと言っている。(アルマ32：23参照)今日、私たちはその実例を目にした。

私はキンボール大管長から聖任され、任命された数時間後、バージニア州のノーフォークでの集会に向かった。私は満ち足りた気持でいた。私がヤングアダルトの地区大会の集会場に到着すると、全員が「たえず頼り主求む」を歌っていた。彼らは私の召しのことを聞いていたのだった。若者たちは、私が何を必要としているかを知っていた。私には主の助けがどれほど必要かを知っていたのである。「われは頼りて常に求む、わが主よ恵みたまえや」(讃美歌102番)と、一緒に歌おうとしたが、胸がつまってしまった。

ただ今支持されたこの新しい召しと責任の重さには、ただただ圧倒されるばかりである。

全世界に対する特別な証し人としての神聖な責任を受けた私は、主を一層深く理解できるよう毎日祈ってきた。私は主のみ言葉を一段とよく理解できたように思う。主は次のように言われた。「われに就きて学び、わが言を聴き、わが『みたま』の柔和なる道を歩め。さらば、汝われに在りて安きを得ん。

汝は様々の教義を談ずることなくして、悔改め、救い主を信ずる信仰、バプテスマによる罪の赦し、および火すなわち聖霊による罪の赦しを宣ぶるべし。」(教義と聖約19：23、31)

救い主はこう言われた。「起て、汝の腰を引きからげ、汝の十字架をとりてわれに従い、わが羊を飼え。」(教義と聖約112：14)

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」(ヨハネ17：3)救い主のこの言葉は、私にとって深い意味がある。これを人々に知らせ、理解させることは、私の望みであるばかりか、私の聖なる義務でもある。キリストの唯一の教会が地上に回復されて以来、時代は変わった。しかし、人が必要とするものは変わらず、それに対する約束も不変である。次の聖句を聞いていただきたい。

「すなわちわれに近づけ、さらばわれ汝らに近づかん。熱心にわれを求めよ。さらば、汝らわれを見出さん。求めよ、さらば与えられ、叩けよ、さらば開かるることを得ん。」(教義と聖約88：63)

私たちに与えられているチャレンジは同じである。「汝はわが末の世に遣りたるわが完全なる福音と……わが民を回復せんがために発したる誓約とを宣ぶるべし。」(教義と聖約39：11)

「われ再び汝らに告ぐ、汝らすべからくわが与えんとする律法を聴き、これを耳に入れて従うべし。」(教義と聖約42：2)

主が私たちに与えられた教えは、今日も同じである。

「さて見よ、われ汝らに一つの誡命を与う。汝ら相集る時は、汝らの行いてわが教会を導く方法……を知らんために互いに教え導くべし。

汝らは、天より教えを受くべきなり。汝らその身を聖くせよ、然らば能力を授けられ、かくて誠にわが語りし如く教うるを得ん。」(教義と聖約43：8、16)

そして主の約束は今日、私たちに明らかにされている。

「汝もし願い求むれば、啓示を啓示の上に受け、知識の上に知識を受け…」(教義と聖約42：61)

また偉大な約束が与えられている。「而して、もし汝ら誠心誠意わが光栄を顕さんとすれば、汝らの全身光明に充たされて汝らの中に暗黒なく、その光明に充ちたる体はすべての事を理解

せん。」(教義と聖約88：67)

私がキンボール大管長から教えと助言を受けたように、これまで多くの人が助言を受けてきた。146 年前、教会が回復されたとき、大管長会はパーレー・P・プラットを新たに十二使徒として召し、次のように言った。「主よ、天からこの汝の僕にほほえみかけ、彼の罪を赦し、心を清め、祝福に備えさせたまえ。……彼の英知を増し、あらゆる知恵を加え、義の使いとして必要な分別と理解力を与え、召された使徒の職を果たさせたまえ。」

さらに次のように続けている。「あなたはとぎすまされた矢となったのであるから、全力を尽くさなければならない。……数々の困難、労働、窮乏に耐え、完き矢とならなければならない。労働は絶えることなく、困難は大きいであろう。しかし前進し、働き続けて、この偉大な業を遂行しなければならない。……そうすることを天父は求めておられる。畑も業も天父のものである。……天父があなたを励まし、支えてくださるであろう。

高慢や悪に気をつけ、あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい。あなたは、イエス・キリストによる救いについて何も知らない人が数多くいるのを見ることであろう。しかし、間もなく彼らはあなたがその地に来た理由を知るようになるであろう。

へりくだり、……世のへつらいに気をつけなさい。……あなたの務めを第一としなさい。人々の身と霊はあなたに委ねられている。」

大管長会はさらにパーレー・P・プラットに次のように語っている。「あなたはモルモン経の真理を証することができるよう、天より証を受けることが心要である。……

信仰を強めなさい。……

あなたは他の諸々の国民に神の御子の福音を宣べ伝えるために召されている。天父はあなたが地の果て、海の島々の民にまで福音を伝えるよう期待しておられる。……

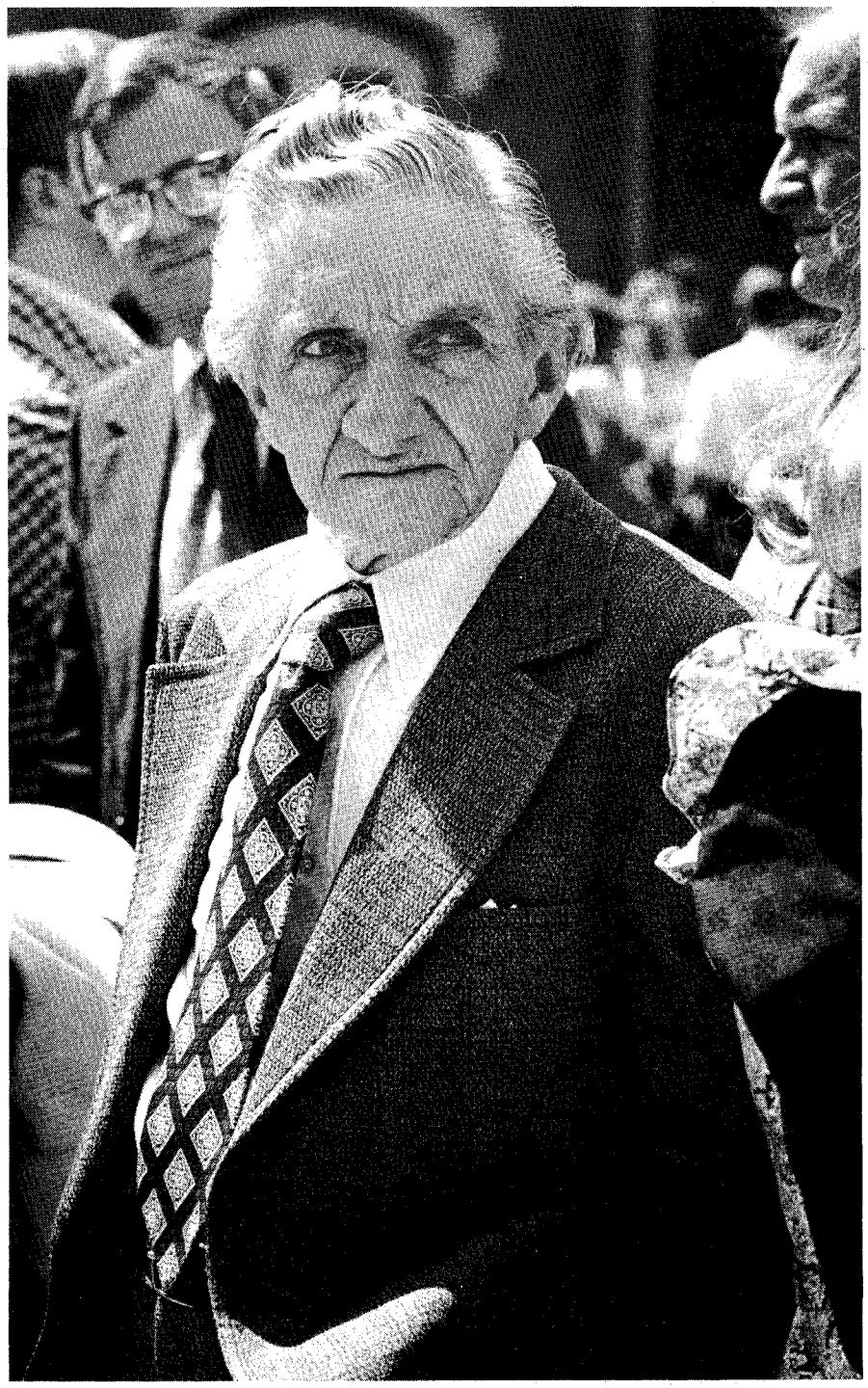
いかなる時でも命を捧げ、神の求めに応じられるよう備えなさい。……絶えず祈り、用心深くあれ。……

この福音は各地に広がり、全地に満ちるであろう。……

あなたにはかつてなかったほどの知恵、知識、英知が必要となるであろう。神はこれを静かに恵みたもう。……

あなたは簡潔かつ清きままに福音を説かなければならない。」(*Autobiography of Parley P. Pratt*「パーレー・P・プラットの自叙伝」p. 119－126)

私は予言者ジョセフ・スミスの霊感によって当時の兄弟たちに与えられたこの教えと勧告が、今日の私たちにも通じるものであることをみたまの力を通して知っている。現在、恵まれて務めを同じくしている十二使徒評議員会



大会訪問者

の他の11人の選ばれた僕たちは、王国建設のためにすべてを捧げておられるばかりか、義なる生活、完き献身の生活を送っておられる。私もこの方々にならい、その模範に従いたいと思っている。この方々一人一人を心から慕っている。大管長会をはじめすべての教会幹部を愛している。私はこの方々と交わるとき、心に温いものを感じる。

ジョセフ・F・スミス大管長は、十二使徒のとき、次のように語った。「これらの十二人のキリストの弟子は、イエス・キリストの神聖な使命を直接目で見、耳で聞いた証人と考えられている。十二使徒は、ただ単に私は信じる、とか、私は信じているので受け入れているのだ、と言うことは許されない。……彼らは知らなければならない。自分で知識を得なければならないと主は私たちに教えておられる。十二使徒は、自分の目で見、耳で聞いたかのように真理を知らなければならない。主は十字架につけられた後死からよみがえり、現在全能の力を持って神の右手に立っておられる。世の救い主イエス・キリストを証するのが彼らの使命である。上の教えと真理を世界に宣べ伝え、宣べ伝えられていることを確かめるのが使命であり、義務である。……特に違った任命を受けていないメルケゼデク神権者は、十二使徒の指示の下に、世界に福音を述べ、真理を宣言しなければならない。すなわち、ジョセフは神の予言者であって、神の王国の基をおく認可を受け、資格を受けていたということを。」（「福音の教義」第一巻 p. 217）

啓示のみたまは、今日の私たちにとって欠くことのできないものである。また、このみたまは救い主が地上でみ業を進めておられたときにも十二使徒にとって大切なものであった。聖書記者たちが、救い主のみ業の極みとみなしているひとつの出来事がある。救い主が十二使徒に重大なふたつの質問を投げかけたことを御存知だろう。初めに、救い主はこう言われた。「人々は人の子をだれと言っているか。」（マタイ16：13）使徒たちはありのままの事実を語り、世の人々は主を救いをもたらすために来られたメシヤと認めていないと語った。彼らは民の推測を繰り返しただけであった。ある人はバプテスマのヨハネだと言い、ほかの人は別のエリヤだと言っていた。またエレミヤのやさしさをその中に認め、エレミヤが来たと思った者もいた。予言者であると考えた者も数多い。光はやみの中に輝いていた。しかし、やみはこれを悟らなかった（ヨハネ1：5参照）。この答えを聞いた救い主がどれほど失望されたか、私たちは容易に想像することができる。このことから救い主は使徒たちに次のように尋ねられた。「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか。」（マタイ16：15）

救い主は使徒たちに真の改宗をさせ、彼らを通して世の人々が改宗することを必要としておられた。それに対する答えとして、ペテロは一同を代表して次のように語り、この栄誉ある務めを果たしたのである。

「あなたこそ、生ける神の子キリストです。」（マタイ16：16）

これは先任使徒の答えである。今や使徒たちはナザレのイエスを彼らの国に約束されていたメシヤ、ダビデの子として認めた。しかしイエスはそれ以上の御方、すなわち、まさに「生ける神の御子」であった。

「すると、イエスは彼にむかって言われた、『バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。

そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。

わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつながれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。」（マタイ16：17－19）

ペテロのこの答えは、イエスに対する彼の証である。神のみたまに導かれてこのことを認めることができる者は幸いであると、ここに言われている。神から下された啓示の上に建てられたイエスの教会は、黄泉のあらゆる力をもってしても征服されることがないと、ここに約束されている。また、主の教会には、開き閉ざし、つなぎ解く力があることがここに確認され、地上で正しく行使される神権の鍵は、天でも認められるという約束がここにある。

神は私たちにキリストに対する信仰を与えてくださった。キリストが11人の使徒に姿を現わされたときにもこの信仰が強調された。御存知のように、トマスは証拠を求めた。自分の目で主について言われたことが本当かどうかを確かめたかったのである。これに対し、救い主はこう言われた。「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである。」（ヨハネ20：29）

私は見ていない。だが知っている。これまでも知っていたが、今日さらに強い確信を得た。そしてこれがこの時代に回復された主イエス・キリストの福音であり、神はまさに生きたもうという確信を常に持てるよう祈っている。神は生きておられ、私たちは神の姿かたちに創造された。マリヤから生まれたナザレのイエスはキリストであり、神の御子である。人に救いを得させることのできる名前はこのみ名をおいてほかにない。キリストは今日でも生きておられ、人はキリストを通してのみ救われるのである。私たちがふさわしければ、キリストによって永遠の父なる神のみもとに帰ることができる。私はこれらのことを知っている。

神から与えられた光が確固たる知識、確信になるよう祈っている。また、直接の啓示を通して、イエスが生ける神の御子であること、キンボール大管長が王国の鍵を保有し、正しく行使する地上で唯一の人であり、地上における神の代弁者であることを知ることができるよう祈っている。

天からの啓示により、イエスが王の王としておいでになり、永遠に統治されることを私たちが理解し、その備えができるように。これらを、聖きみ名によって証し、お祈り申し上げる。アーメン。

静かな細い声

静かな細い声を聞くために、私たちは義にかなったふさわしい者とならなければならない。

七十人最高評議員会会員
S・デルワース・ヤング

私たちは、七十人第一定員会に新しく4人の方々をお迎えできたことを喜んでいる。私たちはこの兄弟たちを愛し、その任命を心から支持し、受け入れている。また、共に協力して働けるよう、最善を尽くすつもりである。

列王記上19章には、エリヤの経験について次のように記されている。

「主は言われた、『出て、山の上で主の前に、立ちなさい』。その時主は通り過ぎられ、主の前に大きな強い風が吹き、山を裂き、岩を砕いた。しかし主は風の中におられなかった。風の後に地震があったが、地震の中にも主はおられなかった。

地震の後に火があったが、火の中にも主はおられなかった。火の後に静かな細い声が聞えた。

エリヤはそれを聞いて顔を外套に包み、出てほら穴の口に立つと、彼に語る声が聞えた、『エリヤよ、あなたはここで何をしているのか』。」（列王上19：11－13）

エリヤは相手が主であることを知ったとき、自分の大きな悩みと、また自分がほら穴の中に隠れている理由とを話した。すると主は、エリヤに何をなすべきかを教えられた。

それから2,700年後、私たちに主のみ声を聞く手段が回復された。その手段は、つむじ風や雷、稲妻、あるいはそのほかの壮大な自然現象の中にあるのではない。主の声は、エリヤのときと同様に、「静かな細い声」で来るのである。

私は、主がその選ばれた予言者に語られる方法のすべてについてあげるつもりはないが、その代表的なものとして直接の訪れ、雲間を突いて下されるみ声、また先程述べた方法などをあげることができよう。

しかし、主の戒めを守り、日々の事柄に対して直接の導きを求め、また危篤状態にある妻子の助命を願う教会員に対して、多くの場合、主は「静かな細い声」でその願いに答えられることを示された。そのとき私たちはどのように主のみ声を受け、また何を期待すればよいのだろうか。

第一に、主は「みたま」すなわち聖霊によって語られる。1829年、主は十二使徒に御自身が下したもうたみ言葉について次のように語っておられる。

「この言を汝らに語れるはわが声なり。そはわが『みたま』によりて汝らに」与えられる。（教義と聖約18：35）

その後、1832年に主は長老たちに、次のように告げられた。「われ、わが『みたま』の声によりてこれを語る。」（教義と聖約75：1）

主が、義しくふさわしい人々に語られることは確かである。従って、主がいつみたまを通して私たちに語りかけられるかを理解することが、私たちにとって非常に大切なものとなってくる。

第二に、主のみ声は、それを受け入れる人の心の中にもたらされる。例えば、予言者イノスは、主に祈ったときの経験を次のように述べている。

「私がこのように精神こめて祈っている中に、ごらん、また主の御声が私の心に聞えて仰せになった。」（イノス10）

主がイノスに言われたことをここで取り上げるつもりはない。しかし、主がイノスに語られた模様からその手段のひとつが、ここに明らかにされている。主のみ言葉は心の中にもたらされるのである。

第三に、オリバー・カウドリに与えられた主の教えに耳を傾けてみよう。これはオリバー・カウドリが翻訳を願い出た際に、その願いが聞き届けられると告げられたときのものである。

「然り、見よ、われ今汝に来りて汝の心の中に留るべき聖霊によりて汝の智と情に告げんとす。」（教義と聖約8：2）ここで言う情とは、感情の意味である。

さて、オリバー・カウドリは、努力をしたが失敗に終わり、次のように告げられた。

「されど見よ、われ汝に告ぐ、汝心の中によく思い計り、その後願うこともし正しからば汝願わざるべからず。願うこと正しからば、その時われ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感ぜしむ。

されどもし願うところ正しからずば、かかる感なくして汝の心は次第に鈍くなり、そはついに悪の悪たるを忘れしむるに至らん。故にわが与うるにあらざれば、聖きことを汝録すを得ず。」

（教義と聖約9：8、9）

祈りについて、オリバー・カウドリと同じような思い違いをしないようにと申し上げたい。

心を燃やすということは、言い換えれば、感情が啓示の過程の重要な一要素であるということである。

第四に、ニーファイは自分を殺そうとした兄たちを厳しく叱責し、次のように言っている。

「あなたたちは悪事をするのは早いけれども、あなたたちの神である主を思い起こすのはおそい。あなたたちは、これまでに一人の天使を見、天使はまたあなたたちに言葉をかけた。まことにあなたたちはその御声を時々聞いている。その時それは静かな細い声で話したもうたが、あなたたちはなんらの感じもなかったのでその御声を感ずることができなかった。それでそれは雷のような声であなたたちに語りたまい、その声はあたかも引き裂かんばかりに大地をゆり動かした。」（Ⅰニーファイ17：45）

繰り返し申し上げる。「それは静かな細い声で話したもうたが、あなたたちはなんらの感じもなかったのでその御声を感ずることができなかった。」ニーファイはなぜ、「あなたたちは全く耳を傾けなかったのでその御声を感じることができなかった」と言わなかったのだろうか。それはすなわち、確信は感情を通してもたらされるからである。

主から啓示を受けるためには、主の戒めを守ることにより、主のみこころを知る者となる必要がある。そうするときに、主の知恵により必要に応じて主のみ言葉が思いを通じて心の中に入り、胸の内に何かを感じるに違いない。それは表現しがたい感情であるが強いて言えば、「燃える」という感じである。またこれに伴い、安らぎと、そのことが正しいというより確かな証を得ることができるのである。ひとたびこの燃える思い、この気持、この安らぎを覚えた者は、日々の生活において、あるいは導きを受けたときに、決して迷うことはないであろう。この啓示がすでに明らかにされている原則と一致するならば、それが正しいことがわかり、また一致しなければ、それが主からのものでないことを知るのである。なぜなら、主にあっては何ひとつ矛盾することはないからである。生ける予言者に与えられるみ言葉に相反する啓示を受ける人はひとりとしていない。すべての人はこのことをよく理解しなければならない。この原則を応用することによって、日常生活で経験する多くの欲求不満を防ぐことができるであろう。

陽だまりの中の子供たち。左からジェニファー・ドウーリー、シンディー・アレン、ジャネット・アレン

この会場にいるほとんどの方々は、こうした経験を数多くしてこられたことと思う。しかし、大勢の子供たちはいまだこのことを経験していない。従ってこれを理解させる必要がある。

では、いつこの原則を教えればよいのだろうか。それにはまず、この原則を適用する必要のある状況に対して、常に敏感でなくてはならない。あるとき、遊び友だちに腹を立てた小さな子供が、あの子とはもう絶対に遊ばない。家にも絶対に入れてあげないから、と言いながら家に帰って来た。そのとき、賢明な母親は仕事の手を休め、すかさずその子にこう言った。「お母さんと一緒にお部屋に行って、ひざまずいて天のお父さまにお話する必要がありそうね。」そこで母親は息子に、どのようにすれば人を赦せるかを説明し、そのことについて祈るようにと言った。母親はまず自分が祈り、次に息子に祈らせた。祈り終わって寝室を出るときに、息子は母親を見上げてこう言った。「僕、あの子とまた遊ぶよ。家に連れて来るね。」

皆さんは、これを祈りの答えであると言うかも知れない。まさにその通りである。しかしこれはまた、この少年が主のみ声を聞いた初めての、しかも非常に大切な体験である。

若者が成長するにつれて、何をなすべきか、またどのように振る舞うべきかを知るために、みたまを求める必要のある場合が数多くある。では、すべての両親は、いつ、どのように子供たちにそれを教えればよいだろうか。家庭の夕べはどうであろうか、確かに良い機会である。しかし、それよりもはるかに大切な時がある。それは、彼らがみたまを必要としている時、まさにその時に教えることである。そうすれば子供たちは、正しい生活をしていれば主の声が自らの心に訪れることを理解するであろう。胸の内にある種の感じと共に安らぎがもたらされるからである。こうして子供たちは、主のみ言葉をその身に受けるようになるのである。

予言者ジョセフ・スミスはこの方法により啓示を受けた。ジョセフ・スミスに続く他の大管長についても同様である。そして現在、教会員はこの方法により、スペンサー・W・キンボール大管長を通じて主のみ旨を知ることができる。私たちはこの方法により、最終的に永遠の生命に至る道を見出すことができることだろう。私はそれが真実であることを、またスペンサー・W・キンボール大管長が予言者であることを心から証する。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

4月3日(土)　午後の部における説教

最も価値あるあなた

私たちはみな自己を分析し、持てる真価を見出さなければならない。

十二使徒評議員会補助
ジョン・H・バンデンバーグ

最近、わが家にある記念品を整理していたときに、金色に輝く1枚のコインを手にし、それにまつわる心温まる経験を思い出した。

もう何年も前のことであるが、私は教会建築委員会の委員になるよう要請され、デンバーからソルトレークシティー行の飛行機に乗った。そのとき、同じスタッフの一員も乗り合わせていたので、たまたま隣合わせた紳士を交じえ、私たちは3人でしばし話に興じたのであった。その紳士に職業を尋ねたところ、彼は建築技師であり、テキサス州のある大都市で教会の建築に従事しているとのことであった。彼はまた、教会の財政委員会が教会員から建築基金を募ろうとして失敗に終わったいくつかの経験についても話してくれた。彼らは教会員に直接頼んだり、食事会やバザーやゲームなど、あらゆる努力をしたにもかかわらず、いずれも大して成功しなかった。

そこで彼らは、その財政難を切り抜けるために特別の集会を開いたそうである。そしてその集会で、だれかが聖句を引用して、主の方法に従うように提案したところ、実に素晴らしいアイディアを得たというのである。その聖句はマラキ書から引用されたものであった。

「わたしの宮に食物のあるように、什分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主はいわれる。」（マラキ3：10）

この集会から、財政委員会は教会員にこのメッセージを伝えるための、実にユニークな方法を考案した。銅で50セント硬貨大のコインを造り、金貨に見えるよう表面を金メッキし、片面には「什分の一は主のものである」と、またもう一方の面には「私の宮に十分の一全部を携えて来なさい。そうすれば、あふるる恵みをあなたがたに注ごう」と刻んだのである。

このコインは教会員に配付された。小銭が必要なとき、男性はポケットに、女性は財布に手を伸ばす。そのとき金色に輝くそのコインが目につき、什分の一の義務を思い起こすであろうという企画であった。彼は満足気にほほえみ、私たちふたりにそのコインを渡してこう言った。「これは大成功でした。みんな良く応えてくれて、今、建築プロジェクトは着々と進んでいます。」

彼が言ったように、正しい原則が正しく適用されるなら、良い結果がもたらされるのである。

少しして、彼は話題を私たちに向け、職業を尋ねてきた。そこで私たちはこう答えた。「偶然ですが、私たちも教会堂の建築に従事しています。末日聖徒イエス・キリスト教会の仕事をしています。」

「今、どれ位の教会堂を建築中ですか。」

「現在、数百です」と答えた。

驚きの表情で彼は言った。「それはまた、随分多いですね。一体全体どうやって支払うつもりなんですか。資金獲得のめどはたっているんですか。」

私はこう説明した。「偶然が重なりますが、教会員からなんです。あなた方が聖句の中に見つけた什分の一の律法という素晴らしい秘訣は、主の教会が回復されて以来、私たちの教会の教義なのです。」

この話は発展し、什分の一、断食献金、建築資金、神殿基金、福祉基金、運営基金、宣教師基金を納めるだけでなく、教会福祉に時間を提供し、教会プログラムの管理や参加など、末日聖徒の偉大な奉仕にまで話が及んだ。また、教会の若人の献身と広範な伝道活動についても説明した。彼は相当興味を覚えたようで、座席に深く体をうずめると、考えこむように言った。「全く驚きました。私たちにはない何かがあなた方にあるに違いありません。」

そこで彼は、どういう違いがそのような献身を生み出しているのか、と再び質問してきた。その答えをジョセフ・スミスに求めてみよう。1839年12月、ジョセフ・スミスは聖徒たちの苦しみを取り除こうと、幾人かの会員と共にワシントンを訪れた。そして彼は、ハイラム・スミスに宛てた手紙の中で、アメリカ合衆国大統領と行なった会見の模様を伝えた。「会見で大統領は、私たちの宗教が他の宗教とどの点で違っているのか尋ねた。ジョセフ

説教の同時通訳の準備をする通訳者

兄弟は、バプテスマの様式と按手による聖霊の賜が異なると答えた。他のすべての事柄は聖霊の賜の中に包含されると考えたからである。」（「教会歴史」4：42）それは教会員に確認されるときに各人に与えられる賜である。その賜を持つ者としてふさわしく生活する人は、それによって導かれるのである。

聖霊の力については、救い主が弟子たちに語られた教えの中に説明されている。

「しかし、わたしはほんとうのことをあなたがたに言うが、わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。

それがきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう。

わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今はそれに堪えられない。

けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。」（ヨハネ16：7、8、12、13）

会員が真理の知識と証を受けるのは、聖霊によってである。その影響力を受ける教会員は、イエス・キリストの回復された福音の大いなる目的を自由意志によって心から支持するのである。たとえ何が要求されようとも、彼らはそれに応え、慰めを感じるのである。ほかにどうなるというのであろうか。たとえ話で言われているように、値は支払われるのである。

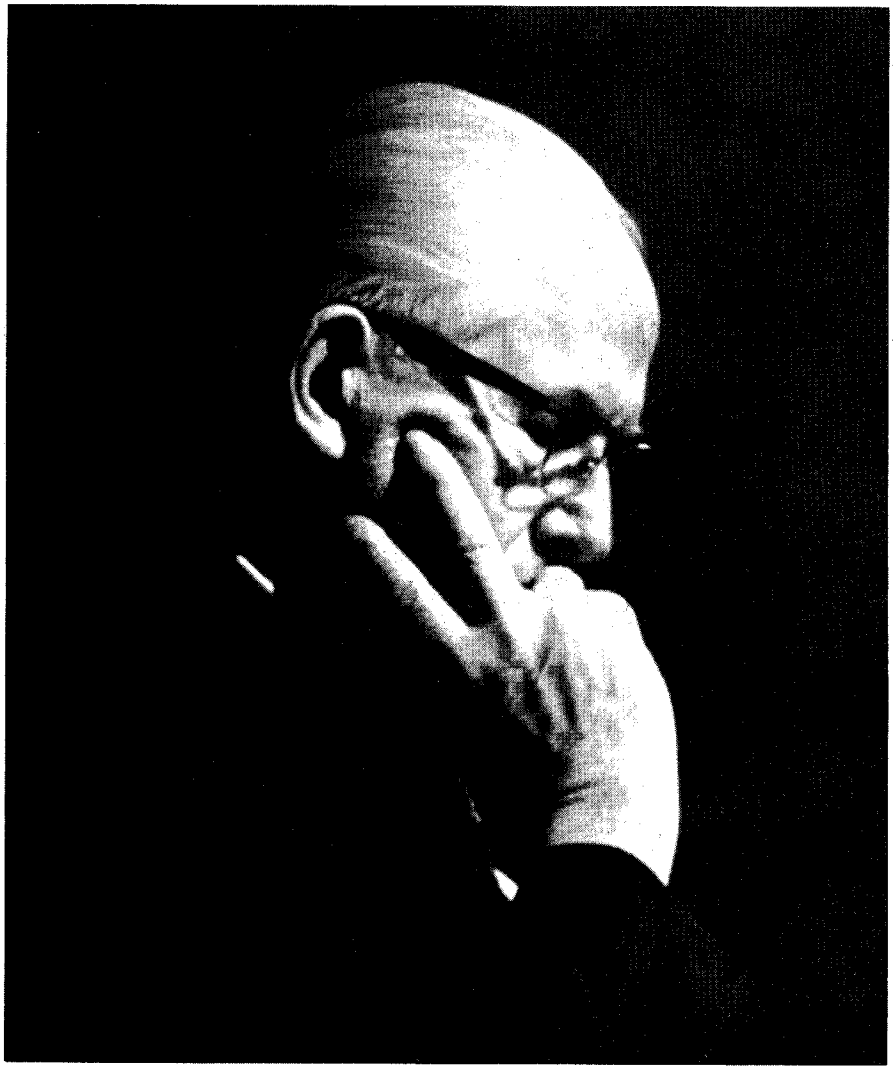
「また天国は、良い真珠を捜している商人のようなものである。

高価な真珠一個を見いだすと、行って持ち物をみな売りはらい、そしてこれを買うのである。」（マタイ13：45、46）

このことについて、ジョセフ・スミスは次のように述べている。「いつの時代でも、歩んでいる道が神のみこころにかなっていることを実際に知識として理解しなければ、神の聖徒たちは疲れ果て、気力を失ってしまうであろう。なぜなら、不信心な者や神を知らない者の心は、いつの時代にもそのような状態にあるからである。……人が自分の持てるすべてを捧げることは、神のみこころを行なっているという単なる信念や、推測以上に必要なものだからである。しかしそれも実際に知るならば、苦難の生涯を終えた後、永遠の安息に入り、神の栄光に浴する者となる。……良く観察してみるならば、あらゆる事柄に犠牲を要求しない宗教は、生命と救いにとって必要な信仰を生む力を決して持たないのである。」（信仰講話」6：4、5、7）

一般の教会員とは異った観点からこの生ける教会の発展と活動を見る特権を与えられている人々がいる。そうした根拠から、信仰が世に高まり、神の永遠の誓約が確立され、完全なる福音が宣べられていることがわかる。（教義と聖約1：21参照）これは、1838年冬から1839年春にかけてリバティーの獄で最も苛酷な時期を過ごしていた予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示と一致している。その暗黒の世界のさ中にあって、彼はこう宣言している。

「流水いつまでか濁りてあらん。如何なる力かよく諸天の運行を止めんや。何人かよくかよわき腕をさし伸べて、神の命じたまえる水路を……逆流せしむることを得んや。もし、よくこれを為し得れば全能の神が末日聖徒の頭上にい



十二使徒評議員会会長　エズラ・タフト・ベンソン長老

と高き所より知識を注ぎたもうを止むることを得ん。」（教義と聖約121：33）

この、全能の神が末日聖徒の頭上に注ぎたもう知識は、天父と御子イエス・キリストの真の属性、人生の真の目的と意義、福音の真の教義というかつて世から取り去られていた知識に関するものである。そしてこれらの知識は、受け容れるならば、永遠の生命に必要な信仰を確立するものとなるのである。イエスは弟子たちとすべての信ずる者たちのために次のように祈られた。

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」（ヨハネ17：3）

福音の計画の目的とは、言うならば人々に福音の原則に従って行動するよう告げることである。またそれは各個人に自分自身を見出させることであり、人生の葛藤で悩んでいる人に答えを与えることである。この種のジレンマについて、ある人はこう語った。「あなたが抱えている一番の問題はあなた自身である。そしてまた、あなたは最も価値ある存在でもある。もしあなたが自分自身を知ることができれば、すなわち自分は何者で何のために生きているのかを知り、さらに自分の性質の中に価値ある要素を捜し、それを見出すことができればあなたの人生は整然としたものとなるのである。……ここで、『もしあなたができれば』と言ったのは、これを行なうには知恵が必要であり、知恵は徐々にしか身につかないものだからである。多分あなたはまだ、それ程の知恵を得ておらず、自己を分析する能力もなく、人生の表面的なことに捕われて混乱し、その時代の習慣や、賢人と言われている人々の言葉に基づいて行動し、また、ちょうど人生においてあなたに敵対し、あなたを打ち負かそうとするものから逃げ出すときのように、落胆し、勇気をくじかれた状態であろう。しかし、たとえそのようであっても、それが終局の状態ではない。必ず立ち直り、不快な感情を一掃できるのである。」（リチャード・ワイトマン）

完全なる福音は、「自分が何者で何のために生きるのかを知る」ために、必要な助けを提供するのである。

モルモン経の予言者ベンジャミン王は神の属性についてこう語っている。

「ごらん、お前たちが今もしも神の恵みを知り、自分が……堕落した状態にあることを知……るならば、……

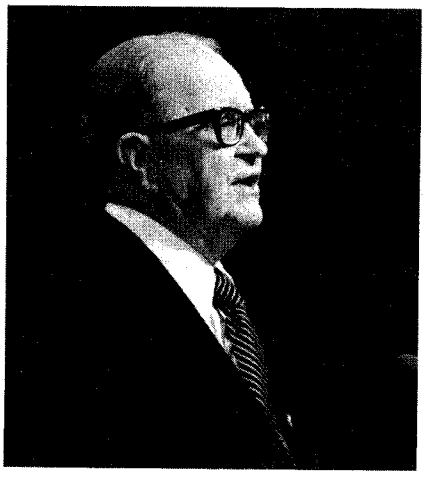
そもそも、この道によって救いが受けられる。……

神を信ぜよ、神がましますことと、神が天地の間の万物を造りたもうたことと、天でも地でも全知全能であることとを信ぜよ。また、人間は主の悟りたもうことをことごとくは悟れないことを信ぜよ。

重ねて言う。お前たちはその罪を悔い改めその罪を捨てて神の前にへりくだらなくてはならないことを信じ、神がお前たちを赦したもうように真心から祈れ。もしもこれらをみな信ずるならば謹んで実行せよ。」（モーサヤ4：5、8－10）

この聖句を基にし、主が言われた「狭く」て「細い」道（マタイ7：14参照）を進むならば、「自分自身が最も価値ある存在である」ことを認識するであろう。何百万もの人々が聖霊の力によって証を持ち、真実の教義を支持して真実の教会に加わっているのである。

神が私たちを祝福し、このことを理解させたもうよう、へりくだり、イエス・キリストのみ名により祈る。アーメン。



知恵の言葉

私たちは啓示を通して、健康管理に関する主よりの導きを受けてきた。健康を維持し、主よりの祝福を受けるためには、それらの指示に従う必要がある。

十二使徒評議員会補助
セオドア・M・バートン

愛する兄弟姉妹の皆様、先程マックスウェル兄弟が述べられた証に私は心から「アーメン」とつけ加えさせていただきたい。私が幼なかった頃、日曜学校で讃美歌の『神の聖徒の』をよく歌ったものだった。私たちは、それを知恵の言葉の歌と呼んでいたが、私たちのお気に入りの讃美歌のうちのひとつで、よく熱心に歌ったものだった。では、ここでその歌詞の一部を読んでみたいと思う。

みめうるわしく　長く生きんと
コーヒー、たばこ、茶を遠ざけ
酒は飲まずに　少しの肉で
強く智恵もてのびんとす

『神の聖徒の』
末日聖徒讃美歌　32番

私は家庭で、また教会で知恵の言葉を守るように教えられた。それで、幼少の頃から身体に害のある物を避けるようにという大切な教訓を学んだ。

事実、あの頃、知恵の言葉について語られない大会はほとんどなかったと言っても良いだろう。今日、私はもう一度その慣例を再現し、主が1833年の2月27日にジョセフ・スミスを通して私たちに与えられた教義と聖約89章の啓示についてお話してみたいと思う。啓示が与えられた当時、過度の飲酒が身体に悪い影響を及ぼすことは、それまでにも長い間認められていたが、それがいかに有害であるかということについては知られていなかった。また、タバコ、茶、コーヒー及び多量の肉の使用からもたらされる害については、全く知られていなかった。しかし主は、その危険性を知っておられたので、主の子供たちの、肉体と精神とを守るために警告を与えられた。これは私自身の考えだが、主から与えられたこの指示は、現在、私たちが生活しているこの時代において特に必要とされるものではないだろうか。

1960年代の10年間は、麻薬の使用にもっともらしい理由が付けられ、大いにもてはやされた時代であった。世の人々、特に青年たちの心身が麻酔性や習慣性のある薬物を服用することによってむしばまれていくのを見た私たちは、非常な驚きを覚えた。必ずしも楽観視できないが、その破壊的な影響が多方面にわたって紹介されてきたため、少なくとも十代後半から二十代初めの頃の若者の間では、麻薬の使用もいくぶんその数を減じてきた。

しかし、まだ成熟しておらず、その習慣がいかに心身をむしばむものであるかといったことを考えてみるだけの分別を持ち合わせていない十代初期の少年少女たちにとって、麻薬は今なお深刻な問題である。年若い彼らは持ち前の虚勢と人生経験の少なさから、麻薬を試してみようという誘惑にかられ、それが心身の破滅という結果を招いているのである。自分で気づいたときにはすでに遅く、悪い習慣の奴隷にされてしまっている。そのとき彼らは、あたかも虎の尾をつかんだ状態の自分自身に気づくのである。しがみつくこともできなければ手放すこともできない。自分が恐ろしい窮地に立たされていることに気づいた頃にはもう手遅れなのである。

麻薬の恐ろしさは今述べた通りだが長い目で見れば、アルコールやタバコについても同じことが言える。このふたつは、今日における麻薬問題の中心となっている。なぜならアルコールやタバコは実質において麻薬と何ら変わるところがなく、麻薬と同等に見なすべきものだからである。このふたつに関して特に問題なのは、作用が緩慢な点である。心身が冒されていることがすぐに症状となって現われないために、老人も若人も共に身体に支障をきたして初めてその害毒に気づくのである。長期に亘ってタバコを常用することは、ガンや肺気腫、心臓障害を引き起こす原因となるが、病気になってから、世界中の人が悔い改めてみたところで、むしばまれた肉体の苦痛から救うことはできはい。アルコール中毒患者は健康をそこなうばかりか仕事や家庭、ひいては評判までもそこなうことになる。そしてすさんだ生活の中で、アルコールを始めたことを嘆く以外に慰めはないのである。

私は何人かの友人から、科学者なの

にそういった薬物の使用に反対していることを公言しないのはわけがあってのことかと尋ねられたことがある。「元化学教授のあなただから、権威を持って話せますよ」とか「あなたは知識もあり科学者としての経験もお持ちだから、人は、あなたの言うことを信じますよ。経験豊かな科学者として人々を救うことができるのは素晴らしいことではないですか。」それに対して私の答えはこうである。私たちの教会の会員の中には、幾百人もの優秀かつ経験豊富な科学者がいる。彼らは皆、私と同じように知恵の言葉について意見を述べる資格のある人であるが、その彼らが、この啓示が科学的にいかに確かなものであり、支持するに足るものであるかを明らかにしている。

しかし、そのことに関して、もう少々言わせていただきたい。知恵の言葉について科学的に証明してみたところで、若人にタバコやマリファナ、アルコール飲料、その他薬物を止めさせることにはならないということである。合衆国では、タバコのパッケージやタバコに関する宣伝には、目立つ場所に次のように印刷してある。

注意：公衆衛生局長官は喫煙が
身体に有害であると断定
しました。

しかしながら、科学者による警告の言葉は人々から喫煙の習慣を取り去ったりはしないのである。また、アメリカ合衆国では飲酒運転のために年間の死亡者は5万人を数え、負傷者は80万人にも及んでいる。もしもアメリカ合衆国が軍事活動に従事したことによってこれだけの死傷者を出したとしたならば、それに対して異議を申し立てるデモが繰り広げられることであろう。ところが今では、自動車を運転する人たちのアルコール常用に対して抗議の言葉がほとんど聞かれないばかりか、むしろ常用者は増加の傾向さえ見せているのである。知恵の言葉の有効性を語ってみたところで人々から喫煙や飲酒の習慣を取り除くことはできない。喫煙も飲酒も共にそれがいかに有害なものであるかについて科学的なおかつ現実となって現われているにもかかわらず、ますます人々の間に普及しているのである。

しかしながら、なぜ私が科学者としての立場を離れて知恵の言葉を語るのかについては、もっと素晴らしい理由がある。

私は教会幹部の一員として主より召されており、人々に真理を教える特別な管理の職をいただいている。私には教会幹部として、イエス・キリストが全人類の救い主であり贖い主であるという揺るぎない証がある。私はイエスが万物の創造主であり、この世の始めから終りまでをよくご存知であるということを知っている。人類の創造主として、主は何が私たちの体にとって益となり害となるかをよく知っておられる。イエス・キリストは、この世界を治める神として、アルコール飲料、タバコ、茶、コーヒーが私たちの健康に有害であると言っておられるのである。これらの物を常用すれば、悲惨な状態と悔恨とを招くだけである。体だけではない。心をも冒す原因となるのである。私は神が生きておられることや、この教えが神から与えられたものであることを知っている。私は科学者としてよりも、主の僕として世の人々ならびに教会員の皆様に、これら嗜好品の危険性について特に警告を与えるものである。神は、確かに啓示によってこの知恵の言葉を与えたまい、私たちにあらかじめ警告されたのである。私は神に仕える僕として、これらの言葉に耳を傾け悟る人たちの利益となるようにこの知識を伝えるものである。くり返し申し上げたい。タバコ、茶、コーヒー及びいかなるアルコール飲料の常用は、主に喜ばれないばかりではなく、心身を破滅へと導くのである。

私は主が次の言葉を与えられたとき何を意図しておられたのかはわからないので文字通りに受け入れたいと考えている。

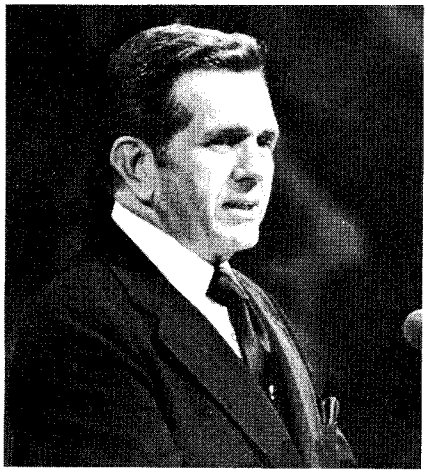
「およそこれらの言葉を憶えて守り且つ行い、この誡命に従って歩むすべての聖徒らは、そのへそに健康を受けその骨に髄を受けん。また智恵と知識の大いなる宝まことに秘れたる宝を見出さん。而して走れども疲れず、歩けども気を失うことなからん。主なるわれ彼らに1つの約束を与う。すなわち、さつりくの天使はイスラエルの小児たちが如く、彼らを過ぎ越して屠ることなかるべし。」(教義と聖約89：18－21)

「へそに健康を受け、その骨に髄を受けん」この部分を読むとき、将来戦争が勃発し、そこから放射される有害物によって世界が汚染され、そのために恐ろしく破壊的な流行病がはびこる可能性があるのではないかと考えている。それが、従順な者と不従順な者とを主が区別するために用いるひとつの方法なのであろうか。また、これら私たちに禁じられている物と、骨髄にいっそう吸収されることにより大きな害を及ぼす原因となっている放射性原素との間に何らかの関係があるのであろうか。私にはわからない。

しかし、もし私たちが知恵の言葉を守るならば、さつりくの天使は私たちに危害を加えずに通り過ぎて行くだろうということは知っている。そして神が、アルコール飲料、茶、コーヒーを飲まないように、またタバコを常用しないように告げられたことも知っている。体に有害であり、なお且つ習慣性のあるそれらの物をとるということは何と愚かなことであろうか。私の生活を導いて行くものは主の言葉だけで十分である。それであるから、私は是非皆様が体に有害な物を避けるばかりか主からとるようにと言われている食物を慎みと感謝とを以っていただくようにという警告の言葉に注意深く耳を傾けるようにお勧めする。

これは主が言われてきたことである。これらの証をイエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

☆　　☆



霊の「ワニ」

若い人々の生活には、どこにでも危険が潜んでいる。だが彼らに警告を与え、助けを与えるガイドがいる。

十二使徒評議員会会員
ボイド・K・パッカー

今日、私は教会の青少年、すなわち、アロン神権者と若い女性、そして聖歌隊で歌ってくれた素晴らしい若人たちに、お話したいと思う。これから申し上げる訓戒は、少し理解しにくいと思われるので、まずひとつの体験談から始めたい。

私はいつも動物や鳥には興味を持っている。私がまだ幼い頃、他の子供たちはカウボーイごっこを好んだものだが、私はアフリカへ探検旅行に行きたくて、よく猛獣狩りのまねをしていたものである。

字を覚え始めた頃には、鳥や動物について書かれている本を見つけては、その知識を増した。十代になる頃までには、アフリカの動物なら、大抵のものは名前が言えるようになっていた。私は、山カモシカとアフリカ大カモシカの区別も、南アフリカ大カモシカとうしカモシカの区別もできた。

私はいつも、アフリカへ行って動物を見たいと思っていた。そして遂にその機会が訪れた。パッカー姉妹と私は、ハワード・バジャー伝道部長夫妻と一緒に南アフリカ伝道部を視察する責任が与えられたのである。私たちの日程は全く厳しいもので、7日間のうちにあの広大な大陸に散在する教会堂を8つ献堂した。

バジャー伝道部長は、9月10日（その日はたまたま私の誕生日であった）の日程については、あいまいにしていた。私たちはそのときローデシアにいて、確か、南アフリカのヨハネスバーグへ帰る計画を立てているところであった。しかし、伝道部長は別の計画を立てていて、私たちを乗せた飛行機は、ビクトリア瀑布の岸辺に着陸した。

「ここから少し行った所に禁猟区があります。私は車を1台借りておきました。明日は長老の誕生日ですから、アフリカの動物見物で一日過ごしましょう」と伝道部長は説明した。

ここで、アフリカの禁猟区について説明しておこう。全く想像もつかない所である。そこでは人間がおりに入り、動物が外を自由に歩き回っている。公園を訪問する人が夜寝泊りできるよう、ロッジがあり、その周囲は高いへいで囲まれていて、朝方まで固く鍵がかけられている。そして朝になれば、車で出かけることが許可される。しかし、車の外に出ることは許可されていないのである。

私たちは夕方遅く、公園に到着した。しかしちょっとした手違いで、訪問者全員を収容できるだけの部屋数がなかった。私たちが到着したときには、部屋はすでに一杯であった。警備隊長は、そのロッジから13キロ程離れた所に小屋があるから、そこで泊まったらどうかと教えてくれた。

夕食を取るのが遅かったため、私たちがロッジを出る頃には、辺りは真っ暗であった。私たちは別れ道に行き当たり、狭い道を進んで行ったが、しばらく行ったところで車のエンジンが止まってしまった。私たちは懐中電灯を捜し出し、車の外へ出て、ボンネットの中を調べようとした。接触不良か何かだろうと思ったからである。ところが、懐中電灯の光がほこりっぽい道路を照らしたとき、私が最初に目にしたのは、ライオンの足跡であった。

急いで車の中に戻ると、その晩は、その車の中で過ごすことにした。しかし幸いなことに、1、2時間後、何かの理由で夜遅くロッジを出て来た燃料補給車の運転手に救助されたのである。私たちは警備隊長を起こし、ようやく小屋で手足を伸ばすことができた。そして翌朝、例のロッジに連れて行ってもらったのである。

私たちには車がなく、しかも電話もなかったため、その日遅くまで代わりの車が来るのを待っていなければならなかった。私たちはがっかりして、一日中ロッジの辺りをうろついていた。公園での私たちの一日は、全く無駄な一日であった。そして私にとっては、生涯の夢が消えてしまった一日であった。

私は若い警備隊員と話をした。彼は私がアフリカの鳥を沢山知っているのに驚いた様子だった。そのため、彼ら自ら志願して、私たちを退屈から解放してくれることになった。

「私たちは今、ロッジから30キロメートル程離れた所にある水たまりの上に新しい監視所を建築中です。まだ完成していませんが、一応安全です。そ

こへ連れて行ってあげますから、そこで昼食を取ったらどうですか。夕方にでもあなた方の車が着いたら、そこまで持って行ってあげましょう。そこなら、車で回るのと同じ位、いやそれ以上の動物が見られますよ。」

監視所へ行く途中、彼は私たちにライオンを見せてあげようと言い出した。彼はやぶの中に入っていくと、間もなく、17頭のライオンが群れになって寝そべっているのを見つけ、その群れに向かってまっすぐに車を走らせて行った。

私たちは水たまりのところで止まって、動物たちが水を飲みに来るのを見ていた。丁度乾期にあたり、水はほとんどなかった。ただの泥地と言っていい程だった。しかし象がその柔かい泥の中に足を踏み入れると、そのくぼんだ所に水がしみ出て来て、その足跡にたまった水を動物たちが飲むのである。

とりわけアンテロープが、極めて神経質であった。泥の穴に近付いては来るが、すぐに恐怖におびえて逃げ出す。辺りには、全くライオンの姿が見えなかったため、私はガイドに、なぜアンテロープが飲みに来ないのか尋ねてみた。彼の答えは、そして、これが今日の私の教えなのだが、「ワニ」ということであった。

私は、彼が冗談を言っているに違いないと思ったので、今度は真面目に尋ねてみた。「どうして飲みに来ないのかな。」　答えはまた同じであった。「ワニですよ。」

「そんな馬鹿な。ワニなんかいないじゃないですか。だれが見たってわかりますよ。」

私は彼が外人狩猟客をえさにしてからかっているのだと思った。そこで、本当のことを教えてくれるよう頼んだ。ここで思い出していただきたい。私はアフリカについて無知ではなかった。私は沢山の本も読んでいた。その上、だれでも、象の足跡にワニが隠れることができないことくらい知っているであろう。

私が彼の答えを信じていないことがわかると、彼は、私に詳しく教えることにしたようである。私たちは他の場所まで車で行き、泥の穴を見下ろす堤の上に車を止めた。彼は「そこです。自分で見て下さい」と言った。

私には何も見えなかった。ただ泥と少量の水と遠くにおく病な動物のいるのが見えるだけだった。しかし、突然、全く突然、私の目に飛び込んで来た。巨大なワニである。泥の中にじっとしていて、のどの渇いた動物が何も疑わずに水を飲みにやって来るのを待っているのである。

私は手の平をかえすように、今度は信じた。彼は私がもっと聞きたがっている様子を見てとると、続けて教えてくれた。「公園には、そこら中にワニがいるんですよ。川の中だけじゃありません。水のある所には、決まってその近くにワニがいるんです。これだけは覚えておいた方がいいですよ。」

ガイドは、私にはもったいない程親切だった。私が「ワニだよ」という彼の最初の答えに、いかにも物知り顔で反論したことに対して、彼は、「じゃ外に出て、自分で見てみるといい」と言えば言えたであろう。

そう言われた私は、自分の目で、そこにはワニがいないことを確めることができた。私は自分の考えに自信を持っていたので、きっと外へ出て、何が見えるか確かめたことであろう。しかし、そのような傲慢な思い上がりが、命取りになるところであった。そんな私に、彼は我慢して教えてくれたのである。

十二使徒評議員会補助
アルビン・R・ダイヤー長老

年若い友人の皆さん。皆さんに、あの時にとった私の態度のようにでなく、もっと賢明にガイドに話しかけてくれるよう望んでいる。自分は何でも知っているんだという思い上がった考え方は、私の価値を高めることはしなかったし、皆さんの価値を高めることもない。むしろ、このようなことを皆さんにお話しすることを恥ずかしくさえ思っている。ただ、皆さんに話すことで何かの助けになれば、それは大きな救いである。

皆さんの先輩たちは、水たまりについて少し詳しく調べ、ワニがいると警告の声をあげている。皆さんを粉々に砕いてしまう、あの大きな灰色のワニではない。うまく身を隠したアフリカのあのワニよりもはるかに危険で、はるかに容易に人を欺き、しかもずっと見えにくい霊の「ワニ」が存在するのである。

この霊のワニは、皆さんの精神を破壊することも、不具にすることもできる。皆さんの心の平安や、愛する人々の心の平安を乱すこともできる。人々が警告するのはこういうワニに対してであり、この世の中には、こういうワニによって荒されていない水飲み場は、皆無に近いのである。

アフリカの他の場所へ旅行するとき私はこの経験について別の公園の狩猟監視人と話し合った。彼は、人をふたつにかみちぎってしまうような大きなワニでも、実際に象の足跡に隠れることができると語った。

それから彼は、実際にそうした悲劇の起きた場所へ案内してくれた。イギリスから来た青年が、ホテルに季節雇いで働いていた。彼は何度も何度も警告されていたが、あるとき、ロッジのへいをくぐり抜けて、浅瀬にどんなものがいるか調べてみようとした。浅瀬と言っても足首程もない深さである。

監視人の話である。「水の中に2歩も入らないうちに、ワニに襲われてしまったのです。彼を救助する手だては

何もありませんでした。』

若い頃は特にそうであるが、他人からなにやかや言われるのは、あまりおもしろくないものである。しかしながら、若人の皆さん、私たちがどれ程知っていると思っていても、そんなこととは無関係に、私たちの生死がガイドの忠告に耳を傾けるかどうかにかかっている時もあるのである。

ここで、ワニに食われたあの青年について考えることは、残酷なことではある。しかし、あの事件は、決して最大の悲劇ではない。巨大なワニにかみ砕かれることよりもはるかに恐ろしい道徳的、霊的な退廃がある。

幸いなことに、人生には大勢のガイドがいて、私たちが折に触れて勧告を取り入れさえすれば、偶発的な悲劇は防ぐことができるのである。

私たちの中には現在、ガイドとして、また監視人として召されて働いている人がいる。皆さんも間もなく召されるであろう。この辺でガイドなどという名称を使うのはやめることにしよう。両親、すなわち父親と母親、監督、指導者、アドバイザーという名称で呼ぼう。私たちの責任は、皆さんがこの世にいる間、あのような霊のワニから傷を受けることがないようにすることである。

教会におけるあらゆる訓練と活動は、皆さん方若い人々に、霊的にも物質的にも、自由、独立、安全を味わっていただくことを主な目的としている。

皆さんは若いうちに、両親と教師と指導者の助言に耳を傾けるようにすれば、やがて最も確実なガイドである聖きみたまのささやきに従う方法もわかってくる。そのささやきは個人に直接与えられる啓示である。霊的な危険を知らせる信号を受けるためには、方法がある。ちょうどあのガイドが私に警告を与えてくれたように、皆さんも、前方に霊のワニが潜んでいることを知らせてくれる警戒信号を受けることができるのである。

もし私たちが、こうした霊的な呼びかけに耳を傾けることができるように訓練することができたら、皆さんは、あの生命を脅かすワニから身を守ることができるようになるであろう。いと高き所からもたらされる導きがどのようなものか、皆さんは肌で理解できるであろう。この霊感は、単に教会の責任を果たすときだけでなく、あらゆる活動のときに、学校でも、デートのときも、受けることができるのである。

祈りの方法を知り、祈りに対する答えの受け方も知っていただきたい。あることについて祈ったら、その答えを得るまでに長い間忍耐して待たなければならない。祈りによっては、自分の身を守るためにすぐに答えの必要なものもあれば、またその答えが、祈り終わらないうちにもたらされるものもある。

ひとたびそのガイドに最後まで従う決心をすれば、証は強まり、予期せぬ場所にも、その道に沿って必要な備えがしてあることがわかるであろう。それは、その道をやって来るのを知っていた人がいる証拠である。

霊的に強くなり、一人立ちするために、皆さんが青年時代にどうしてもしなければならないことは、自分のガイドに対し従順になることである。もしガイドに喜んで従うなら、繊細で、鋭敏な、霊のささやきに信頼をおくことができるようになる。そして、絶えずその導きを受けて、義しいことをするようになるのである。

年若い友人の皆さん、私はここで、もうひとつの経験についてお話したいと思う。私が度々考えてはいるが、滅多に話したことのないことである。ここで詳しく話すことはしない。ただちょっと触れるだけにする。それは、だいぶ前、私は皆さんほど若くはなかったと思うが、その頃の出来事である。あのガイドに従おうとする私の決心に関することであった。

私は自由意志の何たるかを知っていたし、それが個々人として独立し、自由であるためにどれ程大切であるかということも知っていた。私はどういうわけか、主が私から決して取り去ることのないものがあるということを、知っていた。それが私の自由意志だった。私は自分の自由意志を、主以外にはだれにも渡さないつもりでいた。そして私は、主が決して私から取り去ることのない、私の自由意志を、主にささげようと決したのである。私はそのとき以来、主の道を歩む決心をしたのである。

それは、私にとって大きな試練であった。私は、自分の所有物の中で、最も貴重なものを引き渡していると感じていたからである。私は年も若かったために、自分の自由意志を働かせて自分で決めたのだから、自由意志はさらに強められた。

私はその経験から、聖典の意味を悟った。「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。

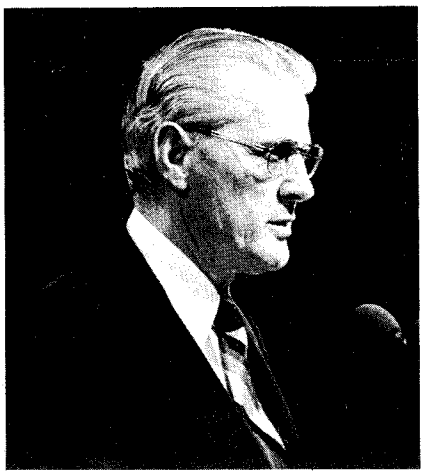
また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。』（ヨハネ8：31、32）

私はそれ以来、霊のワニをあまり恐ろしいと思ったことはない。どこに潜んでいるか、たびたび警告が与えられてきたからである。

私自身、一度ならず、かみつかれて霊的な応急手当が必要だった時もある。しかしそれ以外は、警告が与えられたために命を救われている。

幸いにも、かみつかれた人々のためには、霊的な応急手当の方法がある。ワード部の監督は、この応急手当の責任を受けたガイドである。また監督は、この霊のワニによって道徳的にひどく傷つけられた人々を暖かく保護し、完全になおるよう見守ることができる。

アフリカにおけるあの経験から、私はまたあの大いなるガイドに従う気持を新たにした。私は自分の望みでそのガイドに従う。私は他の経験から、そのガイドを知るようになった。私はそのガイドが生きておられること、そしてイエスがキリストであることを証する。私は、イエスが骨肉の体を持っておられることを、そしてこの教会を導いておられることを知っている。イエスの意図は、私たちが皆、安全に導かれて、主のみもとに帰れるよう見守ることにある。イエス・キリストのみ名により、アーメン。



神権－その権能と力

神権の権能は義しい生活をするならば、家族に祝福をもたらす力となる。

管理監督会第一副監督
H・バーク・ピーターソン

兄弟たち、今宵この神権部会で話す責任が与えられ心から感謝している。これはこの神権時代における最も大きな神権者の集いであると思う。私たち、すべての天父の子供たちにとって最も大切で、最も関心の深いメッセージをどう伝えたらよいか、私はいろいろと考えてみた。そのことで祈り、今も私たちの上に主のみたまがあるようにと祈っている。これから私が申し上げることが真実であり、またみたまの導きによってこの話の準備を行なえたことを証したい。皆さんの心が開かれ、霊が受け入れやすい状態となるよう祈っている。

霊的成長、またそれによってもたらされる幸福は、神権の原則を理解し、それに従うことを基としている。しかし、神権者たちの中には主の戒めの声を注意して聴かなかったために、不幸な人生を送っている人々が大勢いる。主が述べておられるように、神権を誤って使うことは非常に危険である。私たちは皆、次の啓示を幾度となく読んできた。しかしここでもう一度それを読み、順を追って私たちの日常の生活と関連づけてみたい。

「見よ、召さるる者は多けれども選ばるる者は少し。選ばるることなきは、これそもそも何の故ぞ。

そは、人々の心甚しくこの世に属けるものの上にあり、唯々人間の誉を得ることをのみ望み、次の如き一つの戒めを知らざるによる。

曰く、神権の権能は天の能力と固く結びつきて離るべからざるものにして、天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものなり、と。」(教義と聖約121：34－36)

この聖句から、神権の権能と神権の力との間に相違があることがわかる。神権の権能と力とは必ずしも同義語ではない。私たち神権者は皆、主の代理を務める権能を与えられている。しかしその権能の効力、すなわちふさわしいときに権能を通じてもたらされる力は、私たちがどのような生活を送っているかに左右される。それは私たちの義の度合による。繰り返し申し上げる。「天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得る」のである。

私たちの多くは、神権を持つ最も大切な理由のひとつを見失っている。有能な教師定員会会長や長老定員会会長、監督、副監督になることも大切である。事実、私たちはこれらの役員を訓練することに多くの時間をかけている。大切な神権の儀式を行なうことも欠くことのできないことである。しかし何にもまして大切なことは、家族と家庭に祝福をもたらすために神権をどのように使えばよいかを知ることである。

私たちがふさわしい生活をするならば、私たちが持つ神権は、問題の多い家庭に平安をもたらす天よりの力となり、また幼い子供たちに祝福と慰めをもたらす力となり、涙にぬれた目に夜の眠りを与える力となる。また、家庭の夕べを楽しくし、疲れた妻の高ぶる神経を鎮める力となる。当惑した、感じやすい十代の若者たちには、指針を与える力となる。娘には、初めてのデートの前に、あるいは神殿結婚の前に祝福を与える力となり、息子には大学や伝道に発つ前に祝福を与える力となる。若い神権者の皆さん、私たちの神権は下品な会話に集まる少年たちの邪悪な思いを差止める力となり、また病人を癒し、孤独な人を慰める力となる。これは神権の重要な目的である。

私たちが以上述べた方法で家族に祝福をもたらす力を身に受けているとき、それはすなわち神から授けられた権能を、家族の絆を強め、永遠にまで及ぶ神権の儀式を施すという至高の目的に使っていることになるのである。この力を伸ばし、前述の事柄を行なうためにこれを用いる人は、たとえ自分の望みと家族の望みが異なっていたとしても、家族の義しい望みを第一に考えるであろう。また神権指導者に注意を傾けるように、家庭では家族一人一人に、最年少の子供に至るまで耳を傾けるであろう。

自分の楽しみよりも、家族の福利を優先させるであろう。

自己を抑えるすべを知り、短気を口実にすることもないであろう。彼にとって短気など全く無縁のものである。

穏やかに答えれば怒りもなくなることを知っており、家庭で怒りにまかせて大声を出すこともなく、決して怒って腹を立てることもないであろう。

大会の合間のひととき（テンプルスクウェア）

この神権の力を伸ばしてきた人は、思いと行ないの両面で、最も愛する神の娘である女性に対して、最も素晴らしい誉れと尊敬と威厳とを示すであろう。

神権者の皆さん。主の勧告の声が聞こえるだろうか。主が、「私が与えた権能を注意深く、また賢く用いなさい」と言われていることが聞こえるだろうか。教義と聖約にはこう記されている。

「われらは悲しむべき経験によりこの事を知る。およそ殆んどすべての人間は、少し許りの権威を得たりと思うや、惣ち正しからざる支配を始めんとする生れつきの性癖あり。

これすなわち、召さるる者は多けれども選ばるる者少き所以なり。」（教義と聖約121：39、40）

この神聖な言葉の意味を理解していない神権者が多い。

私たちは思いやりを持たなければならない。

私たちは命令してはいけない。

私たちは独裁者になってはならない。

私たちは高慢になってはならない。

ここで、神権の力が女性の生活にどのような祝福をもたらすかについて少し話したい。ジョン・A・ウィッツォー長老は次のように述べている。「神権は知的能力に基づいて与えられるものではなく、立派な男性に与えられるものである。……女性にも同等の賜が与えられている。……しかし、なぜ霊が男性あるいは女性であったかを理解することができるのは、この世のどの権威よりも知性においてまさる権威、すなわち神のみである。」（ジョン・A・ウィッツオー、*Priesthood and Church Government*「神権と教会政体」、p.90）

男性は女性よりも優れているという訳ではない。しかし、私たちが行なう事柄の性質によっては、そう受け取られることもある。例えば、神権を持つのは男性であり、教会や家庭の管理役員も男性である。だからと言って、あらゆる点で男性が優れた存在であるとは言えない。神権は献身的で幸せな妻が傍らにいるときにのみ、十分に行使することのできる神より託された権能であり、責任である。妻の前に、「幸せな」という形容詞がついていることに注意していただきたい。

いかにこの地上で偉大な業を行なおうと、男性はひとりで昇栄することはできないのである。

私たちが家族を正しく管理する上で役立つ素晴らしいアイディアは、妻と心を開いて話し合い、助言を求めるときに得られることを知れば、何の問題も起きないだろう。女性は家族の関係を強めるために欠くことのできないスピリットと知性を備えている。従ってこれを家庭を管理する権能によって育み、引き出さなければならない。私たちは妻の持つ良い資質によっておびやかされるのではなく、喜びを得るべきである。かつてニール・A・マックスウェル長老は、「夫婦愛を育む上で私より

も優れた特性と資質を持つ妻に、私は感謝している」と述べていた。

さらに兄弟たちは、少女を訓練するときも、神権を持つ少年を訓練するときと同じ関心を示すことが大切であることを付け加えておきたい。この女性の才能を知るために、ヒラマンに率いられた2000名のアンモンの民の経験を参照してみたい。

「このように誓いを立てて国を守るために武器を執った青年が二千人ばかり居たが、……かれらはみな青年であって筋骨たくましく活発な勇士であったばかりでなく、いついかなる時でも委ねられたことを忠実に行った。

かれらはみな神の命令に服従することと、神の前に正しく真すぐに暮すこととを教えられ、真実な心を持つ真面目な青年であった。

わが子らはまだ戦ったことがなかったが死ぬことを恐れず、自分の命よりも親の自由を重んじ、また疑いを抱かないならば神が必ず自分らを救いたもうとその母から教えを受けていた。

かれらはその母の言葉をわれに話して『われらの母はわれらに教えたことを自分で確に知っている。われらはこれを疑わない』と言った。」（アルマ53：18、20、21、56：47－48）

これらの2000名の若者たちが持つ勇気と気概をだれが与えたかという点で記録者が母親による訓練を記述したことは単なる偶然でないように思われる。母親と同じように、他の人々のことが書かれてよいはずであるが、この記録には母親のことのみが記されている。アロン神権者を強める鍵、秘訣は母親にあるという事実から、神権指導者は少女に正しい神権の原則を教えるためにもっと多くの時間を費やさなければならない。それがひいては、将来のアロン神権者がヒラマンの率いた2000人の息子たちと同じ祝福を受けるようになることを私は信じている。

確かに、神権者は少年たちの性格と霊性に感化を及ぼすため、多大の時間と労力を払って計画を練っている。これは継続して行なわなければならない。しかし、現在少女に対する神権教育や霊的成長については、ほんの少しの努力しか払われていない。彼女たちに大きな関心も払わず、どうしてよい姉妹になることを期待できるだろうか。少女たちが何の理想像も持たず、また永遠の伴侶にどのような神権の特質を求めるべきかを教えられることがなければ、やがて多くの家族が誤った結婚のために苦しむことになるであろう。

しかし、もし神権者が正しい模範を示し、少女たちの訓練にもっと理解を示し、それに力を入れるならば、そのようなことはないだろう。

最後に、教義と聖約の言葉の続きを参照して結びとしよう。

「如何なる権力も勢力も、神権によりて維持する能わず、または維持すべきものにあらず、ただ説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる。

また、親切と浄き知識すなわち偽善にあらず奸智にあらずしてその人を甚だ大いならしむるものによる。

すなわち、聖霊に感動しては機に臨みて激しく人を責む。然る後、また彼の汝を敵視せざらんために責めたるその人に一層の愛を示す。

かくて、彼は汝の誠実は死のきずなよりも強きことを知るべし。

すべての人に対して、また信仰ある家族に対して汝の腹中を慈愛にあふれしむべし。絶えず徳を以て汝の想を飾るべし。然る時は、汝の自ら信ずること神の前に強くなりて、神権の教理は天より下る露の如くに汝をうるおさん。

聖霊は常に汝の伴侶となり、汝の笏は真理と正義の変ることなき笏となり、汝の支配は永遠の支配となりて強いらるることなく永遠に汝に流れ込まん。」（教義と聖約121：41－46）

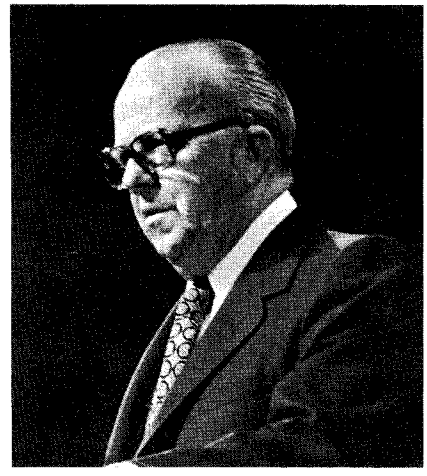
何と素晴らしい約束であろうか。あなた方神権者を天と家庭を結ぶ重要なひと筋の道と考える家族に大いなる祝福のあらんことを。

また、神が生きたまい、イエスがキリストであることを証し、すべてをイエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

テキサス州のバーチ・ラーセン兄弟と再会を喜び合うブラジル、サンパウロのウォルター・スパットステーキ部長

4月3日(土) 神権部会における説教

「富を求めずして知恵を求めよ」



福音に伴う知恵を学ぶ人々の証は強まり、平安がおとずれる。

十二使徒評議員会補助
フランクリン・D・リチャーズ

愛する兄弟たち、私たちは非常に興味ある注目すべき時代、主のみたまが豊かに地の面に注がれている時代に生を受けている。しかし同時に現代は自由放任、苦難、不幸の時代でもある。人々の心はこの世の宝、快楽、富にむしばまれている。

今日私たちが直面している最大のチャレンジのひとつは、十分な知恵と理解力、内なる力を得ることである。そうすることにより、この複雑で困難な時代にあっても、幸福で実りある生活を送ることができ、物質と快楽を追い求める渦に、のまれることはないであろう。

最近のこと、ふたりの青年とひとりの年配の人が私のもとにやって来た。話を聞いてみると、3人が3人とも物質的には恵まれているものの幸福ではなく、心が動揺していた。そしてそれぞれが、今の状態を改善するにはどうしたらよいかと、私に助言を求めてきたのである。

私は彼らに、主がすでに答えを与えておられることを話した。主は次のように言っておられる。

「富を求めずして知恵を求めよ。さらば見よ、神の奥義は開かれ、それより汝ら富める者とせらるべし。見よ、永遠の生命を有つ者は富めるなり。」(教義と聖約6：7)

私は彼らに、人生における物事の優先順位を変え、また多くの物質や快楽よりもむしろ知恵を求める必要のあることを提案した。

これは私の考えであるが、この3人がかかえていた問題は、現在およそ41万8千人の長老見込み会員が直面している問題と本質的には同じではないだろうか。これらの長老見込み会員はまず優先順位を変え、物質や快楽よりもむしろ知恵を求めるようにすることが必要である。これは、メルケゼデク神権者さらに今日の教会全体が直面している最も重大な問題であるに違いない。

しかし、1972年に長老見込み会員のプログラムが発表されて以来、数多くの長老見込み会員が長老に聖任され、それぞれの定員会で活発に働いている。同時に、活動の割合もかなり増してきた。献身的な神権指導者の皆さんに、これに伴って増大してきた問題に正しく対処するようお願いしたい。問題が大きくなるということは、それだけ問題を解く楽しみが増すと言うものである。

さて、私はメルケゼデク神権の管理指導者として皆さんに、歩みを早めるようにというキンボール大管長の言葉を心に留めていただきたいと思う。私たちの歩みを早める最も効果的な方法を提案したい。それは個人個人について行なうのではなく、長老見込み会員や他の人々のグループに働きかけるということである。

活発でないこれらの兄弟のほとんどは共通して、教会の教義をよく知らないということが言える。教義がわかれば、彼らのほとんどが活発になるであろう。

経験から私は、これら長老見込み会員の大部分が非教会員と結婚していることに気づいた。このような場合、長老定員会会長は、ワード部伝道主任に依頼して、ステーキ部宣教師か専任宣教師をその家庭に送り、不活発な夫と協力して、非教会員の妻に福音を教えるようにするのが望ましい。もちろん、ホームティーチャーはフェローシップを続けて行なうことが必要である。

多くの人々に福音を教え、再び活発にするためには、グループ単位で教え、フェローシップするのが最も効果的であると思う。いわゆる家庭集会による方法がそれである。また年齢、理解度、関心度が同じ人々でグループを作るといい結果が得られる。このようなグループを作るのは、それほどむずかしいことではない。

福音の知識を得、知恵を得るには学習が不可欠である。私たちはこのような宣教師が用いている方法を通して、この目的の達成に努力すべきであると思う。

主は私たちにこう言われた。「汝ら最も善き書より智恵ある言葉を探し求めよ。また正に研究と信仰とによりて学問を求むべし。」(教義と聖約88：118、同109：7参照)

福音の勉強をすることにより、私たちは前世での状態、この世にいる目的、死後の状態について知ることができる。

すなわち聖典が約束しているように、知恵が与えられ、神の奥義が明らかにされるのである。

長老見込み会員に教会の教義を教えることはきわめて重要である。これまで多くの長老定員会で、神殿に入る人々を集めてその準備をさせるプログラムを実施し、素晴らしい成果を上げてきた。

長老見込み会員の多くは年配者であるため、再活発を進める際に大祭司を上手に活用している長老定員会もある。

また、スポーツプログラムやダンスなど、様々なレクリエーション活動を再活発化プログラムの一環として行ない、これに参加させるようにすることもできる。

長老見込み会員を教え、養成し、フェローシップするために、彼らを教会の活動に参加させる必要がある。その場合、最初たとえ小さなものであっても割当てを与えるとよい。私は、長老見込み会員と新しい改宗者が、毎日の教会堂に掲揚する旗の上げ下げや、讃

大会午後の部を終えて

美歌集の修理、長老定員会の書記補助などの割当てを受けたときのことを思い出している。そしてこれらの人々はそれぞれに喜びと価値ある経験を味わったのである。

兄弟たち、長老見込み会員と新しい改宗者に、教会の活動に参画する機会を与えていただきたい。

私たちが富ではなく知恵を求めるとき、主はソロモン王の場合と同じように、私たちに知恵と富の両方を祝福してくださる。これは興味深いことである。このことから、私たちには、神の王国を建設するために私たちの富を使うという大いなる機会と責任が与えられていることがわかる。

長老見込み会員プログラムは、今日の神権者にとってきわめて重要なチャレンジと言えよう。その他のことについても簡単に申し上げたいと思う。

今日最も必要とされているもののひとつに、家庭における愛と一致がある。これを満たすために考えられたのが、皆さんが御存知の家庭のタベプログラムである。自らの家庭において模範となること、またホームティーチャーとして担当の家庭を励まし、動機づけを与え、彼らが家庭にあって模範となれるよう助けることが私たちの責任である。家庭の夕べを行なっている皆さんは例外なく、夫婦が、親子が、子供同士が深い愛で結ばれていると証することができるであろう。神より与えられたこの家庭のタベプログラムを大切にしていただきたい。

私たちが心を向けなければならないことに、教会の少数グループに関する事柄がある。大多数の会員には、自分の地域内に住む少数グループを受け入れ、十分にフェローシップし、彼らが教会の活動に出席して祝福を受けることができるように励ます責任がある。教会の組織もまた、少数グループに属する人々を励まし、彼らが他の人々を受け入れて共にやっていけるように助けるはずである。大管長会は 1972年10月10日付の手紙で、このことに関する基本原則を示している。

メルケゼデク神権部門ではまた軍関係プログラムを運営している。軍隊には、信仰の強い教会員が多数おり、彼らは義の道を定め、それに従い、さらに他の人と交わるよう努め、助けを必要としている多くの人々に勇気と高潔の模範を示している。私たちから遠く離れた地においても、ホームティーチングが忠実に行なわれている。私たちは、軍隊にいる忠実な会員たちの模範と献身を誇りに思い、また大変興味を抱いている。

ホームティーチングは、私たちが関心を抱いているもうひとつの神権活動である。主は神権ホームティーチャーの義務について次のように言われた。「各会員の家庭を訪れて、彼らが声を挙げてもひそかにても祈りを為し、すべて家庭の務めにいそしむよう勧めをなすなり。……常に教会員を守護し、彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす。」（教義と聖約20：51、53）

兄弟たち、私たち一人一人がホームティーチャーとしての召しを全力を尽くして遂行しようではないか。そうすれば、私たち自身も訪問する家族も恵みを受け、強められるであろう。

私たちにとって、きわめて関心の深いもうひとつの教会活動は、神権ＭＩＡである。これは、独身成人の必要を満たすために３年ほど前に組織されたものである。すなわち、独身成人に、彼らが教会において重要な地位を占めていることを感じさせ、教会の様々な活動への参加を促すためである。

長老定員会は独身の兄弟を、扶助協会は独身の姉妹をそれぞれフェローシップし、各活動を見守る責任がある。

報告によると、世界的に独身成人、すなわちヤングアダルトおよびスペシャルインタレストの参加が増加している。彼らは家庭のタベグループに参加したり、伝道活動を行なったりしている。また、興味深い価値ある活動を通して、生活に潤いを与え、病いや数多くの問題に苦しむ人々の荷を軽くしている。

私は世界各地のスペシャルインタレストとヤングアダルトのグループを訪れた。彼らはそれぞれの活動において人生の目的に対する認識を深め、彼らの期待を上まわる幸福と平安を見出している。この組織はこれまで大きな発展を遂げている。そして、独身成人の必要としていることがさらに理解されるなら、今後も発展するであろう。

私の孫がヤングアダルト・プログラムについて次のように言ったことがあった。「これまで教会が若人のために備えてくれたプログラムで、ヤングアダルト・プログラムほど素晴らしいものはないと思います。なぜって、宗教、社会、教育、レクリエーション、個人的な必要など、どれをとっても若人の要求をすべて満たしてくれるでしょう。最も大切なのは、ヤングアダルト・プログラムは生活を変えるということ。これまで物静かでなかなか打ち解けようとしなかった人が召しを受け入れて立派な指導者となるのを見てきました。確かにこれは神様から与えられたプログラムです。」

兄弟たち、時満ちたるこの神権時代に神権を受けているということは、何と喜ばしいことであろう。いかなる時にあっても、神権を尊び、召しを全力を尽くして遂行することを、改めて決心しようではないか。

以上の話を要約すると、私たちが最終的に答えを出さなければならない最も大切な問題は、「この世の富を求めるべきか、それとも知恵か」である。このことは年齢に関係ない。

私のもとを訪れた３人の友人も、また私たちすべても、富ではなく知恵を求めるなら、幸福と平安と永遠の生命を見出すことができるのである。私はそのことを知っている。

このような祝福にあずかるにふさわしくなれるよう生活していただきたい。

証申し上げる。神は生きたまい、イエスはキリストである。また、予言者ジョセフ・スミスは主のみ手の器として、イエス・キリストの完き福音と神のみ名によって働く力を回復した。

スペンサー・Ｗ・キンボール大管長は神の予言者である。主がキンボール大管長を支え、助けて下さるよう、そして私たちもすべての点で大管長を助けることができるよう、イエス・キリストのみ名によって祈るものである。アーメン。

伝道の機会に感謝して

「私はまた主が私たちの先祖と結びたもうた誓約を身も心も挙げて喜び、……」（IIニーファイ11：5）

七十人第一定員会会員
カーロス・E・エイシー

兄弟の皆さん、私が今どんなに恐ろしい気持でこの場に立っているか申し上げるまでもないと思います。胸がどきどきして、私はみたまの助けが必要なことを感じています。皆さんにもお察しいただけると思いますが、私は今回の召しによって謙遜になりました。そして、新しい責任を楽しみに待つようになるにつれて、自分に不足しているものや弱点がすべて大写しにされるように感じます。私は皆さんに、私がイエス・キリストの福音に証を持っていることを知っていただきたいと思っています。私は心から神が生きておられ、イエスがキリストであり、ジョセフ・スミスが予言者であったことを知っています。また今日、王国の務めを指導する生ける予言者が与えられていることも知っています。私はそれが真実であることを知っています。

私は愛する妻や子供たち、心から愛する管理監督会の方々に、またこの責任のために私を備えて下さったすべての方々に心から感謝しています。

私の証についてもう少し詳しくお話するために、ひとつの経験をお話したいと思います。伝道部長として働いていたとき、私はあるプロテスタントの牧師と福音や伝道活動について話し合う機会がありました。その牧師は自分の教会の伝道を管理するという召しを受けて、悩んでいました。以前の苦い経験があったので、何か役立つものはないかと捜していたのです。牧師はダラスにある私の事務所にやって来ると、このように話しました。「本当は伝道の召しを受けたくなかったのですが、義務を感じたのです。ところで、あなたの教会は世界中で最もすぐれた伝道プログラムを持っていらっしゃるそうですね。なぜそのように成功しておられるのか、その理由をお聞かせ下さいませんか。」彼は何か組織的なことについてヒントとなるものを捜していたのだと思います。しかし、私はそれが彼の問題解決にはならないことを知っていました。

私は自分の考えをまとめると、主のプログラムが成功を納めているのは4つの根本的な理由があることを話しました。まず第1の理由は、私たちがこの地上における神の代弁者、教会を代表して霊感と啓示を受ける人、すなわち生ける予言者によって導かれているということです。

第2の理由は、私たちが聖なる神権の権威と権能によってみ業を推進していることです。私たちはその権威を装っているのでも頼まれて引き受けているのでもありません。按手によって授けられているのです。そして出て行って福音を宣べ伝えるように正式に任じられているのです。

第3番目の理由は、この末日に回復されたイエス・キリストの完全な福音を教えていることです。パッカー長老がお話になったように、私たちはひとつのキーだけで演奏しているのではなく、全部の鍵盤を使って演奏しているのです。私たちはなぜこの地上にいるのか、何を準備することになっているのか、またこの地上に来る前どこに住んでいたのかということについて知っています。

第4番目の理由は、個人の証の力に基づいて行なうべきことは、自分たちで実践しているということです。私たちの教会の若人が伝道に出るのは、報いが約束されているからではありません。証を持っているからなのです。彼らは大学生活を中止したり延期したりして、またその他個人的な計画を中止して世の人々に証を宣べるため出かけているのです。「あなたの教会が神権の権能の下に指導する予言者を持ち、完全な福音を教え、また個人の証の力を基にしたプログラムを運営できるようになれば、あなたは今私たちが行なっ

ている通りのことができるのです。でも、苦労なさることはありませんよ。私たちはすでに実行しているのですから。あなたも私たちの教会にお入りになりませんか。」しかし彼は私の誘いを受け入れませんでした。

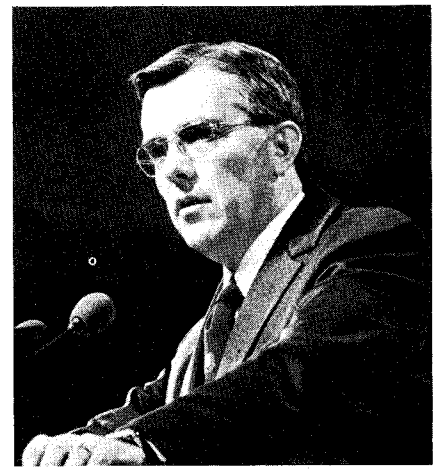
私は再び伝道の業に活躍できる機会を与えられ、本当にうれしく思っています。これは私の偽らざる真実の気持です。

ニーファイの言葉を引用しながら終りにしたいと思います。ニーファイは「私の身も心も聖文を喜ぶので」（IIニーファイ4：15）と言っていますが、その気持は私も同じです。またニーファイは「キリストの降臨がほんとうであることを私の民に証明するのを喜ぶ」と言っています。私の心もニーファイと同じです。ニーファイはさらにこう記しました。「私はまた主が私たちの先祖と結びたもうた誓約を身も心も挙げて喜び、またまことに人間を死から贖う永遠の大きな計画にあらわれる主の恵みと正義と力と憐みとを見て身も心も楽しむ。……」（IIニーファイ11：4－6）　私はこの言葉が事実であることを知っています。

願わくは、主が私を祝福して下さって、これからの任務を立派に果たしてゆけるように、また私のことを忍耐して下さり、私のすべての罪と欠点を赦して下さるように。私は予言者を支持しています。また幹部の兄弟たちを支持しています。私は謙遜になって彼らと共に働く覚悟です。イエス・キリストのみ名により申し上げました。アーメン。

聖歌隊の指揮者

従順と奉仕を通じて



新たに召された教会幹部の証。

七十人第一定員会会員
M・ラッセル・バラード・ジュニア

愛する兄弟の皆さん、私はエイシー兄弟が私に代わって私の気持を述べて下さったことに感謝しています。激しい動悸に襲われているのが自分ひとりではないことを知ってうれしく思っています。

今夜、ここで皆さんに証を述べることになるかも知れないと考えていたとき、私は自分がまだアロン神権者だった頃のことを思い出しました。このタバナクルで開かれた総大会の神権会に出席していたときです。友達のひとりと共にどういうわけか、階段を昇ってこの場に来ている自分に気づきました。もちろんその席は私たちの座る席ではありません。神権会の始まる直前のことでした。ジョージ・アルバート・スミス大管長は思いやりに満ちた目でその有様を見ると、私たちに座る席がないのを知って、説教壇のそばのこの階段に座るよう招いて下さったのです。私は友達と共に、教会幹部が座る大きな赤い椅子のすぐ横に座りました。そして、その素晴らしい神権会の様子をじっと見守っていました。再びこの説教壇のそば近くに来られるなどとは思ってもみませんでした。

今でも覚えていますが、大会が終わって帰るときでした。私は友達にこう言ったのです。「教会幹部になればいいね。そうすれば君もあの大きな赤い椅子に座れるよ。」

皆さん、私はその赤い椅子に着いてまだ本当に間もない者です。ですから従順と奉仕を通じてその大きな赤い椅子に落ち着いて座れるようになりたいと思っています。それが今私の一番の願いです。主が私を祝福して下さって、キンボール大管長をはじめ副管長、十二使徒評議員会、その他教会幹部のすべての兄弟たちを正しく代表することができるように、またどのような任務を与えられても主のみこころと命令を行なうことができるようにと願っています。

私は妻と7人の子供、それに私の両親に感謝しています。彼らのお陰で私はこの召しを果たすことができます。

私は幹部の兄弟たちと主に対する全面的な支持と忠誠を誓います。そして私が責任を果たすとき、主の平安と祝福があるように願っています。

私は福音に対する大きな証を持っています。なぜなら私は福音が真実であることを知っているからです。カナダ東部の聖徒たちとそこで伝道しているすべての宣教師が、全世界の神権者の兄弟たちによろしくとのことでした。この証を主イエス・キリストの尊いみ名によって、へりくだり申し上げます。アーメン。

タバナクルの外で説教に聞き入るソルトレーク・シティーのキャリー・トーガーセン姉妹

4月3日(土)　神権部会における説教

召しを受けて

七十人第一定員会に入るにあたっての4つの思い。

七十人第一定員会会員
ジョン・H・グローバーグ

愛する兄弟の皆さん、このようなとき、感じることは多々あっても、話すことは本当に少ないものです。ただ私が大切だと思っている4つの事柄について申し上げたいと思います。

まず第一に、私は主と主の僕たちの前においてはっきりと、私の残りの生涯を主のみ業に捧げるようにというキンボール大管長の招請に応じたいと思います。

2番目に、私は皆さんの援助をお願いしたいと思っています。私は自分が弱い者であることをよく知っています。ですから皆さんの助けが必要なのです。この数日間、私は自己の内省に没頭していました。そして動かしがたい結論に達したのです。いわゆる私の「業績」と言われるものは、ほとんどとはゆかなくてもその多くが、自分自身の努力よりも他の人々の労苦に負うところがはるかに大きいことがわかったのです。

私たちはよく、死者は私たちが神殿に行って神殿活動を行なうように求めているということを耳にします。つまり、死者が私たちに依存しているわけです。私はまだこれらの事柄を完全に理解してはいませんが、証をしたいと思います。私たちは死者が私たちに依存しているほどではないにしても死者に依存しているのです。私たちは互いに助け合うことが必要です。私たちの救いは相互の助け合いにかかっているのです。

第3に私は、これまで私に親切にして下さった方々や我慢して下さった方すべてに、また時に歯ぎしりするような思いをしながら私の誤ちを見守り、なおかつ忍耐強く私を導いて下さった教会指導者の方々に心から感謝しています。そして、たとえどのような責任が与えられたとしても、少なくとも人々が私にして下さったように私も他の人々に親切に、また忍耐強くありたいと願っています。私はまた妻や子供たち、両親、友人、隣人に感謝しています。彼ら以上の素晴らしい隣人がどこにいるでしょうか。

私たちは妻に耳を傾けるべきだと言われています。妻は私たちにない特質をもっています。多くの場合、女性の直感には耳を傾けた方がよいでしょう。私たち夫婦が階下に降りる仕度をしていたときでした。妻がこう言ったのです。「ところであなた、何か新聞に載せることになっていませんでした？」「いや何もないよ。新聞社の方では必要な情報は全部集めたと言っていたからね。」

「きっとまちがっているわよ。」

果たして、チャーチ・ニュースを開けて見ると、ふたりの子供の写真が目に飛びこんできました。写真のふたりのほかに、皆さんにお知らせしなければならないもうふたりの子供、トーマスの後に生まれた幼いジェニー・マリーとビッキー・アンがいたのです。私は妻のジーンに謝りました。

とにかく、妻や子供たちに対する感謝の気持は言葉で言い表わすことができません。ただひと言、「愛しています。いつまでも愛します。」と言えるだけです。もちろん子供たちにもです。

最後に私の証を述べたいと思います。私は天父が生きておられることを知っています。そしてさらに大切なことかも知れませんが、私は神が私たちを御自分の子供として愛して下さっていることを知っています。イエスは世の救い主であり、私たちを愛して下さっています。イエスはまた、友という言葉が意味するすべての賜を具えられた、私たちの友です。イエスはすべての人を愛しておられます。私はある島の人々と共にこれ以上のことはないと思われる特別な経験をしたことがあります。私はただ、温和な、やさしい心を持ったその島の人々に、「オファ、アツ」（心からの愛の意）と申し上げたいのです。皆さんは私の心を和らげ、私の命を救い、愛と犠牲の意味について教えてくれました。さらにまた、信仰という何にも比較のできない祝福を与えて下さいました。

ジョセフ・スミスは神の予言者であり、またキンボール大管長は神の予言者です。この証をイエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。

☆　　☆

屋根の上から叫びなさい

贖いが訪れるとき、準備の時は終わる。

七十人第一定員会会員
ジェイコブ・ディエガー

愛する兄弟の皆様、私はこの度、神の王国を築くお手伝いをするために召されました。そして数多くの立派な、天父のお選びになった息子たちと個人的に知り合う機会を得て、心から光栄に存じております。この素晴らしい方々のことをイエスは「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。」(ヨハネ15：16)と言われました。また予言者ジョセフ・スミスは「汝らはわが父のわれに与えたまいし者なり。汝らは誠にわが友なり」(教義と聖約84：63)と言っています。

私はきょう、主が私たちをこの会場に集めて下さったことを信じて疑いません。なぜなら、予言者ジョセフ・スミスを通じて次のように啓示されているからです。「およそ忠実なる者は何処に在りても強くせられん。而して、主なるわれ汝と共に行かん。」(教義と聖約66：8)

この場には世界中からやって来た兄弟たちが集まっています。私自身もオランダの教会員がわずか4名しかいない小さな町からやって来ました。そういう訳で、私は皆様方の多くが自分の改宗やバプテスマ、宣教師との初めての出会いについて、またこの地上における神の王国に入るときにだれもが必ず通らなければならない3つの段階について、興味あるお話をすることができると確信しています。参加、啓発、そして管理、これらの3つの段階は前世から来世後に至る人の永遠の進歩にも言えることです。

私の今夜の目的は、証を述べることと共に私の今の幸せな気持をお伝えすることです。

思えば、私の家族の幸福は宣教師がオランダにある私の家のドアをノックした日が始まりでした。そしてディエガー姉妹と私は、当時住んでいたカナダのトロントでバプテスマを受け、その後、私は聖なるメルケゼデク神権によって自分の息子と娘にバプテスマを施すという素晴らしい特権にあずかったのです。また私たちはスイス神殿で結婚を永遠のものとしました。そして子供たちとも結び固められました。このようにして、私たち家族の王国における幸福と喜びはどんどん大きくなったのです。

さて、言わばそのようなみ業の収穫である息子のミハエルは現在、インドネシアのジャワ島でフルタイム宣教師として伝道しています。息子は、両親の私たちや多くの忠実で献身的な教師から救いの計画について微に入り細にわたって、愛の忍耐をもって教えられた事柄を、今度は自分が代わって島の素晴らしい人々に教えています。

息子がオランダを後に自分の出生地ジャワに出発するその日まで、私たちは、主が命じられたように、息子を宣教師という聖なる召しに備えさせるためできる限りのことをしてきました。教義と聖約68章にはこのように記されています。「また両親はその子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず。」(教義と聖約68：28)

私たちはまた、息子が霊感によってあるひとつの場所で伝道するように召されたことを耳にしたとき、心から感謝しました。そして大喜びしました。息子への召しは、「わが教会の長老たちを遙かに離れたる諸々の国民に遣わし、また海の島々に至らしめ、また外国に遣わして　……」(教義と聖約133：8)とあるように、予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示と完全に一致していたのです。

この場に集っておられる皆様方すべてに、私は心から喜んで、また心からへりくだって証致します。私たちと息子は、遙か1万6千キロも離れた地での息子の伝道により、以前にも増して親しくなりました。また私たちは家にいながら、息子がその忠実さと熱心さの故に主から賜わっている祝福にあずかることができるのです。私たち家族が幸福なのはこのためです。

ここで私はすべての父親に、神の予言者の命令通り、子供たちに使命を果たす備えをさせるようにお勧めしたいと思います。父親はこの言葉を知っているはずです。「およそ何人にまれ、忠実にして正しく、且つ賢き管理人はその主の悦びに入りて永遠の生命をつぐべし。」(教義と聖約51：19)　この「主の悦びに入りて」という約束は現

世で、つまり私たちがこの地上に生きている間に与えられ得るものなのです。そして今、もし私たちが忠実で正しく、また賢き管理人であるならば、私たちは今「〔私たちの〕主であり」救い主であるお方の「悦びに入」って、永遠の生命を受ける準備をするのです。皆さん、私たちはこの世を去るとき自分がどこに行くのかは自分で決めているのです。なぜなら贖いが訪れるとき、準備の時は終わるからです。

私は皆様に、人生のリアホナであるイエス・キリストの福音を見出したひとりの幸福なオランダ人として証を述べたいと思います。戒めを守ることによって、喜びは今日も明日も、そして永遠に私たちのものとなります。どこの国から来ていようとも、「神の王国が予言者ジョセフ・スミスによってこの地上に回復された」と屋根の上から叫んでいただきたいと思います。もし高所恐怖症の方がおられるなら、その人は屋根に登らないで地上に止まり、友人や隣人に同じように「神の王国が予言者ジョセフ・スミスによってこの地上に回復された」と伝えていただきたいと思います。

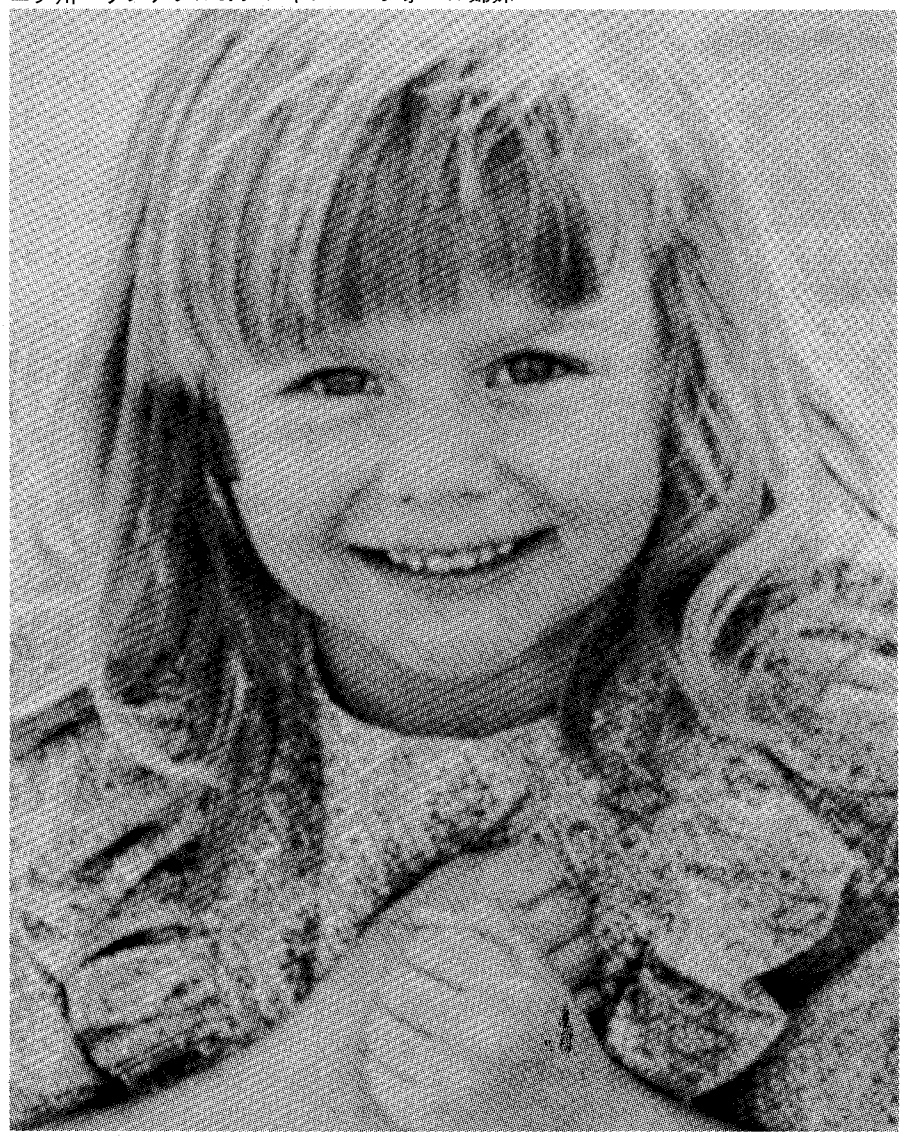
私がリアホナによって人生を見出したように、皆様は教会の定期刊行物からこの時満ちたる神権時代における主の方法について読むことができます。そうするならば、皆様方や私たちの家族はさらによい家族になるでしょう。これは世界中の忠実な末日聖徒に与えられる祝福です。彼らの生活には大いなる喜びと幸福がもたらされるのです。

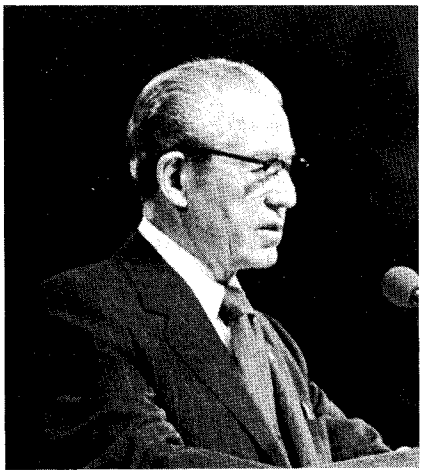
合衆国には「人生はすべてが桃やクリームではない」という表現があるそうですね。私の国オランダでは、その季節になるとたくさんの桃が採れるし、クリームは年中ふんだんにありますが、私たちは主がその偉大な救いの計画の一部として私たちをこの地上に置いて下さったという確信を持っていますので幸福です。これが私たちに幸福をもたらしてくれるものではないでしょうか。

最後に私は、きょう立場を共にする光栄にあずかることとなった幹部の兄弟たちが神の人であり、スペンサー・W・キンボール大管長がまさしくこの末の日に私たちを導いて下さる、生ける神の予言者であることを証致します。また、十二使徒評議員会の兄弟たちはまさに、全世界におけるキリストの特別な証し人として召されていることを証致します。同じように、七十人第一定員会の会員は全世界に福音を宣べ伝えるために召されていることを証致します。私は彼らを愛しています。そして彼らの模範と友情と教え方に敬服しています。彼らは、天父のみもとに帰るためになすべき事柄をすべてみたまによって教えているのです。

この大会は私たちの心を動かし、私たちの生活を変えてくれるでしょう。私は皆様方がそれぞれのワード部、支部にお帰りになったとき、皆様の生活が以前とは違ったものになっていることを証したいと思います。私たちは啓発され、より賢くなり、より人々の要求に敏感になって帰るでしょう。また家庭に必要な知識をより一層身につけて帰るでしょう。そしてさらに幸福に、さらに天父に近くなるのです。平安と幸福が常に皆様方と共にありますように、イエス・キリストのみ名によりへりくだりお祈り申し上げます。アーメン。

ユタ州バウンテフルのメレイン・マフォール姉妹





あなたは神権を尊んでいるか

「勇気と男らしさ、忍耐力、注意をもって主のみこころを行なおうではないか」

第一副管長
N・エルドン・タナー

愛する兄弟たち、美しく素晴らしいコーラスをありがとう。また兄弟たちの証、特に新しく七十人第一定員会の会員に召され、任命と聖任を受けた兄弟たちの証をうかがうことができ、非常な喜びを覚えている。

このように多くの神権者の前に立つことは、大きな特権であり、また重大な責任である。このように高潔で誉れ高く、立派で、信頼するに足る、献身的な人々はほかにいない。個人としても集団としても実に大きな力を備えている。皆さんは神の権能をもった人から召され、聖任されて、神権を授けられた方々である。

主のみ名によって語り、行なうことのできる人は、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員をおいてほかにいない。私はこうして皆さんの前に立ち、この集まりが何か、また何を代表しているのかを考える時、身の震えと恐れを覚える。神権者に課せられた非常に大きな責任のゆえに身が震え、また主のみこころをすべては行なっていないがために恐れるのである。

私は、この世における神権の必要性と重要性をこれほど痛切に感じたことはかつてない。また各自が神権を尊び、召しを全力を尽くして遂行し、全世界に真理と正義と平和を行き渡らせる業に貢献することの必要性をこれほど身にしみて感じたことはない。私の話の間、主の「みたま」と祝福があって、霊感が与えられるよう心からへりくだり祈るものである。

教会の強さ、教会の発展、地上における神の王国の建設は、私たちがいかにその義務を果たすかにかかってくる。

今宵私は、神権の重要性と、主が神権者に何を期待しておられるかについてお話したいと思う。この世において神の神権にまさるものは何ひとつないことを、私たちはすべて認識すべきである。しかし、神権を受けることは特権ではなく、当然の権利であると考えている人があまりにも多いのを見て、私は恐れを抱いている。多くの人は、ある年齢に達すれば自動的に神権を受け、あるいは昇進できると感じているようである。

ここで少しの間、主がアロン神権を回復されたことの重要性について考えてみよう。主は、御自分にバプテスマを施したバプテスマのヨハネをこの地上に送り、アロン神権を回復された。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリの頭に手を按いたバプテスマのヨハネは、次のように語った。

「汝ら、われと同じ業に働く僕らよ。救世主の御名によりて、われ汝らにアロンの神権を授く。こは天使の導きと恵み、悔改めの福音、罪を赦すために水に沈むるバプテスマなどの鍵を握る神権」（教義と聖約13章）であると。

私たちはみな、アロン神権により義にかなう大いなるみ業が行なわれ得ること、また現に行なわれていることを知る必要がある。ウイルフォード・ウッドラフ大管長は、次のような経験を述べている。

「私は3度、ヘイクマン〔初期の背教者〕の所へ行って警告を与えなければならないと強く感じたので、神の命に従い、その通りにした。3度目に彼に会ったときのことである。彼の家は悪霊で満ちているかのように思われた。そのため、私はその力の現れに心の動揺を覚えた。私は彼に警告を与えるとその家を出た。すると彼は私を殺そうとして、私の後をつけてきた。しかしそれを示現で予知していた私は、その企てに何の恐れも抱かなかった。彼は私のいる所に来ると、あたかも天からの稲妻に打たれたかのように、私の足下にばったりと倒れたのである。当時私は祭司であった。しかし神は私をかばい、私の命を守って下さった。私がこの話を申し上げるのは、これが、過去の時代と同様現代にも神の教会に明らかにされた原則だからである。私は祭司の職にあるときに、天使の導きと恵みを受け、また示現と啓示をも受けた。私は何千キロもの旅をした。そして当時権能を持っていなかったために確認の儀式こそ執り行なわなかったが、多くの人々にバプテスマを施したのである。」（*Millennial Star*「ミレニアル・スター」、1891年、53：641－642）

さらに彼は次のように語っている。「私は、全力を尽くしてその召しを遂行するならば、祭司も使徒も全く変わりないことをはっきり申し上げる。祭

司は諸天使の導きと恵みを受ける鍵を持っている。私はこれまでの生涯において、使徒、七十人、あるいは長老の時代にも増して、祭司の職にある時に、この上ない主の守護を受けることができた。主は、示現と啓示と聖きみたまによって、私の行く手に横たわる数多くの事柄についてそのみこころを明らかにして下さった。」(「ミレニアル・スター」1891年　53：629)

ところで私たちは、ウッドラフ大管長が祭司のときに受けた霊感と啓示、また私たち全員が受けることのできる霊感と啓示は、教会のためではなく、個人に恩恵と導きをもたらすためのものであることを知っている。

アロン神権が大切であることは、主が、この神権の管理体として、アロン神権の鍵と権能を持つ監督会を指名されたことからも明らかである。私はアロン神権者が聖餐を祝福しパスするのを目にするたびに、若人にとってこの業に携わることは何と偉大でまた栄ある特権であろうかと考える。あなた方はどのように感じておられるだろうか。私は、主が彼らに、ふさわしく敬虔になるように望んでおられることを知っている。そうでないときに、主は悲しまれるのである。

主は、アロン神権のもうひとつの特権と責任について、次のように語っておられる。

「この故に、汝ら小神権に按手聖任せられたる者を伴い、汝ら先立ち行きて約束をなさしめ、その途の備えをなさしめ、而して汝ら自ら充たす能わざる約束を充たさしむ。」(教義と聖約84：107)

私は過去半年間、教師に聖任された兄弟と、また現在は祭司の兄弟とホームティーチングを行なう特権を得てきた。彼らは担当家族と約束を取り、私と交代でレッスンを行ない、話合いの司会を務めてくれた。先日私の同僚のホームティーチャーから電話があった。担当家族の父親が入院したので見舞いにうかがっては、という内容のものであった。そこで私たちは早速彼を見舞い、祝福を施すことができた。

私たちの有する神権が何であれ、自らを清く保ち、主のみたまを受けられるように生活をしているならば、その義務を果たすときに私たちは大いなる喜びと満足を見出すことができるのである。私たちは神権を受けるときに、主と誓約を交わす。それは非常に大切でかつ拘束力を有するものである。主は、私たちにその誓約を守るよう期待しておられる。次に、神権の誓約の一部を引用したいと思う。

「およそ忠実にしてわが今語れる二つの神権を得、而してその天よりの召を全力を尽して遂行する者たちは、『みたま』により聖められてその肉体再新さる。

これらの者はモーセの息子たちとなり、アロンの息子たちとなり、アブラハムの子孫となり、また教会員にして王国の民となり神の選民となる。……

われ今汝らに一つの誡命を与えて汝ら自らを警めしむ。すなわち汝ら永遠の生命なる言に勉めて心を留めよ。

そは、汝ら神の口より出るすべての言によりて生くべければなり。」(教義と聖約84：33、34、43、44)

何と素晴らしい祝福、約束、責任であろうか。これは、誓約を守るあらゆる人に与えられ、私たちすべてに当て

テンプルスクウェアでのスナップ

はまるものである。主は「およそ忠実にして」と言っておられる。

さてここで忠実ということに関して、知恵の言葉、純潔、正直、戒めの遵守について少しお話したい。主は、「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」(ヨハネ14：15) と語っておられる。

今宵私の話を聞いておられる方々はすべて、自分は主を愛している、と言われるに違いない。ではどのようにそれを証明することができるだろうか。主は言っておられる。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」と。

今日の世界には多くの悪があることを私は知っている。サタンは放たれており、私たちは時折、してはならないと知っていることを行なうよう、サタンとその軍勢に激しく誘惑される。そして多くの場合、朱に交わろうとする。私たちはその誘惑に負けてしまうのである。しかし神権を有することにより、私たちは他の人々と違った者となることができる。また私たちはそうなるべく自らを備えなければならない。世の道から離れ、よく準備をして、主が私たちに求めておられる業を喜んで行なうことが必要なのである。

茶、コーヒー、タバコ、麻薬、酒の飲用は人体に有害であるという科学的な証明があるにもかかわらず、この世は知恵の言葉を受け入れてはいない。しかし戒めとして主より知恵の言葉を与えられている私たちは、世の人々とは異なる。この戒めを守ることにより、教義と聖約89章に記されている大いなる祝福と約束を身に受けることができるのである。

私はここで皆さんに、知恵の言葉に関するひとつの経験をお話したい。カナダのエドモントン支部の支部長をしていたとき、私は祭司グループに対する責任を負っていた。私たちはよくIOOFホールの地下室の薄汚れた壁と床に囲まれた部屋で会合を開いたものである。祭司のひとりにマックスという名の少年がいた。彼は学校ではバスケットボールチームの選手をしており、チームの中で唯ひとりの教会員であった。他の少年たちはごく当然のことのように、コーヒー、紅茶を飲み、タバコを吸い、時には酒さえも飲んでいた。勿論マックスは知恵の言葉を堅く守っていた。彼は知恵の言葉とそれを破ることの悪についてよくみんなに話していた。また、知恵の言葉を守るならば、走っても疲れず、歩いても活力を失うことはないと主が約束しておられることを彼らにしばしば話した。さらに彼は、これらのものを断つならば、もっと立派な選手になれると確約したのである。彼自身優れた選手であり、チームの少年たちの尊敬を集めていた。そのため間もなく、そのチームは全員が知恵の言葉を守るようになったのである。

数週間前、私はテキサス州ヒューストンで、この青年とその家族に会った。彼は、私たちがよくIOOFホールの地下室で会合したことや、私が教えたことなどを家族に話して聞かせた。そこで私は、彼がバスケットボールチームにいた頃の経験やその影響力について話し、自己の標準を守って生活する人は常に人々から尊敬を勝ち得、また大きな恵みを得ることができることを強調した。現在マックスは、ヒューストンにある大きな石油会社で地質調査技師長をしている。

もうひとりの青年ジョンの経験をお話したい。彼は東部のある士官学校に入った。新しい司令官が赴任し、その歓迎会が開かれたときのことである。すべての席にはカクテルグラスが置かれていた。そこに集まった前途有望な士官たちは全員乾杯のためカクテルグラスを片手に立ち上がった。しかしひとりだけ、ミルクのコップをさし上げた青年がいた。他のすべての士官がカクテルグラスを持って立ち上がる中で、唯ひとりミルクのグラスを手に立ち上がり、乾杯をしたのである。何と大きな勇気を必要とすることであろうか。

それを見た司令官は、宴会が終わると真先にこの青年の所に来て、こう尋ねたそうである。「なぜ君はミルクで乾杯をしたのかね。」

「はい、司令官。私はまだ一度も酒を口にしたことはありません。また飲みたいとも思いません。両親も私がそうすることを望んではいません。司令官にも御理解いただけると思います。でも私は乾杯させていただきたかったので、いつも口にするもので乾杯すれば、司令官に御満足いただけると考えたのです。」

司令官は言った。「明朝、司令部に出頭するように。」

恐らくこの青年は眠れぬ夜を過ごしたに違いない。しかし、翌朝彼が司令官の兵舎に行ったとき、何が起こったかおわかりだろうか。司令官は彼を自分の側近に指名し、次のように言ったのである。「私は、人がどう思おうと自分が正しいと信じていることをやりぬく勇気を持った者を自分の側近に迎えたいと思っている。」

私はこれまでに一度も、教会の標準に従ったために昇進を阻まれたり人から認められなかったりしたことはない。知恵の言葉を破っていながら、自分は神権を尊び、召しを全力を尽くして遂行していると考える人はだれもいないだろう。

次は、純潔である。世界的に不道徳の風潮が広まり、非常に残念なことに一部の神権者にもそのような影響が及んでいる。しかし主ははっきりと次のように言っておられる。「あなたは姦淫してはならない。」(出エジプト20：14)

またパウロは、コリント人に次のように言っている。「それとも、正しくない者が神の国をつぐことはないのを、知らないのか。まちがってはいけない。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫する者、男娼となる者、男色をする者……は、いずれも神の国をつぐことはないのである。」(Ⅰコリント6：9、10)

ヒラマンは次のような言葉で警告を与えている。「あなたたちは今に至ってもなお人殺し、みだらな行い、悪事を重ねて永遠の亡びにおちいる用意をしている。もし悔い改めないと、このような亡びはすぐあなたたちにやってくる。」(ヒラマン8：26)

私たちはいかなる所にあろうと、異性と交わるときは、何よりもまず次の

ことを心に留めておかなければならない。すなわち、自分が何者かを思い起こし、ふさわしい行動を取り、また罪を招くような誘惑に決して身を任せないということである。私たちは、神権を有する神の霊の子である。従って神権を尊び、各自の召しをよく遂行する必要がある。純潔の律法を破ることは、主を最も悲しませることであり、またこれ以上人を傷つけ、堕落させるものはない。この律法を破ることにより、人は悲しみと良心の苛責を覚え、主が忠実な者のために備えられた使命を完うすることはおろか、神殿への参入、神権の昇進、教会での責任ある地位の登用といった多くの機会ならびに祝福を奪われることになるのである。

私は、教会員が自ら道徳的に身を清く保つ望みと決意と強さを持つことができるように朝な夕なにへりくだり主に祈り求めている。また今宵この場にお集まりの方々に心からお願いする。主のみこころにかなう生活を送り、重大な誘惑や罪に陥ることのないよう身を清く保つ決意をしていただきたい。

次に正直について少しお話しよう。私たちの人格の特質の中に、正直にまさるものはない。私はまだ幼ない頃に、決して嘘をついてはならないことを両親から教えられた。

皆さんの中に重大な罪または背罪を犯している人がいるならば、行ってその罪を告白し、悔い改め、清い生活を送るよう切にお勧めする。そうすれば、ほかでは得ることのできない恵みを享受する備えができるであろう。

偽りを述べ、ふさわしくない状態で神殿に入り、伝道に行く男女がいる。このようなことを言わなければならないことを非常に残念に思う。主は、清くないものを神殿に入れてはならないと言っておられる（教義と聖約97：15参照）。神殿推薦状を受けるため、または伝道のための面接を受ける人は、監督とステーキ部長が主の代理人であることを認識すべきである。またその答えは主に対するものであり、主と約束を交わしていることを自覚すべきである。主はすべてを御存知であり、決して欺かれることはない。

教会員の中には、ふさわしくない状態で神殿に行き、その結果、そこでの儀式が結び固められ効力を発するだろうかと思い悩みながら、長年罪の意識にさいなまされている人々がいる。こうした人々は結局悲嘆に暮れて大管長のもとに来て赦しを求め、事が明らかにされるのである。私たちは、正直、真実、貞潔、慈善、高徳をもって身を飾ろうではないか。（信仰箇条第13条参照）

これから伝道に出る人は、主が全幅の信頼を置ける者、あらゆる点で主を代表するにふさわしく清い者を望んでおられることを認識する必要がある。ふさわしくなければ、召しを受けてはならない。偽って神のみ業に携わるようなことがあってはならない。むしろ悔い改めることによって自らを備えなさい。ふさわしくない状態で行くよりも、1年あるいはそれ以上の期間待って行く方がはるかによい。勇気と男らしさ、忍耐力、決意をもって現実に真っ向から取り組み、真実を述べ、主のみこころを行なうようあらゆる点で自らを備えていただきたい。

ここで、故リチャード・L・エバンズ長老の次の言葉に耳を傾け、この深遠な声明をいつも思い起こすようにしようではないか。

「刑務所、不実の友、悪い仲間、世を厭う人々、過去の出来事など、時と状況さえ許せば逃避できるものは数多くある。だが決して逃れられないものがひとつある。それは自分自身だ。夜床に就くとき、好むと好まざるとにかかわらず、自分の思いは共にある。また朝目覚めるとき、好むと好まざるとにかかわらず、なお思いはそこにある。人生において絶えずつきまとうもの、それは自意識である。（これはまさに死後も存続する） 従って、決して離れることなく自分自身につきまとうこの自意識に対して安らぎが得られない者ほど哀れむべき存在はない。どこをどれほど速く、またどれほど遠くまで走ることができようとも。」（リチャード・L・エバンズ *Richard Evans Quote Book* 「リチャード・エバンズ引用集」 p.214）

主は、このような状態から抜け出す方法を備えられた。次のように語っておられる。

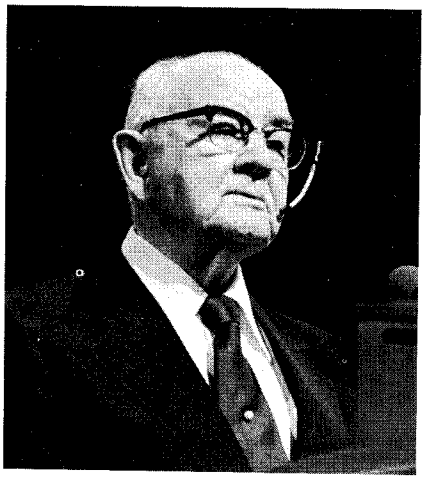
「見よ、およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし。

人罪を悔い改めしや否やは、見よ、彼は自らこれを告白しその罪を捨つべければ、その悔い改めたることはこれによりて知るを得べし。」（教義と聖約58：42、43）

私たち神権者は神の忠実な軍勢であることを常に心に留めておこうではないか。私たちはみな義勇兵である。悪魔とあらゆる悪に抗して戦っている。これは、永遠の生命を得るための、正義と悪、生と死との戦いである。そしてイエス・キリストは、私たちの指導者、総司令官であり、スペンサー・W・キンボール大管長は指揮官である。私たちの強みは神権を持っていることである。従って知恵の言葉を破り、不道徳に陥り、不正を行ない、信頼を裏切ることによって、軍勢を弱めるようなことがあってはならない。私たちは強さを保持し、指揮官の命令に従う必要がある。

私たちは勝利を得るためには、無断でその持ち場を離れてはならない。またひとりの脱走兵も出してはならない。忠実で、献身的な、統一のとれた前線部隊が是非とも必要である。私たちが身を清く保ち、従順で、真の信仰を守り通すならば、決して打ち負かされることはない。

一方、不実な者はこの軍勢を弱める。このことをも心に留めておこう。またそのような者とならないよう祈っていただきたい。私たちが携わっているこの業は、主のみ業である。これは主の教会であり、地上における主の王国である。私たちは予言者であるスペンサー・W・キンボール大管長を通して主の導きを受けている。指導者に従い、神権を尊び、私たちに与えられた召しを全力を尽くして遂行し、あらゆる点でふさわしい者であることを証明できるよう、イエス・キリストのみ名により、へりくだって祈るものである。アーメン。



少年たちは身近に英雄を必要としている

若人は、指導者の模範を示し、成長する機会を与えてくれる父親を必要としている。

大管長
スペンサー・W・キンボール

私は長い間、この総大会に出席して来たが、その度に、大勢の若人が父親と共に来ている様子を見て、強く心を動かされている。私は教会の中で成長を遂げているある人々を知っている。彼らは、息子たちを皆大会に連れて来る。それが4人であろうと、6人であろうと、8人であろうと、10人であろうと、とにかく皆一緒にこの大会を楽しんでいるのである。

このことに関連して、詩を読みたいと思う。皆さんはこれを前に聞いたことがあるかも知れない。

ただの父
……だけど、一番立派な人
ただの父は疲れ切った顔付きで
日々の仕事から家に帰る
お金も名誉も持って来ないけれど
どんなに働いたか、よくわかる
家族の喜ぶ姿を見て、父の心は躍る
父の帰りを、その声を待ちわびていてくれるから

ただの父に子供が4人
数え切れないほどいる父親の中のひとり
だけど毎日の生活に汗水流し
生活の重荷を一身に背負い
それでも不平のひとつも言わない
家で待つ家族のため

ただの父には富も名声もない
数知れない群衆のひとりでしかないけれど
毎日毎日、額に汗を流す
眼の前に立ちはだかるものがあれば
どんなにつらくとも、黙って立ち向かう
みんな愛する家族のため

ただの父、だけど精魂込めて
小さな子供たちのために道を切り開く
不屈の勇気で立ち向かう
祖父もそうしてくれたからだと言う
これが父にささげる詩
ただの父だけど、一番立派な人

（作者不詳、*Source Book of Poetry*）

私は、今宵ここに集っている少年たちが皆父親に対してこのような思いを抱き、また、父親に対する愛を表現し、さらに忠実で、偽りがなく、頼りがいのある父親がいることにどれ程感謝しているかを是非言葉に出して伝えて欲しいと願っている。

私たちは、息子として、夫として、父として、祖父として、神権者である皆さんが、姉妹に対し、母親に対し、妻に対し、祖母に対し、恩慮深くまた思いやりを示して下さることを望んでいる。神権者は家庭を管理するが、それにはイエス・キリストが教会を管理されるように、愛と奉仕と慈悲と模範の精神で管理しなければならない。

主は神権者である私たちすべてに、その権能の幾分かを与えて下さった。しかし、私たちが天の力を呼び求めることができるのは、私たち一人一人が義しい生活をしているときだけである。つまり、神権の力が家庭の中で実際に感じられるためには、その中にいる人々が皆義しくなければならないのである。神権者である皆さんの注意を喚起したいと思う。私たちの妻や母や姉妹と私たちとの関係は、共にひざまずくことによってひとつとなるのである。その場所が神殿の聖壇であろうと、私たちの家庭の中であろうと同じである。私たちは手を取り合って、共に仕える。これこそがうるわしい協力関係を作るのである。

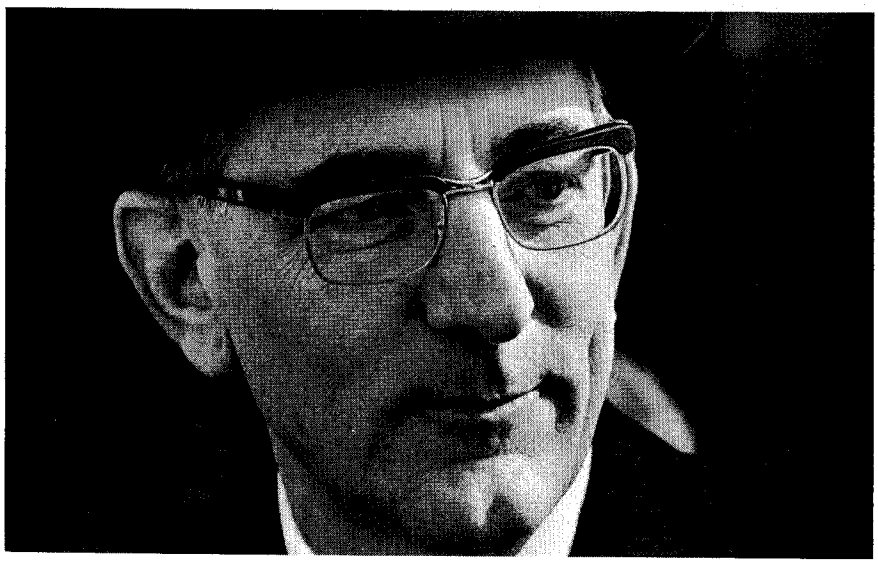
兄弟の皆さん、私たちは、教会の若人に、奉仕を通じて霊を成長させる有意義な機会を絶えず提供する必要がある。若人は普通、有意義なことをなす機会が数多く与えられたからといって教会から不活発になることはない。福音が人々の生活の中で生きていることを自分自身の目で確かめた青少年は、王国における自分の義務をおろそかにしたり、果たさずにおいたりはしない。私たちは、この点に関して特別の責任を持つ監督会の皆さんが、青少年の定員会活動は効果的かどうか、青少年委員会は活発かどうかを、いつもよく見守っていて下さるよう希望している。教会の青少年が定員会の運営について学んでいるとき、彼らは、そのアロン神権定員会に属する青少年に祝福をも

たらしているだけでなく、彼ら自身、将来父親となるために、また将来メルケゼデク神権定員会の指導者となるために備えをしているのである。彼らには、指導者としての経験、福祉事業での経験、説教の経験、集会を司会する経験、いかにして若い女性との正しい関係を築くかという経験が必要である。

私たちは今、高貴な世代を育てている。今宵私たちと共にここに集っている大勢の若人がそれである。彼らには特別に果たさなければならない仕事がある。私たちは彼らに、聖典を研究し、隣人に奉仕し、家族のために働きまた愛する特別な経験の場を提供しなければならない。もちろん、これをするためには、計画を立てる時間と実行する時間が必要である。時々一部の父親や成人指導者に見られるような、場当たり的なものでは不十分である。兄弟たち、周囲の情勢から考えて、私たちは、末日聖徒の青少年が世の中から受けている影響がこれまでになく大きいだけでなく、以前にも増して急速になってきていると信じている。それ故私たちは一層効果的かつ速やかに業を進めなければならない。

兄弟たち、私たちは、この一般社会だけでなく、教会内でも離婚数が急増していることを憂慮している。また、「冷戦状態」にある家族や夫婦がいることにも心を悩ませている。結婚前の交際時代から、注意深く、思慮深い人々は、通常、結婚生活においても注意深く、思慮深いものである。入念な準備をして主の宮居に参入し、今も永世にも結び固められる人々は、離婚や困難を経験することがずっと少ない。これは単に、その結び固めの儀式の影響のためばかりでなく、通常、まず第一に、結婚に備えてよく準備しているからである。そのような人々は、出会いの頃の強い愛情をお互いに抱き続けているばかりでなく、イエス・キリストの福音に対する共通の愛のきずなを持っている。ふたりは、お互いに知り合う以前から福音を知っていたはずである。さらにそのような人々は、犠牲と無私の精神も持ち合わせているものである。そのような精神は、様々な面で、幸福な結婚生活の基礎をなすものである。

私たちは、指導者、父親、夫、そして息子である皆さんが、家庭にあって、定員会にあって、ワード部にあって、そして地域社会にあって人々と意志の疎通を図る能力を一層高めて下さるよう、心から願っている。神権者一人一人が成長するよう天の御父が期待しておられるという厳然たる事実をそのまま受け入れていただきたい。私たちは成長しなければならないし、絶えず進歩していなければならない。私たちがその努力を重ねるならば他の人々も、私たちが真面目な気持でキリストに従っていることを感じ取ってくれるであろう。また、私たちが時折見せる弱点をも比較的容易に許してくれるに違いない。



アロン神権者の若者にも、メルケゼデク神権者にも、行なってみていただきたいことは、人知れず、しかし堅い決意のもとに、個人的な価値ある目標を設定するということである。ある一定の期間で達成できるものを幾つか選び出し、それを目標にして、進歩するための努力を始めるのである。たとえ天の御父の神権者たちが正しい方向に顔を向けていたとしても、何の推進力がなければ、その影響力は無に等しい。皆さんは、世の人々が頼りとするパン種である。その力を、目的のないままさまよっている世の人々を救うために使わなければならない。

私たちは、教会の青年男女が、自分たちには1回だけ、ある決意をする必要があるということを、これまで以上によく認識できるよう手助けしたいと思っている。私は以前この説教壇から、自分がまだ若い頃に、ある決意をしたという話をしたことがある。その決意は私にとって極めて大きな助けとなった。それ以来、年がら年中、決意をする必要がなくなったからである。私たちはひとたび、あることを片付けてしまえば、もう二度とそれにはかかわる必要がなくなる。ただ一度決意をするだけで、それを生活の中に取り入れ、さらに私たちの特性とすることができる。そうすれば私たちが何をし、何をしないか何百回も思い悩み、再三再四決定する必要はなくなるのである。

優柔不断な態度や落胆した態度は、悪魔が付け入る格好の材料である。悪魔は、そのような状況にある人々の中から、数多くの犠牲者を引き出すことができるからである。若い兄弟たち、皆さんがまだそうした決意をしていなければ、今、決心するよう心に決めていただきたい。

私たちは、皆さんがこれまでにも増して、いわゆる職人と呼ばれる会員や求道者にも、フェローシップの手を差し伸べる努力をして下さるよう希望している。手仕事や特殊技能で生計を立てている人々は、どちらかと言うと、課せられた分の責任を果たしていない、などという考えを教会では、決して持

ってはならない。もちろん私たちは、専門職にある数多くの教会員に感謝している。また、世間で言う頭脳労働者の皆さんにも感謝している。しかしながら、私が、今以上に手を差し伸べていただきたいと思っている人々がいる。それは、年齢にかかわりなく、肉体労働に従事している人々である。このような人々の持つ技術は、多くの人々が認識している以上に、私たちの社会には必要不可欠なものである。確かに、現在そうした技術の中には、不足気味のものもある。私たちは特に、このような人々に手を差し伸べようではないか。そのような人々の中に、大勢の長老見込み会員がいる。私たちが必要とする力と技能を彼らは持っているし、また彼らが教会に来るようになれば、当然その家族も会員になるからである。

会員たちに余分な経済的負担をかけないよう、注意しようではないか。この点で神権指導者は特に注意を払う必要がある。会員たちの多くは、現在、経済的な苦境に立っているからである。犠牲は、王国の建設には常につきものであるが、かと言って、什分の一、断食献金、建築資金、ワード部支部予算等の基本的な遵守事項を守っている以上、それ以上の不要な出費を強いることは慎まなければならない。

私共と同じ年長者に申し上げる。いわゆるウィンタークォーターズの教会を経験してきた人々に申し上げる。私たちの後から来る人々が収穫できるように、今種まきをして、あの「ウィンタークォーターズ」の習慣を失わないようにしようではないか。証という小麦を植えて、開拓者となろうではないか。（事実、私たちの民は現在でも開拓者として生を受けている。）私たちの後から来る人々が、世界のどこかで飢饉が起こったときに、信仰のパンを食べることができるようにしておこうではないか。

これまで何人もの人たちが説教して下さったが、私はその話の内容を心から喜んで聞いている。私が強く心に刻み込まれたのは、この教会の様々なプログラムが、丁度ピアノの鍵盤のキーのようなものであるということである。キーによって使われる頻度が異なる。しかし、キーはそれぞれ皆、私たちの生活に調和と均衡を生み出すために、いずれは必要となるのである。そのために、私たちが様々な説教を通じ、また集会を通じて申し上げる事柄は、私たちに均衡の必要性を思い起こさせ、折に触れて何度でも強調しなければならないことを気付かせ、重要なことをし残してはならないことを気付かせるのである。

それぞれの地域社会にあって、また国家にあって、公民としての義務を果たしていただきたい。法律を支持し、守りなさい。法律の範囲内で、良い影響力を及ぼせるように活動しなさい。予言者ジョセフ・スミスもそう勧告している。

たとえ直接言及しなくとも、教会を政争に巻き込むことは避けていただきたい。私たちがこの点を注意しないと、個人的な好みに任されている問題を、教会の公式見解と銘打って発表されることにもなりかねないであろう。

自分自身の霊的な強さを増していただきたい。そうすれば、家族の中に平安がとどまるであろう。義しい行ないは個人から始まり、複数の人々へと移行していく。私たちが（研究と探求と祈りとを通じて）改宗するならば、私たちはすぐに他の人々に援助の手を差し伸べたくなることであろう。真実の意味での改宗をすれば、私たちは、生きている人々に対しても、亡くなった人々に対しても、それぞれの立場に応じて、できるだけの援助の手を差し伸べたいと思うようになるのである。また真の改宗をしたときには、同時に、福祉活動のもつ意味を完全に理解し、自ら備えをしたいと思うようになるはずである。

救い主が「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」（ルカ22：32）と言われたとき、主は、私たちの義務について言及しただけでなく、私たち一人一人が改宗しなければ兄弟たちを強めることはできないという意味も言外に含まれていたのである。

いかなる父親、息子、母親、娘であっても、忙しすぎて、聖典や近代の予言者の言葉を研究する時間がない、などということがあってはならない。私たちは、黙想と祈りの時間を減らしてしまう程、忙しくなってはならない。また、隣人に対してクリスチャンらしい無言の奉仕ができなくなってしまう程、教会の責任を果たすのに忙しくなってはならない。

「子供たちには、リンカーンやワシントンのような英雄が大勢必要である。しかし同時に、身近にも英雄を必要としている。子供たち一人一人が、気高い強さと心底から高潔さを持つ人を知る必要がある。そのような人々に路上で出会い、共にハイキングやキャンプに行き、また毎日毎日身近な所で会う必要がある。いつでも質問ができる程、身近に感じ、腹蔵なく心行くまで話をする必要がある。」（ウォルター・マクピーク）

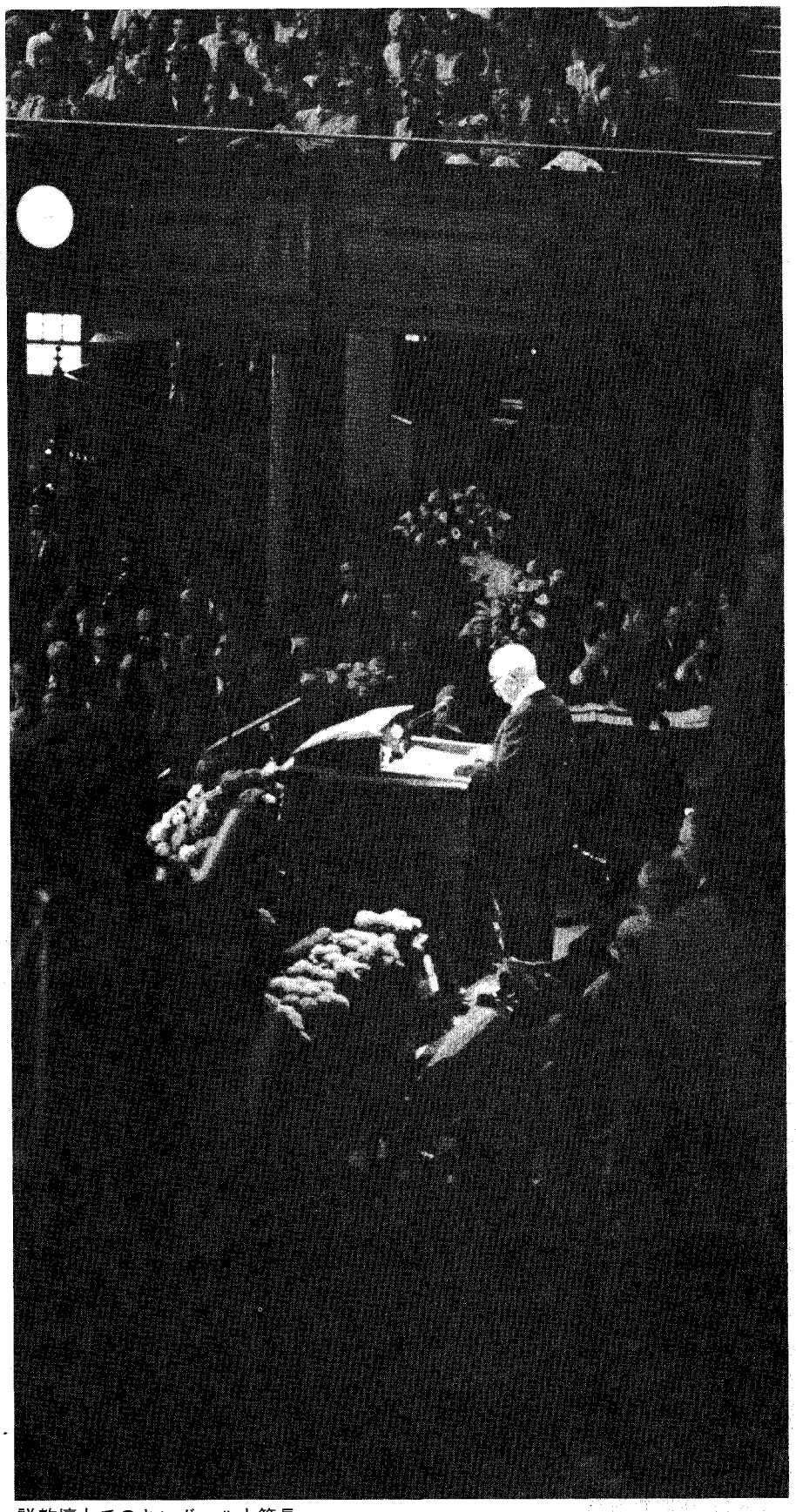
私は、父親が皆、その子供たちに対してそのように身近に感じさせるものを持っていただきたいと、心から願っている。そのためには、毎週開く家庭夕べが良い機会となるであろう。

監督の皆さん、会員たちに、ゆめゆめ離婚を奨励することのないように。むしろ、和解し、彼ら自身の全般的な生活を立て直すよう励ましていただきたい。

だれか重罪を犯して苦しんでいる人を知ってはいないだろうか。もしそのような人がいたら、その人は、可能な限り、償いをしなければならない。そうしなければその問題で永遠に苦しむことであろう。

教会の青少年は、教会の祝福を受けるのに、年を取る必要もなければ、長い間の経験も必要ないということを認識すべきである。ジョセフ・スミスは、あの示現を受けたとき、わずか14歳であった。また教会が組織されたときは25歳、モロナイと会ったときが18歳、金版を受け取ったときが24歳、そして殉教したのが39歳のときであった。

トーマス・B・マーシュは31歳のとき、デビッド・W・パッテンは30歳のとき、それぞれ使徒になった。皆、いわば青年であった。



説教壇上でのキンボール大管長

1830年4月6日に教会が組織されたとき、ブリガム・ヤングは28歳、ヒーバー・C・キンボールも28歳、オルソン・ハイドはまだ25歳、ウイリアム・E・ムレリンは24歳、パーレー・P・プラットは23歳、ルーク・ジョンソンは22歳、ウイリアム・スミスは19歳、オルソン・プラットは18歳、ジョン・F・ボイントンは18歳、そしてライマン・E・ジョンソンは18歳であった。そして彼らの大部分は、十二使徒評議員会が組織された1835年に、使徒職に召されたのである。さらに、ジョセフが生命を奪われたとき、皆まだ青年であった。

しかし彼らは、少年たちに霊感を与えることができた。また偉大な宣教師となった。あなた方青少年は、偉大になるまで待つ必要はない。もっと立派な宣教師になることも、力強い青年になることも、偉大な同僚になることも、そして、幸福で信頼される教会の指導者になることもできるのである。明日まで待つ必要はないのである。

皆さんが年々成長するに応じて、主から祝福を受け、また主から霊感を受けて、福音の輝かしい祝福を他の人々に伝えることができるよう、心から祈っている。

心から愛する兄弟の皆さん、私はこれをイエス・キリストのみ名により、祈り申し上げる。アーメン。

☆　　☆

この地の神に仕えさえすれば

主の永遠の計画におけるアメリカの将来。

第一副管長
N・エルドン・タナー

この総大会はアメリカ合衆国建国二百年の年の最初に行なわれる大会である。そこで私は、建国記念が福音や生命と救いの計画にどう関係しているのか、よくよく考えてみた。私たちはだれでもこの国の建国に関連した出来事をいろいろと読んだり聞いたりしており、現在は近代設備を通して世界中にニュースが伝えられお互いの国が相互に関係しあっている。これはだれも承知していることである。

私たちはすべての人に、祖国すなわちあなたが生まれた国、あなたが生活し、働き、家族を養っているその国に忠実であってほしいと願っている。ウォルター・スコット卿の『最後の吟遊詩人の歌』（*The Lay of the Last Minstrel*）の歌が思い出される。

生気のなえた魂もて かしこに休む人
己れにかく告げしことなし
これぞわが母国！
燃えたつ心を知らぬ人
外国の浜辺のさすらいより
故郷にその足を向ける

この1、2週間、私はキンボール大管長その他の人々と公式に、ニュージーランドやオーストラリアや美しい南太平洋の島々で開催された地域大会に参加する特権にあずかった。ニュージーランドは主に愛される選りすぐりの島と自称するほどであるし、最後の大会を終えてタヒチを去る前の晩には、ひとりの兄弟が「いよいよあすはエデンの園から追放ですね」と言ったりもした。

私たちは行く先々の土地の美しさに目を奪われた。タナー姉妹は、「私たちが住んでいる世界は本当に美しいのですね」と言った。確かにどの国々も主に大いに祝福されている。
どの国もそこに住む者や習慣、伝統が違い、その美しさも一様ではない。

ところできょうは、西半球、それも特にアメリカ合衆国に私の話を限って、主の永遠の計画におけるアメリカの将来について話をしたいと思う。アメリカの発見は偶然ではない。その出来事は永遠の会議であらかじめ定められていた。古代の予言者はそれを示現に見た。ヤコブは息子のヨセフを祝福したときに、彼を「泉のほとりの実を結ぶ若木。その枝は、かきねを越えるであろう。……永久の丘の賜物にまさる」（創世49：22、26）と呼んで、そのことを予言した。

モーセはヨセフの支族に、彼らの土地となるアメリカは天と地の尊い賜に恵まれ、民は「これをもって国々の民をことごとく突き倒し、地のはてにまで及ぶ」（申命33：13－17参照）と約束した。これらは聖書からの予言だが、私たちの持っているモルモン経には最初にアメリカへ来たジェレド人のことが記録されている。彼らは、バベルの塔の建築中に言語が乱されたときに、アメリカへやって来た。

ノアがそうであったように、ジェレドの民も海を渡る船の建造を教えられた。準備が完了すると、彼らは数隻の船に分乗して「主なる神の御守りに身を任せて……海の上へ漂って出た。」（イテル6：4）

また、こう記述されている。「とうとう約束の地へ着いたが、上陸するとすぐに地にひれ伏し、主の前にへりくだって主が自分たちに授けたもうた恵みが豊なことを感じて喜びの涙を流した。」（イテル6：12）

そして、キリスト生誕よりさかのぼること600年前、エルサレムの住民に悔改めを叫んだリーハイという名の予言者が、主に命じられて家族を引き連れ荒野に出た。彼は民の悪事と目前に迫ったエルサレムの崩壊を証したため、あざけられ軽蔑され、民に命をねらわれたのである。リーハイは主の教えに従って家族と他の人々を連れて出発し、荒野をしばらく行ってから、船を造り約束の地へ向かえと教えられた。記録によれば、「かようにして、私たちは海上に何日も何日も暮した後、ついに約束の地に着き、陸に上って天幕を張りその地を約束の地と名づけた。」（Ⅰニーファイ18：23）

リーハイの息子のニーファイは荒野で、約束の地アメリカの将来に関連して起こることを示現に見た。彼はこう言っている。「眺めると、私の兄弟たちの子孫と大海をへだてている異邦人の中に一人の男が見えた。すると神の

『みたま』が降りたもうてこの男に霊感を与えたもうたから、この男は大海を渡って約束の地にいる私の兄弟たちの子孫のところへ行った。」（Ⅰニーファイ13：12）

御存知のように、この男はクリストファー・コロンブスのことで、彼は神のみたまに促されて海を渡り、アメリカを再発見して神の目的に寄与した。

コロンブス自身が、スペインの聖職者たちに宛てた手紙の中でこのように書いている。「主が私の心を開き、私を海に送り出し、この偉業に対する情熱を与えて下さった。私の冒険を耳にした人は、馬鹿げたことだと言って私を嘲笑した。しかし、聖霊が私に霊感を与えて下さったことを、いったいだれが疑うことができようか。（マーク・E・ピーターセン*The Great Prologue*「大いなる序章」より）

航海を始めて何週間たっても陸らしいものは何も見えず、船に暴動が起きた。引き返すことを望んだピンタ号とニナ号の船長にコロンブスは、あと2日のうちに陸地が見えなかったらそのときは帰ろうと約束した。彼はそれから船室にこもり、彼自身の言葉によれば、「心をこめて主に祈った。」そして実にその翌日、10月12日に、彼らは陸を目にしたのである。

ニーファイは示現に、宗教的迫害を逃れてやって来る清教徒をも見た。多くの国々から人々がアメリカに来ることや、彼らの戦争や争いも見た。ニーファイが言うには、彼らは主の前にへりくだり、「神の御力は約束の地にきた異邦人と共にあり、また神の怒りはこれと戦うために寄り集った者たちすべての上に下ったのが見えた。私ニーファイには、束縛の身から免れてきた異邦人たちが神の御力によってほかのすべての国民の手から救い出されるのが見えた。」（Ⅰニーファイ13：18、19）

こうしてアメリカの植民地は独立をかちえ、合衆国政府を立てた。それはひとえに、この地を神聖な将来に備えようとする神の仲立ちがあったからである。

その点で、このいわゆる新世界の政府樹立に賛同し、この大きな事業を果たした立派な人々に対して、私たちは賞賛を贈るものである。この偉大な事業が神の霊感によって行なわれたことは、主の次の言葉から明らかである。「すなわち、わが彼らに制定を許したる、また正しく且つ神聖なる原則によりてあらゆる人々の権利と保護とを守るために維持すべき人民の律法と憲法とに従いて、汝らの上に権威を持つ者に切に願い、かくして、人ことごとくわれより与えられたる良心に従い、未来に関する教義と原理に適う行を為し、かくて審判の日に至りて自己の罪を負うべきなり。故に、何人も相互に束縛するは正しきにあらず。われ実にこの目的のためにわが挙げたる賢き人々の手によりてこの国の憲法を制定せしめ、流血によりてこの国を贖えり。」（教義と聖約101：77－80）

この国の憲法をおいてほかに、地上にこれほど長く存続した憲法はない。私たちは現代の問題に対する解答を過去のこの文書に求め、ほとんどは見出すことができる。それは過去においても現在においても奇跡である。ワシントンもマジソンもそう見ていた。合衆国憲法は主の導きの下で書かれた霊感の書である。憲法の父と呼ばれているジェームズ・マジソンはその霊感を認め、「国々の行く末を統制する力を持ち、この前途ある共和国を著しく祝福して来られた全能者の守護と導き」を信頼した。（ピーターセン、「序章」よりp.95）

合衆国憲法は、この国に自由が満ちあふれ神の福音が栄えるよう、神によって生み出されたと私たちは信じている。ジョセフ・スミスは次のように述べた。「合衆国憲法は輝かしい旗印である。それは神の知恵のうちに起草された、天の軍旗である。」（ピーターセン「序章」p.75）

合衆国憲法はことに信教の自由を保障している。信教の自由が宗教改革を持続、繁栄させるからである。かつてすぐれた宗教改革者たちの多くが、自分たちの運動は聖書の基本的なキリスト教教義を改めて主張することだと述べたが、自分たちには教会の儀式を行なったり、イエス・キリストのもともとの教会を再建する権威はないと認めていた。ルターは、「キリスト教は、それを保護すべき人々の間に、もはや存在しない」と言った。

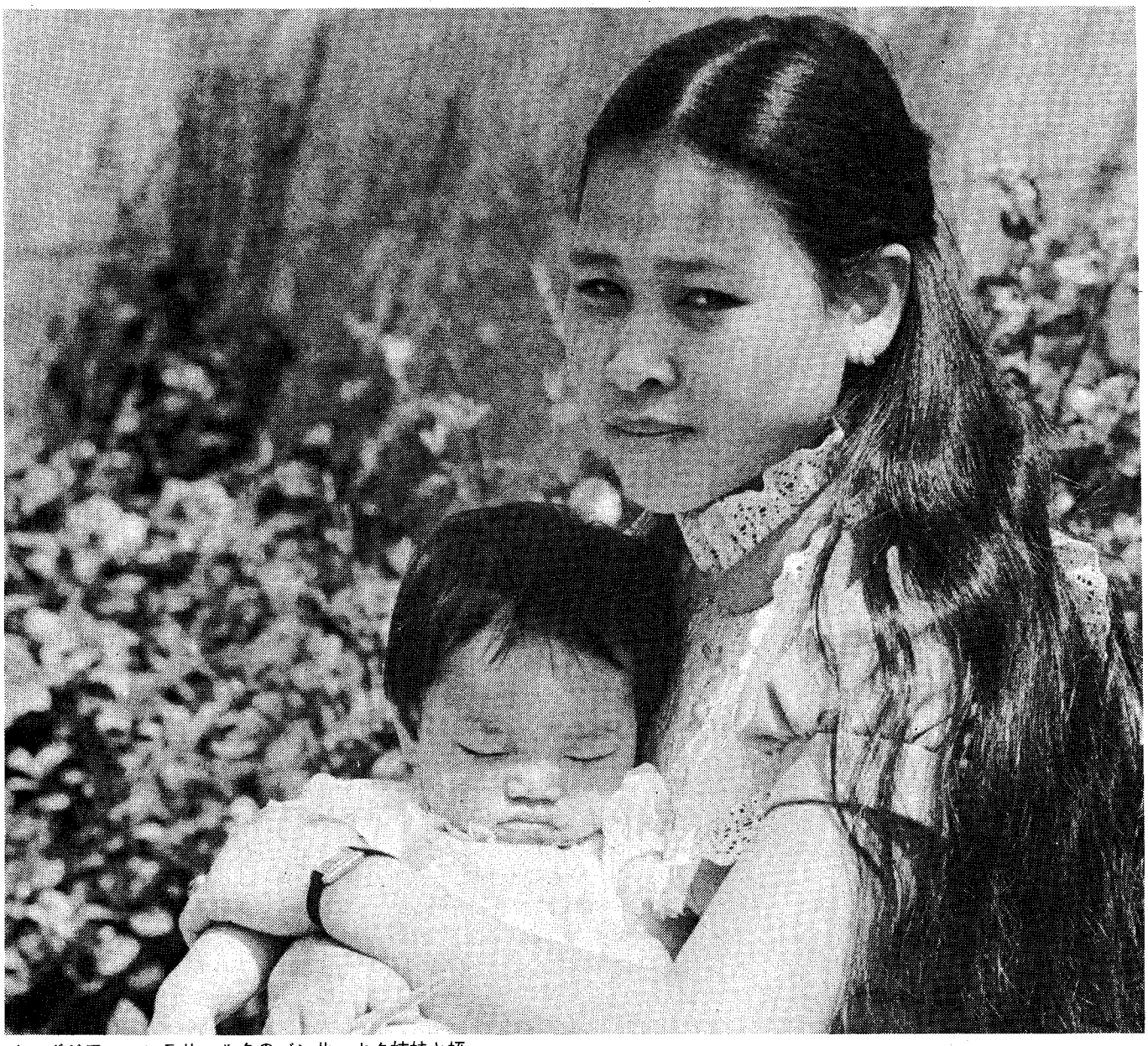
アメリカ・バプテスト教会の創始者ロジャー・ウイリアムズは言った。「地上には正式にたてられた教会もなければ、教会の儀式を執り行なう資格者もいない」。（リグランド・リチャーズ「奇しきみわざ」p.24参照）

私たちは、自由も、この地に引き続き栄えた宗教改革運動も、イエス・キリストの完き福音が天より回復されるための準備として起きたことを信じている。その回復は、1820年代予言者ジョセフ・スミスを通してアメリカ合衆国に始まった。彼は主から選ばれ、天使から直接示現を与えられて、古代アメリカ大陸の住民やこの民に対する神の計らいを記す真正な記録が載せられた書物を受け取った。またこの末の時代にイエス・キリストの教会を再建するための神権と権能を受けた。

この回復のときに、父なる神と御子イエス・キリストが、ちょうど昔の神権時代の指導者たちに現われたと同じように、実際にジョセフ・スミスに現われたもうた。御二方はジョセフ・スミスに、初期の教会に存在したと同じ原則、儀式、組織をもつキリストの教会が地上に再建されるであろうと宣言された。背教が起こったのはこの初期の教会からである。これは記録の上でも明らかなことであり、だれも言い破ることはできない。このキリスト教会の回復は、救い主イエス・キリストの誕生と死と復活以来、人類史上最大の出来事であった。

今述べた古代アメリカ大陸の住民は、主の来臨や主の生涯とその使命、それに続く死と復活について予言する旧世界でのしるしや奇跡と同じものを見聞きした。そして救い主の誕生と死と復活について知っていた。これは重要なことである。

主がこの古代のアメリカ人たちについて言われた言葉が、新約聖書に記されている。「わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わ



カンボジア、コンテリールクのバンサ・ホク姉妹と姪

たしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼となるであろう。」（ヨハネ10：16）

モルモン経の中には、キリストが復活してから「他の羊」を訪ねられたことが美しく描写されている。そのときに、他の羊たちは主のみ声を聞き、主の手足にある釘跡を示されて、主を認めた。主が『われはこの群にあらざるほかの羊を有つ。……』とわれが言いたるそのほかの羊とはすなわち汝らのことなり」（IIIニーファイ15：21）と言われたことから、彼らがその「他の羊」であることがわかる。主は彼らに福音を説かれた。また聖餐の儀式を定め、弟子たちを聖任された。さらに主は弟子たちに聖霊を授け、病人を癒し、幼な子を祝福する権能を与えられた。また、彼らのために御父に祈られた。

このように記されている。「私たちが見たり聞いたりしたイエスの御父に対するお祈りは、人の目がまだ見ず、耳がまだ聞かないほど偉大で驚嘆すべきものである。……イエスが、私たちのために御父に祈って居りたもうのを聞いたとき、私たちの心に満ちた喜びは人間の想像ができないものである。」（IIIニーファイ17：16、17）

さて、ではアメリカの将来はどうであろうか。自由という素晴らしい祝福、永遠のまことの福音が回復された他、そしてこの大いなる出来事が起きるまでに万事に備えと神の導きのあったことなど、どうすれば私たちの感謝を示すことができるだろうか。ジェレドの民が初めてこの国に連れて来られたときの主の言葉を、私たちは忘れてはならない。「ごらん、この土地はすぐれた土地であるからこの土地を所有する民はこの地の神に事えさえすれば、奴隷とならず自由を奪われず天下のどのような国からもすべて支配を受けるこ

とがない。この地の神とは私たちがすでに記した言葉によって明らかに示されるイエス・キリストである。」（イテル2：12）

今からかなり前に出された*Beacon Lights of History*「アメリカの発見に関する歴史のかがり火」という本の中でこの本の著者であるジョン・ロード博士は、アメリカの大いなる将来について語った後、次のように述べている。「世界は、荒廃の跡もとどめずに壊滅し去るあまたの強国を見てきた。いったい古代世界の何が、今に残っているだろうか。ニネベ、バビロン、テベソ、ツロ、そしてカルタゴ、これら富と権力の大中心都市の何が残存しているだろうか。偉大なローマも、法律と文字と修復された彫像以外に何が残っているだろうか。……あらゆる時代の古今東西の歴史の流れを端的に表現したらどうなるであろうか。それは勤勉、富裕、堕落、腐敗、滅亡という流れである。しかし現在のところ、アメリカには古代国家に見られた滅亡をくい止めている強い力がある。それは一体何であろうか。

そこでもしも果てしのない物質的成長のあとの堕落と滅亡がアメリカの将来だとしたら、コロンブスは単に物質文明の経験の場をもうひとつ人類に提供したにすぎない。ニューヨークを第2のカルタゴに、ボストンを第2のアテネ、フィラデルフィアを第2のアンテオケ、ワシントンを第2のローマにすれば、ただ古代の歴史を繰り返すだけである。

はたしてアメリカには、過去の歴史を繰り返し、それらをしのぎ、豊かに強大になること以上の将来はないのだろうか。アメリカには、それにまさる崇高な使命はないのだろうか。もしもアメリカに宣言し、成就すべき偉大な使命があるならば、アメリカは新しい力を結集しそれを前面に押し出していかなければならない。その力は物質ではない。そしてその力のみがアメリカと世界とを救うのだ。……アメリカの真の栄光は、古代文明国家が誇ったものとはまったく違ったものでなければならない。それは古代国家に欠けていたもの、すなわち道徳と霊性である。」

私たちは皆アメリカの将来の担い手である。私たちの務めは、過去に学んで、神の戒めを守りながら正しく前進することである。これに関連して、予言者リーハイがこう述べている。「それであるから、この土地は主のつれて来たもう者が所有するために神聖にされている。もしもこの人々が、主の与えたもう命令に従って主に仕えるならば、この土地はかれらにとって自由の国となり、従ってここに住む者は決して自由を奪われることがないであろう。もしも自由を奪われるならば、それはかれらの罪悪によるのであって、罪悪がはびこる時地は悪人のためにのろわれるが、義しい者たちにとってはいつまでも祝福をされるからである。」（IIニーファイ1：7）

日々、神に導きを祈るとき、私たちは皆、ジョージ・ワシントンが祖国のために祈ったと同じ祈りを神に捧げるべきである。

「この良き地を受継ぎとして我らに与えたまいし全能の神よ、我らへりくだり汝に祈り奉る。我ら常に、汝が恵みを感謝し、汝がみむねを喜び行なう民とならんことを。

誉れある産業と健全なる学問と純潔なる作法をもて、この国を祝福したまえ。

暴力と不和と混乱から、また高慢と尊大とあらゆる邪道から我らを救いたまえ。

我らが自由を守り、あまたの血族、国語の民からなる民衆を統一の国民となしたまえ。

汝が名により政治の権限を委ねる者たちに知恵のみたま下り、もって家庭に平和と正義宿り、汝が律法への従順により我ら、汝が賛美を地の国々に知らしめさせたまえ。

繁栄のときに我らが胸を感謝で満たし、苦悩のときに汝への信頼が砕かれるをよみしたもうな。

これら皆を主なるイエス・キリストにより願い奉る。アーメン。」

私たちは教会員に、法を守る善良、忠実な市民となるよう勧めている。「われらは、王、大統領、統治者、長官に従うべきを信じ、また法律を守り、敬い、支うべきを信ず。」（信仰箇条第12条）

また、善良、正直、賢明にして尊敬に足る政治の代表者を熱心に捜し求め、支持することも私たちの義務である。今から60年近くも前の1917年4月の総大会で、アンソニー・W・アイビンス長老が宗教の自由と合衆国憲法について話した後、聖徒たちに向けて語った言葉を、ここに繰り返してみたい。

「今日この場で、こう申し上げても許されることと思う。すなわち、宗教的に、また市民生活の上で人に与えられている自由は、主によって打破されるべく樹立されたのではなく、自由が諸々の川から地の果てまで及び、神の王国が人の間に確立され、みこころが天に行なわれるように地にも行なわれるまで、この地に存続すべく樹立されたのである。父親としての神の宇宙に満ちる愛と、人類の兄弟愛が認識され、この世の王国が、平和の君として統治されるキリストの王国となるときまで。」（大会報告1917年4月〔英文〕p.54－55）

証申し上げる。末日聖徒イエス・キリスト教会はこの地上の神の王国であり、主が予言者であるスペンサー・W・キンボール大管長を通じて導いておられる。私は皆様方に申し上げたい。いずれの地に住まうとも、すべての人々は福音の律法と儀式とに従うことによって、義の実現に努力していただきたい。活発な教会員であれば、その律法と儀式とが何であるかがわかるであろう。そうでない人にはぜひお勧めしたい。完き福音が、儀式を執行する権威をもって回復され、現在この地上に存在することを、自分で調べ、このことに関する知識と、証を得て下さるように。

私たちが福音の教えを受け入れ、守ることによってのみ、神がアメリカのために計画された将来は実現され、世界が平和と兄弟愛によって統合されるのである。それがすみやかに実現することを、イエス・キリストのみ名により、へりくだって祈るものである。アーメン。

家族の交流

家族の交流がしっくりいかないときは、各々が自ら改めるべき点を見出し、反省しなければならない。

十二使徒評議員会会員
マーピン・J・アシュトン

数週間前のこと、途方に暮れたひとりの父親からこのように尋ねられた。「だれとでも心が通じえると思うんですが、どうして自分の息子となるとだめなんでしょうね。」

「息子さんと心が通じ合えないというのはどういうことですか」と聞くと、彼はこう言った。

「何かを言おうとすると、きまって息子は私を避けるんです。」

そのときに心を開いて話し合い、またその後もたびたびよく話をしたことで、私は結論めいたものを得た。それは家族との関係がうまくいかなくなる主な原因のひとつが、人と人との交流の基本を知らないことにあるということであった。家族との交流は、時間と手段と才能を使い、また伝え、分かち合い、理解する忍耐が必要なため、犠牲であると思われることがある。交流の時間を、一方的な話や指図や依頼やおどしに使うことも多い。しかしいかなる場合も、家族の交流を押しつけや命令に用い、相手を当惑させてはならない。

家族の交流を効果的に行なうには、感情と情報の交換を図らなければならない。みんなが時間を取ってそこに加わることが必要なことを知っていたら、家族は皆自由に、思うままに話ができるであろう。家族の話合いでは、意見の相違は無視せず、穏やかに比較考察し、評価することである。たいていの場合、個人の意見よりも、良い関係が続くことの方がもっと大切である。良い会話の基本は、話をやりとりするときの礼儀と相手を尊重する気持である。意義の深い交流ができるようになると、愛と信頼と関心を伝えられるようになる。家族が相手にしてくれないからと、交流の努力をあきらめてしまいがちであるが、そのようなときにも、あきらめず対話をするように努める。互いに意見が合わなくても不愉快にならない方法を身につけることは、何と大切なことだろうか。決定の前に話合いの時間を持つことは、何と大切なことだろうか。ジョーンズ・スチーブンスはこう語っている。「心が聴くまでは頭は何も聞かない。そして、心が今日知ったことを頭は明日理解する。」

家族の交流を円滑にするために、7つの提案をしたいと思う。

1．喜んで犠牲を払う　聴く時間を喜んで取る人になること。家族を思いやり、自分のことに優先して家族のことを考える能力と自己訓練を積むこと。そのとき、つまり心を開き合うとき、教えるときのために備えをしておくことである。上の空で相手に臨むことなく、家族の心をつかむ術を学びなさい。「ママは何でもしてくれるけど、時間だけは割いてくれない」と娘に言われるのは、悲しいことである。

「今忙しいのがわからないの。邪魔しないで」と、私たちはすぐに口ぐせのように言う。「あっちへ行って。邪魔しないで」という態度を示すとき、家族はどこにも行かず、黙って殻に閉じ込もるだろう。いつでも家族のみんなをそれぞれに受け入れ、進んで話をし、心を打ち明け、何でも尋ねてもらうようにしなければならない。

食事の支度をしているときやデートのあと、悲しい気持ちのとき、勝利に有頂天のとき、がっかりしたとき、あるいは打明け話をするときなど、場合場合に応じて犠牲を払い、交流を図らなければならない。私たちは自分の都合はあとまわしにして、家族の交流の基礎を固めるために進んで時間を割かなければならない。家族の交流がしっくりいかないときは、各々が自ら改めるべき点を見出し、反省することである。

お互いに対する本当の愛と理解を知るためには、交流が単に言葉のやりとりではないことを認識すべきである。それは情緒と感情と気づかいとを賢明に交わらせること、すなわち全人格の表われなのである。「あなたがたのうちで、知恵があり物わかりのよい人は、だれであるか。その人は、知恵にかなう柔和な行いをしていることを、よい生活によって示すがよい。」(ヤコブ3：13)

2．環境を整える　場所や周囲の状態や境環は、快く、秘密が保て、しかも会話の通じる所でなければならない。効果的な交流は林の中や山の上、海辺、家庭の夕べ、散歩の途中、車の中、休暇中、病院への見舞い、通学途

中、スポーツの観戦中などにできよう。環境が整ったら、相手に関心を集中し、上手に受け答えをする。

何ヵ月も何年も経つと、試合のスコアはとうの昔に忘れてしまう。しかし、父親とふたりきりで過ごした記憶は鮮やかに生きていることであろう。10歳の少女が、ソルトレークからプロボへの行き帰りずっと父親と一緒の車だったと、上気しながら話してくれたことが、なかなか忘れられない。私が「ラジオはついていたの」と聞くと、その子は「ううん、パパとずっとお話したの」と答えてくれた。父親が自分だけを相手にしてくれたことが忘れられないのである。話の必要が生じたときには、いつでもその場で環境を整えよう。相手の用意があるときには、いつでもすぐに環境を整えよう。

3．喜んで聞く　聴くということはただ黙っていることではない。聴くのは沈黙以上のことである。聴くには集中力を要する。だれかが話したがっているときが聴くときであり、問題を持っているときが相談にのるときである。私たちの耳と心と力と気持が求められ、関心や愛を注ぐことが大切なときこそ、聴くときである。

慰めになる質問をして、その後ごく自然な態度で熱心に話に耳を傾ける能力を、私たちは皆伸ばさなければならない。聴くことは愛することと堅く結びついている。次の言葉は何と力強いことか。「愛する兄弟たちよ。このことを知っておきなさい。人はすべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである。人の怒りは、神の義を全うするものではないからである。」（ヤコブ1：19、20）

4．気持を率直に話す　考えていることや感じていることを口にするのは何と大切なことだろうか。家族がお互いの立場に立って話し合えることはいかに大切なことだろう。私たちは自分が相手をどう思っているか相手の想像にまかせがちである。そのために誤解も多い。相手が自分をどう思っているか、また何をしてほしいと考えているかをもし知っていたら、もっと都合よくいくことが多い。

十二使徒評議員会会員　リグランド・リチャーズ長老

ジョン・パウエルは経験をこうつづっている。「父の死んだ日のことだった。……狭い病院の一室で、私は父を両腕に支えていた。そのとき父は頭を垂れた。私は父の頭を静かに枕の上にのせると、……母に言った。……

『もうだめだ。母さん、父さんは死んだよ。』　私は母にびっくりした。父を亡くして最初の言葉がなぜこのようだったのか、どう考えてもわからない。母はこう言った。『ああ、父さんはあなたがとっても自慢だったの。あなたを本当に愛してたのよ。』

どうしたわけか……私はその言葉から自分にとても大切なものを教わっ

た。それはまるで電光のようで、それまで味わったことのない驚きであった。しかし、父が死んでから生前よりももっと父を知ったような気持で、心には鋭い痛みをはっきりと覚えた。

その後、医師が死を確認する間、私は部屋の片隅の壁にもたれ、ひっそりと泣いていた。看護婦がそばに来て、やさしく肩を抱き、慰めてくれた。私は涙でひとことも話せなかった。私は彼女にこう言いたかった。

『父が死んだから泣いてるんじゃないんです。父さんはぼくが自慢だと一度も言ってくれなかったから。ぼくを愛しているって一度も言ってくれなかったから。言わなくてもわかってくれるだろうって父さんは思っていたんだ。ぼくが本当に大切だ、いつもぼくのことを思っているって、わかっているだろうって。でも、父さんは一度だってぼくに言ってくれなかったんだ。』」（*The Secret of Staying in Love*「愛に宿る力」1974年p.68）

神が御自身の気持を、「これはわたしの愛する子」、さらに力強く「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」（マタイ3：17）と言われたのは、いかに意味深長なことか。

親子がお互いに聞き合い、話し合うことが交流の一番の手段となることは多い。思いやりと愛のこもった言葉を、感受性の強い子供たちにかけるのである。声だけでなく語調や感情やまなざしや身振りなど、全人格をもって十分に気持を交わせるようにしなければならない。私たちは娘や妻とうまく対話のできないときに、「彼女のどこが悪いのだろう」と考えがちであるが、そんなときは「私の何がよくないのだろう」と考えるべきである。ほほえみ、肩をぽんと叩く気安さ、暖かい握手も大切である。沈黙は溝を作る。張りつめた沈黙は不快感を与え、心を傷つけ、多くの場合悪い結果を招く。

神は、交流を持続させることの価値をよく知っておられ、私たちに絶えず祈るよう忠告された。神はまた、私たちが効果的な交わりを保つときに、それに答えることも約束された。

5．裁くことは避ける　批判的にならず、理解しようと努めること。人の意見や考えに、あきれた様子や不安、不快な様子を示してはならない。冷淡に応じることなく、自由意志をあくまで尊重した上で助言しなさい。肯定的かつ楽観的な態度で働きかけること。希望はあり、引き返す道はある。理解をさらに深めることができる。

自分で決定させるために、共通の基盤を広げなさい。「わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」（ヨハネ8：11）という言葉は、それが語られた昔と同様、今も有効かつ寛大な言葉である。

自分の価値観を人に押しつけてはならない。人格を巻きこまず、同時に偏見や感情を抜きにして問題を扱うことができれば、家族の交流はまず成功である。家族のだれかが適当でない決定をしたとき、その決定に不賛成だが、本人に選択の権利があるし、彼を愛していることに何の変わりもないといった態度を取る忍耐強さと力とを、私たちは持っているだろうか。

間違いを指摘し、裁断を下すのは簡単である。たいていの人には、真心からのほめ言葉や賛辞の方がずっと難しい。親が子供に間違いをわびるには、本当の大人らしさが要求される。誠意のある謝罪によって、息子や娘が父母や兄弟姉妹に対して非常に温かい気持を感じることがよくある。「わたしたちは皆、多くのあやまちを犯すものである。もし、言葉の上であやまちのない人があれば、そういう人は、全身をも制御することのできる完全な人である。」（ヤコブ3：2）

6．秘密を守る　ささいな質問や意見にも、信頼されるにふさわしい態度を取りなさい。小さなことで信頼されれば、重大な質問や大切な話を打ち明けてもらえるものである。胸深くたたんでいることを信頼して打ち明けられたら、問題を大切に扱いなさい。信頼をかちえること。信頼し、安心して話せる相手のいる人は本当に幸せである。家族は世間の人よりも信頼できないと言う人があるだろうか。

7．忍耐する　私たちはあることについて、自分ではできないのに、人にばかりして欲しいと望むことがある。家族の交流における忍耐とは、人にして欲しいと望むことを自分が行なうことである。自分に対する忍耐は、人に対して忍耐することによって培われる。

「よく忍び、真面目にして慎むべし。忍耐、信仰、希望、慈悲などの諸徳を守るべし。」（教義と聖約6：19）

忍耐強く交流に努めるには勇気がいる。私たちは誇りと希望と愛を、常日頃真心こめて表現する必要がある。努力するのに疲れ果てた、もうあきらめた、という様子を見せてはならない。

家族をだれかの面前で正すことは避けなさい。穏やかな一対一の対話による方が、物わかりがずっとよいものである。家族との関係の中で、穏やかな忍耐は貴重な徳である。

家族が互いに無視し合うとき、そこに交流はない。正しい相互交流の基本を理解しないときは、話をしてもそっぽを向かれ、うとまれ、反抗される。

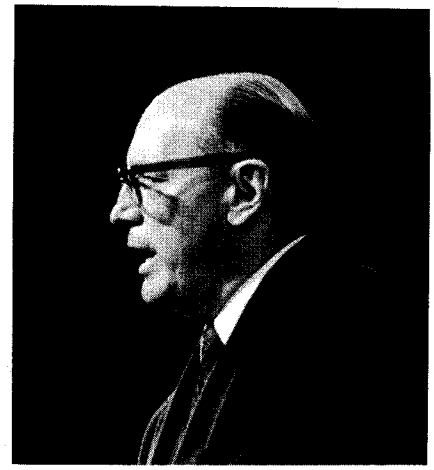
家族は教会の基本単位であるので、私たちはみな進歩改善に努めるべきである。家族を永遠のものとし、その一致をはかるには、常に適切な交流を図ることが大切である。

私たちが進んで犠牲を払い、喜んで耳を傾け、気持を言葉に表わし、裁きを避け、信頼を守り、忍耐することにより、家庭での交流がさらによく図れるよう天父の助けを祈るものである。「正しい言葉はいかに力のあるものか。」（ヨブ6：25）確かに、適切なとき適切な人に伝える適切な言葉は、非常に力あるものである。

恵み深く思いやりのある天父は、家族の交流をもっと効果的に図る必要のある私たち、またそれを願う私たちを助けて下さる。私たちがそのために努力し、犠牲を払うならば、家族の交流は一致を生む助けとなるであろう。このことが達成できるよう、主イエス・キリストのみ名によりお祈り申し上げる。アーメン。

☆　　☆

「わたしもその中にいるのである」



主はみ名によって集まれる者たちに主の力と影響力を約束された。

十二使徒評議員会補助
ジョセフ・B・ワースリン

何世紀も前に、イエスは、ガリラヤの海の岸辺カペナウムで、弟子たちに教えを授けておられたとき、このように言われた。「ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである」。（マタイ18：20）人類の救い主のみ名に従い、み名によって集まり、礼拝し、また生活のあらゆる面で自分を支える啓発のみたまを享受することは、末日聖徒の大きな特権である。

昨年の10月以来、妻と私は中部ヨーロッパ、スカンジナビア、フィンランドを管理する11名の伝道部長、8名のステーキ部長との仕事で、何千キロにも及ぶ旅をしてきた。私たちはその旅で、イエスが共におられるという事実を身をもって、証している1,500名余りの宣教師たちに出会った。私は彼らから、故郷の人々に自分たちの大きな愛と感謝を伝えてくれるようにと頼まれた。彼らが証を述べるのを聞けば、皆さんも真理の福音に対する熱意と愛に文字通り身が震うことであろう。

ヨーロッパに駐留する軍人教会員のことも忘れてはならない。彼らのほとんどにとって、イエス・キリストの福音はすべてである。彼らは、救い主のみ名によって「ふたりまたは三人が集まっている所に」存在するみたまを受けている。福音が彼らに与えるものは信じがたいほどに大きく、素晴らしい。彼ら青年たちとその家族は教会の誉れであり、感化する力である。彼らは最も熱心な教会員たちである。彼らは何千ドルもの献金をし、計り知れない時間と努力をヨーロッパの教会堂の建築に捧げている。ほとんどの人は教会堂が完成して献堂されるまでに帰国するか転任するので、教会堂をその目で見ることはないというのに。しかしやはり、ヨーロッパの王国のみ業の一番の栄光は、福音に従い、福音を人々に伝えるためたゆまず喜んで働く大勢の忠実な教会員である。

私心なく働く聖徒たちが自らの身に負った責任は、40年間バプテスト派の牧師をしてきたジェームズ・コービルに予言者ジョセフ・スミスを通して与えられた次の啓示に述べられるとおりである。コービル兄弟は、末日聖徒になる第一歩は教義と聖約に記されているように、この福音を心から受け入れることであると諭された。主のみ言葉はこうである。「そもそも、これわが福音なり。すなわち、悔改めと水のバプテスマ、而して後火と聖霊によるバプテスマあり。すなわちすべての事を示しまた王国の平和なることを教うるかの『慰め主』のバプテスマ来らん。」（教義と聖約39：6）

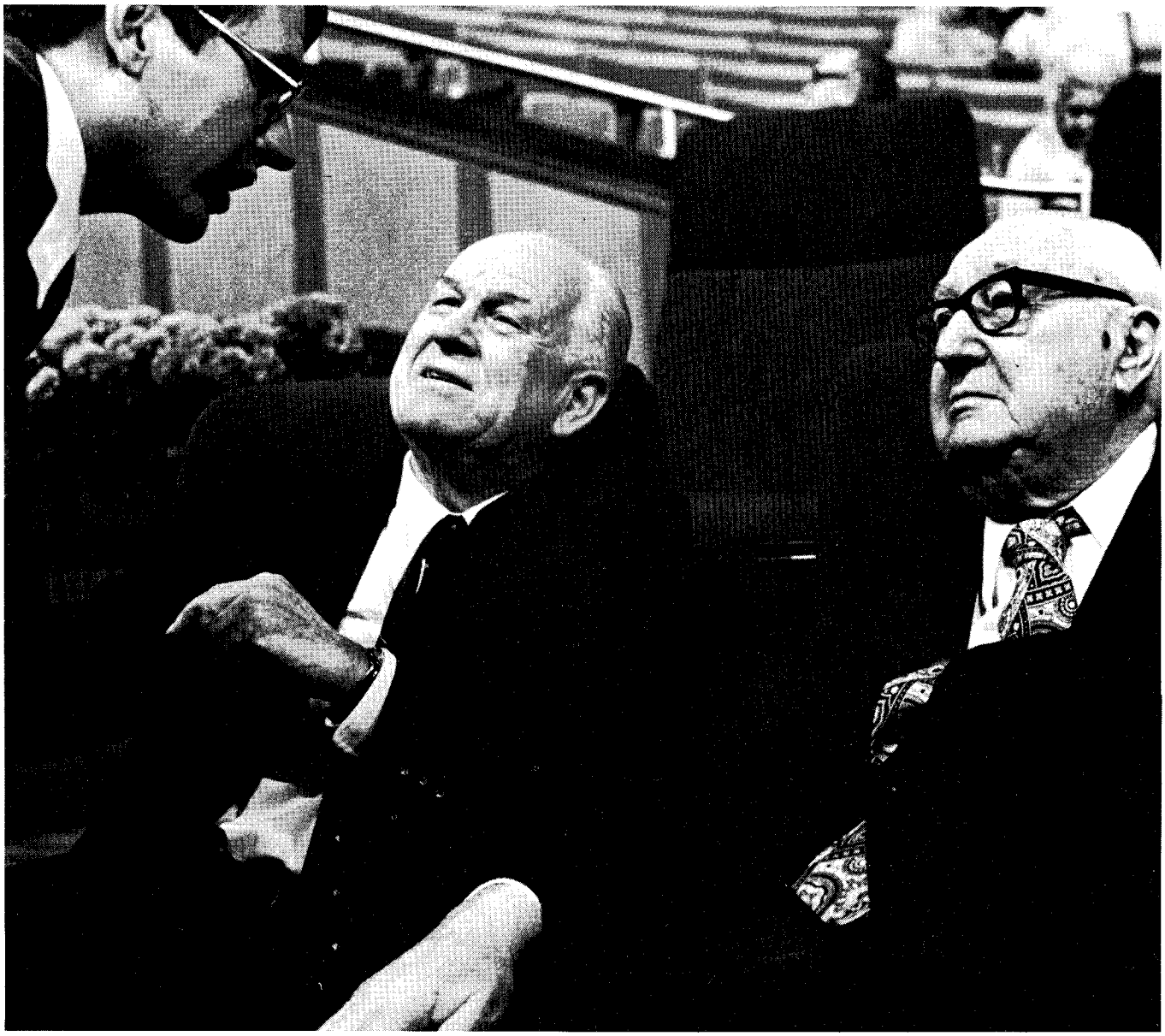
福音を受け入れた後に携わる務めがコービル兄弟に告げられた。これはまた、現代の私たちに与えられている不変の義務でもある。主はこう言われた。「もし汝かく為さば、われ汝の為に一つの更に大いなる事業を備えたり。汝はわが末の世に遣りたるわが完全なる福音と、イスラエルの家に属するわが民を回復せんがために発したる誓約とを宣ぶるべし。」（教義と聖約39：11）また、コービル兄弟にこのような約束も与えられた。「その時汝にその権能留まらん。而して汝は大いなる信仰を与えられ、われは汝と共にありて先立ち行くべし。」（教義と聖約39：12）この神権時代に教会が回復されてからわずか9ヵ月後にジェームズ・コービル兄弟に下されたこの言葉は、そのまま現在の私たちにもあてはまる。これはまた、救い主がこの地上でみ業に携わっておられたときに約束されたことの力強い繰返しにほかならない。ふたりか3人が主のみ名によって集まる所には主もいるという約束は、私たち一人一人に対する限りない愛を証した素晴らしい宣言であり、教会の礼拝や個人の生活や家族の親しい輪の中にも主がおられるという保証である。

イエスは家族の親しい輪の中にもおられるということに関連して、あるふたりの姉妹のことを話したい。ふたりは、私の友人で、遠く離れた別々のステーキ部に住んでいる。ひとりの姉妹は教会外で結婚した。彼女は夫を改宗させて神殿で結び固めを受けたいと願っていた。彼女は非常に愛らしく霊的な人であった。しかし夫は、みたまを感じることなく、福音の真理を理解せず、家族の宗教生活にも全く影響を及ぼしていない。それにもかかわらず、この姉妹は家庭の中で素晴らしい模範

を示し、子供たちを連れて一緒に教会の責任に励んでいた。彼女と子供たちは教会を怠けたり無関心になっても当然と思われるのに、かえってイエスの次の教えを身をもって示しているのである。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」（マタイ５：16）

もうひとりの姉妹は忠実な末日聖徒と結婚した。ところが、何年か経つうちに彼らは、家族の活動に主を迎えるよう、イエスのみ名によって共に礼拝しようという初めの頃の決意をついつい忘れてしまった。教会や教会の教える原則を感謝する気持は変わらなかったが、自分たちが今や「ききめがなくなった」地の塩だという現実を忘れていたのである（マタイ５：13参照）。

あるとき、この姉妹は先の姉妹と子供の話をしていて、彼女にこう言った。「教会員でない人と結婚しておられるのに、お宅のお子さんたちはどうしてこんなに良い子で教会にも活発なんでしょう。」　最初の姉妹はこう答えた。「一緒に日曜学校や聖餐会に連れて来ますから。」　すると２番目の姉妹が驚いて、「私も行かせてますわ」と言った。すると初めの姉妹は力を入れて言った。「いいえ、私は子供を連れて行くんですよ。」　この姉妹の場合が、イエスが言われたように、「ふたりまた



十二使徒評議員会補助アルマ・ソニ長老(右)と友人

は三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいる」という例である。それは家庭でもどこでも、私たちのだれもが経験できることなのである。

またあるとき、イエスは、「わたしは戸の外に立って、たたいている」(黙示3：20)と言われた。私たちが戸をあけてイエスを自分の生活に招き入れない限り、イエスは私たちの所に来られない。それが単なる知識にとどまっている場合もあろう。しかしそれでは力とならない。知識は人を動かさない。理論も同様である。人間の行動の源はもともと知性ではなく感情にあり、また行為が感情を呼び起こすのである。このことが教義と聖約の次の聖句に述べられている。「誰にでも汝らを受け入るる者には、われもまたそこにあらん。そは、われ汝らの前に先立ちて行くべければなり。われは汝らの右に在り、また左に在らん。わが『みたま』は汝らの心の中に在り、またわが天使らは汝らを囲みて懐き支えん。」(教義と聖約84：88)

救い主を受け入れ、そのみこころを行なうときにだけ、「正しいことをしているという気持」が得られる。戒めを破れば、またそれなりの「気持」になるのである。息子や娘の不従順や罪を恥じて、首をうなだれ胸を痛める両親の姿は、それを説明している。彼らは途方に暮れて言う。「良い子に育てたつもりだ。いつも良い家族だった。こんなことをするように教えはしなかった！」と。子供たちはすべてを頭で学んでいた。しかし学んだ概念は必ずしも良いことをしようという希望や意志を生じない。無知だけが罪や悲しむべき行動を引き起こすわけではないのである。良くない行ないの底にはたいてい、希望の欠如と、強い動機や正しい影響力の不在、そして概念の実践不足が見られる。善を行ない、「義に飢えかわいている」(マタイ5：6)人は、善を行なおうという気持を自分の行動によって生かすのである。福音の第一原則と表裏一体をなしているのが、「望みの原則」、すなわち神と隣人を「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして」(マタイ22：37)愛そうという望みである。その高邁な目標を達するためには、神のみこころにかなった働きをなし、イエスを生活に招き入れる霊的な気風を育てなければならない。そして「神の栄光をまごころもて仰ぎみて」(教義と聖約4：5)生活するのである。

教会の立派な伝道部長、軍人、宣教師、熱心な教会員の生活には、その確信がはっきりと見られる。救い主がふたりか3人かそれ以上の中におられるということについて、私の言わんとすることが聖書の中にある。パウロが霊の完成がどうして得られるかを雄弁に述べたくだりを見てみよう。「なぜなら、わたしたちの福音があなたがたに伝えられたとき、それは言葉だけによらず、力と聖霊と強い確信とによったからである。わたしたちが、あなたがたの間で、みんなのためにどんなことをしたか、あなたがたの知っているとおりである。

そしてあなたがたは、多くの患難の中で、聖霊による喜びをもって御言を受けいれ、わたしたちと主とにならう者となり……。」(Ⅰテサロニケ1：5、6)

もう一度強調するために、これら霊感による書物が私たち一人一人に語っていることを述べてみたい。パウロは、自分がテサロニケの人々に話したことが無駄にならないで大きな関心をもって開かれ、教えたことが彼らに正しい生活をしたいという強い望みを引き起こしたことを喜んだ。彼は聖きみたまが、教えられたことが真実であるという確信を彼らに与えたと、力説している。そして、何のためらいもなく、自分の生活も教えが真実であることの証拠であると悟った。パウロは、福音のメッセージが多くの苦難にもかかわらず喜びと幸せをもって受け入れられたことを喜んだ。そして最後に、何にもまさって素晴らしいと思われるのは、彼らが隣人一人一人に対して力強い模範となっていたこと、そして彼らから主のみ言葉がはるか遠い国々の人々にまで及んでいたことである。パウロは、人々が旅の先々で立派な善行や神への信仰を話してくれると言って彼らを賞賛した。

神の律法と戒めを学び、守ることによって教会員が信仰と義にかなった生活と霊感を常に得てきたことを、しばしば思い起こすとよいであろう。

聖徒たちが新しい土地に入植したときのことである。どの位の期間もつ家を建てればよいかが問題になった。それまではよくあちらこちらと移り住んだからである。予言者ジョセフ・スミスにそのことを尋ねると、彼は「永遠にいるつもりで建てなさい」と答えた。教会の指導者は今も、一時たりとも神聖な使命を見失うことはない。彼らは私たちのために、またあとに続く人々のために、永遠に備えて建設しているのである。

教会の歴史を注意深くひもとくと、だれもが学ぶべき大切な教訓がある。私たちの教会の成功は、教会員の神に対する信仰と、決して手っ取り早い道を取らず、イエスとイエスの神聖な教えを積極的に私たちの中に取り入れてきた、熱意ある力強い指導者の霊感による指導に負っているのである。

イエス・キリストの福音が真理であること、偉大な予言者スペンサー・W・キンボール大管長の人を動かす指導力、力あり魅力ある世の模範となる彼の生活、教会幹部の兄弟たちの神聖な召し、そして世界中の数多い末日聖徒の善良な生活に見られる力と気高さ、それらを証することは、実に私の特権である。

私たちがふたりか3人で集まる所はどこにでも、私たちの義しさゆえに救い主がその中に訪れて下さるよう、イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

☆　　☆

4つの事柄

聖徒への提案。

十二使徒評議員会補助
ロバート・L・シンプソン

愛する兄弟姉妹、この福音は真実であり、私たちはそのことをよく知っている。私たちはこの大会で何とうるわしい霊感を感じたことか。また語られたメッセージも非常に素晴らしく、真理にかなったものであった。

私はまず最初に、皆さんに南太平洋の人々からの愛をお伝えしたい。皆さんがかの地から愛を持ち帰ろうとしたら、旅行鞄がふたつ余分にいるであろう。皆さんにその愛をお伝えし、南太平洋の人々が愛と信仰に満ちあふれていることを、是非知っていただきたいと思う。

私たちは主イエス・キリストの弟子として今ここに会している。私たちは主を愛しており、主のみ業に力を尽くしたいと思っている。また天父はその子供たちを、現在生きている者、まだこの世に生まれていない者、すでにこの世を去った者すべてを愛しておられる。私たちは自ら決意することによってその仕事の一端を担えるのである。

伝道の書第5章4節、5節にこう記されている。

「あなたは神に誓いをなすとき、それを果すことを延ばしてはならない。神は愚かな者を喜ばれないからである。あなたの誓ったことを必ず果せ。

あなたが誓いをして、それを果さないよりは、むしろ誓いをしないほうがよい。」(伝道5：4、5)

この教会のすべての会員は、バプテスマの水をくぐって主に従うとき、神聖な誓いをその身に負う。そして7日の間の1日、安息日に、私たちは聖餐にあずかってその聖なる誓いと約束を新たにしようと、共に集う。

私は、教会員である私たちが4つの大切な目標を心に深く留めるよう提案したいと思う。これら4つの目標はいずれも人に関連したものである。主の教会は人を本位とした教会だからである。主の究極の目的、すなわち「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり」(モーセ1：39)という目的を達する手伝いをしたいと思うならば、私たちは救い主がなさったように、何よりもまず人に心を向けなければならない。

人が永遠の生命を受けるには、神権が必要である。神権の働きが必要であり、神権の原則に従うことが要求される。主の教会の会員であると自称する人々の生活の原則は以下の4つである。

第1　自分自身と身近な自分の家族に主のみ前に立つ用意をさせる責任を負う。

第2　兄弟を守る者となり、教会員を助ける責任を負う。

第3　最も貴重な賜である福音をまだ知らない人々にわかつ責任を負う。

第4　すでに死んでいる自分の親族に永遠の祝福にあずかる機会を与える責任を負う。

自分自身の福利が第一番にあがっていることに注意していただきたい。なぜなら、あとの3つの大切な責任は、力と確信があって初めて達成できるからである。世間には「盲人が盲人を手引きする」たぐいが実に多い。私たちの知識の源は光と真理である。それは絶えざる啓示の美しい器に盛られた神のみ言葉である。真理と光は、まず実際に自分が受けてこそ周囲に伝えることができるのである。救い主は霊的に恵まれない人々に生ける水を与えられた。私たちもそれができるように努めるべきである。私たちの役割は、やりとりするだけの本売りではない。本の中にある教えを正しく伝えるために、自分自身をも差し出すのである。真理は、それを伝える人の証とその人自身のふさわしさを両の翼にしたときに、最も広く行きわたるのである。

主はペテロに、「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」(ルカ22：32)と言われた。このときに主に答えたペテロの返事が、また重要である。「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。(ルカ22：33)

神のみ業と栄光は、私たちの備えに始まる。主は「皆各々その義務を覚れ」(教義と聖約107：99)と勧告しておられるが、それには「まず神の国を求めなさい」(マタイ6：33参照)とあるように、献身が要求される。そして「わたしに従ってきなさい」(マタイ19：21)とあるように、ただひとつの道を歩むことが要求されるのである。

喜んで自分の生活を改善しようとい

う心意気を示すまことの改宗があってこそ、私たちはこの召しに応える用意と、人々を力づける用意のできた確固たる地盤に立つ者となれるのである。

2番目の責任は、兄弟の守り手、姉妹の守り手となって、失われた羊を捜し、互いに王国の教義を教え合うことである。

ホームティーチングが、教会員の生活に最も密着した、神より霊感によって定められた方法であることを皆さんに証したい。また、この強力な神権の活動と肩を並べるのが、扶助協会の家庭訪問活動である。パウロはテモテ人に書簡を送ったときに、ホームティーチングと家庭訪問の精神をよく把握していた。「そして、あなたが多くの証人の前でわたしから聞いたことを、さらにほかの者たちにも教えることのできるような忠実な人々に、ゆだねなさい。」（IIテモテ2：2）

さらに主からの直接のみ言葉がある。「またわれ汝らに一つの誡命を与う。すなわち汝ら互いにこの王国の教義を教ゆべし。」（教義と聖約88：77）これは単なる提案ではない。「われ汝らに一つの誡命を与う」と言われているのである。

昔ホームティーチングについて良い話を聞いたことがある。話し手がスコットランドの格子じまの肩掛けを手にして、一色一色を教会のそれぞれのプログラムと仮定して下さいと言った。彼はこう質問した。「ホームティーチングはどの色ですか。」その答えはこうであった。「ホームティーチングは一色ではありません。この織物の全体がそうなのです。」正しく行なうならば、ホームティーチングは各家族の様々な必要に応じて、教会のあらゆる面を包み込むものである。私はこの考え方が好きである。私たちはホームティーチングを「もうひとつの別のプログラム」と考えがちだが、ホームティーチングは教会の全活動と同じだけの長く広い範囲をカバーできるし、またそうあるべきである。

さて、現在地上に住んでいる40億の人々はすべて、天父にとって非常に大切である。これらの人々には皆さんや私のもっているものが必要なのである。彼らが聞く機会を得、望むらくはそれを受け入れるようにすることが、私たちのひとつの重要な責任である。私たちはそれによって天父のみ業と栄光を成就するのを、すなわちすべての子供たちをこの輪の中に連れ来るのを手伝うのである。

そこで3番目の目標、私たちが自らに引き受けた誓いでもあるこの目標に40億の人々も関係しているのである。それには、今用意ができている人々を捜し、教え続けることである。この教えは整然としてふさわしい誠実な方法でこそ与えることができ、人を導き真理の福音を無条件で受け入れさせることが可能なのである。救い主が「全世界に出て行って」（マルコ16：15）と言われた通り、約23,000のつわものが今出て立っているのである。真理の福音はおよそ55ヵ国に伝えられているが、予言者はこの努力もまだ十分ではないと言う。教会の25歳以下の独身者は宣教師になり得るとみなし、残りの人々は彼らを教え、励まし、できるだけ自力で出られるように資金作りを援助すべきである。

キンボール大管長は、最近の南太平洋地域大会の会場のひとつとなったフィージーにおいて、数十名のインド人改宗者に会い感慨深げであった。大管長はインド人の開拓者である彼らに、将来ふさわしい時にインド人民に福音がもたらされる可能性を見たのである。

シドニーで行なわれた日曜日午前の大会の模様は、開会から一時間、国営テレビ放送でオーストラリア全土何千何万の家庭に実況中継された。話は素晴らしく、合唱は平素の力以上のできばえであった。シドニー・オペラハウスを会場にできたことはまさに奇跡であり、それには劇的な裏話がある。ひとことで言えば、シドニー・オペラハウスは通常2、3年前から予約があり、現実に今までキャンセルは1件もないという歴史を持っていた。ところが大会まで2ヵ月足らずの時に、どういう理由からか、キャンセルが1件あった。この理由は主以外に知るよしもない。それがちょうど、大会の予定されていた週末だったのである。主は不思議な方法で働き、奇跡を行なわれる。またテレビの放映は、オペラハウスを会場に獲得できたのが大いに力あってのことであった。

オーケストラの教会員でない人々のテレビを見ての感想を聞いていただきたい。

ある人はこう言った。「さあ、どう言ったらわかってもらえるかな。家族のつながりと、それにお互いの愛についてよく理解できましたね。ちょっと古臭いけど。でもぼくは霊的に理解できましたよ。」

またある人は言っている。「私はモルモンではありませんが、それでも教会のプログラムに深い知恵があるって感じました。」

「大管長の説教で、お宅の教会について、どんな本を読むよりもたくさんのことがわかりました。合唱はきれいだったし、話もよかった。たいしたものです。」

「今朝の話は、実に霊的でした。終りまで聞けないのが残念です。私も教会に行かなくてはならないので失礼します。」

またこのような手紙を書いてきた人もいる。「何でも結構ですから本を送って下さい。是非、読みたいと思います。でも訪問は今のところ控えて下さい。」

こう言う人もいた。「霊的なテレビ放送を見て、神様と隣人への愛で胸がいっぱいになりました。」

そして最後にある人はこう言っている。「天国が想像できるものなら、この素晴らしい人たちが教えて下さったものがそれです。是非救われたいと、今思っています。答えが本当にここにあるんです。よろしくお願いします。」

全世界が助けを求めている。この意義ある前進に加わることは素晴らしいことではないだろうか。天にも喜びがあるに違いない。私たちは宣教師になることを決意している。これを理解していない人は、耳を傾けていない人である。

天父の子供の中で私たちの援助が必要な最も大勢の人々は、すでに死んで

いる私たちの親族である。バプテスマを受けた私たち教会員が自分の先祖から顔をそむけようものなら、それこそ、みんなが熱心に求めている終極の祝福を必ずや逃してしまうことだろう。予言者ジョセフ・スミスはそのことを教義と聖約の128章に記録している。彼は1824年、主のみたまと導きの下で、教会員にこう書き送った。「さてわが親愛なる兄弟姉妹よ。われ断言す、こは死者と生者とに関する原理原則にして、われらの救いに関して決して軽々に見過すべからざるものなり。それ死にたる者の救いは必要にして、死にたる者の救わるることはわれらの救いにとりて必須なることなり。パウロわれらの先祖に就きて言いたる如くわれらなくば彼らは完うせらるることなし。すなわちわれらの死にたる者なくば、われらもまた完くなる能わず。（教義と聖約128：15）

私たちは昇栄を求めている。それは完全を意味しており、そのために進む方向は明らかにされている。私たちは死者なくして完全にはなれない。彼らを捜し出し、彼ら自身で行なえないことを私たちが代わってしてあげなければならない。

私たちの多くは、今はコンピューターやマイクロフィルムが自分に代わって全部してくれるという誤った考えを抱いている。これらの近代設備は大切で有益であるが、人が自分でしなければならないことを怠るなら、機械は人のために救いを用意してはくれない。昇栄に近道はないのである。

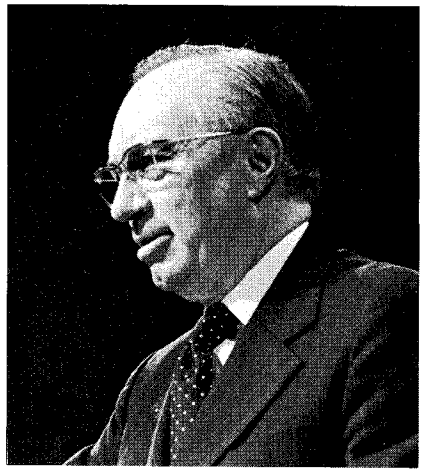
兄弟姉妹、先祖を救いなさい。救わなければならない。それが私たちの務めである。福音をあらゆる国民、種族、国語の民に携え行きなさい。それは義務であり、務めである。兄弟の守り手となって、互いに教え合いなさい。それは義務であり、私たちの務めである。自分自身のなすべきことをよく知り、小さな弱点を克服することによって、家族を救いなさい。そうしなければならない。それは私たちの務めである。

それはすべてここで、私や皆さんから、天父と交わした約束と誓いから始まるのである。主はこう言われた。

「あなたは神に誓いをなすとき、それを果たすことを延ばしてはならない。神は愚かな者を喜ばれないからである。あなたの誓ったことを必ず果せ。」（伝道5：4）

これが、私たちすべてのための私の願いであり祈りである。イエス・キリストのみ名によって。アーメン。

「正直な人は神、最高の傑作」



はびこり広がる不正は、政治や社会、そして私たち個人の尊厳をも脅かしている。

十二使徒評議員会会員
ゴードン・B・ヒンクレー

主に霊感をたまわるままに、最も卑近な事柄とされていることについて話をしたい。しかし私は、その事柄こそが福音の本質に属すると信じるものである。これから話す人格の特質なしには、社会は骨組みもろとも醜悪と混乱のなかに崩壊してしまうことであろう。その人格の特質とは正直である。

私は匿名の手紙を何通となく受け取るが、その中に興味を引くものがあった。封筒には20ドル紙幣と簡単な手紙が入っていた。それによると、手紙の主は何年か前に私の家に来てベルを鳴らしかかったが、返事がないので、ドアを押してみると鍵がかかっておらず、そのまま中に入ってそこらを歩きまわった。そして戸棚の上に20ドル紙幣を見つけ、失敬して帰ったという。それから何年もの間、彼は良心に責められ、今そのお金を返したというわけであった。

封筒には私のお金を使っていた期間の利息は入っていなかったが、心打たれるその手紙を読みながら、25年の間、絶えず良心に責めさいなまれたその高利を思った。彼には、償いをするまで平安がなかったのである。

先日、地方新聞にそれと似た話が載っていた。ユタ州宛に200ドルを同封した無記名の手紙が届いた話である。手紙にはこう書いてあった。「同封のお金は、私が州職員として働いていた間に使った封筒、紙、切手などの代金です。」

あちこちで少つずつ失敬した人が、その不正に使ったものをみんなで返すとしたら、役所や会社や店にどんなにお金が殺到することだろうか。

スーパーの紙袋や店で買ったネクタイやブラウスの値段には、どれも万引きされる分を上乗せしてある。

ある人々は立派な名前を何とも安く売り渡している。それで思い出すのが、5ドルにもならない品物を取って逮捕され、人々の話題にのぼった有名人の例である。彼が有罪の判決を受けたかどうかは知らないが、小さな悪事で公衆に糾弾されたことは確かである。少なくともある程度、彼はそれまでの善行や彼にできる善行の多くを、その愚かな行ないで台無しにしたのである。

私たちは飛行機に乗るたびに、身体検査や所持品検査をされ、それに要する費用をも旅費として払っている。その金額は総計何百万ドルにもなるが、それは皆、不法に恐喝を働く一握りの人が恐ろしい嘘をつくためである。

創世紀に注目すべき言葉が載っている。「アブラハムはソドムの王に言った、『天地の主なるいと高き神、主に手をあげて、わたしは誓います。わたしは糸一本でも、くつひも一本でも、あなたのものは何も受けません。』(創世14：22、23)

幸いにも、正直の原則を守る人たちがまだいる。最近私は日本の大阪から名古屋まで列車に乗った。駅に友人たちが出迎えてくれて、妻がうれしさのあまり、車内にハンドバッグを置き忘れてしまった。私たちは東京駅に電話をして事の次第を説明した。それから3時間ほどして列車が終着駅に着くと、国鉄からハンドバッグがあったという電話がきた。私たちは東京に寄らなかったので、1ヵ月余りしてから、ソルトレーク・シティーの自宅にハンドバッグが届いた。それが戻ってきたとき、中身はそっくりそのままであった。

しかし残念なことには、このような経験はだんだんまれになってきている。

かつては人々の道徳、倫理の標準によって制御されていたことも、現在は法律で取締ろうとする。こうして法令はふえ、行政官庁の出費はますます拡大し、拘置所は増設の一途をたどるが、不正の奔流はかさを増しながら流れ続ける。

無論、嘘をつくという行為は目新しいものではない。人類の歴史が始まった頃から存在した。「主はカインに言われた、『弟アベルは、どこにいますか』。カインは答えた、『知りません。わたしが弟の番人でしょうか』。」(創世4：9)

古代イスラエルの予言者マラキは問うた。「人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と、ささげ物をもってである。

あなたがたは、のろいをもって、の

ろわれる。あなたがたすべての国民は、わたしの物を盗んでいるからである。」（マラキ3：8、9）

ペンテコステの奇跡があった後でさえ、教会に入った人たちの間に詐欺があった。改宗者が自分たちの土地を売り、代金を持ってきて使徒たちの足元に置いた。

「ところが、アナニヤという人とその妻サッピラとは共に資産を売ったが、共謀して、その代金をごまかし、一部だけを持ってきて、使徒たちの足もとに置いた。

そこで、ペテロが言った、『アナニヤよ、どうしてあなたは、自分の心をサタンに奪われて、聖霊を欺き、地所の代金をごまかしたのか。

売らずに残しておけば、あなたのものであり、売ってしまっても、あなたの自由になったはずではないか。どうして、こんなことをする気になったのか。あなたは人を欺いたのではなくて、神を欺いたのだ』。

アナニヤはこの言葉を聞いているうちに、倒れて息が絶えた。……

三時間ばかりたってから、たまたま彼の妻が、この出来事を知らずに、はいってきた。

そこで、ペテロが彼女にむかって言った、『あの地所は、これこれの値段で売ったのか。そのとおりか』。彼女は『そうです、その値段です』と答えた。

ペテロは言った、『あなたがたふたりが、心を合わせて主の御霊を試みるとは、何事であるか。……』

すると女は、たちまち彼の足もとに倒れて、息が絶えた。」（使徒5：1－10）

今の時代に、不正を見破られた人がアナニヤやサッピラのように死ぬことはない。しかしその人の内部の何かが死ぬ。良心の息はふさがれ、品性はしぼみ、自尊心は消え、清廉さは死ぬ。

シナイ山で、主の指は石板に律法を記した。「あなたは盗んではならない」（出エジプト20：15）と。またその命令に3つの戒めが伴った。そのいずれの戒めを破ることも不正直である。「あなたは姦淫してはならない。」「あなたは隣人について偽証してはならない。」

アイダホ州プリーストリバーのハイジ・ヘラルド姉妹とジュリー・ヘラルド姉妹

「あなたは隣人の家をむさぼってはならない。」(出エジプト20：14、16、17)不正直なくして、姦淫はあっただろうか。俗に罪悪は「ごまかし」とされている。確かにごまかしであろう。罪悪は徳を失わせ、誠実と聖なる約束と、また自尊心と、真実をごまかし奪うのである。罪悪は詐欺でもある。最も悪質な不正である。それは人間関係の最も神聖なものを裏切ることとなり、神と人との間に交わされた誓約と約束を拒否することにもなるからである。またそれは、あさましい背信であり、神の律法を投げ捨てる利己主義であり、その他の不正同様に、悲嘆と痛恨を生み、伴侶の胸を痛め、子を裏切る行為である。

「あなたは偽証してはならない。」偽証も不正である。先日のテレビに、27年も刑務所暮らしをした婦人の話があった。他の人々の偽証によって有罪とされたことが、最近それらの証人の告白によって明らかとなったのである。これは極端な例だとは思うが、皆さんは嘘の証言によって評判を落とされたり、心を傷つけられたり、生涯を台無しにされたりした例を知らないだろうか。

今私は、第2次世界大戦の当事国がどんな策略を弄したかがこまごまとつづられた歴史書を読んでいる。ウィンストン・チャーチルの言葉を載せた「ボディーガード・オブ・ライズ」(「虚言の護衛」)という本であるが、そこにチャーチルのこういう言葉があった。「戦時には、真実は非常に貴重で、虚言の護衛が常時必要なほどである。」(*The Second World War* 「第2次世界大戦」第5巻より)　この本には、敵味方の様々な計略が暴露されている。それを読みながら、戦争は悪魔のひとり舞台で、一番大きな犠牲は真理であるとの観を強くした。

不幸なことだが、嘘やペテンは平和協定が署名された後もずっと横行し、戦時中にその訓練を受けた人が、平和なときにも腕前の披露に励んでいる。そして、悪は毒性を増しつつ風土病のように広がっているのである。

わが国が抜き差しならない状態に落ち込んで大統領が世界に真実を語らなくなったとき、国の信用は地に落ち、いまだ回復は得られていない。2世紀前に、己れの生涯と未来とこの国を建てるという神聖な栄誉を誓った建国の父たちの態度に比べ、近年私たちが目撃する行為は、何と陰うつであろうか。かの独立宣言後、その署名者たちの多くは貧しい生活のうちに死んでしまったが、彼らの永遠の栄光にかけても、だれもその神聖な栄誉を汚さなかったと言いたい。

「あなたはむさぼってはならない。」むさぼり、すなわち不正、人を毒するこの悪は、世間の不幸の大半を生み出しているのではないだろうか。強欲な人々は何という安っぽい値で自分の人生を売り渡していることか。私は最近、大商社の役員を主人公にした小説を読んだ。社長の死に伴い、先任の副社長が社長の椅子をねらう物語である。ストーリーは、尊敬される有能な人間が、人より先になろうとする欲のために原則を曲げ、ついには自分をすっかり駄目にし、会社までも巻き添えにして壊滅させるという非常に興味をそそる話である。これはフィクションだが、実業界や政界、また各種団体のこれまでの歴史は、人を顧みず不正に昇進しようとして他人や結局は自分をも滅ぼしてしまうどん欲な人々の話であふれている。

才能ある善良な人々が、自分の品性を目の前でろうに変わる飾り物や、ただまとわりつく悪夢と交換している。

欺まんやごまかしや不正のない男女は、なんと類まれな宝玉、なんと貴重な宝石であろうか。この数週間、合衆国や日本やヨーロッパの新聞の一面に、贈収賄として悲しむべき不正の記事が載った。摘発されたその事件に関連して、ベンジャミン・フランクリンの言葉が思い出される。「小さな漏れが巨船を沈める。」　また、アンドリュー・ジャクソンの言葉には、「自由社会は国民の美徳なくして立ち行かない」と。

箴言の作者はこう語った。

「主の憎まれるものが六つある、否、その心に、忌みきらわれるものが七つある。

すなわち、高ぶる目、偽りを言う舌、罪なき人の血を流す手。

悪しき計りごとをめぐらす心、すみやかに悪に走る足、

偽りをのべる証人、また兄弟のうちに争いをおこす人がこれである。」(箴言6：16－19)

昔、イギリスの詩人が述べた思いは、今もなお真実である。「正直な人は神最高の傑作」(アレクサンダー・ポープ　*An Essay on Man Epistle* Ⅲ、*line 248*)正直のあるところ、他の美徳がそれに伴う。

末日聖徒イエス・キリスト教会の信仰箇条の最後には、それが確認されている。「われらは、正直、真実、貞潔、慈善、高徳なるべきこと、およびすべての人が善を行うべきを信ず。」

私たちは、寄せられた信頼に応えるためには、正直でなければならず、誠実でなければならず、また徳高くなければならない。かつては、教会員の間で、人の言葉は証文のように堅かった。私たちは先人よりも信頼において、正直において、劣ってはいないだろうか。

私の声を聞いている人で、この原則を守っている方々に申し上げたい。主はあなたを祝福されるであろう。あなたには、だれにも恥じることなく、真理の陽光の中を胸を張って歩む尊い権利がある。他方、もしも改善の必要があるならば、今私たちが立っているところから始めなさい。神よりの力を求めるならば、神は必ず助けて下さる。そうすれば、私たちの心には平安があるであろう。また、私たちと生活を共にし、交わる人々は祝福されるであろう。

私たちのめざして働く大義が真実であること、そして神なる御父が生きておられること、いつか私たちはみな神のみ前で申し開きをすること、またその愛する御子、私たちの救い主、贖い主、真理の主である御方が実在しておられることを皆さんに証する。イエス・キリストのみ名により、アーメン。

「人は自分のまいたものを」

神の不変の律法に従うことにより大いなる祝福がもたらされる。

十二使徒評議員会会員
L・トム・ペリー

「主モーセに語りて言いたまわく、見よ、われこの天とこの地に就きて汝に啓示す。わが語るところの言を記すべし。われは始めなり終りなり、全能の神なり。わが生みたる独子によりてこれらのものを創りたり。然り、始めにわれ天と汝の立つところの地を創りたり。」（モーセ2：1）

私は聖典を学び、地上の住居を創造する備えとしてなしたもうた主の驚くべきみ業について考えるとき、主が創造の過程で用いておられる体系と秩序に感動を覚え、主の創造の業に対して畏敬の念を抱かざるを得ない。まず皆さんと共に、この創造の過程を簡単に復習してみたいと思う。

初めに、主は人類が住む地上の住居を創造するに当ってどのような条件と取り組まねばならないかを調べられた。その条件は決して安易ではなかった。

主がご覧になると、地は形なく空しかった。そして深い渕の面には暗黒があった。創造の過程にあって主が最初に取り組まなければならなかったことは、光をもたらすことであった。光は地上の住居を造るために必要不可欠な要素であった。主のみ業の先駆けとなる光がもたらされたことにより、初めて天と地を分けることが可能となったのである。

さて、今や地上の住居が造られたので、主は人類のために供給体系を設けられた。主は地球を創造されると、陸と海に分け、陸には青草と、種子を生じる草と、実を結ぶ果樹を置かれ、それぞれに種類に従って繁殖する自己繁殖体系を与えられた。

これら植物の成長作用を継続させるためには、地軸を傾け、地球を自転させることが必要であった。それは日照時には成長を、夜間には休息をもたらすためである。地球の自転はこのほかに、日と季節と年を記録するための時間の記録体系という恵みをもたらした。

さて、主の植物体系が活動を開始するようになったので、主はそれらをご覧になって善しとされた。次に主は動物の創造に目を向けられた。初めに主は海の魚を創造し、次いで空の鳥を創造された。また、家畜と地の獣とすべての地を這うものとを創造し、それらに種類に従って殖える能力を与えられた。

こうして地球の創造は完了し、人類の住まう場所となった。海も乾いた陸も、夜も昼も、動物も、すべては人類のために創造されたのである。供給体系はここに完成した。時の始めから最後の最後に至るまで人類に必要不可欠なすべてのものは、勤勉である限り人に供給されるのである。

主は再び創造物をご覧になって、甚だ善しとされた。すべては男と女とを創造するために備えられたのである。すべての創造の業は地上の家庭を築くために設けられたので、ふたりは今や、生活に必要なそれらのもので生計を立て、維持することが可能となった。男と女すなわち人類が必要とするすべてのものは供給されたので、初めて人は現世での行ないに責任を持つことができるようになったのである。

聖典には、主が人に次のような責任を与えられたことが記されている。「われ神、彼らを祝福して彼らに言いけるは、豊に生めよ、殖えよ、地に充ちよ、地を従わせよ、また海の魚と空の鳥と地の上に動くすべての生き物を治めよと。」（モーセ2：28）

主の自然界の創造物が活動を始めることは、明らかに定められたことであった。主が定められた自然界の法則は永遠であり不変である。人はこの自然の法則に対する理解を深めるに従って、法則に従ったときの結果を強い確信をもって知ることができるのである。

自然界の創造を終えられた後、主は人類の願いに応えて、現世の試しの期間、人は自らをどのように治めるべきかを教えられた。人はこの戒めを通して、この地上に生き長らえている間、自らの行動を治めるように求められている。戒めを守ることによってもたらされる報いは、前もってはっきりと知ることができる。反対に、神の戒めを顧みないとき罰が下されることも疑いもなく確かなことである。主は人に次のように断言しておられる。「およそ、人贈物を与えらるるにこれを受けずば何の益あらんや。見よ、彼は贈られたるものを喜ばず、また贈りし人をも喜ばざるなり。

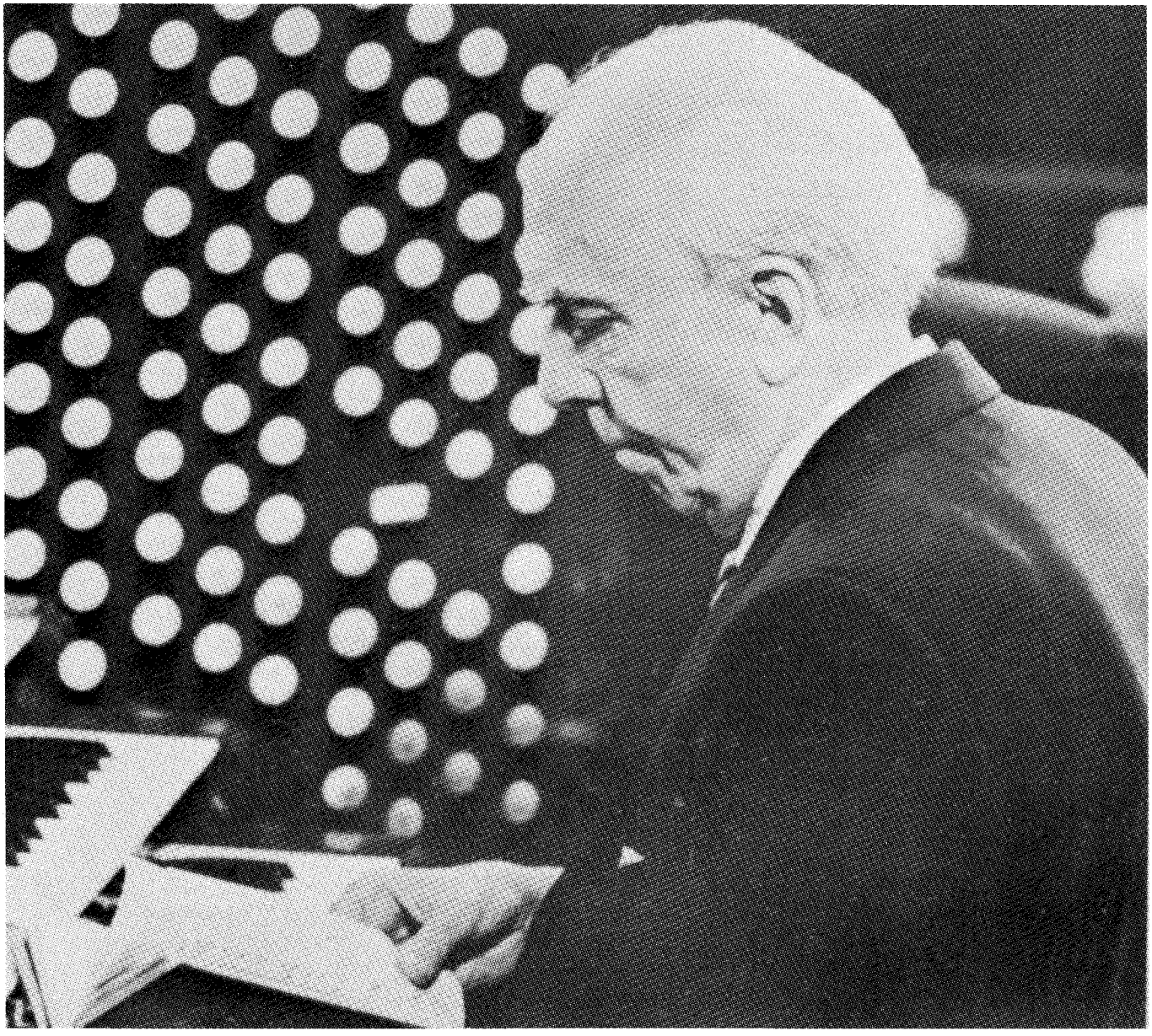
われまた誡に汝らに告ぐ。およそ律法によりて支配さるる者はまた律法によりて護られ、これによりて全くせられ聖くせらるるなり。

律法を破り律法を守らずして己れの欲するところを行わんとし、進んで罪の中に住りまた全く罪の中に住る者は、律法によりてもまた愛憐、正義、審判によりても聖くせられ得ず。さればこれらの者たちは、なお常に穢れの中に止まらざるべからず。」（教義と聖約88：33－35）

これらの聖句については、「教義と聖約注解」に次のように記されている。「神が下されたすべての律法は、私たちがそれを守ることによって守護され、全くせられ、また聖くされるという本質を持っている。もし私たちが知恵の言葉を守れば、私たちの肉体は清く保たれるであろう。また、什分の一の律法を遵守すれば、利己的でなくなり正直になるだろう。また祈りを捧げれば、聖霊との交わりをもつことができよう。すべてのことについて自らの義務を果たすように努力するなら、私たちは日一日と完全に近づいていくのである。

一方、律法に支配されることを拒み、自らの好みに律法を合わせる人は聖められない。彼らは律法に属せず、憐れみと正義と審判の及ぶ範囲内にはいない。そして、なお常に汚れの中に止まらなければならないのである。私たちは神の律法に従う努力をするときのみ、神の憐れみを要求することができる。正義の神は裁きの場において、神のみこころを行なうために払われたすべての正直な努力を考慮されるであろう。」（ハイラム・M・スミス、ジャン・M・ショダール「教義と聖約注解」p.546）

このように、主は知恵と私たちに対する大いなる愛をもって確固とした不変の、信頼に足る土台を確立されたの



アレクサンダー・シュライナー兄弟の伴奏

である。従って私たちはその土台の上に結果は私たちのふさわしさにかかっているという確信をもって、自己の生活を築くことができる。

アメリカ合衆国の初期の建設者たちは、神の律法に相反しない人間の律法が必要なことをはっきりと理解していた。そのひとり、アレクサンダー・ハミルトンは次のように述べている。「人の定めた律法も、それが神の律法に反するならば何ら正当性はない。また正当な律法であっても、その権威はすべて直接的であれ間接的であれ神の律法に起源を有しているのである。」

ジョン・アダムズは公正な政治が有する可能性について理解していた人である。彼はこう記している。「ある国家が聖書を国の唯一の書と見なし、全国民が聖書に記されている戒律に従って自らの行為を律するとしたらどうであろうか。道理上、すべての国民は節制、倹約、勤勉を義務づけられるであろう。また、隣人に対する公正、親切、仁愛と、神への敬意、愛、敬虔を義務づけられるであろう。このような国家においては、だれ一人として暴食や飲酒や肉欲で健康を損う者はいないであろう。また賭け事や良くない娯楽、その他のつまらないことに貴重な時間を浪費する者はだれもいないだろう。盗んだり偽証をしたりする者もましてや隣人から詐取する者はひとりとしていないであろう。国民は平和の中に暮らし、すべての人に好意を示すであろう。そして創造主を冒瀆したりその尊厳をはずかしめる者もひとりとしていないであろう。道理をわきまえた、しかも雄々しく誠実でなおかつ心からの敬神と献身が全国民の心を支配するであろう。このような国家こそユートピア、パラダイスである。」

地球の創造の始めから、私たちは主の計画に秩序があることを知った。何千年にわたる歴史は、神が一貫性があることを証明している。ジョン・アダムズと全く同様、確かに私たちは節制、倹約、勤勉がもたらす結果を知っている。これらが人の活動の中に見出されるとき、努力に対する報いとして富と繁栄が豊かに注がれるのである。正義と親切と仁愛は必ず平和と愛と一致を生む。暴食や飲酒、肉欲がどんな結果をもたらすかは、はっきりと予言できる。それらは必ずこの肉体を傷つけるのである。私たちはまた、弱った肉体が精神の働きにどのように影響を及ぼすかも知っている。同様に、ひとりの人の破滅は他の人々にも影響を与えるのである。盗みを働いたりうそをついたり、詐取したりすればどのような結果を招くかは明白である。そうした文字通り私たちの受継ぎを奪い取るような行為は、何の実りももたらさないことを私たちは知っている。

数日前、私は飛行機の中で、著名な教育者と通路を隔てて席を共にする機会があった。そのとき、彼は聞いたばかりの教育体験を話してくれた。

ある日行なわれたテストで、数学の教師が次のように言ったというのである。「きょうはふたつの試験を行ないます。三角関数と正直についての試験です。私は皆さんに両方共合格してほしいと思っていますが、もし失敗するとすれば三角関数の試験で失敗してほしいと思います。世の中には三角関数の試験に合格できない大勢の立派な人がいますが、正直という試験に合格できない人はひとりもいないからです。」今日、私たちの社会はいかに高潔さのもたらす祝福を必要としていることだろうか。

あらゆる健全な社会は、主の聖なる律法に基づいた、共通不変の価値をもつものを必要としている。この共通の中心的な価値をなすものは、人類の行動を支配するすべての律法の基本となる原則でなければならない。この基本的な価値体系によって統治される社会では、平和と繁栄、喜びと美、徳、達成が見られる。しかし、これらの基本的な原則を離れようと企てた社会は、文字通り破滅しているのである。

私たちは今、自分たちの社会がこの基本的な価値体系を教えるための能力に欠けていることに気づかないでいるのではないだろうか。犯罪や個人の罪、無責任、野蛮行為、仕事上の不正、不道徳、個人的な修養の足りなさ、などの増加に目を留めないでいるのではないだろうか。神の律法に基づいた共通不変の価値をもつものを積極的に保護しようとしないために、神の存在を否定する少数の急進的なグループが、私たち自身の価値体系を自由に選ぶという権利を私たちから盗んでいるのである。

「そもそも創世の以前より天に於いて定められたる一つの変らざる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり。

すなわち、われら何にても神より祝福を受くる時は、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり。」（教義と聖約130：20、21）

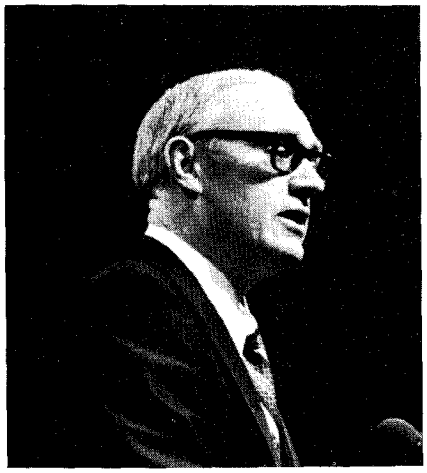
主は、私たちが祝福を受けるための道を明確に示しておられる。主は御自身の聖なる律法により、私たちの正義の度合いに応じて必ずや祝福をお与え下さるであろう。私たち人類に重くのしかかった疑問は、主のなしたもう事柄が時代の別なく全く一貫しているにもかかわらず、時代が変わるごとになぜ主の律法を試みなければならないのだろうかということである。今や私たちの立場をもう一度考えてみる時ではないだろうか。私たちが今、個人の生活や家族、社会、そして国家の中に築いているものは、神の律法にしっかりと根をおろしたものだろうか。今こそパウロの警告に再び心を留める時である。

「まちがってはいけない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを刈り取ることになる。

すなわち、自分の肉にまく者は、肉から滅びを刈り取り、霊にまく者は、霊から永遠のいのちを刈り取るであろう。

わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる。」（ガラテヤ6：7－9）

神の祝福があって私たちがまく者となり、永遠の生命を刈り取ることができるようにイエス・キリストのみ名により、へりくだりお祈り申し上げる。アーメン。



生ける予言者

生ける予言者が与えられているのは、今日私たちに、主の望んでおられることを知らせるためである。

七十人最高評議員会会員
ローレン・C・ダン

私は好奇心から、1876年4月の総大会の記録を取り出し、建国100年目の大会ではどのようなことが話されたかを調べてみた。それほど多くは語られていなかったが、百年祭の行事としては予定外の、しかも最もはなばなしかったと思われるある出来事を知った。

それは、1876年4月5日、総大会の前日のことである。アーセナルの丘にあった4つの火薬庫が爆発した。その丘は神殿の北東1.5キロ程の所にあるため、爆発した40トンもの火薬によって、石やコンクリートの破片が市全体に飛び散り、数十キロ離れた地点でも爆音が聞こえた程であったという。さながら「裁きの日」が訪れたような観があったと報告されている。翌日、総大会の開会に出席した人々は、このことをしきりに話題にしたものと思われる。

大会自体はきわめて興味深いものであった。主に、什分の一の捧げ物、神殿の業、そして犠牲について語られたようである。御存知のように、100年前、教会は設立されてわずか46年、ソルトレーク神殿もまだ完成しておらず、セント・ジョージ神殿が間もなく完成という状態であった。このような状態にあって聖徒たちは多大な努力を求められた。

その大会には、当時の大管長であったブリガム・ヤングをはじめ、後に大管長となった4人の使徒が列席していた。

その大会での説教で、最も私の目を捕えたのは、ウイルフォード・ウッドラフ長老の話であった。次のように語っている。「『主の戒めとは何か』と尋ねる人がいるかもしれない。それらは聖書やモルモン経、教義と聖約の書の中に数多く述べられている。しかも私たちにははじめから、生ける予言者が与えられていた。主は、地上で教会の諸事を取り扱う律法者や指導者、大管長なしに、その王国を放置されることはない。それは今が時満ちたる神権時代であり、神は永遠の王国たるべきひとつの王国を築き、限りなくそれを統治されるからである。」(*Journal of Discourses*　「説教集」 18:189)

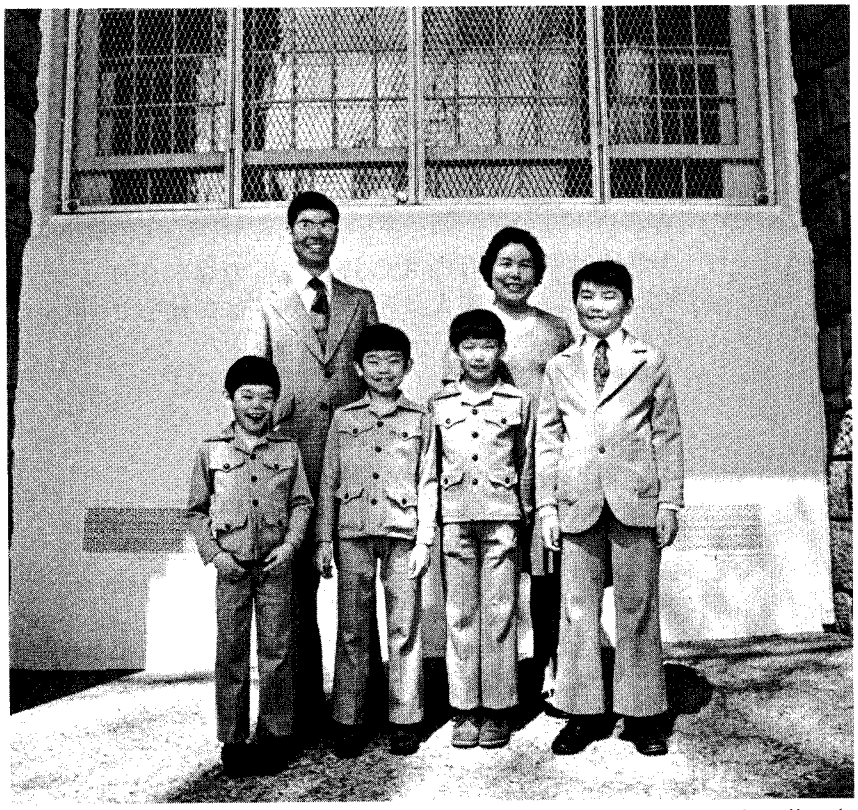
私はこれを読み、生ける予言者がいかに大切かを痛感した。そして十二使徒評議員会のオルソン・F・ホイットニー長老の言葉を思い出した。「末日聖徒は、たまたま書物に印刷されているからといって、事を行なうようなことはしない。神がユダヤ人にそうするように言われたからといって、それをするようなことはしない。また、キリストがニーファイ人に与えられた教えだからといって、それを実行するようなこともない。教会が行なっていることはすべて、この時代に神が天から命じられたことである。書物がこの教会を統轄しているのでもなければ、書物がこの教会の基となっているわけでもない。いかなる書物を積み上げたところで、聖霊の力によって霊感を受けた神の神権に取って代わることはできない。」(*Conference Report*　「大会報告」　1916年10月)

ホイットニー長老は聖典の持つ力と威厳を軽視するつもりはなかった。大局的にこれをとらえているにすぎない。ホイットニー長老はまた次のように言っている。「神の代弁者が神に代わって語り、神のみ言葉を解いているのに、それに対して書物に書かれている事を盾に論争すべきではない。このような論争をするのは、生ける予言者ではなく、死んだ文字に従っていることであり、本来の道をそれている。」

主の予言者は、今日私たちに何を告げているだろうか。全体的には、あらゆる面で私たちの歩みを早めるようにと言われている。数週間前、私たち夫婦は、キンボール大管長夫婦、タナー夫妻、それに幾人かの教会幹部夫妻と一緒に、南太平洋の地域大会に赴いた。その大会で、キンボール大管長が語られた伝道に関する言葉を少し紹介したいと思う。

サモアのアピアで、キンボール大管長は、聖徒たちが毎週家庭の夕べを行ない、バプテスマや神権の聖任、神殿結婚を行なうなら、主は民を祝福され、失われる者はほとんどいないであろうと、約束された。

ニュージーランドのハミルトンでは、全世界の人の子らに福音を宣べる新たな努力を開始するようにと、言われた。私たちはすべて隣り人に福音を宣べ伝えるよう求められている。従って、隣り人に適切な警告を与えることなしに



日本西部伝道部長に召された山田五郎兄弟一家

造り主のみもとに戻るようなことがあってはならない。

トンガでは、あらゆる地に福音を伝えることができるよう、世界の国々の門戸を開いてくださるように主に祈り求めてほしいと言われた。また、教会員が、人々の心を変え、世界の国々の門戸を開いてくださるよう、朝な夕なに主に願うならば、主はとりなして道を開いてくださり、すべての国々に福音が伝えられるようになるであろうというメッセージもあった。

オーストラリアのシドニーでは、咽喉の手術について、また、医師がどのようにして声帯の一部を残し、それによって世界の人々に福音を宣べ伝えることができるようになったかについて語った。またキンボール大管長は、引き続きこの業に邁進したいことを告げた。しかし、それをひとりですることは望んでおられない。すべての教会員が共に立ち、主の命じられたように福音を宣べ伝えるよう望んでおられるのである。

伝道活動について、キンボール大管長は、伝道に出ない、また出られないと思っている大勢の若者が、今や、よく計画し準備すれば伝道に出られることを理解したと語られた。そして必ず伝道に出るようにと付け加えられた。

オーストラリアのブリスベーンにおいて、キンボール大管長は、教会は日ごとに発展し、すべての人に福音が宣べ伝えられるようにしなければならないと語られた。

タヒチの地域大会では、伝道活動をさらに押し進め、少年たちを伝道に出すようにと力説された。

これらのメッセージは、この説教台からも幾度となく繰り返されたが、ただ予言者に従うことだけである。

大管長が公式にオーストラリアを訪問したのは、1955年のデビッド・O・マッケイ大管長の訪問に次いで2回目のことである。マッケイ大管長はブリスベーンに滞在中、伝道部長から誘いを受けて市内見物に出かけた。一行は、ブリスベーン川からチャームサイドと呼ばれている新興住宅地をながめていた。そのとき、マッケイ大管長はこう尋ねた。「この地域には宣教師がいますか。」これに対して伝道部長は、「いません」と答えた。するとマッケイ大管長はこう言った。「人々の備えができているので、宣教師を送ってください。」直ちに宣教師が送られ、驚くほどの成功を収めたのであった。今日チャームサイドは、オーストラリア・ブリスベーンステーキ部のブリスベーン第4ワード部の一部となっている。

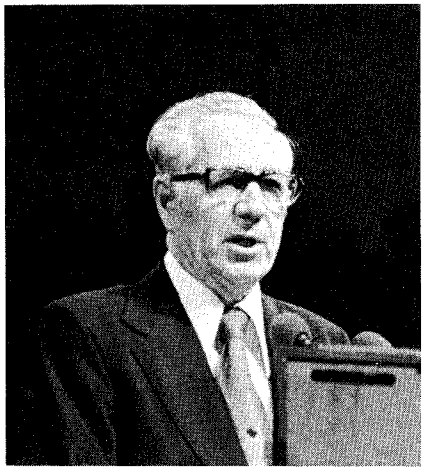
このような祝福は、生ける予言者の声に耳を傾けただけでなく、それを実行した結果もたらされたのである。祝福は予言者の言葉を聞き、それを行なったときに初めて与えられる。今日教会は予言者の言葉に従っている。キンボール大管長は、ふさわしい若者すべてに、伝道に出るよう勧めてきた。これによって、現在この神権時代の歴史上かつてなく大勢の宣教師がいる。しかし、さらに多くの宣教師が必要とされている。

キンボール大管長は教会の各家族に、教会員でない家族と友交を深め、宣教師活動を援助するように求めておられる。その結果、改宗者の数が著しく増加している。しかし、私たちの活動はまだ始まったばかりであり、なお一層の努力が求められているのである。

聖典が与えられ、イエス・キリストの福音を通して成長でき、主の属性とみこころを知ることができることを感謝している。しかし何にもまして、生ける予言者、正統なみ業の執行者がいて、今日主が私たちに望んでおられることを知らせてくださることを感謝している。この生ける予言者の指示の下に、私たちは神のみ名によって業を行なう正統な権利を与えられ、イエス・キリストの福音を現代の啓示の上に築かれた生きた力とすることができるのである。

神よ、この末日に予言者を与え、私たちを導いてくださることを感謝し奉る。

証申し上げる。スペンサー・W・キンボール大管長は今日の予言者である。父なる神は生きておられ、イエス・キリストはその御子である。私はこのことを知っている。これらの証を、イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



イエスは　どのような御方か

イエスを知るとは、イエスの戒めを守ることである。

大祝福師
エルドレッド・G・スミス

基督イエスと呼ばれる御方はどのような方か。あなたはイエスを御存知だろうか。

イエスは十字架に掛けられる前、御父に祈り、こう言われた。

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」（ヨハネ17：3）

天上の大会議において、すべての霊たちにこの地上での生活の計画と目的が説明された。その際、「主、宣いけるは、われ誰を遣わさんか。一人、『人の子』の如くに答えて言いけるは、われここに在り、われを遣わしたまえ、と。別の一人答えて言いけるは、われここに在り、われを遣わしたまえ。主宣いけるは、われ先の者を遣わさん。」（アブラハム3：27）

選ばれたのは、長子エホバであった。エホバは、すべての誉れと栄光を御父に帰すと約束されたのであった。御父は言われた。「これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」（モーセ1：39）

そしてエホバは御父の指示の下に、この地球と他の数多くの世界を創造された。モーセは示現の中で、「多くの土地を見たり。その一つ一つは陸と呼ばれ、その陸の面にはそこに住む人々」（モーセ1：29）がいるのを目にした。神はモーセに告げられた。「……わが力の言とは、わが生みたる独子のことにして恩恵と真理とに満つる者なり。われは、無数の世界を創りたり。而して、またこれらはわれ自らの目的ありて造りしなり。而して、わが子によりてこれらの世界を創りたり。わが子とは、わが生みたる独り子のことなり。」（モーセ1：32、33）

これらの創造の偉大さについて、J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は次のように語っている。「天文学者は今やかつて気にも留めなかったことに着眼している。すなわち、私たちのいる世界と同じような世界が数多くあったかもしれない、いや恐らくあったであろう、ということである。天文学者の中には、この銀河系の中には、私たちの世界と同じような世界が、恐らく時の初めからおびただしく存在していただろう、と言う者もいる。

神は独り子を通して、無数の世界を創造されたのである。主は、初心者でもしろうとでもない。幾度となくこの業を行なわれたのである。

私たちの住むこの銀河系宇宙を考えてみても、時の始めより恐らく現在に至るまで百万にのぼる世界が創造されている。それに何百万とも1兆とも知れぬ銀河系宇宙の数を乗じ、その数を考えてみるならば、私たちが崇拝する御方がどのような御方であるかがさらによくわかる。」（J・ルーベン・クラーク・ジュニア、*Behold the Lamb of God*「神の子羊を見よ p. 16、17）

実に主は、創造の技術に関して初心者でもしろうとでもない。「無数の世界」を造られたのである。

そして、主は時の絶頂に、文字通り父なる神の御子、「独り子」として、処女マリヤからお生まれになった。

主は御自分がだれであるかを語られた。地上におられる間、御自分が神の御子であることを繰り返し語っている。12歳のとき、イエスは「宮の中」で「教師たち」と話をしていた。そのとき、イエスを捜していた母親の叱責に、イエスはこう答えた。「わたしが自分の父の家にいるはずのことを、ご存じなかったのですか。」（ルカ2：49）

イエスがヨハネからバプテスマを受けたとき、また変貌の山で、天から「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」という声があった。（マタイ3：17；17：5）

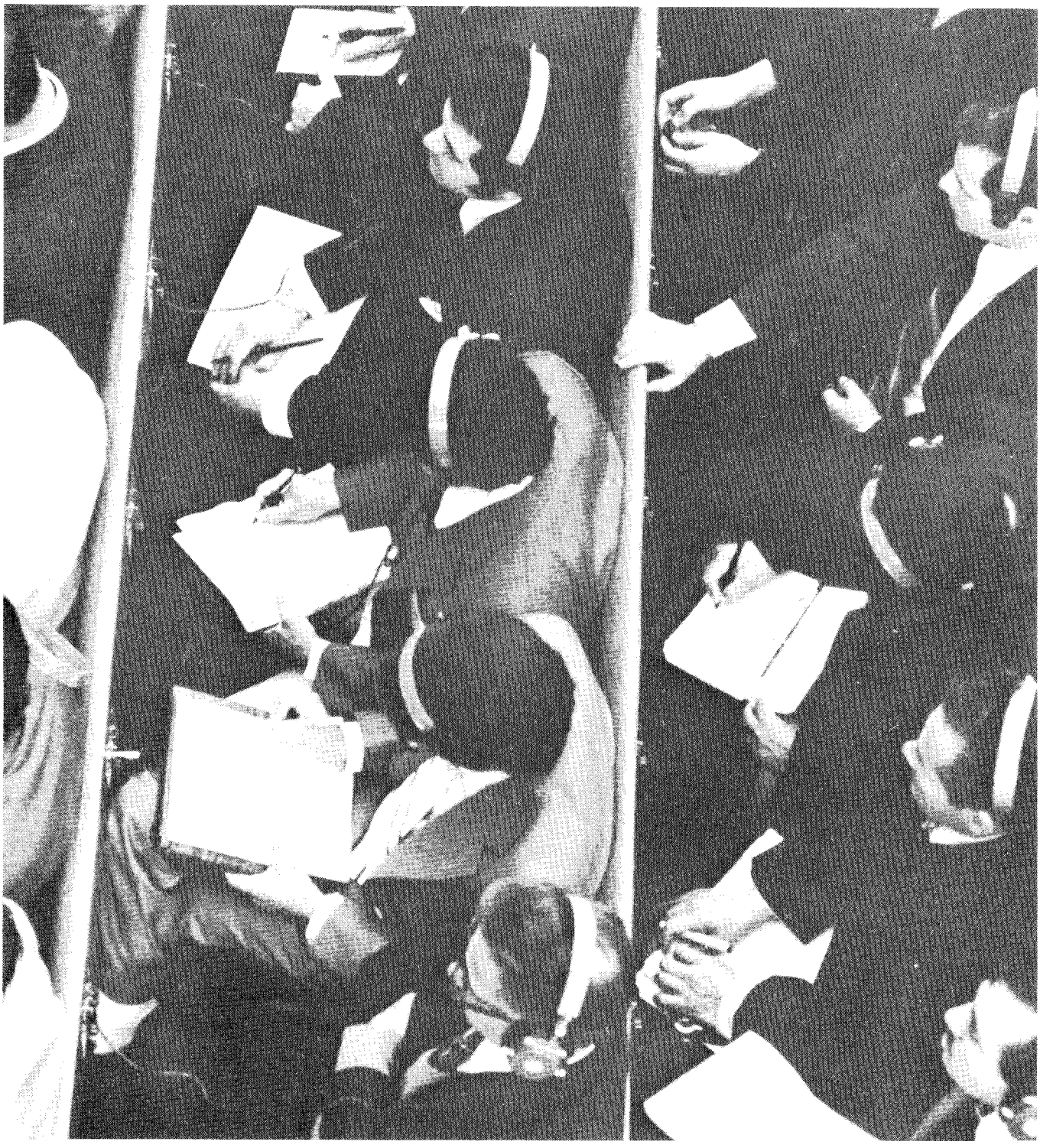
イエスがラザロを蘇生させようとしたとき、「マルタは言った、『終りの日のよみがえりの時よみがえることは、存じています。』

イエスは彼女に言われた、『わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる。

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」。

マルタはイエスに言った、『主よ、信じます。あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子であると信じております』。」（ヨハネ11：24―27）

またあるとき、イエスはヤコブの井戸のところで足を止め、ひとりのサマリヤ



同時通訳に聞き入る人々

の女に水を求めた。サマリヤの女は話の中でイエスに、次のように言った。「『わたしは、キリストと呼ばれるメシヤがこられることを知っています。そのかたがこられたならば、わたしたちに、いっさいのことを知らせて下さるでしょう。』

イエスは女に言われた、『あなたと話をしているこのわたしが、それである』。」（ヨハネ4：25、26）

また、次のようなこともあった。

「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、『人々は人の子をだれと言っているか』。

彼らは言った、『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは預言者のひと

りだ、と言っている者もあります』。

そこでイエスは彼らに言われた、『それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか』。

シモン・ペテロが答えて言った。『あなたこそ、生ける神の子キリストです』。

すると、イエスは彼にむかって言われた、「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。」（マタイ16：13－17）

折につけ、イエスは御自分が神の御子キリストであると宣言しておられる。

この地上の要素を支配する力を持ちたもう神の御子、偉大なる創造主が重力の法則を越えて水面を歩かれたことに、何の不思議があろうか。

婚礼の席で水をぶどう酒に変えたこと、これは創造主にとってきわめて容易なことであった。

また、わずかなパンと魚で、男54人と女、子供を養ったこと、さらに海辺で男44人と女、子供を養ったことは、人々の心理をあやつるだけのごまかしではなかった。（マタイ14：16－21；15：32－38参照）

イエスはまた、自然の力をも支配する力を示された。イエスが「静まれ」と命じると、荒れ狂う海はないだのである。（マルコ４：39参照）

イエスは動物界をも支配する力があることを示しておられる。イエスの命じられた通りに行なうと、これまで何も得られなかった海から大量の魚がとれたことが２度あった。（ルカ５：４－８；ヨハネ21：３－６参照）

またイエスの力は、いちじくの木を枯らした出来事に見られるように、植物界にも及んでいる。（マタイ21：19参照）

これらいずれの場合も、イエスがキリストであり、文字通り神の御子であることを人々は認めている。

イエスはあらゆる種類の病人を癒された。イエスの力により悪霊を追い出してもらった人々もまた、イエスがどのような御方であるかを語っている。イエスは盲人の目を見えるようにし、足なえを歩かせた。また、死後４日を経たラザロを生きかえらせたように、命そのものさえ、支配することができたのである。このような出来事は他にも数多くある。

まことに、「地とそれに満ちている物とは、主のものだからである。」（Ｉコリント10：26）主は地球に属するすべての王国、すなわち、地の中、地の上、天にあるものすべてを支配する力を具えておられるのである。

主はすべてを人々のために行なわれた。主の一生は奉仕の生涯であり、御自分のために行なわれたことはひとつとしてない。

地上でのみ業が終りに近づいたとき、主は御父に祈られた。「わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。

父よ、世が造られる前にわたしがみそばで持っていた栄光で、今み前にわたしを輝かせて下さい。」（ヨハネ17：４、５）

イエスは、悔い改めるすべての人々の罪をその身に引き受け、すべての人が生きることができるよう、その命を捧げたもうた。そして万人の復活をもたらしたもうたのである。この地球の創造やイエスのみ業のすべて、時の初めからの予言者、これらはみな、皆さんが不死不滅と永遠の生命を得ることができるように与えられたものであることを御存知だろうか。皆さんは他の人々と同じようにそれを得ることができるのである。

最後に、この末の日にあって、地上における主の王国の回復に備え、主は次のように語られた。「この故に今われ汝に命ず、悔い改めよ、わが口のしもとと、わが怒りと、わが憤りとを受けて汝の痛苦甚しからざらんがために悔い改めよ。すなわちその痛苦の如何に甚しきかを汝知らず、その如何に強烈なるかを汝知らず、また如何に甚え難きかを汝知らざるなり。

見よ、われは神なるに、人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために、すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。

されど、人もし悔い改めずば誠にわれと同じ苦しみを受けざるべからず。

その苦しみたるや、われ神、すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と両つながらを苦しめ、すなわちこの苦きさかずきより呑まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。

然はあれども、父なる神は讃むべきかな。さればわれはこの苦しみをなめ、人の子らの為に準備を為し終りたり。

これを以て、再びわれ汝に命ず、われ全能の力を以て汝を挫かざらんために汝悔い改めよ。」（教義と聖約19：15－20）

皆さんは聖餐を受けながらこのように考え、主の戒めを守ることを誓約するのではないだろうか。イエスを知るとは、イエスの戒めを守ることである。イエスと呼ばれた方がどのような御方かおわかりだろうか。

私たちが礼拝している御方である。イエスは神の御子であり、偉大なる創造主であり、私たちの救い主、贖い主であり、御父に対する私たちの仲保者である。全人類の復活を可能にし、もたらしてくれた御方であり、聖なる森において、御父と共にジョセフ・スミスに姿を現わされた御方である。

ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは、奇しき啓示を受けた後、次のように証している。「さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』こと是なり。

われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。

すなわち諸々の世界は彼の手により、彼の手を経て、また彼に因りて先に作られ、また現に作られ、これに住む者たちも皆神より生れたる息子と娘なることを証したもう。」（教義と聖約76：22－24）

証し申し上げる。神は生きたまい、イエスは神の御子キリストである。キリストの指示の下に、イエス・キリストの福音が終りの時のためにこの神権時代に回復されたのである。これらが真実であることを、イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

神の家族

私たちはすべての教会員を、そして特に亡くなった親族を家族の一員として考えるべきである。

十二使徒評議員会補助
ウイリアム・グラント・バンガーター

私たちの家族の系図探求であるが、1500年代までさかのぼっている家系がかなりある。ある日私は、我が家の系図表にある姓を全部数えてみた。そして私が今、わかっているだけで226の家系と血のつながりがあることがわかった。スイスかイギリスに先祖をお持ちの方なら、同じ位先まで調べていけば、私の先祖と同じ名前に幾つかぶつかることがあるに違いない。

これは、私たちが血統に基づく真の親族関係にあることを示唆するものである。私は系図表の中から、私の直系先祖として650人の名前を拾い出した。しかしながら計算してみると、1500年までさかのぼる系図表を全部埋めることができれば、15,000人から20,000人の直系先祖を見出せるはずである。さらに子供の数まで含めれば、私と血統の上でごく近い人々の数は、総じて50,000人から60,000人を数えることになるのであろう。

母親ならびに家族のひたむきな努力のかいあって、私の身近な親族ですでにこの世を去った人々の名前が数千名集められている。これらの名前は教会の教えに従って神殿に送られ、儀式が施された。従って私たちが死後彼らと会うときには、ただ単に家族の一員としてだけでなく、福音の下での兄弟姉妹として会うことができるのである。

また私は、系図探求がかなり広範囲にわたって行なわれている家系でさえも、まだその家系における全人数の半分にも達していないことを知った。

この世の中には血統による親族ほど近くはないが、さらに別の人と人との関係がある。

私はこれまで、教会に入った人々の証を数多く耳にしてきた。彼らが異口同音に語るのは、この教会を見出すまでにいろいろな教えに惑わされてきたこと、そしてこの教会に入ってから真の家族のつながりを得たということである。霊的な意味で、自分の家に戻ったのである。

私には非常に親しくしている仕事仲間がいた。私たちは時々宗教についていろいろ話し合った。彼は私たちの教会に入ることに関心を示したことはなかった。しかしメソジスト教会や霊魂再来説、降神術、ペンテコステ・グループ、クリスチャン・フェローシップ協会など、多くの宗教思想に首をつっこんできた。

ある日のこと、私は彼に、きっといつか彼も教会に入るだろうと言った。すると、彼は私に、どうしてそれがわかるのかねと、ほほえみながら尋ねてきた。そこで私はこう答えた。「君のように熱心に調べている人は、完全な答えが得られるまで満足できないだろうね。でも私の教会に入れば探求の旅はそこで終わるよ。きっと自分の家に戻ったような気持になるだろうからね。」

教会員はこれと同じ気持を抱いている。イエス・キリストの時代以来、主の教会の会員はお互いを兄弟姉妹と呼んできた。これは偶然にそうなったのではない。目的があってのことである。

救い主は私たちに、天におられる御父に祈るように教えられた。そして御自身を天父の御子とお呼びになり、教会員に対しても神の子という言葉を再三使っておられる。もしもこれが家族関係を意味するものでないとしたら、私にはこれらの言葉の意味が理解できなくなってしまう。

若い宣教師として南アメリカに渡ったばかりの頃、私には現地の人が自分とは全く異質の人間のように思えてならなかった。奇妙な言語を話し、皮膚の色は茶色、髪の毛も目も黒い。彼らの中に入って自分が見失ってしまうのではないだろうか。私はそう感じた。その土地では自分自身が外人であることに気づいたのは、それからかなりたってからのことである。しかし、彼らの間で長年生活を共にした私は、彼らのもとに行っても、もう北アメリカやヨーロッパの人々と区別して考えることはない。彼らと全く打ち解けた今となっては髪の毛や皮膚や目の色はもはや問題外なのだ。私は彼らが話す言葉さえも意に介さない。

彼らは私の兄弟であり姉妹である。私は彼らに心からの愛を示す。彼らも私に同じようにしてくれる。それはまさに私が、私自身の家族の中で今まで味わってきたつながりと同じ位密接なものである。

聖典を読むと、救い主のみこころが

さらによくわかる。イエスがある家で人々に話しておられると、使いの者が入ってきて、イエスの母親と弟たちが外で待っていると告げた。するとイエスはその使いの男の方を向いて、御自身の家族関係をないがしろにすることなく、ある特別な教訓をお与えになる。「わたしの母とは、だれのことか。わたしの兄弟とは、だれのことか」。そして、弟子たちの方に手をさし伸べてこう言われた。「ごらんなさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。天にいますわたしの父のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである」。（マタイ12：48－50）

私が南アメリカで経験したことは、パウロがエペソの聖徒たちに宛てた手紙の中によく表わされている。「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。」（エペソ２：19）

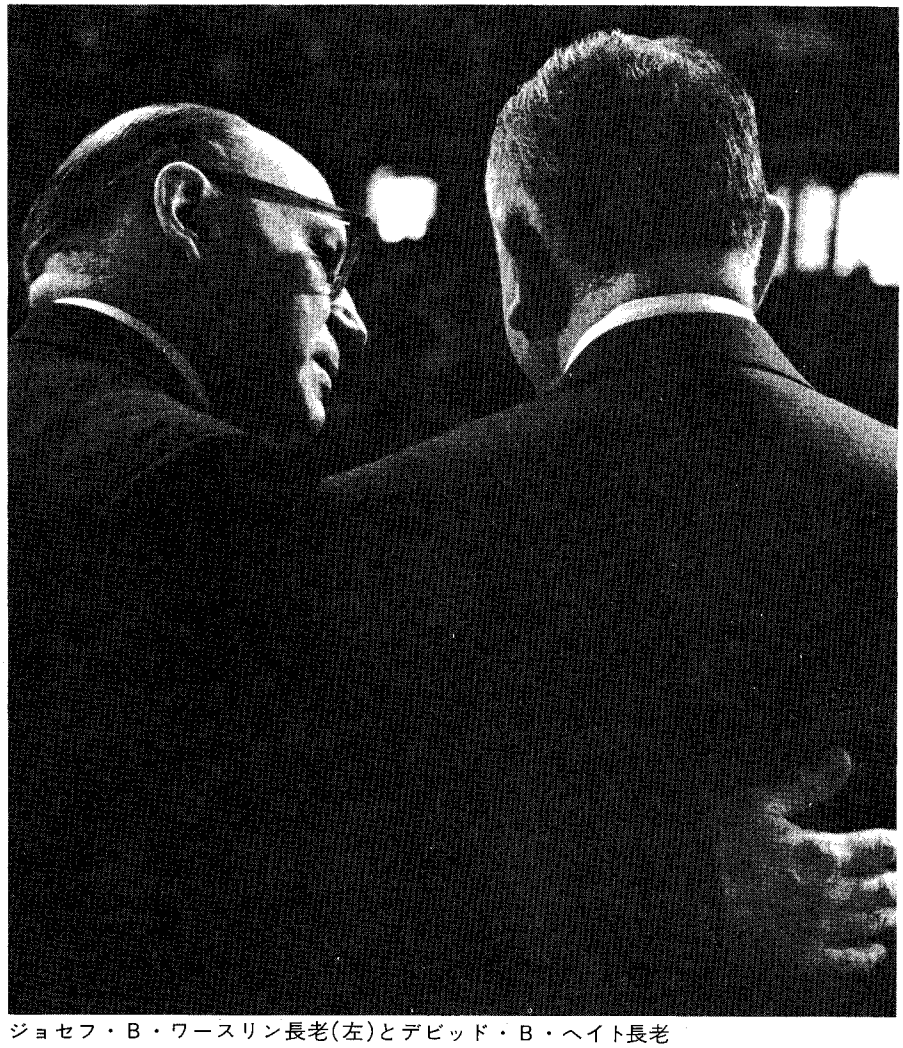
この「神の家族」という言葉は、まさに家族関係そのものを表わす言葉ではないだろうか。

私はこれらの例から、神は、経験を得させるために地の四方に子供たちを散らしたもうたが、子供たちが家に戻ることを願っておられるのではないかと思う。ペテロが語ったように「尊く、大いなる約束が……与えられている」私たちは、そうした祝福にあずかっていない兄弟姉妹たちのために、生涯奉仕の業に携わると約束したのである。

福音の祝福を得ることなく霊界に旅立った親族が、永遠に無視されることは決してない。今まで熱心にこの業に携わってきたのは少数の教会員だけであった。しかし、今や新しい時代の幕は切って落とされた。全教会員が家族を見出し、また迷い出た家族を再び家に連れ戻すにあたって援助が受けられるよう、教会の大祭司がそのプログラムを開始することとなり、その指示が間もなく出されようとしている。今年私たちは、全員自分自身の個人の歴史を作成し、現在地上にいる家族を組織するよう求められている。神殿や図書館が近くになくとも、これはだれにでもできる。来年はまた別のチャレンジと課題が与えられるであろう。こうして教会員はどこにあっても、福音を知らずに死んだ家族の記録を作成する上で、次第次第に卓越した存在となっていくに違いない。

もしもこの業が真実であるならば、私たちは日ならずして、生きている人々のために現在行なわれている業と同じ位広範囲にわたって、死者のためにも業が行なわれるのを目のあたりにするであろう。これは、現在伝道のために費やしている多額のお金、また何年間も献身的に働いている多くの人々、これらと同等のものを死者のための業につぎ込まなければならないということを意味する。

主の家族を永遠という単位のもとでひとつにすること、これこそ福音が回復された目的である。これによって国々が、ひいては世界が救いを得ることであろう。私たちは家庭の一致をはかり、神殿において祝福を受けることによりこれを行なう。私たちは福音を知らずに死んだ多くの親族に、霊界まで手を差し伸べることによりこれを行なう。家庭を破壊する者は永遠の罪を犯すことになる。モロナイは、もしも私たちが家族の一致を心がけなければ、キリストの再臨の際に全地がことごとく荒れすたれると語った。（教義と聖約２：３）神の祝福があって、私たちが主の家族の中で破壊者ではなく救い手となることができるように、イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。



ジョセフ・Ｂ・ワースリン長老(左)とデビッド・Ｂ・ヘイト長老

選択の権利

神は私たちに自由意志を与えておられる。私たちはそれをどのように行使しているだろうか。

十二使徒評議員会補助
ヘンリー・D・テイラー

物事を選択する権利は、私たちに与えられている重要な責任であり同時に特権でもある。末日聖徒は自由意志の原則を固く信じている。

私たちは素晴らしい肉体を持ってこの世にいることを許されている。これは、前世においてきわめて重大な事柄が話し合われ、その決断を迫られたとき、私たちが賢明な選択をしたことによるものである。

地球が創造される以前、私たちは霊として存在していた。そして地球が組織されることを知らされたとき、確かにその発表を喜んだのである。このことは、主がヨブに問われた言葉から明らかである。これはきわめて興味ある意味の深い言葉である。

「わたしが地の基をすえた時、どこにいたか。もしあなたが知っているなら言え。

あなたがもし知っているなら、だれがその度量を定めたか。だれが測りなわを地の上に張ったか。

その土台は何の上に置かれたか。その隅の石はだれがすえたか。

かの時には明けの星は相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばわった。」（ヨブ38：4－7）

私たちの代表者として地球に来て全人類の罪を贖う御方を選ぶために大会議が開かれたことを私たちは信じている。ジョセフ・スミスはそのことを明らかにしている。「天上における最初の集まりに私たちは皆出席していた。そして、救い主が選ばれ任じられるのを見、救いの計画が定められるのを見た。そして私たちはそれに賛成した。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith* p. 181「予言者ジョセフ・スミスの教え」

主はモーセに、大会議の模様を詳しく語られた。「サタンは……わが前に来りて言いけるは、見たまえ、われ此所に在り。われを遣わしたまえ。われ汝の子と成らん。われことごとく人類を贖いて一人だに失うことなからしめん。われ正にかくの如くすべし。これを以てわれに汝の誉を与えよと。」さらに主はこう続けておられる。「されど見よ、わが愛しむ子、太初より選びたる者なるわが愛子、われに言いけるは、父よ、御旨の成らんことを、栄光とこしえに父にあれ、と。」（モーセ4:1,2）

またアブラハムは主の言葉を引用してこう語っている。「われ誰を遣わさんか。一人、『人の子』の如くに答えて言いけるは、われここに在り、われを遣わしたまえ、と。別の一人答えて言いけるは、われここに在り、われを遣わしたまえ。主宣いけるは、われ先の者を遣わさん。

而して、第二の者怒りて、その第一の位を保たず。而してその日多くの者たち彼の後に従えり。」（アブラハム3:27,28）

さらにヨハネは黙示録の中で、サタンが怒ったことによって起きた結果について説明している。「さて、天では戦いが起った。ミカエルとその御使たちとが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも応戦したが、勝てなかった。

そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。」（黙示12：7－9）

私たちはサタンが大きな影響力を持って天軍の3分の1を従わせたことを理解している。

ここにおいて私たちは、その行動の動機においても個性においても両者が全く異なっていることに気づく。サタンは自分自身の名誉と栄光のみを求めて、人から自由意志を奪い、強制的に全人類を贖うことを申し出た。それに対してイエスは、人間一人一人が善悪を判断し選択するのを認めると共に、そのすべての名誉、栄光は天父に帰すべきであると主張した。

ある人が次のように語っている。まさに至言と言えよう。「名誉を得ようとする者にかかわりを持たない限り、善なる人々の行く手に終りはない。」

この世で生活する間、私たちは個人として、広範囲にわたる数々の重要な問題の決定に迫られる。特に若人は、自分の友人をはじめ、交際する人を選ばなければならないであろう。また、何をして生計を営めばよいかも考えなければならない。若い男女は希望にあふれた恋をし、自分の結婚相手を選ぶ特権を得ることであろう。また、結婚

を神殿の中で行なうかどうかについても決定をしなければならない。神殿はふたりが今の世にあっても永遠にわたっても結び固められることを可能にする唯一の場所である。

これだけでなく、人はもっと様々な決定を迫られる。しかし、こうした重要な決定をするにあたって、私たちは孤独ではない。教会に入るにあたってバプテスマを受けた人は、次いで、頭の上に手を按かれ、聖なる神権を持つ者により教会員であることを確認され、さらに、聖霊の賜を付与される。私たちが義にかなった生活をするならば、聖き「みたま」は私たちの伴侶となり、これらの重要な決定を下す際の導き手となることであろう。

私たちは祈りを通して問題への答えを受け、どのような決定を下すべきかを知ることができる。祈りを通して、自分の考えていることが間違っていると強く感じられることもしばしばある。さらに、私たちの答えが正しく、主のみこころにかなったものであることをはっきりと感じることもある。またそれとは逆に、祈りの答えが何であるかを明確につかめないこともある。このような場合、主は従うべき方法を定めておられる。その問題を心の中でよく考えた上で決定をし、その決定が正しいかどうかを主に尋ねるのである。もしも正しければ、心の中が燃えるのを覚え、その決定が正しいことを確信するが、逆にもしもそれが正しくなければ、心の中が次第に鈍くなり、「悪の悪たるを」忘れるのである。（教義と聖約９：８、９参照）

次にあげる讃美歌の言葉は、私たちにとって非常に意義深いものである。ここで、その歌詞を読んでみたいと思う。

汝知らずや、人みな自由なるを
人生を選び、己が行く末を選ぶ
永遠なる真理与えられたれば、
神、人を天に強いたまわじ

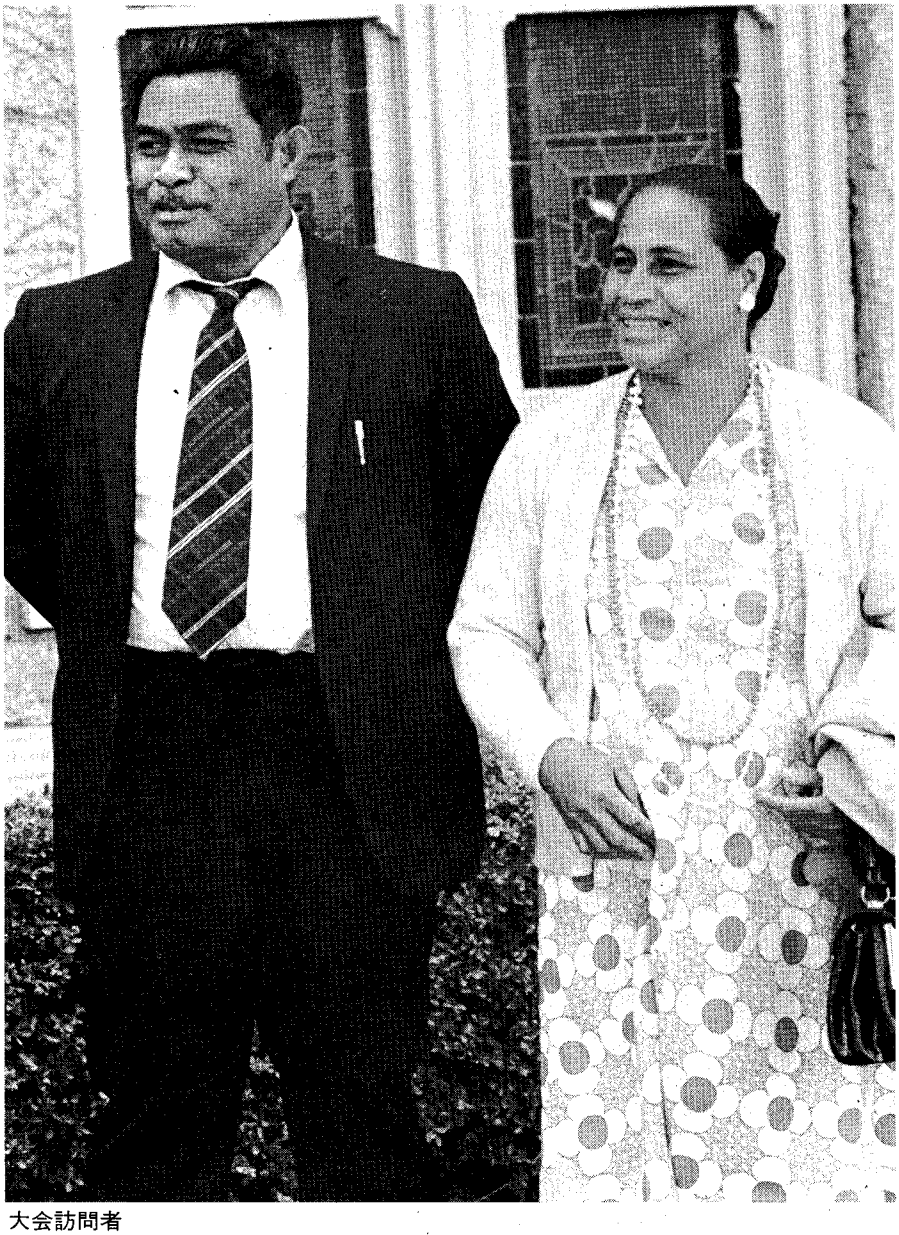
知恵と愛と光もて
説き、勧め、正しく導き、恵みたもう
はかり知れざる善とやさしさ
しかれども人に強いたまわじ

自由と理性ありて、はじめて人となるこれらなければ、人は何者たりや
野にある獣と何ら変わらず
獣のごとく、天地を思うや
ウイリアム・Ｃ・グレッグ
（英文讃美歌90番）

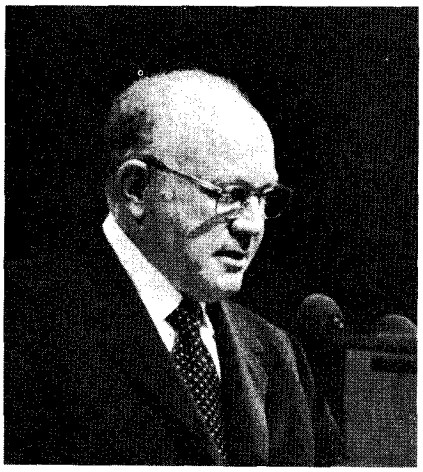
私たちは確かに物事を決定する特権を有している。それを天父に喜ばれるようなものにしているだろうか。自己中心的なものにしてしまってはいないだろうか。

古代の予言者ヨシュアは、正義に従って生きる決心をし、はっきりとこう宣言した。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」（ヨシュア24：15）

私たちが霊感を受けて、主の承認を得られる賢明な選択をすることができるように。そして、その選択が私たちの隣人に対しても益をもたらし、祝福となるように。私たちの主であり、救い主であるイエス・キリストのみ名によって祈るものである。アーメン。



大会訪問者



「いちじくの葉は出始めている」

主の再臨のしるしを知り、人々に備えさせることは、私たちの特権である。

十二使徒評議員会補助
バーナード・P・ブロックバンク

イエス・キリストの再臨に先立って、あるしるしと驚異が現われるであろうと約束されている。これによって主の聖徒たちは、主の再臨のおおよその時を知ることができる。イエスは言われた。「その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。

そのように、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。」（マタイ24：32、33）

キンボール大管長は次のような勧告を与えた。「いちじくの葉は出始めている。」これは予言的な言葉である。

「イエス・キリストの再臨に先立って、末の日にどのようなしるしと驚異が現われるであろうか。」

主は次のように言われた。「にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。」（マタイ24：24）

「多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がキリストだと言って、多くの人を惑わすであろう。」（マタイ24：5）

主は言われた。「而して地より平和の取り去られ、悪魔自らの領土を支配する時はなおいまだしといえども今や近きにあり。」（教義と聖約1：35）

末の日のしるしや世の状態、戦争、危険、社会不安について述べている聖句は数多い。これらは末の日に疫病、苦悩、災難、苦難、大規模な災害、争い、戦いのうわさと戦いがあり、また「民は民に、国は国に敵対して立ち上がる」（マタイ24：7）ことを告げている。そして流血、殺戮、荒廃が絶えない。さらに、かつてなかった程激しい洪水、嵐、火事、旋風、地震に見舞われ、人々の間には想像を絶する罪悪や不正、邪悪、混乱、殺人、犯罪、動揺が生じる。

主は言われた。「その日には、神が万物を造られた創造の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような患難が起るからである。」（マルコ13：19）

「而してあらゆるもの皆立騒ぎ、すべての人々恐怖に襲わるる故にまことに心気を失わん。」（教義と聖約88：91）

「そして、ノアの時にあったように、人の子の時にも同様なことが起るであろう。

ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていたが、そこへ洪水が襲ってきて、彼らをことごとく滅した。

ロトの時にも同じようなことが起った。人々は食い、飲み、買い、売り、植え、建てなどしていたが、ロトがソドムから出て行った日に、天から火と硫黄とが降ってきて、彼らをことごとく滅した。

人の子が現れる日も、ちょうどそれと同様であろう。」（ルカ17：26－30）

使徒パウロは、末の時代の人々と世の状態について霊感を受け、次のように述べた。

「しかし、このことは知っておかねばならない。終りの時には、苦難の時代が来る。

その時、人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、無情な者融和しない者、そしる者、無節制な者、粗暴な者、善を好まない者、裏切り者、乱暴者、高言をする者、神よりも快楽を愛する者、信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう。」そしてパウロは、「こうした人々を避けなさい」（IIテモテ3：1－5）と警告している。

これらの危険な時代について、イエスはこう言われた。「而して聖徒らもまたほとんど逃るること能わざらん。さりながら主われは聖徒らに与し、…」（教義と聖約63：34）

しかしながら、末の日に聖徒たちはきわめて大切な約束を主より受けている。主は言われた。「されど主もまたその聖徒らを支配し、その真中にありてこれを統治せん。而して……この世に下る審判のために天より降り来らん。」（教義と聖約1：36）

主は言われた。「また、汝らには時代の徴と、人の子の来るべき徴とを知らさるべし。」（教義と聖約68：11）

「主なるわれ、始めに於て地を咀いし如く、正に今末の世に於ては聖徒ら

が地の豊なる物を受けんために、その時期に於て聖徒らの用に地を祝福せり。」（教義と聖約61：17）

イエス・キリストの教会は、決して再びこの地上から取り去られることはない。これは末の日の顕著なしるしのひとつである。すなわち、イエス・キリストの教会は発展し、栄え、全地に広がるのである。

聖霊と神の神権はこの地に引き続き残る。末の日に生ける予言者と生ける使徒がキリストより選ばれ、召されるであろう。「されどわが弟子たちは、聖地に立ちて動くことなかるべし。」（教義と聖約45：32）

また、次のことも現代の最も重要なしるしと言える。「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。」（マタイ24：14）

悪魔はあらゆる手を尽くして、福音のメッセージが全世界に伝えられるのを阻もうとしている。

イエスは弟子たちに次のように命じられた。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」（マタイ28：19、20）

主は末の日のユダとエルサレムについて次のような約束を与えたもうた。「またその時御父は再びかれらを集め受け嗣ぎの地としてエルサルムをかれらに与えたもう。

その時来らばかれらは喜びを押うる能わず。エルサレムの荒れすたれたるところよ。御父がその民をなぐさめ、エルサレムを贖いてこれを回復したまいし故に共に歌を唱え。

御父はその聖き力を万国の民の目に現わしたまいし故に、世界の隅々の人々までことごとく御父の与えたもう救いを見る。」（IIIニーファイ20：33－35）

「而してイスラエルの家の人々にわが福音を完全なるまま宣べ伝うる時将来にあり。

その時かれらはわれを信じ、われが神の子、イエス・キリストなることを認め、……」（IIIニーファイ20：30、31）

「されど主の大いなる日来る前に、ヤコブは荒野に栄えレーマン人は薔薇の如く華さくべし。

シオンは諸々の丘の上に栄えて諸々の山の上に悦び、彼らはわが指し示したる所に寄り集らん。」（教義と聖約49：24、25）

「また、貧しき者柔和なる者たちはわが福音を説き聞かせられ、わが来る時を待ち望みてあらん。わが来る時は近ければなり。

而してもはやすでに夏近ければ、彼らはいちじくの木の比喩を悟るべし。」（教義と聖約35：15、16）

今こそすべての末日聖徒は、イエス・キリストとひとつになり、人々の救い手となることを強く求められている。イエスは末日聖徒にこのような勧告を与えられた。「彼らは世の光として、また人々を救う者として置かれた。」（教義と聖約 103：9）繰り返し申し上げる。「彼らは世の光として、また人々を救う者として置かれた」のである。さらに主はこう警告された。「彼ら人々を救う者ならずば味を失いたる塩の如く、かくして全く益なきものとなり外に棄てられて人の脚下に踏みつけらるべきなり。」（教義と聖約103：9、10）

主は言っておられる。すべての末日聖徒が世の光となり、人々の救い手となるべきである。この聖なる業を怠る者は、人々の脚下に踏みつけられる、と。

主は再び聖徒たちに勧告しておられる。「われ、再び汝らに告げて一つの誡めを与う。

汝ら長老、祭司、教師また会員に至るまで、あらゆる人々精力を尽しその手の働きを尽して為すべきことを為し、わが命じたることを準備し且つこれを為し遂ぐべし。

また汝らはすべて温和にしてへりくだり、皆ことごとくの人その隣人にとりて警めの声となる教えを説くべし。

また、汝ら悪しき人々の仲間より離れよ。己れ自らを救え。汝ら、主の器をもてるものは潔くあれ。」（教義と聖約38：40－42）

キンボール大管長は先程、末の日の人々の状態について述べている古代の予言者の言葉を聖書から話された。そこでヨエルは次のように語っている。「かまを入れよ、作物は熟した。来て踏め、酒ぶねは満ち、石がめはあふれている。彼らの悪が大きいからだ。

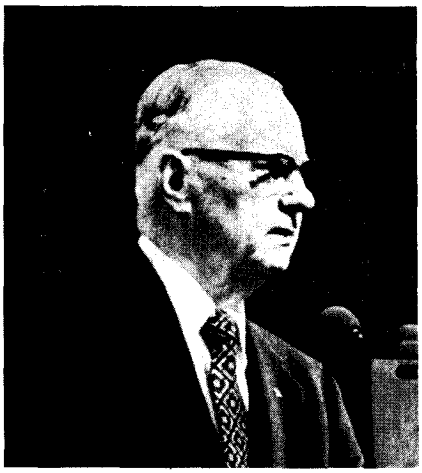
群衆また群衆は、さばきの谷におる。主の日がさばきの谷に近いからである。」（ヨエル3：13、14）

今日、ほとんどの地域において、人々はかつてなく栄えている。彼らの酒ぶねは満ち、石がめはあふれ、悪は大きい。一方、人生の尊い目的と道を求めている善良な人も数多くいる。私たちが時折耳にすることとは異なり英国でもこのことが言える。今日ほど人々の状態が好ましい時代はない。

神の聖徒が道を示すならば、現在地上にいる主の子供たちの1パーセントが主の道を見出し、教会に入ると思われる。またそれは可能である。

1パーセントはおよそ 3,600万に当たり、これだけの「群衆」が神の聖徒になり得るのである。実に、「群衆また群衆」がさばきの谷で、神へと導いてくれる気高い光を待っているのである。聖きみたまと共に歩む宣教師が是非とも必要である。私たちの周囲にはこのような宣教師に召されるべき人が大勢いる。恵まれてこの末の日に生を受けた私たちが雄々しく自らの光を輝かすことができるように、また、イエス・キリストとひとつになり、すべての人に救いをもたらす助けができるように、イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

☆　　☆



復活祭に思う

永遠の生命を得るために、聖霊の証を通して、イエス・キリストを知るように努めなさい。

十二使徒評議員会会員
デルバート・L・スティブレー

復活祭の季節が近づくと、キリスト教徒の心と感情は、主イエス・キリストの犠牲と復活を思い起こして、和んでくる。

キリストは裏切られる直前に、天を仰いで、弟子たちのためにとりなしの祈りを捧げられた。キリストは次のような深遠な言葉を発せられた。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」（ヨハネ17：3）

父なる神と贖い主であり救い主である御子イエス・キリストを知ることが、永遠の生命なのである。人々は真にこの御二方、すなわち御二方の属性と特性と力を知っているだろうか。そしてこれは確かに知ることのできるものである。もしそうでなければ、救い主はこのように言われなかったであろう。

ピリポがキリストに、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下されば、わたしたちは満足します」と言ったとき、イエスはこう答えられた。「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。」（ヨハネ14：8、9）

パウロはコリントの聖徒たちに、キリストは「神のかたち」（IIコリント4:4）をしておられると述べている。また、ヘブル人には、キリストは「神の本質の真の姿」（ヘブル1：3）であると言っている。永遠の神の独り子が「神の本質の真の姿」であることに、何ら矛盾はない。この父にしてこの子ありと言われるように、地上のどの息子もその父親のかたちを受け継いでいる。地上のものは天上のものの典型である。そして、父親と瓜二つといわれるほどよく似ている息子もこの世に多い。

近代の啓示で知らされているように、アダムの息子セツは「完き人にして、またその容姿は父の容姿と生写しなるために、あらゆる点に於て父とその面影相肖たり、ただ齢の異なるによりて彼と父と別つことを得たるのみ。」（教義と聖約107：43）キリストがピリポに、「わたしを見た者は、父を見たのである」（ヨハネ14：9）と言われたときに意味したのはこのことではなかっただろうか。この言葉はまた、「御父は、人間の有する肉体と同じく触知し得る骨肉の体を有したもう」（教義と聖約130:22）という近代の啓示とも一致する。

また、キリストは言われた。「子は父のなさることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。」（ヨハネ5：19）さらに言われた。「わたしは……ただ父が教えて下さったままを話していた」（ヨハネ8：28）ここでキリストは、御自分が御父の模範と教えに従い、また御父がすでに経験された業を行なっていること、そのことによって御父と御子はそれぞれ固有の特性と属性と力とを所有していることを明らかにしておられる。

トマスが主に、「どうしてその道がわかるでしょう」と尋ねたとき、イエスはこう答えられた。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」（ヨハネ14：5、6）また、「わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」（使徒4:12）と使徒ペテロはユダヤの役人、長老、律法学者たちに宣言した。イエスがソロモンの廊を歩いておられたとき、ユダヤ人たちが来て、決着をつけようと、このように詰問した。「あなたがキリストであるなら、そうとはっきり言っていただきたい。」イエスは彼らに答えて言われた。「わたしの父の名によってしているすべてのわざが、わたしのことをあかししている。」（ヨハネ10：23－25）

キリストのみ業、奇跡、教え、また天のみ使いの現われや確認の言葉、これらがキリストは肉における神の独り子であり、私たちの贖い主、救い主、主であることを十分に証明している。また、父なる神御自身も、証人の前でこのことを宣言しておられる。

キリストは、地上でのみ業を終えて十字架に掛けられ、栄えある復活をされた後、弟子たちにみ姿を現わし、キリストについての聖句に対する弟子

たちの理解を開かれた。すなわち、キリストの生涯、死、復活に関するすべての聖句がどのように成就されたかを示されたのである。そして弟子たちに、「あなたがたは、これらの事の証人である」（ルカ24：48）と言われた。使徒ペテロは、コルネリオとその親族に、キリストのメッセージ、死、復活など、すべてのことを教えた。また、神が復活された主を明らかに示されたと宣言した。ペテロは次のように言っている。「全部の人々にではなかったが、わたしたち証人としてあらかじめ選ばれた者たちに現れるようにして下さいました。……予言者たちのみな……あかしています。」（使徒10：38－43）

キリストが降臨される以前から、予言者たちはキリストの来臨を証し、キリストの生涯と使命、み業、奇跡について絶対的な確信をもって予言していた。さらに、人類の罪を贖う使命と務めを結び固める行為としての十字架上での死と栄えある復活についても予言している。

キリストのために道を備えたバプテスマのヨハネには、神の御子を見分けるしるしが与えられていた。彼はイエスが向かって来られるのを見て、弟子たちに「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」（ヨハネ１：29）と言った。父なる神も、キリストのバプテスマに集っていたすべての人々に、御子を証して天からこう言われた。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」（マタイ３：17）また主はペテロに、「それでは、あなたがたはわたしをだれだと言うか」と尋ねられた。それに対してペテロは、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」（マタイ16：15、16）と力強く宣言した。霊界においてキリストを知っていた不浄な悪霊たちでさえ、肉体にあるキリストを認めてイエスを「いと高き神の子イエスよ」（ルカ８：28）と呼んでいる。

キリストのみ業と奇跡、また誠実で忠実な証人が見聞きした事柄についての証、証拠、これらは、イエスが単に主義の高潔な方、偉大な教師ではなく、まさしく神の御子であり、世の贖い主、救い主、模範であること、またイエスを知り、愛し、従うことが永遠の生命であることを証明している。このことは神御自身も天から証しておられる。

さらに、復活した主にまみえた真の証人たちも、イエスが今日も生きたもうことを証言している。天使ガブリエルは、イエスの母マリヤに、「かれ（イエス）はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」（ルカ１：33）と言っている。主は復活後、弟子たちに幾度となくみ姿を現わされた。まず、マグダラのマリヤに（ヨハネ20：16－18）、次いでエマオに向かうふたりの弟子に（ルカ24：13－35）、次に集まっている使徒たちに現われたもうた。イエスは使徒たちにこう言われた。「わたしの手や足を見なさい。……さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ。」（ルカ24：36－40）

次いでルカが記しているように、キリストは受難後、「自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のことを語られた。」（使徒１：３）５番目の訪れについて、使徒パウロはこう証している。「ケパに現れ、次に、十二人に現れ……そののち、五百人以上の兄弟たちに、同時に現れた。そののち、ヤコブに現れ、次に、すべての使徒たちに現れ」（Ⅰコリント15：５－８）、最後にパウロ自身に現われたもうた。

６番目、新約聖書において、証人についてのこの最後の記事は、私たちが熟考すべききわめて大切なものである。このことが今後、神のすべての子供に希望と信仰を与えることになるからである。これは、キリストが復活後、弟子たちと共に40日間を過ごし、主の王国の事柄に関する教えと指示を与えられた後の重要な出来事に関連したものである。「こう言い終ると、……雲に迎えられて、その姿が見えなくなった。

イエスの上って行かれるとき、彼らが天を見つめていると、見よ、白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて言った、『ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう。』」（使徒１：９－11）キリストは復活体を持って天に昇られた。この聖句に言われるように、再臨のときにこれと同じ有様でおいでになるとすれば、同じ復活体でみ姿を現わされることになる。この主の再臨のとき、イスラエルの家の一族が、主に次のように尋ねることが予言されている。「汝の手と足にある傷は何ぞや。

その時、彼らはわれの主なることを知らん。そはわれ彼らに向いて『この傷は、わが友の家にありて得たる傷なり。われは挙げられたる者なり。十字架につけられたるイエスなり。われは、すなわち神の子なり』と言えばなり。」（教義と聖約45：51、52。ゼカリヤ13：６参照）

末日聖徒イエス・キリスト教会の四大標準聖典のひとつであるモルモン経には、墓からよみがえられたキリストが、アメリカ大陸を訪れられたことが美しく記されている。イエスがみ姿を現わされるに先立って、天から父なる神のみ声が聞こえた。「わが喜ぶ愛子を見よ。われはこれに由りてすでにわが名の栄光を示しぬ。わが愛子に聞け」（Ⅲニーファイ11：７）

そのとき、イエス御自身も語られた。「見よ、われはイエス・キリストなり。予言者らがこの世に来ると証をしたるその者なり。」（Ⅲニーファイ11：10）歴史の記すところによると主が訪れられた際、恵まれて大勢の者がイエスの身もとに寄り集まった。「汝らがわが肋にその手をさし入れ、わが手足にある釘あとに触れて、われがイスラエルの神にして全世界の神なること、またわれが世の人の罪を負うて一度殺されたるを知るために起ちてわれに近づけ」（Ⅲニーファイ11：14）

「人は各々みな近よって親しくこれを見、親しくこれに触れたからみな一せいによばわって、『ホザナよ。いと高き神の御名を讃美す』と言い、イエスの足下にひれ伏してイエスを拝した。」（Ⅲニーファイ11：16、17）

イエスはこのように親しく交わることによって、イエスが確かに予言通り復活されたという確信を、群衆に与えたもうたのである。証人のこれらの証や証拠はすべて、真理と光と、神と独り子に関する知識を求める人を信服させるに足るものである。人類は唯一の真の神とイエス・キリストに対する信仰を得るために、暗闇の中でもがく必要はない。また生命と救いの計画を信じるにあたっても同様である。キリストが約束された助け主すなわち、聖霊は、真理のみたまであり、キリストに従う者をすべての真理へと導いて下さる。聖霊は御父と御子を証する御方であり、教師であり、啓示を与える御方である。証人ペテロは、「予言は……神の聖者が聖霊に感じて語ったものだからである。」（欽定訳IIペテロ1：21）と述べ、パウロは「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』と言うことができない。」（Iコリント12：3）と言明している。また愛する使徒ヨハネは、「そのあかしをするものは、御霊である。御霊は真理だからである。」（Iヨハネ5：6）と教えている。

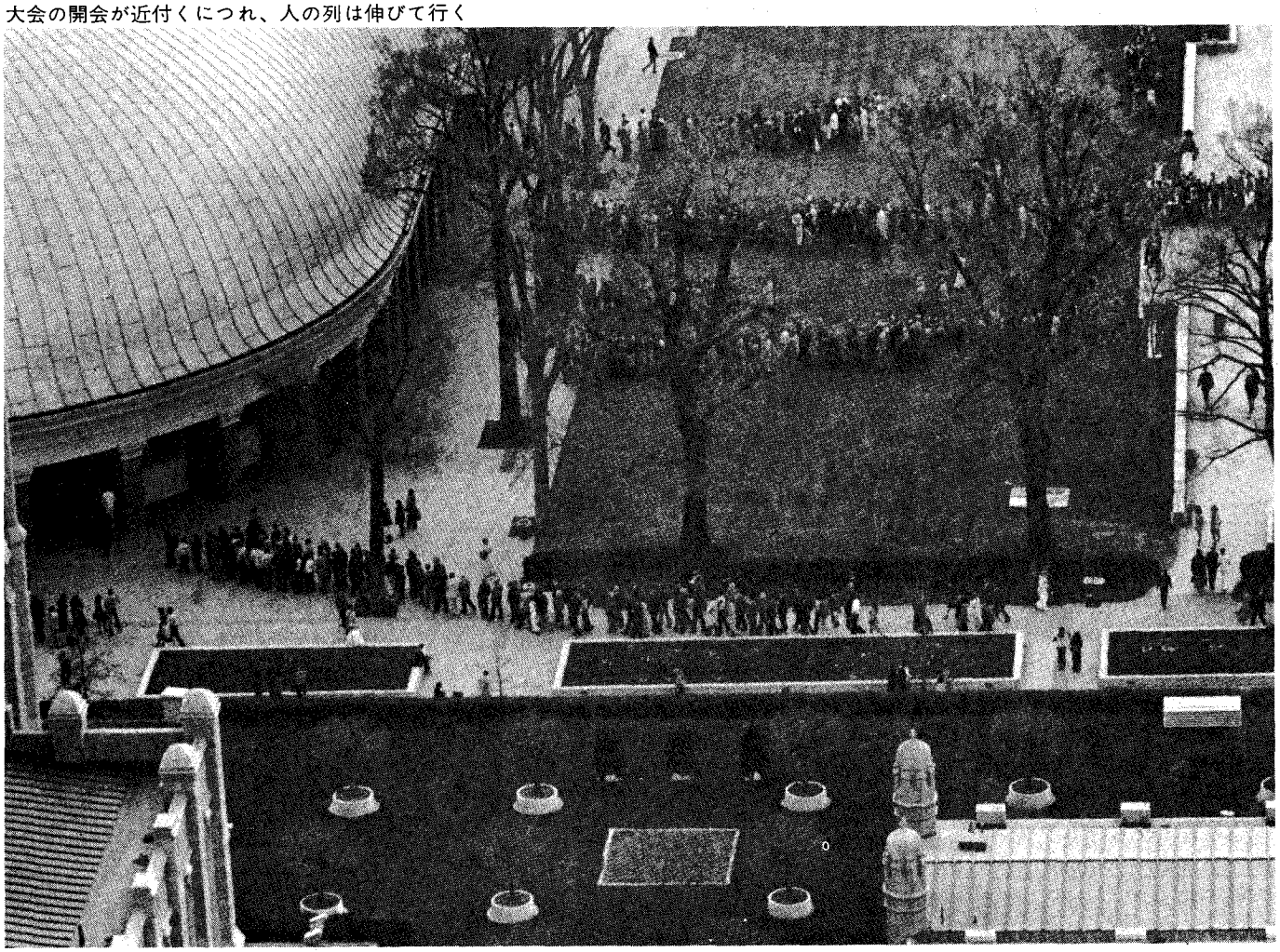
これらの聖句によれば、聖霊の証はふさわしい人すべてに与えられる。そして、祈りをもってこれを求める人に、知識、理解、信仰、真理に対する証を授ける力を持っている。モルモン経の歴史と教義を記した予言者は、次のような賢明かつ理解しやすい勧告、警告を与えている。「またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確かなものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。

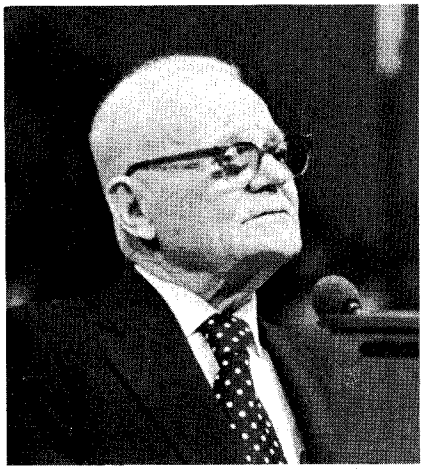
そして聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうかがあなたたちに解る。」（モロナイ10：4、5）

だれでも心から謙遜に、聖きみたまを通して神より下される光と知識と英知を求めるならば、この約束が確かなことを実感として味わうことができる。私は、この力を通して、唯一の真の神と、真に私たちの主であり、贖い主であり、救い主であるイエス・キリストとを知ることが永遠の生命であることを証申し上げる。

最後に、この末日の神権時代における最初の予言者の言葉を拝借したい。「さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』こと是なり。」（教義と聖約76：22）これらのことが真実であることを、主イエス・キリストのみ名により謹んで申し上げる。アーメーン。

大会の開会が近付くにつれ、人の列は伸びて行く





命の道

私たちがどこから来たか、またなぜここにいるのかを知ることは、日々の生活の導きとなる。

第二副管長
マリオン・G・ロムニー

愛する兄弟姉妹の皆さん、教会員、非教会員の皆さん。私たちの主、救い主イエス・キリストの1976回目の誕生日にあたる今日、また時満ちたる神権時代におけるキリストの教会の設立146回目の記念日にあたる今日、私は皆さんを、愛と友情の気持をもってお迎えする。

今日の話を始めるにあたり、私は心の中に3つの質問を思い浮かべている。私たちはどこから来たのか、なぜここにいるのか、そして、この試しの時期を経た後にどこへ行くのか、という質問である。人は皆、この質問に対する神からの答えを知らなければならないし、その答えによって導きを受けなければならない。

数ヵ月前のこと、私は飛行機の中で、極東からきたひとりの紳士と同席したことがあった。二言三言、冗談を言い合ったあと、その紳士は私の質問に応え、彼の仕事について話し始めた。それから、私の仕事について質問してきた。その結果、当然のことながら、福音の話合いになった。彼の母親はクリスチャンであったが、彼自身は無宗教だった。彼は神という概念を持っていなかったし、自分が前世に存在していたかどうか、死後も生き続けるのかどうかについて、何も考えていなかった。人生には何の目的もなく、ただ一生懸命働いて「適当な生活水準」に達すればよいということであった。基本的な福音の真理について少し話し合った後、彼はこう答えた。「そうした考え方をしていれば、確かに人生には目的がありますね。」

数週間後、私は彼に手紙を書き、パンフレットを少し送った。

彼の返事には、次のように書かれていた。

「まだあなたのことを覚えています。あなたと機上で交わした会話は、本当に楽しいものでした。……

私の方は依然として『目的』もなしに……一生懸命働いています。……あなたは、毎日働く真の目的は何か、また人生そのものの目的は何かについて、私の目を開かせて下さいました。……

話は変わりますが、私はまだ飲酒と喫煙を止めることができません。」私たちが話をしている間中、彼は酒ビンを持っていた。そのため、私が知恵の言葉のパンフレットを読むように勧めたのである。その答えがこれである。「私はこれまでのところ酒を止めることができません。しかし、私は、自分がどこから来たか、なぜここにいるのか、そしてこの試しの世を去ったときどこへ行くのかについては、決して忘れないでしょう。」

私たちが何者であるのかということについては、既に説明しておいた。パウロがアレオパゴスの評議所で、アテネの人々に言ったように、私たちは「神の子孫」（使徒17：28、29）なのである。私がそう言ったために、少し説明が必要になった。と言うのも、彼が指摘するように、私たちの肉体は、私たちの両親から受け継いだものだからである。この点に関し、私は彼に主が啓示の中で述べられたものを読むよう勧めた。「人間は霊と体とより成る。」（教義と聖約88：15）そして私は彼に、神の子孫なのは人の霊の方であると強調した。この説明で、次の説明がしやすくなった。つまり、神御自身も人間と同じように触知し得る骨肉の体と、霊体とから成る御方であるということ、神は復活し、栄光に満ち、昇栄した、全知全能の御方であり、また霊と力と影響力とを持った、遍在する御方であり、天地とその中にある万物を治めておられる御方であるということ、そしてすべての人の霊は文字通り「神より生れたる息子と娘」（教義と聖約76：24）であるということなどである。

こうした概念こそ、彼が手紙の中で「私は自分がどこから来たのか、決して忘れないでしょう」と書いたとき、心の中に感じていた概念なのである。

なぜこの地上にいるのか、という点に関して、私は彼に全く明かな事実をを交えて説明した。つまり、私たちは地上の両親から、成熟したら身体的には両親と同じ状態になれる能力を受け継いでいるが、これと全く同様に、私たちは、神の子供として、完全の域に到達したら天の両親と同じ状態になれるという能力も受け継いでいるのである。また、神が骨肉の体を持っている以上、私たち神の霊の子供も神のよう

な者になるためには、同じような体を持つことが必要であり、それは全く当然なことである。また、地上に来たのは、私たちがこうした体を得るための唯一の方法だからである。私はさらに彼に、この現世の試しの時期は、信仰によって歩みながら、私たちの天の両親のように完全と昇栄に達するにふさわしいことを証明する機会であることを説明した。

天上の大会議については、アブラハムの記した示現について説明した。この会議で福音の計画が提示され、この地球を創造する計画が立案されたのである。私たちは、アブラハムの言葉について考えてみた。

「さて、主はわれアブラハムに、この世に先だちて組織されたる英智たちを見せたまいたりき。……

これらの者（霊の状態であった）の中に、神の如き者（すなわち、イエス・キリスト）一人立ちて共に在りし者たちに言いけるは、われら降り行かん。かしこに空間あればなり。而してこれらの材料をとりて、これらの者の住まうべき地を造らん。

而して、これによりて彼らを試し、何にてもあれ、主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。

而して、最初の位を保つ者は更に附け加えられ、最初の位を保たざる者は、最初の位を保つ者と同じ王国にて栄を得ることなからん。而して、第二の位を保つ者は、とこしえに栄光をその頭に附け加えられん。」（アブラハム3：22－26）

もちろん、私たちは皆、ここで発表された計画が実行に移されたことを知っている。最初の位、つまり霊の位を保った霊たちは、約束された通り、この地上に人として誕生し、肉体を受けることにより「付け加えられ」ている。

また約束によれば、この第二（つまり、現世）の位を保った暁には、「とこしえに栄光その頭に附け加えられん」という。

こうした真理が私たちにはすでに明らかなように、彼にも段々と明らかになってきた。すなわち、私たちが地上へ来たのには、ふたつの目的がある。ひとつは、私たちの天父にかたどって骨肉の体を得るためであり、もうひとつは、私たちが主なる神の命じられる「すべてのことを為すや否やを見」られるためであった。

このような話をした結果、私の友人は「私は……自分がなぜここにいるのか……については決して忘れないでしょう」と書いてよこしたのであった。

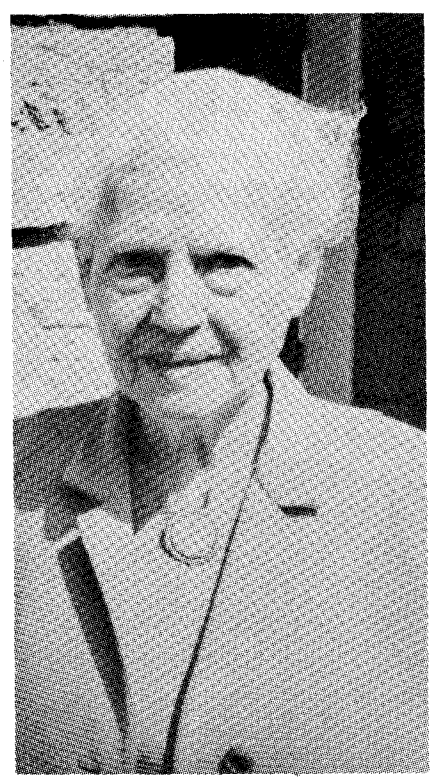
この地上における試しの時期は、無論死によって終止符が打たれる。死とは、肉体と霊が分離することである。

キリストが墓に打ち勝った結果、私たちは皆復活することになった。これが、人の贖いである。

復活の際に私たちがどんな体を受けるか、またそれからどこへ行くのかは、私たち次第で決まる。パウロは、復活に関して、次のような手紙をコリント人宛に書いた。

「天に属するからだもあれば、地に属するからだもある。天に属するものの栄光は、地に属するものの栄光と違っている。

日の栄光があり、月の栄光があり、



西ベルリンからの訪問者、
ゼーハーゲン姉妹

星の栄光がある。また、この星とあの星との間に、栄光の差がある。

死人の復活もまた同様である。」（Iコリント15：40－42）

もし私たちがこの地上で神の戒めを守るならば、私たちは神のみもとへ帰り、神と共に、永遠の生命と栄光のうちに過ごすことができる。しかし、戒めを守らなければ、はるかに低い地位に定められるだけである。それも皆、私たち次第である。

神から与えられた「良心に従い」私たちは自分の選択に応じて行動する自由がある。だが人は皆「審判の日に至りて自己の罪を負う。」（教義と聖約101：78）

古代アメリカの予言者は、この真理を、次のような美しい言葉で表現した。

「……人はみな……自由であり、およそ……人間のためになるものは何でも与えられる。そして……自由と永遠の生命とを選ぶか、または悪魔は万人が自分のようにみじめになることを求めているから、その束縛と力とに由って定まる束縛と死とを選ぶか、これは全く人間の自由である。」（IIニーファイ2：27）

古代アメリカのもうひとりの予言者も、次のような言葉で、死と復活の間の状態を説明している。

「さて死んでからよみがえる時までの霊の有様はどうであるかと言うに、ごらん、あらゆる人の霊はそれが善であっても悪であっても、この死ななくてはならぬ肉体を離れるとその霊に生命を与えたもうた神のところへ帰るのである。これは天使が私にお示しになった。（ここで話しているのはアルマである。彼は推測しながら言っているのではない。天使から教えられたのである。）

それから義しい人の霊はパラダイスととなえる幸福な有様、すなわち安息と平和な有様に入り一切のわずらいと憂いと悲しみとを離れて息む。

次に、悪人の霊は少しも主の『みたま』とかかわりがなく善いことよりも悪いことを好んだので悪魔が入ってそれらの者を支配していた。それであるから、これらの者の霊はそとの暗やみ

の有様に追い出され、泣き悲しんで歯がみをするのである。これはかれらが自分で罪悪を犯し、悪魔の意志に負けてその奴隷になった結果である。

これがすなわち悪人の霊の有様で、かれらは暗やみの中で大そう恐れおののきながら自分たちに下る火のような神の怒りを待っている。かれらは復活の時までこのような境涯に止まらなくてはならない。しかしこれと同時に義人はパラダイスに在る。」（アルマ40：11－14）

エデンの園において、神はアダムとひいてはそのすべての子孫に自由意志を授けた。これは霊界で享受していたものと同じものであった。

神はさらに次のように言われた。「われ主なる神は悔改めとわが生みたる独子の名を信ずる信仰による贖いとを宣ぶるために天使らを遣わすまで、アダムとそのすえをして肉体の死のために死ぬることなからしめたり。」（教義と聖約29：42）

アダムに始まり、その後福音の神権時代の度ごとに、主はイエス・キリストの福音を啓示された。それはまた、この世において平安と幸福を得、来たるべき世において永遠の生命と昇栄とを得るための唯一無二の道を成す原則と儀式である。

最後の神権時代は、1820年の春にその幕が切って落とされた。このとき、永遠の父なる神が、復活した御子、救い主イエス・キリストを伴って、御自ら親しくジョセフ・スミス（二代目）の前に御姿を現わされたのである。ニューヨーク州パルマイラの近くにある聖なる森での出来事であった。

それに続く数年間のうちに、人の救いと昇栄のために必要なイエス・キリストの福音の原則と儀式はことごとく、それを教え執り行なう権能と権威と共に啓示された。

そして1830年4月6日、今から146年前の今日、キリストのみ名を冠するキリストの真の教会、すなわち初期の教会と区別するために「末日聖徒」という名を冠した「イエス・キリスト教会」が、6名の会員によってこの地上に再び設立されたのである。今日、その会員数は300万人以上である。また現在、約23,000名の宣教師が、回復のメッセージを携えて世界各国に赴いている。

兄弟姉妹の皆さん、そして友人の皆さん。私は、自分がこれまで詳細に申し上げてきたことが真実であることを知っており、また皆さんに証する。私たちは神より生まれた霊と、それを包む死すべき骨肉の体とから成る人間である。

もちろん、皆さんと同じように私も、私たちがいずれは死ぬこと、私たちの肉体はもとの大地に帰ること、そして私たちの霊は霊界に帰ること、またキリストが墓に打ち勝たれたために、私たちが皆復活し、不死不滅の体を受けて大いなるエホバの法廷に立つこと、そして、そこで私たちが現世で従った律法に応じた栄光の段階に定められることを知っている。

私たちが何者なのか、なぜここにいるのか、そしてこの試しの世の後にどこへ行くのかを常に心に留め、その知識の光の中で生活するならば、私たちは必ずやこの世において平安を得、来たるべき世において永遠の生命を得るであろう。

この神聖な教えが、真実なものか、偽りに満ちたものかを決めるためには、イエスの述べた方法で試してみるとよい。ヨハネ伝に記録されているその部分を読んでみよう。

「祭りも半ばになってから、イエスは宮に上って教え始められた。

すると、ユダヤ人たちは驚いて言った、『この人は学問をしたこともないのに、どうして律法の知識をもっているのだろう』。

そこでイエスは彼らに答えて言われた、『わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。

神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう』。」（ヨハネ7：14－17）

だれひとりとして、主が啓示された教えや戒めを拒んでおきながら、真実であることを知らなかったという口実を作って、それを正当化することはできない。主が行ない、言われることにはすべて、その中に、それが真実であることの証拠があるからであり、また人は皆、その証拠を発見する方法を神から授かっており、自分自身でそれが真実であると知ることができるからである。

啓示には次のように書かれている。イエス・キリストの「『みたま』は世に来るあらゆる人々に光を与え、また『みたま』はその声を聴く全世界のあらゆる人々を照すなり。

この『みたま』の声を聴くすべての人は神に来る。」（教義と聖約84：46－47）

予言者リーハイは、息子のヤコブに同じような証を述べている。「人は皆善悪をわきまえることを充分に（『みたま』に聞き従うことにより）教えられている。」（IIニーファイ2：5）またモルモンも、兄弟たちに教えるにあたって同様の証をしている。「すべての人々はみな善悪の区別を弁えるためにキリストの『みたま』を授かる。」（モロナイ7：16）

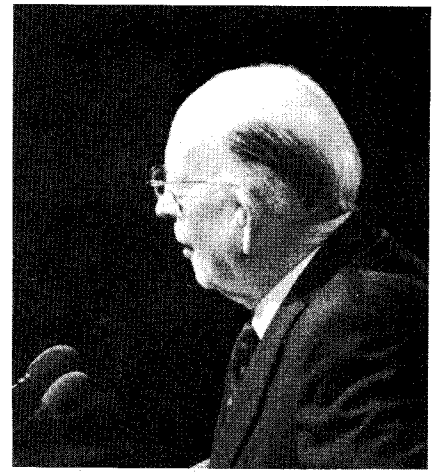
聖きみたまの証により、私たちがどこから来たのか、なぜここにいるのか、この世を去るときにはどこへ行くのかを私たちが皆知ることができるよう、また義しく生活することにより「とこしえに栄光その頭に附け加えられ」るよう、へりくだって、イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

☆　　☆

4月6日(水)　午前の部における説教

聖典の価値

聖典を研究する者には、天父が御自身の愛について知らせようとしておられることがわかる。



十二使徒評議員会会員
リグランド・リチャーズ

兄弟姉妹の皆様、私は皆様方と共にこの素晴らしい大会に出席し、僕を通じて主の教えを聞く特権を与えられて非常にうれしく思っている。また私が各地のステーキ部を訪問するとき、皆様が示して下さる友情と親切を心から主に感謝している。

今朝ここで皆様方の興味をそそり、しかも霊感を与えるには何を話せばよいだろうかと考えたとき、私は聖典の持つ価値について少しお話したらよいのではないかと思った。

聖典がなかったとしたら、私たちは天父について、またその独り子を私たちに賜わるほどの大いなる愛について何を知り得ただろうか。また、御子とその偉大な贖いの犠牲や、御子が私たちに与えて下さった福音、従うべき生活の模範について、また先程ロムニー兄弟が話された「私たちはどこから来たのか、なぜこの地上にいるのか、死後どこへ行くのか」という原則について、何を知り得ただろう。これらについて知らなければ、私たちは大海で舵も帆も、目標物も何もなく漂う船のようなものである。波間に漂っているだけで決して目的港へ着かないのである。

私は救い主のこの言葉が好きである。「聖典を調べなさい。あなたがたは、聖典の中に永遠の生命があると思って調べているが、この聖典は、わたしについてあかしをするものである。」(欽定訳ヨハネ5：39)「調べる」のに、永遠の生命よりも望ましいものがあるだろうか。永遠の生命とは、私たちが死後も愛する者と共に生活し、高められて、天父や聖められ贖われた天父の子供たちと共にいる愛する者たちと一緒に暮らせるということである。

私はまたキケロの言葉が好きである。キケロは、「私はつかの間の現世よりも長い来世にはるかに興味がある」と言っている。私もその考えを好ましく思う。私たちが皆、長い来世にこれまで以上の関心を持つなら、世界は変わるであろう。

私はエリザベス・バレット・ブラウニングの詩が好きだ。

地は天のものに満ち
しばは神の火に燃えている
しかし靴を脱ぐのはひとり
人は皆、黒いちごを摘んでいる
(“*Aurora Leigh*”　7：820)

現在、世の多くの人々は黒いちごを摘むことに満足しているが、周囲を見回し、主が創造されたこの驚くべき森羅万象に目を向けるとき、私たちは地球が人力を越えた天のもので満ちあふれていることを実感せざるを得ない。

だからと言って、死後の世界についてすべてが語られているわけではない。それは聖典の研究を通じて理解することである。

私は古代の使徒ペテロの言葉が好きである。ペテロは次のように言っている。「こうして、預言の言葉は、わたしたちにいっそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照らすまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい。

聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。

なぜなら、預言は昔、決して人間の意志から出たものではなく、神の聖者が聖霊に感じて語ったものだからである。」(欽定訳IIペテロ1：19－21)

聖典は聖霊を通じて与えられるものであり、人間の理性によって解釈すべきものではない。また、決して自分勝手に解釈すべきではない。私たちが聖典をその言葉通りに信じることができるならば、私たちは、世にひとりとして理解し得る者のいない多くの真理を世の人々に提示することができる。

私はモルモン経も好きであるが、その中の3箇所で、私たちはイザヤの予言を研究するように言われている。イザヤの予言はひとつ残らず成就されるはずであり、予言が事実となって現われるときに、人々はその意味を知るであろう。

ここで、イザヤの予言について取り上げたいと思う。これは私の考えであるが、イザヤは自分が生きていた時代以上に私たちの時代のことをよく知っていたのではないだろうか。イザヤはこの神権時代に起こる非常に多くの事

柄を先見した。例えば、私がいつも興味をひかれる次の予言がそれである。バビロンが世界最大の都市であった当時、イザヤは、バビロンは滅ぼされて野の獣と地をはう生き物が住む所となり、アラビア人も天幕を張ることはないと予言した。そして再建されることがないと言っている。（イザヤ第13章参照）　ところが今日、このイザヤのように、大都市のひとつが滅ぼされ、再建されることはないと断言している人がだれかいるだろうか。ともあれ、バビロンは今日に至るまで再建されていないのである。

きょうは皆様方と共にイザヤ書第29章について少し考えてみたいと思う。私がこの章を理解しているように、イザヤの予言を理解し得た者はこの教会が組織され、モルモン経が現わされる時までこの地上にはだれひとりとしていなかった。私たちはモルモン経を通じて、世の人の理解し得ないイザヤの予言を理解することができる。

29章の最初の部分を少し読んでみたい。

「ああ、アリエルよ、アリエルよ、ダビデが営をかまえた町よ（現在のエルサレム。別名）、年に年を加え、祭をめぐりこさせよ。（言い換えれば、来るべき時代）

その時わたしはアリエルを悩ます。そこには悲しみと嘆きとがあって」（イザヤ29：1、2）　これはエルサレムの滅亡そのものを指す。皆様方はイエスが十二使徒たちに話された言葉を覚えておいでだろう。イエスは使徒たちに、神殿は破壊され、その石一つでもくずされずに他の石の上に残ることはないであろう、そして畑のようにすき返されるであろうと言われた。（ルカ21：5、6参照）

イザヤはそのことから他の一大中心地の滅亡に目を転じ、「アリエルのようなものとなる」（イザヤ29：2）と言っている。すなわち、イザヤはエルサレムの崩壊のほかに一大中心地の滅亡を見たのである。世界の中でその中心地がどこであったかを言い得た者は、モルモン経が世に現わされるまでだれもいなかった。次にイザヤは、この別の民を敬意をもって見ている。「わたしはあなたのまわりに営を構え、やぐらをもってあなたを囲み、塁を築いてあなたを攻める。

その時あなたは深い地の中から物言い、（このことを理解していただきたい。深い地の中から物言いとは、生きた状態でのことではなく、あなたの話が記録されてそれが後になって出てくるということである。）低いちりの中から言葉を出す。あなたの声は亡霊の声のように地から出、あなたの言葉はちりの中から、さえずるようである。」（イザヤ29：3、4）

この世界で、モルモン経の出現のようなことがほかにあっただろうか。金版から翻訳されたモルモン経には、アメリカ大陸の古代住民の記録が1千年以上にわたって記されているのである。次にイザヤは第6節で次のように言っている。「すなわち万軍の主は雷、地震、大いなる叫び、つむじ風、暴風および焼きつくす火の炎をもって臨まれる。」

ここで、その予言がいかに文字通り成就されたかを見るためニーファイ第三書を読むことにしよう。

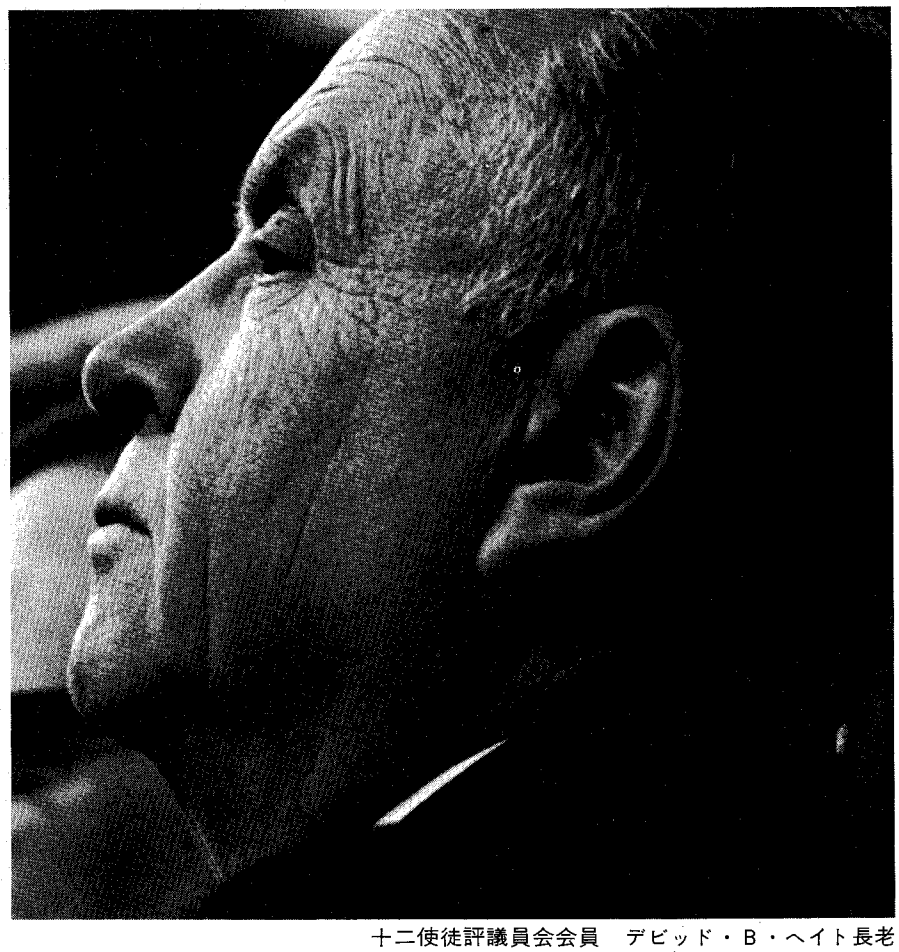
「第三十四年一月四日、いまだかつて全地にあったこともないすさまじい嵐が起った。恐ろしい大風と恐ろしい雷とがあったために全地はまさに裂けるばかりに震動した。

また全地にかつてなかったほどの激しい、空も裂けるほどの電光があった。

ゼラヘムラ市は光を発し、モロナイ市は海の深みに沈んでその住民は溺れ、土が上げられてモロナイハ市の上に落ちたので、この都市のあった所に大きな山ができた。

南方の地には恐ろしい大破壊があった」（IIIニーファイ8：5－11）

この後の節では崩壊の様子が詳しく述べられている。モルモン経の民が住んでいた中南米の土地を地中深く掘り起こして、都市の廃虚やセメント造りの街道を発見したとしても何ら不思議



十二使徒評議員会会員　デビッド・B・ヘイト長老

ではない。

イザヤは同じく第29章で次のように述べている。「それゆえ、このすべての幻は、あなたがたには封じた書物の言葉のようになり、人々はこれを読むことのできる者にわたして、『これを読んでください』と言えば、『これは封じてあるから読むことができない』と彼は言う。」（イザヤ29：11）

この予言は、マーテン・ハリスが金版から書き写したエジプト文字を持って、ニューヨークのアントン教授のもとに行ったとき成就されたのである。アントン教授は、翻訳は正確であるという証明を与えると、マーテン・ハリスにその金版を持って来て自分に翻訳させるように要求した。そこでマーテン・ハリスが「金版は封じられている」と告げると、アントン教授はかつてイザヤが語ったその言葉で、「私は封じてある書物を読むことができない」と答えたのである。私が申し上げたいのは、ペテロが指摘したように予言は自分勝手に解釈すべきものでないとすれば、イザヤ第29章のイザヤの予言を解釈できる者は世の中にだれひとりいないということである。

イザヤは同じ章の中で、自分の見た示現はすべて亡霊の声のようにちりの中からささやくと述べている。イザヤはこの民とその滅亡について、また民の記録がちりの中から言葉を出すように出現することについて示現を見たのである。マサチューセッツ州のニューベッドフォードで伝道の業に携わっていたとき、私は長老教会の財政を担当している人に1冊のモルモン経を差し上げたことがある。私はその人が読み終えたと思う頃、感想を尋ねてみた。「その本をお読みになって、それが人人を惑わすために書かれたものであるとお思いになりますか？」

「とんでもないです、リチャーズさん。私はこの書物を読んで、新約聖書を読んだときと同じように、霊的に高められるものを感じました。」そう彼は答えた。

イザヤはまた次のように語っている。「その日、耳しいは書物の言葉を聞き、目しいの目はその暗やみから、見ることができる。」（イザヤ29：18）

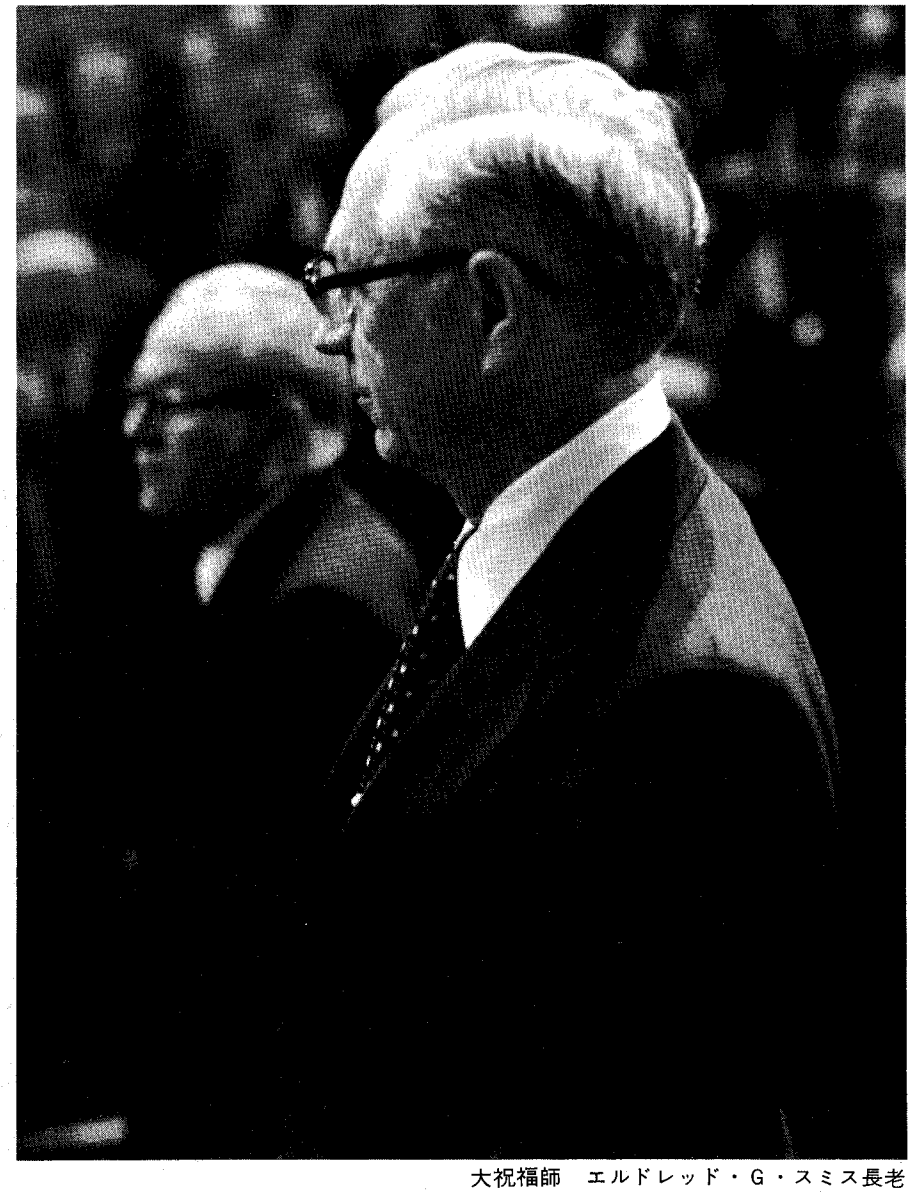
盲人が点字によって書物を読むことができるようになるとは、当時のイザヤの博学をしてもわからなかったのである。

イザヤはまたこのようにも述べている。「この民は口をもってわたしに近づき、くちびるをもってわたしを敬うけれども、その心はわたしから遠く離れ、彼らのわたしをかしこみ恐れるのは、そらで覚えた人の戒めによるのである。

それゆえ、見よ、わたしはこの民に、再び驚くべきわざを行う。それは不思議な驚くべきわざである。彼らのうちの賢い人の知恵は滅び、さとい人の知識は隠される。」（イザヤ29：13、14）

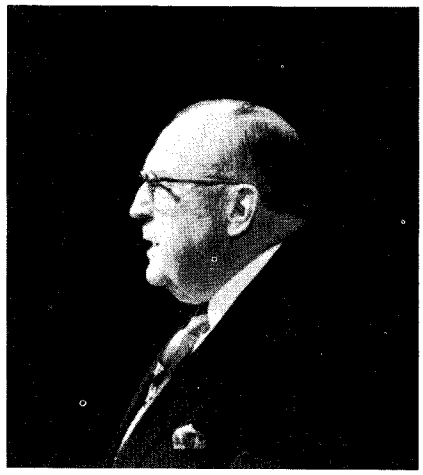
私は主イエス・キリストの使いとして皆様方に、私たちはその不思議な驚くべきわざを行なっていることを証申し上げる。きょう私が引用した予言は、私たちが心の中にしまっておく限り、世の人はだれも理解できないであろう。

この神権時代に福音の回復を通じて与えられた驚くべき真理と、聖典に対する知識を人々に伝えるように願うものである。皆様方の上に祝福があるように、イエス・キリストのみ名によりお祈り申し上げる。アーメン。



大祝福師　エルドレッド・G・スミス長老

モルモン経



この古代の記録は、イエス・キリストとその救いの計画を証している。すべての人々に、この記録を読むよう勧めるものである。

十二使徒評議員会補助

ジェームズ・A・カリモア

愛する兄弟姉妹、今日私は皆さんに、モルモン経についてお話ししたい。

しばしば私は、果たしてこの偉大な記録を私たちは心から真剣に受け入れているだろうか疑問に思うことがある。教会初期の頃、会員たちはモルモン経を非常に軽率に扱っていたようである。そのことで主は、次のような警告と叱責を下された。これは当時と同様現代にも適用されると思われる。

「而して汝らの心は過ぎにし時に暗かりき。そは汝らの不信仰なるため、また汝らが受けたるものを軽んじたるためなりき。

すなわち、その虚栄と不信仰とは全教会をして咀いを受けしめたり。

而して、この咀いはシオンの子らすなわちすべての子らの上に留りたり。

されば人々悔い改めて、新なる誓約すなわちモルモン経と先にわが与えたる以前の誓約とを思い起して、ただにこれを口にするのみならず、またわが誌したる所に従いてこれを実行するまで依然この咀いの下にあるべし。

すなわち、これ御父の王国に適う実を結ばんためにして、然らざればシオンの子らの上にはなお下るべき一つの懲しめと審き残るべし。」(教義と聖約84：54－58)

モルモン経はただ単なる本ではない。それは神の天使よりジョセフ・スミスに手渡された金版から、神の賜と権能とによって翻訳されたものなのである。筆記者オリバー・カウドリは次のように述べている。

「私は予言者ジョセフ・スミスがウリムとトミムによって翻訳し口述するままに、(若干のページを除いて)モルモン経をすべて自ら筆記した。」(*Millennial Star*　「ミレニアル・スター」　21：544)

モルモン経は、このアメリカ大陸の民のもとをキリストが訪れたもうたことを述べている。またこの書物は聖書を確証し補足しており、聖書の真実性を証明している。モルモン経の主たる目的は、イエス・キリスト御自身とその使命について述べることである。それはユダヤ人と異邦人に対し、イエスがキリストであることを確信させるためのものである。

モルモン経は予言の書であり、その出現は聖書中の多くの予言を成就するものである。

さらにこのモルモン経は、それを読み、次いで真実なものかどうかを神に問うことによって、その真実性を確かめるようにという忠告と共に世に与えられているのである。ニーファイ人の記録を結ぶ前に、その民の最後の予言者であったモロナイは、末日にこの記録を読む人々に対して、次のように記している。

「またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確なものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。」(モロナイ10：4)

なんと力強いチャレンジであろう。

ウイリアム・E・ベレット兄弟から、1938年にニューヨークで開催された次のような興味深い会合について話を聞いたのでここに引用したい。その会合とはニューヨーク市読書クラブのことであり、話し手は当時農務長官のヘンリー・A・ウォレス議員であった。そして話のテーマは「19世紀の良書」であり、彼の所見は次の通りであった。

「19世紀に出版された著作物のうち、宗教関係で最も偉大な書物はモルモン経である。この本はアメリカ全人口のわずか1パーセントにしか読まれなかったが、そのわずか1パーセントの人々に国の歴史を変える程の影響を与えた。」

ベレット兄弟はさらに次のように述べている。

「モルモン経は迫害の嵐を巻き起こしたが、それはまさに予言者ジョセフ・スミスの言葉通りであった。モルモン経は世の人々を、それを受け入れる者と敵対する者とに二分してしまった。アメリカ国内では他のいかなるものよりも、このモルモン経に敵対する本が一番多く出版されているようである……教会本部ビルの図書館には1,500冊以上の反モルモン蔵書があり、どの本にもモルモン経に敵対する文章が記載されている。1,500人の著者からなる

1,500冊の本がである。しかし、それら1,500冊のうち再版されたのはわずか2冊であったと思う。」（ウイリアム・E・ベレット、*What is the Book of Mormon ?*「モルモン経とは」）

今日、教会に対する批評家たちが、モルモン経は偽りの書であると主張することはほとんどない。モルモン経自体がその真実性を証明してきているのである。

Books That Changed America「アメリカを変えた本」という書物の著者であるロバート・B・ダウンズは、自選25書の中にモルモン経を含めている。その解説の中で彼はこう述べている。

「モルモニズムの歴史を通じて、この教会の最も強力でかつ効果的な武器はモルモン経である。」（ロバート・B・ダウンズ　「アメリカを変えた本」）

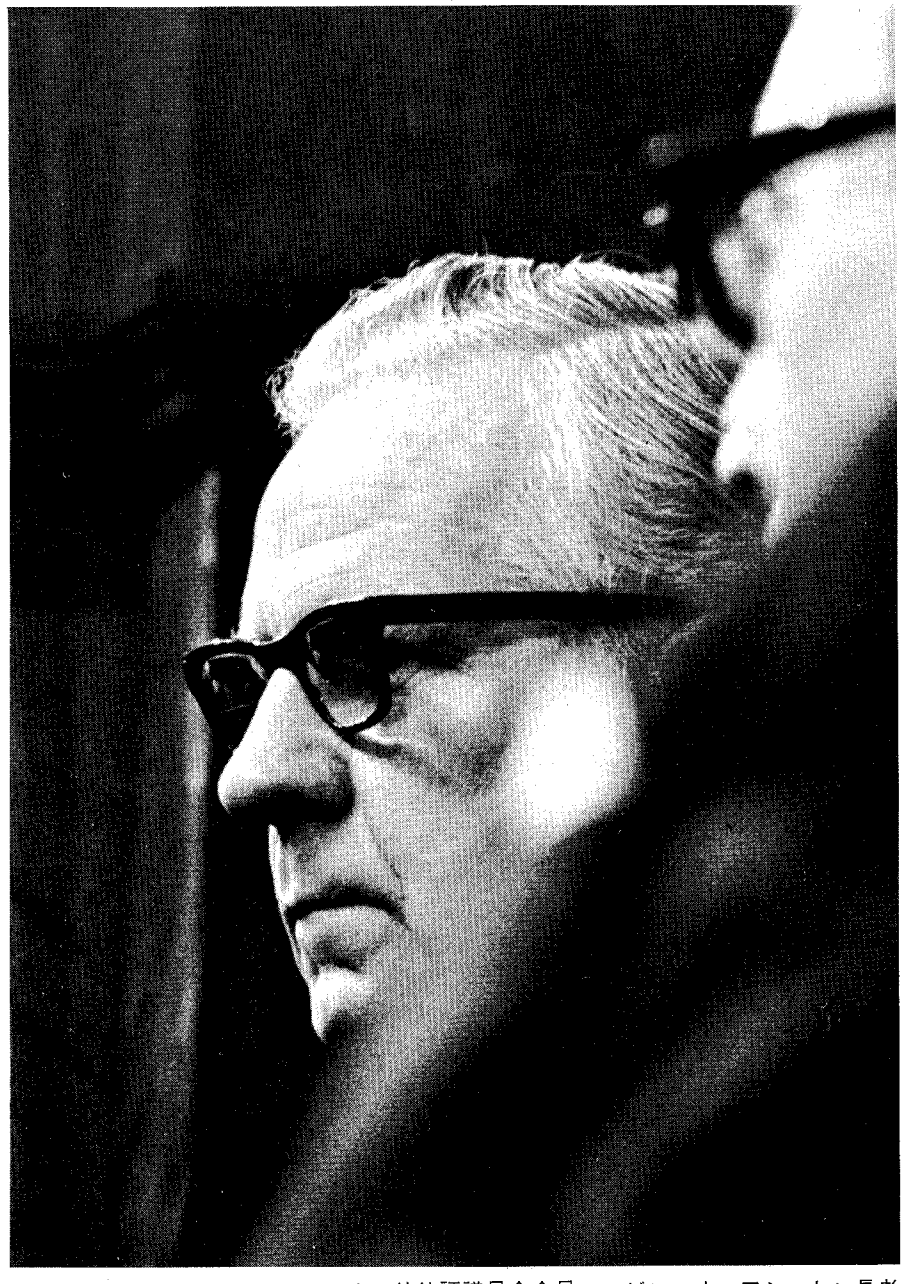
モルモン経は力強い本なのである。

たくさんの人々がモルモン経を読んでいる。モルモン経を読む人々は、それまで活発に集っていた教会を離れ、また時として両親や家族のもとをさえ去った。この書を信じる信仰、この書が教える真理はまことに力強く、人々はこの教会に入るなら勘当するとさえ言われても、なおこれを信じ続けたのである。そして彼らは仕事をやめ、故郷をあとにした。多くの人々が、船に乗るために持ち物すべてを金に換え、ソルトレーク盆地に向かって徒歩で大平原を渡り、最も苛酷な状況の下で生き抜いたのである。

予言者ジョセフ・スミスは日記にこう記している。

「私は兄弟たちにこう語った。モルモン経は地上で最も正確な書物であり、私たちの宗教のかなめ石であって、人がその教えに従って最も神に近づくことのできる書物である。」（*History of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史」4：461）

私たちは聖書が神のみ言葉であると信じている。しかし私はもしモルモン経と現代の啓示がなければどうなるか、しばしば宣教師に尋ねる。聖書だけでどのように求道者にアプローチできるだろうか。予言者ジョセフ・スミスはこう答える。



十二使徒評議員会会員マービン・J・アシュトン長老

「モルモン経と数々の啓示を取り去るならば、私たちの宗教はどうなるだろうか。全く無意味になる。」（「教会歴史」2：52）

もしモルモン経が真実でないとするならば、ジョセフ・スミスは神の予言者ではなかったことになる。皆さんに証したい。モルモン経は真実であり、教義と聖約ならびに高価なる真珠、その他に訳されている啓示は真実であり主の啓示である。世に与える私たちのメッセージは、まさに神が生きたまい、イエスがキリストであり、神がこの神権時代に姿をお現わしになり、そして鍵と権能と共に福音を回復なさったということにほかならない。何にもまして会員の信仰と証を強め、真理を求めて止まない誠実な人々の心にささやきかけるのは、この偉大なモルモン経なのである。

モルモン経には特別な力がある。人がそれを読むとき、その真実性に対して静かではあるが強い確証を与えるの

である。

パーレー・P・プラットは次のように言明している。

「モルモン経を読んでいたとき、主のみたまが私の上にとどまった。そして私は心に光明を得、判断力が増し、真理を強く認識した。その結果、闇と光とを識別するように、この本が確かに真実であることを知ったのである。」(*Journal of Discourses* 「説教集」5：194)

ブリガム・ヤングは、モルモン経を読んだときにこう語った。

「この目で見、この指で触れることが紛れもない事実であるように、それが真実であることを知った。」(同上3：91)

非教会員の手にあって、この本は人の気づかぬ間にも力を及ぼすのである。このことに関して経験をふたつ紹介したい。

最初はジェームズ・モンロー・ハスティングズとその妻エディーについてである。ハスティングズ氏は不況下の1930年代初頭、ニューメキシコでバプテスト教会の牧師をしていた。ある信仰復興伝道集会の後、彼はある人からモルモン経を渡され、家に持ち帰って本棚の上に置いておいた。そして5年程経ってからそれを手にし、読み始めたのである。彼は読み終えるとすぐ家族に、それが真実であると証した。そして次の週末、すぐさまアリゾナ州スプリングビルに向かった。もっと多くのことを教えてくれる教会員を見つけるためにである。こうしてわずか数週間後に、彼と家族はバプテスマを受けたのである。

このハスティングズ兄弟姉妹とその家族は、1939年の中頃、オクラホマの小さな支部にやって来た。そこに住んでいた彼の兄弟や家族を改宗するために引っ越して来たのである。そしてそれが実現すると、他の家族に教えるため、また別の地に引っ越して行った。

もうひとつの経験は私の良き友人に関するものである。彼は職場のひとりの同僚にモルモン経を渡した。しかし間もなくその同僚は会社を辞めたため、その後数年間、音信不通であった。そして再び会ったとき、その同僚はこう言った。

「多分、君は僕にくれたモルモン経がその後どうなったか知りたいだろうね。僕はまだ読んでいないんだ。でも家族の何人かが読んでね、今じゃ19人が君の教会の会員だよ。

あの日、君にもらったモルモン経を家に持ち帰って本棚にのせておいた。ところがある夜、子守りに来た母が見つけて読み始めてね、私たちが帰宅するなりこう言ったんだよ。『この本は真実ですよ』って。これが発端となって改宗者が出たってわけなんだ。」

主はジョセフ・スミスにこう語られた。

「されど今の代の人々には、汝によりてわが言を与うべし。」(教義と聖約5：10)

モルモン経と末日の啓示はジョセフスミスを通してもたらされたのである。モルモン経はキリストを証している。キリストの新しい証人なのである。ニーファイの言葉に耳を傾けてみよう。

「私が弱い身で書いた言葉は、私の民のために大いに力強いものになるであろう。この言葉は善を行えとかれらに説き勧め、……イエスのことを教え、またイエスを信じて終りまで堪え忍べと説き勧めている。

私の書いた言葉は真理をはっきりと語って罪悪をきびしく咎めるから、悪魔のような精神の者でないかぎりは、誰も私の書いた言葉を怒らないであろう。

……この言葉はキリストの言葉であってキリストがこれを私に伝えたもうたのであるから、もしもキリストを信ずれば必ずこの言葉も信ずるようになる。この言葉は善を行えとあらゆる人に教え勧めている。」(IIニーファイ33：4、5、10)

ニーファイ人は復活された主と直接にまみえている。彼らを訪れたもうた主は、彼らを御自分の方へ呼び寄せて言われた。「汝らわが肋にその手をさし入れ、わが手足にある釘あとに触れて、わがイスラエルの神にして全世界の神なること、またわれが世の人の罪を負うて一度殺されたるを知るために起ちてわれに近づけ。

群集はこれを見てその証をしたが、一同一人のこらず実際に見また聞いたのである……。」(IIIニーファイ11：14、17：25)

モルモン経はジョセフ・スミスを証している。予言者リーハイは、末の息子ヨセフに語った言葉の中で、神がエジプトへ売られた偉大な先祖、ヨセフと交わされた誓約を引用しいてる。この類まれなる聖見者、エジプトのヨセフは、その子孫から義しい枝が起こされ、また末日にヨセフの子孫にメシヤが現われたもうという約束を主から受けた。主はヨセフの残りの子孫のために、モーセのような立派な聖見者を起こすと約束されたのである。

「ヨセフはまことに証明して言った『主なるわが神は、一人の聖見者を起したもう。これは私の子孫を教え導く優れた聖見者である』と。

彼はわが命ずる仕事を為すが故に、わが目の前に於て彼を大いなる者となさん。

この聖見者はモーセのごとく偉大な者となるべし。

しかしてかの聖見者には私と同じ名がつけられ、またその名は彼の父の名をとってつけられる。また主がこの聖見者の手によって起したもうことは、主の能力によってわが民を救うものであるから、この聖見者は私に似た者であろう。」(IIニーファイ3：6、8、9、15)

末日の予言者ジョセフ・スミスはこの予言を成就した。

モルモン経はまさしくイエス・キリストと、人類の救いの計画を証するものである。また、イエス・キリストがジョセフ・スミスを通して、この時代に再び主のみ業を打ち建てられたことをも証している。私たちはすべての人々に対し、モルモン経を読み、その力強いメッセージを学ぶよう勧めるものである。

最後に、この福音とモルモン経が真実であることを証したい。イエス・キリストのみ名によって。アーメン。

個人の証

真理に対する私たちの証は、福音の教えを宣べる上で大きな力となる。

十二使徒評議員会補助
ジョセフ・アンダーソン

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員のひとつの特性は、個人の証である。忠実な教会員が、いつでもどこでも機会あるごとに、み業が真実であるという信仰と知識を証することはきわめて当然のことである。教会に加入する人は説かれている教義が真理であるという確信を得、私たちの宣言する福音が回復された生命と救いの計画であることを理解していただきたい。またこの教えが何ら目新しいものではないことを理解して欲しい。この福音は、主と使徒たちが地上におられた「時の絶頂の神権時代」にその鍵と権威を持っていた人が、天使として地上の人間に回復した永遠の福音であり、鍵であり、原則、教えであることを確信していただきたい。

論理にのみ頼りがちな人は、五感で立証されないことはなかなか信用しない。パウロは次のように語ったとき、そのことを考えていたのでないだろうか。「いったい、人間の思いは、その内にある人間の霊以外に、だれが知っていようか。それと同じように神の思いも、神の御霊以外には、知るものはない。」（Ⅰコリント2：11）

イギリスの詩人、ジョン・ドライデンはこう歌った。

理性の心に対する覚束ない役割は
独り疲れてさ迷う旅人に対する
月や星の借りものの光に似ている。
高いところでは空を仄かに照らし出すそれらの天体が
低い地上の我々を照らさないように、
理性の薄暗い光が与えられたのは
我々の疑問を明かにするためではなくて、
一段と明るい光へ我らを導くためなのだ。
輝かしい日の神が大空へのぼるとき、
夜の薄暗い光体がたちまち消え去るように、
理性も宗教の前では色青ざめ
超自然の光を浴びて融けて消え去る。

（ジョン・ドライデン *Religio Laici* 「理性と啓示」 上田勤訳）

レーマン人に別れを告げるモロナイの証が、モルモン経に記録されている。

「またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確かなものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。

そして聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうかがあなたたちに解る。

あなたたちも聖霊の力によってキリストのましますことが知れるから、私はあなたたちが神の御力を拒まないことをすすめる。神は今日も明日もいつまでも世の人の信仰の強い弱いに応じて御力をもって働きたもう。」（モロナイ10：4、5、7）

数年前にある話を読んだことを思い出す。ソルトレーク・シティーのある宗派の高名な聖職者が、今は故人となったが生前に、末日聖徒イエス・キリスト教会の教会員とその生活の標準には尊敬と賞賛の気持を感じるが、証の仕方は好きでないと語ったという。

主の弟子たちは主が多くの偉大な奇跡を行なわれるのを見たというのに、主である御方について、本当に予言者たちの告げたキリストかどうか、心に何かしらの疑いを抱いたことが時々あった。しかしあるとき、次のような出来事があった。「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、『人々は人の子をだれと言っているか』。

彼らは言った、『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります』。

そこでイエスは彼らに言われた。『それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか』。

シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです』。

すると、イエスは彼にむかって言われた、『バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である』。（マタイ16：

13－17）

御父からペテロに啓示として下されたこの証は、年を経て私たちに伝わり、いかにすればイエスがキリストであることを知ることができるかを示す指標となっている。私たちは同じようにして、回復された福音が真理であり、その同じイエスが今も生きておられること、またイエスが私たちの贖い主、救い主であることを知り、証することができるのである。このことは神により、聖霊の力と賜を通じて人に啓示される。なぜなら、この方法によってこそ、私たちは知ってしかるべきすべての事柄を知ることができるからである。この証の源は、キリストの教会の土台となる啓示の岩であり、地獄の門もそれに打ち勝つことはできないのである。救い主が指摘されたように、人々にそのことを表わすのは血肉ではなく、天の御父からの啓示のみである。

このみ業が真理であるという私たちの証は特異であり、それは世に福音のメッセージを宣べる上で、恐らく一番の力の源となるものであろう。この証は固く、真実でなければならない。啓示の岩の上に立っていなければならない。教会にあびせられることもあろう批判の風や迫害の嵐に耐えられるだけのものでなければならない。それは義にかなった生活によって堅くされなければならない。私たちが主イエス・キリストの福音について理解を深めてゆくとき、人生の目的についての理解は増し、神の代表者たちに対する信仰は胸にふくらんでいく。

回復のメッセージを携えて世に出で行く教会の宣教師は、この末日のみ業が真実であることを証する。この証は単なる言葉だけであってはならない。真実の確信でなければならない。そしてそれが心と魂の奥底から出るとき、証には力があり、聞き手はおろそかにはできないという思いを持つ。なぜなら、その証は聖霊を伴うものだからである。

エマソンは、「我々の神学の欠陥は、聖書が閉ざされた書であり、霊感の時代はもはや過去のものであるという主張にある」と述べた。

この教会の力は、過去の神権時代の予言者や使徒たちだけに頼りもしなければ、現在の教会幹部の証のみにかかっているのでもない。この教会の力は、教会員の証と信仰にある。研究と真心からの祈りによって求めるならば、そして主が与えて下さった戒めを守るならば、教会員はだれでもその証が得られるのである。そうして得られた証は、このみ業が真実であるという知識になる。またそれは義にかなった生活と無私の奉仕によって日に日に強く成長し、怠慢や罪によらない限り、弱くなったり壊れたりすることの決してない知識となる。

デビッド・O・マッケイ大管長はそのことについてこう語っている。「イエス・キリストの福音に対する証は、世の道に従ってではなく、福音の原則に忠実であってこそ得られる。私たちの人生で最も尊くかつ最も貴重な賜である。

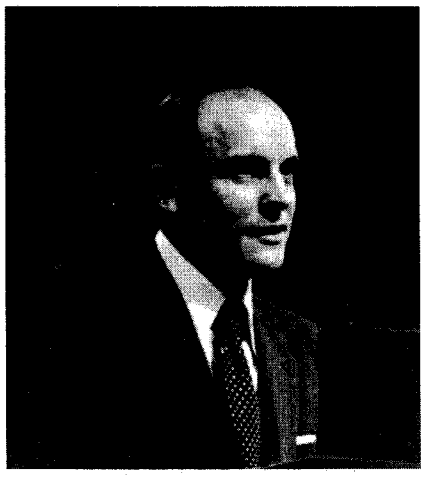
つかの間の楽しみは得られよう。しかし喜びを見出すことはできない。幸福を見出すことはできない。幸福は、狭くはあっても、細くはあっても、永遠の生命に導くあの常道に通ってこそ見出せるのである。

それがあなたへの私の証である。時には障害がある。迫害がある。自分を滅することもある。絶えず誘惑に、それらの世間的な観念にさらされて、それを乗り越えなければならないために涙を流すこともある。そして、しばしば犠牲と見えることもある。しかし、それはただ一時のものである。主は求めて来る者をお見捨てにはならない。あなたの考えているようにではないかもしれないが、確かに来る。主は確かに、あなたへの約束を果たされる。』

マッケイ大管長は証と自分の証について、さらに述べている。「しかし、この業が神のみ業であるという証は、大きな栄光に満ちた示しによって来たのではなく（彼は自分に与えられた特別な示しについて語っている）、神のみこころに従順であることによって来たのである。これは次のようなキリストの約束にかなっている。『神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。』」（デビッド・O・マッケイ *Treasures of Life*「人生の宝」p.229－231）

イエスはキリストであり、現に生きておられ、御父の肉において生みたもうた独り子、霊における長子であり、私たちの贖い主、救い主であり、生命と救いの永遠の計画の創始者であること、またジョセフ・スミスの謙遜な祈りに応えて（ジョセフが14歳の少年であったとき）、天父と御子イエス・キリストが骨肉の体をもち、1820年ニューヨーク州パルマイラ近郊の森でジョセフに現われたもうたこと、ならびにジョセフの語るその経験が真実であること、これらの証が、1830年に教会が組織されて以来、何百万という末日聖徒の胸に聖霊の賜と力によってもたらされてきた。これらの人々は、ジョセフ・スミスが、地の基の据えられる以前から主のみ手に使われ、この時満ちたる神権時代にイエス・キリストの福音の回復の道を備えるべく選ばれた生ける神の予言者であることを、聖霊によって告げられたと証してきた。またさらに、地上の神の王国につける種々の鍵、特に権威と責任を人に授ける鍵を、現在の予言者であるスペンサー・W・キンボール大管長も含めて、予言者ジョセフ・スミスに続く主の教会の予言者たちが保持してきたことを証してきた。これは、言い逃れる者がないように回復された福音のメッセージを全人類に伝えるためのものである。

私はこの地上の教会の指導者たち、すなわちこの神権時代の予言者、聖見者、啓示を受ける者たちと50年余り交際し、その間、主が僕たちに霊感と啓示を授けておられることを証してきた。またさらに、主のみたまがそれらのことは真実であると私の心に証したことを私自身証してきた。証申し上げたい。私たちが自分の永遠の霊を神の聖きみたまの促しに一致させるならば、神のみ手が見えるようになり、耳には神のみ声の至聖のささやきが聞こえることであろう。イエス・キリストのみ名によって、アーメン。



人の価値

組織の価値は、それを構成する個人の価値によって決まる。

七十人第一定員会会員
チャールズ・A・ディディエ

兄弟姉妹の皆さん、この場を借りて、ヨーロッパ西部地域の発展と、またベルギー、フランス、イタリア、オランダ、スペイン、スイスに住む会員の愛と証をお伝えしたいと思う。

前回の引越しで不要なものを処分していた折に、学生時代に使った国際法のノートを見つけた。その表紙には、ノーベル平和賞の受賞者であり、国際連盟の提唱者のひとりであったアリスティード・ブリーアンドの言葉が大文字で書いてあった。「組織の価値は、それを構成する個人の価値によって決まる」　私は会社や政府などいろいろな組織で、さらに教会でも、この真理について幾度となく思いを巡らしてきた。これと全く同じことが国家に対しても言える。国家の価値は国民の価値にに左右され、また国家の繁栄と衰退は国民の望みにかかっている。

単一の国民、国家で、世にこれほど大きな貢献をしてきた例は歴史上類を見ない。それは、民の義にかなった望みがあったればこそである。今日ここで神の霊感を受けて制定された憲法を持つ国、アメリカの建国200年を心から祝したい。またその国民の過去、現在、未来について皆さんと共に主を賛えたいと思う。

子供の頃、祖父のひざの上で、アメリカ人がいかに度量の大きい国民であるか聞いたことがある。祖父はやさしい声で、私たちが第一次世界大戦後の飢餓状態からどのようにして救われたかを話してくれた。戦争終結の日、私は初めて装甲車に乗ったアメリカ兵を見た。アメリカ兵は私に何か食べ物をくれた。（それがコーンビーフであることを知ったのは、ずっと後になってからである。）　こうして、初めて彼らの愛を教えられたのであった。

十代のときに、私はアメリカの犠牲について考えさせられた。私は自転車に乗って家からそれ程遠くない墓地に行き、整然と並んだ何千もの十字架を見た。それは、私たちが自由の内に生活できるようにとその命を投げ出した人々の墓標であった。また学生時代には、マーシャル・プランのお陰で、ヨーロッパ諸国がいかにして経済的自由を維持し、独立をかち得たかを学んだ。また自然災害を被った世界の多くの国々が、どれほど大きな援助を受けてきたかも学んだ。

また私は、若い頃にふたりの若者の訪問を受けたことを思い出す。（不思議なことに、ふたりは互いに、「長老」という同じ名で呼び合っていた。）　ふたりは家族にモルモン経を見せ、これは主が子供たちを愛し、助けておられることの証拠であると言った。次いで、福音の回復のメッセージすなわち、キリストが神の御子であること、ジョセフ・スミスの神聖な使命、この教会が神の教会であることなどについて述べた。私たちの生活を変えたのは、このふたりの伝えるメッセージであり、また予言者の召しに喜んで従う彼らの気持であった。

さらに父親として、神権者として、伝道部長として、皆さんが示して下さった愛と犠牲、献身と仕事の模範にどれほど感謝していることであろうか。私が学んだひとつの教訓は、あらゆる祝福の源は神であり、それは神の戒めを守ることによって与えられるということである。

ヨーロッパ各地の伝道部、ステーキ部を巡ると、宣教師が播いた種が実を結んでいる様子を目にすることができる。次に、その幾つかを皆さんに紹介したい。

私たちは福音を分かち合い、すべての若者を宣教師として召すよう努力してきた。その成果を見たのは、若いスペイン人の宣教師がイタリア語で証を述べているときだった。最近パリステーキ部から召されたばかりの長老は、3週間前には話すこともできなかった言語で週に5回レッスンを教えることができたと涙ながらに伝道部長に語っていた。

また、歩みを早めなさいという主の予言者のメッセージの成果も見てきた。ベルギーのブリュッセルのある支部の伝道主任は、すでに15家族が新しい家族を見つけ、家族に招待して宣教師の教えを受ける用意をしていることを知ってどんなにうれしかったかを語っていた。

犠牲についても挙げることができる。多くの地方部長はよりよい活動と出席

をめざして日夜努力を重ね、その結果、ステーキ部になるにふさわしいほどの成長を遂げている。

また奉仕と献身の実もある。私は幾百人もの会員が神殿に参入し、地域大会に備え、隣人への奉仕の精神を新たにして王国の建設に励んでいる姿を見てきた。このほか、その成果について挙げればきりがない。しかし、皆さんが良い地に播いた種は、さらに一層よい実を結びつつあることを知っていただきたい。

私はこれまで皆さんが模範と真理の光を求めている大勢の人々に行なってきたこと、また現に行なっていることを思い起こしている。多くの人々にとって、今日はすでに過去であり、明日は恐れの日となっている。今日の働きいかんで明日を変えることは可能だと言うのに、私たちはどのような社会を築こうとしているのだろうか。私たちがひとつの民として、悪の攻撃から自らを守ることなくして、どのような国を持つことができるだろうか。民を束縛の身から守るために、自分の衣の一片を取ってその上に、「われらの神と宗教と自由と平和と妻子のために」(アルマ46：12) と記したのはモロナイではなかったか。

初めに述べたように、国家の価値は国民の価値の上に成り立つものである。神の民、平和を希求する人々、婦女子のために、道はひとつ、教会はひとつであり、主も御ひとりである。

その道とは、悔い改め、主の戒めを守り、生ける予言者の声に聞き従うことによって他の人々に模範を示すことである。またその教会とは、予言者ジョセフ・スミスによって回復された末日聖徒イエス・キリスト教会である。さらにその主とは、イエス・キリストのことである。「わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられてはないからである」(使徒4：12)

これこそ永遠の真理であり、「およそこれよりも過ぎたるもの、及ばざるものは太初(はじめ)より偽り者なりしかの悪魔の霊気」(教義と聖約93：25) である。

今日、私たちは学校、職場、そのほかどこにあっても、様々な形で真理と悪の選択に迫られている。それが新聞、ポスター、ラジオ、テレビによることもあるし、人々の間の会話によることもある。受け入れるか拒むか、先導するか従うか、あるいは奨励するかいさめるかを頭の中ではっきり選ばなければならない。

では、どのような感情がこの日々の選択を決定するのだろうか。愛、情熱、恐怖、勇気、誇り、怠慢、意志、そのいずれだろうか。天父は次のような鍵を与えておられる。

「彼の誡命を守る人は真理と光とを受け、ついに真理によりて栄光を得て、すべての事物を知る。」(教義と聖約93：28)

私たちが決定を下し、永遠の生命への道を選ぶ上で欠くことのできない唯一の条件は、戒めを守ることである。アルマはこの点を非常に明確にしている。

「私は多過ぎる希望をもって正義の神の堅い取り極めを不満に思ってはならない。なぜならば、人が死を願うのにも生を願うのにも神はこれに応じたまい、人の心が救いを求めるのも亡びを求めるのも神はこれを許したもうと言うことを知っているからである。

善も悪も一切の人々の前にある。善と悪とを区別することのできない者はこれを責めることができない。しかし、善悪の区別を知る者は善を好むも悪を好むも生を好むも死を好むも、また喜びを好むも良心のとがめを好むも、各々その好むところに従って与えられる。」(アルマ29：4、5)

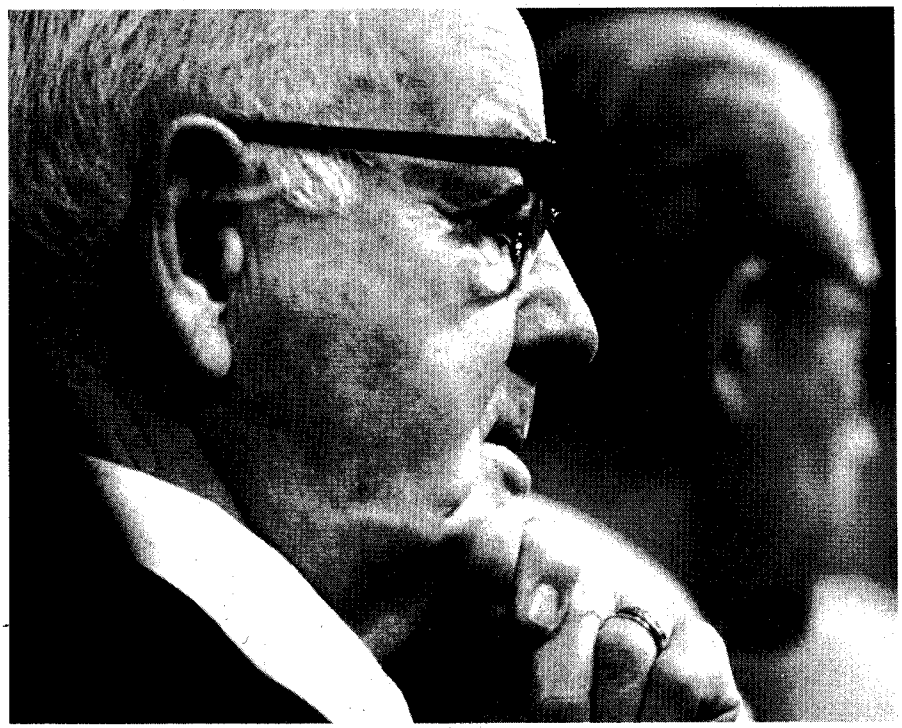
私たちは次のことを銘記しなければならない。

「全地よ、主にむかって喜ばしき声をあげよ。喜びをもって主に仕えよ。

歌いつつ、そのみ前にきたれ。

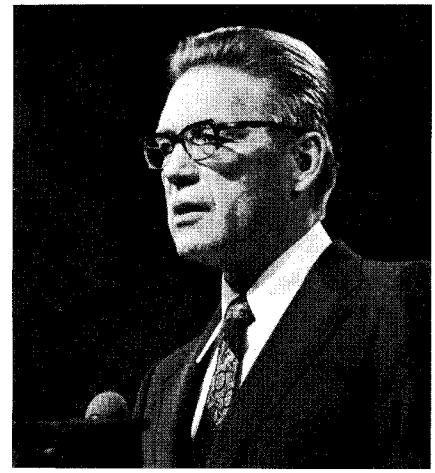
主こそ神であることを知れ。われらを造られたものは主であって、われらは主のものである。われらはその民、その牧の羊である。」(詩篇100：1−3)

世界の将来は人類の手の中にある。私たちがいかに今日生ける予言者に従うかによって、私たちの救いは決定される。この素晴らしい大会に心から感謝している。また私たちが決意を新たにし、主への奉仕を願う民であることを永世にわたって忘れないように祈るものである。すべてをイエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



スペンサー・W・キンボール大管長

偉大な回復の予言者ジョセフ・スミス



「地のいや果にある者すら汝の名を訊ね、……汝の手の下より……祝福とを常に求めん。」(教義と聖約122：1、2)

十二使徒評議員会会員
ブルース・R・マッコンキー

私たちは至る所で絶えず、主なる贖い主について、また主にのみ救いがあることについて思い、祈り、そして語る。

私たちは、救いがキリストにあり、キリストは主であり、神であり、王であることを教え、証する。そしてあらゆる時代の聖なる予言者や聖徒たちのように、主のみ名により御父を礼拝する。

私たちは主に、また主の贖いの犠牲に心を躍らせる。そのみ名はどの名にもまさり、あらゆるひざは主のもとにかがみ、あらゆる舌はイエスがよろずの者の主であることを告白する。また、主なくしては不死不滅も永遠の生命もない。

しかし、私は今日、別の人についてお話ししたい。その人は、キリストと救いの知識を今日の世界にもたらした。また、あらゆる者が天父のみもとに帰り、忠実な者に備えられた永遠の生命を享受することができるよう、主の律法と真理を明らかにした人である。

その人とは、この神権時代にあって最初に天からの声を聞いた、偉大な回復の予言者ジョセフ・スミスである。彼を通して、神の王国が再び人々の間に打ち建てられた。そして、偉大なるエホバは古代の誓約を成就し、民が1,000年間、この世で正義の内に主と共に住む備えをされたのである。

主の声を地上のあらゆる民に告げるこの予言者の声に耳を傾けるとき、私たちには心を啓発する聖きみたまの力が必要である。この心を啓発する聖きみたまの力が、今私たちの上に豊かに注がれるように。

ジョセフ・スミスについてこう言いたい。

彼は生まれる前から選ばれ、この世の基が置かれる前に永遠の評議会において高貴で偉大な霊のひとりとして数えられた人である。

アダム、エノク、ノア、アブラハムと同じように、彼は神々と共に評議会に座し、御父の子供たちが住む地球創造の計画に携わった。

そして、聖なる御方と、最初の人となったミカエルの指示のもとに、御父の創造の業に加わった。

このように、彼は前世にあって光と知識と英知を増し、比類なき霊の成長を遂げて、最も偉大な福音の神権時代を管理するよう予任されたのである。

彼は古代の予言者と同じように神に召された人である。

前世において得た霊的な力と才能を持ってこの世に生を受けた彼は、定められたときに、予任通りにみ業を行なえるように備えをしていた。

1820年の春、宇宙の至高の統治者は、長年の間地球を覆っていた暗黒の幕を取り去られた。こうして御父とイエスは、時と場所と人とを選び、日の光栄の住まいからニューヨーク州パルマイラに近い森に下ってこられたのである。御二方は少年ジョセフの名を呼び、この地上には清く完全な宗教はもはや存在しないこと、そのために彼が永遠の完全なる福音を回復するための主のみ手の器となることを告げられた。

その後、主にバプテスマを施したヨハネ、次いで管理使徒のペロテ、ヤコブ、ヨハネが、天よりの使いとして、新たに召された予言者のもとを訪れ、彼らが地上で業に携わっていたときに持っていた神権を彼に授けた。これらの神権は、人に救いをもたらすためのよろずの業を行なう、地上の人間に委譲された神の権威、権能である。

そのほかにも、ミカエル、ガブリエル、ラファエル、モーセ、エライジャ、エライヤスが次々にジョセフのもとを訪れ、それぞれ彼らが昔持っていた鍵と権威と権能とを授けた。こうしてジョセフ・スミスは、主の代理人、代弁者、福音を説く者、儀式を執行する者として、いと高き者から召され任じられたみ業の正統な執行者となったのである。彼の召しは、漠然とした、ただ単に善を行ない真理を教えるだけのものではなく、イエスが「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである」(ヨハネ15：16)と言われたその召しであった。

彼は神にまみえ、天使の訪れを受けた人である。

ジョセフは、ウジヤ王の時代のイザヤや、荒野でのモーセとイスラエルの70人の長老と同じように、イスラエル

の神にまみえた。1836年4月3日、偉大なるエホバが、太陽の輝きにも勝る栄光に包まれて、カートランド神殿に姿を現わされた。主は怒とうのような声で、自らを次のように証されたのである。

「われは始めなり終りなり。われは生ける者なり殺されたる者なり。父と汝らの間の仲保者なり。」（教義と聖約110：4）

「その天の使の顔はいなずまの如く輝き、衣は如何なる白さにも勝りて純く白かりき」（教義と聖約20：6）と記されたモロナイは、天使の中でも、アメリカ大陸の先住民についての聖なる書物の出現に関することで何度もジョセフのもとを訪れた天使である。

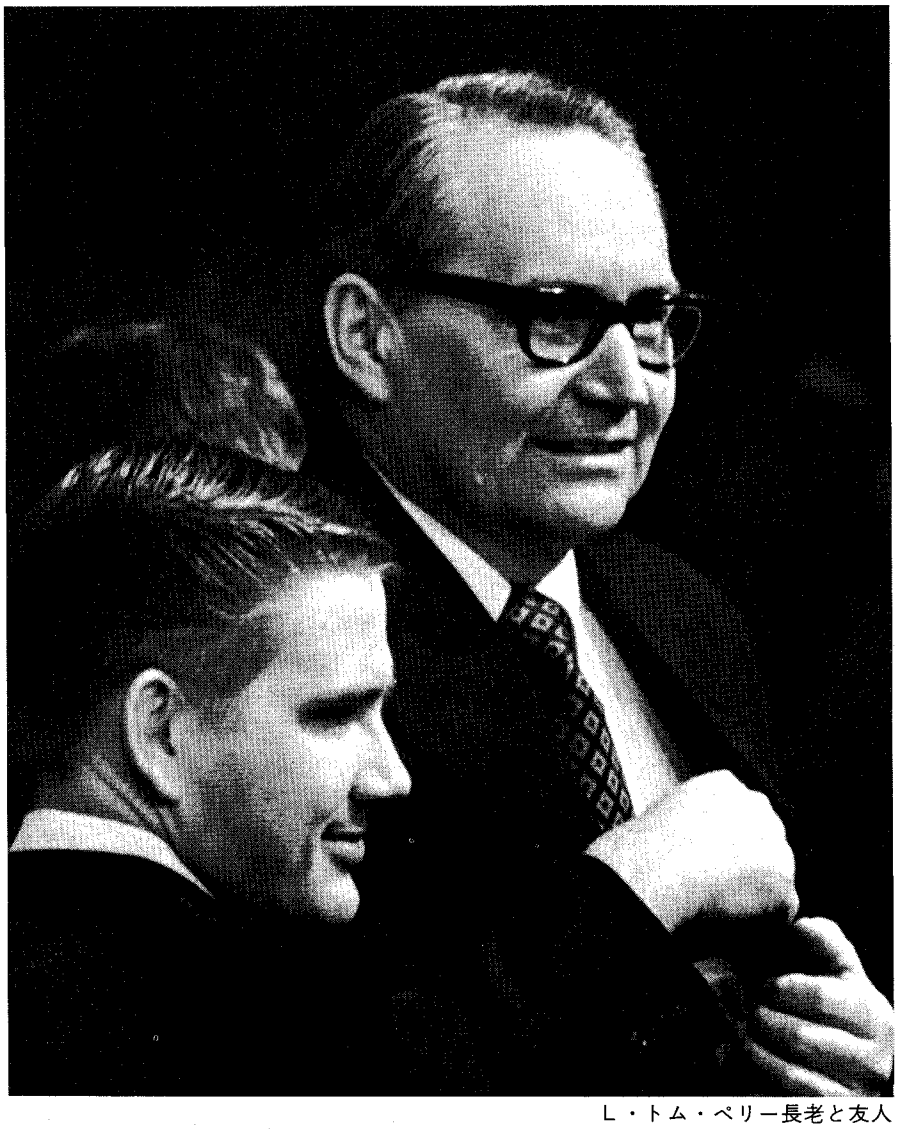
彼は天から多くの事柄を学び、示現を見、聖霊の力によって王国の深く隠された奥義を理解した人である。

丁度五旬節のとき、カートランドで天から恵みが注がれ、ジョセフは、「日の栄の王国とその栄光を見た。そこには王国を受けつぐ者がくぐるたとえようもなく美しい門があり、それはあたかも炎の輪のようであった。また、ジョセフは御父と御子が神の輝ける王座に座しておられるのを見た。」（「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.107）

ジョセフ・スミスが見たこの光栄の階級の示現は、それまで予言者が記してきた来世に関する事柄の中で、最も完全かつ驚くべきものである。主のみ名によって彼に与えられた数多くの啓示は、古代の使徒や予言者のそれと同じように、平易なしかも説得力ある言葉で、永遠の驚異と福音のもたらす栄光とを伝えているのである。

彼はかつてこの世に住んだいかなる予言者にもまさって凝縮された聖文を今の世にもたらした人である。実にジョセフは、最もたくさんの予言を記した予言者10名を選び出し、それを合わせても及ばないほど、多くの主のみ旨とみこころとみ声を私たちのために記録している。

彼は神の賜と力とによりモルモン経を翻訳した。聖書に比肩するこの書物は、神とアメリカ大陸の先住民との交わりを記した記録であり、これには完全なる永遠の福音が記されている。



L・トム・ペリー長老と友人

ジョセフは、多くの示現と啓示を受け、世の人々のためにそれを出版した。近代の人々に対する神の計らいが記されているこの書物は「教義と聖約」と呼ばれる。また「教会歴史」の中にもその他の啓示が収められている。

さらに彼は、霊感のみたまによって欽定訳聖書を改訂し、かつてだれもなし得なかった程その聖なる書き物を完全なものとした。その多くが現在、「高価なる真珠」に収められている。

彼の言行や動静、また日常生活のささいな点に至るまで、現在非常によく知られている。フェイヤットでの教会設立からカーセージでの殉教までのことを網羅している彼の日記は、現在6巻、3,295ページ（英文）にわたる書物として教会から出版されている。

彼は主と同じように、悪霊を追い払い、病人を癒した人である。

教会が組織された月に、ニューエル・ナイトが悪魔にとりつかれた。その状態は全くひどいものであった。「顔はゆがみ、手足はねじれて全く醜い状態であった。」また「彼は宙に上げられ、部屋中跳ねまわった。」そこでジョセフは、「イエス・キリストのみ名によって悪霊を叱責し、出て行けと命じた。」するとナイト兄弟は、「悪霊が自分の体から離れ、消え失せるのを見た。」すると、一同に平安が戻った。（*Essentials in Church History*「教会歴史粋」p.95、96）

イエスの最初の奇跡は、ガリラヤのカナの婚礼で水をぶどう酒に変えられ

たことである。そしてジョセフの最初の奇跡は、神の権能によってナイト兄弟の体から出て行くよう、地獄の悪霊に命じたニューヨーク州コールズヒルでの出来事である。

1839年7月22日、予言者はイリノイ州コマース（現在のノーブー）とアイオワ州モントローズで、病み苦しむ聖徒たちを軒並に癒してまわった。癒された者の中には、ブリガム・ヤングや数人の使徒たちがいた。また神の予言者は、死の瀬戸際にいるひとりの兄弟に向かってこう言った。「フォーダム兄弟、イエス・キリストのみ名によって命じる。床より起き上がり健康な者となりなさい。」　その場にいたウイルフォード・ウッドラフは「彼の声は人間の声ではなく、神の声のようであった。家全体がぐらぐら揺れるような感じを覚えた。フォーダム兄弟はベッドから起き上がるや、直ちに健康な体に戻った」（「教会歴史粋」p.270）と、言っている。

彼はイエスについて証をしたために、迫害され、投獄され、追われ、遂に命までも奪われてしまった人である。

彼はタールを塗られ、羽毛をつけられ、打たれ、追われ、憎まれ、義のために迫害された。（マタイ5：10参照）彼は偽りの告発をたびたび受け、数ヵ月間牢獄の中で過ごした。また数人の仲間と共に無法な州軍の捕われ人となったこともある。1838年11月1日、判事を装った軍人は、ピラトの面前におけるイエスの尋問にも匹敵する醜悪さと不法さで、彼らに死刑を宣告したのである。指令書にはこう書かれていた。

「准将ドニファン殿：

貴殿にジョセフ・スミスと他の囚人をファーウエストの公共広場へ連行し、明日午前9時に射殺する許可を与える。

（署名）サムエル・D・ルーカス
陸軍少将」

ところがドニファン准将はこの命令を拒否した。彼の正義感が勇気を呼び起こしたのである。彼はこう返答した。

「それは残忍な殺人行為です。小官は閣下の命令には従いません。わが隊は明朝8時、リバティーに向かいます。もし閣下がこれらの人々に刑を執行されるなら、神に誓って法廷の前に閣下の責任を問う覚悟であります。

（署名）准将A・W・ドニファン」
（「教会歴史粋」p.241）

しかし、遂に予言者ジョセフ・スミスと祝福師ハイラム・スミスは、神の計画に従い、殉教したのであった。このことは、予言者ジョセフを証人とした主のみこころであり、また主の知恵によるものであった。この出来事に先立ち、主はジョセフに、「汝の命数われこれを知る。されば、汝の生命は一日たりともこれを短くする能わず」（教義と聖約122：9）と言っておられる。

聖見者は最後に、「おお、主なるわが神よ」（「教会歴史粋」p.383）と言って殉教した。この結果、彼の霊はもはや極悪な迫害の手の及ばない義の世界、主の血によって「全うされた義人」（ヘブル12：23）と親しく交わることのできる世界に入ったのであった。そこにいる霊たちは、完き喜びと平安を見出しているのである。

多くの予言者たちは主のために自らの生命を捧げたが、彼もそのような主の証人となった偉大な人である。

「さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』こと是なり。

われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。」（教義と聖約76：22、23）

彼は文字通り完全な予言者であった。みたまの声に耳を傾けるすべての者にはこのことがわかるであろう。

ジョセフの殉教後、次のような尊い宣言が下された。「主の予言者にして聖見者なるジョセフ・スミスは、ただイエス・キリストを除くのほか、この世に生を受けたる何人よりもこの世に於ける人類の救いに尽したり。」（教義と聖約135：3）

次にジョセフ・スミスに下された神の言葉を紹介しよう。すべての人はこれにより自分自身の霊的な進歩を判断することができる。

「地のいや果にある者すら汝の名を訊ね、愚なる者ども汝を嘲弄し、地獄は汝に向いて怒りを起さん。

然るに心の潔き者、賢き者、貴き者、徳ある者たちは汝の手の下よりいさめと権威と祝福とを常に求めん。」（教義と聖約122：1、2）

あらゆる人は、ジョセフとその使命に関して自分がどういう状態にあるか、自ら問うてみるとよいであろう。私たちは、主のみ名を呼び、末日の予言者に明らかにされたキリストの福音にのみある救いを求めているだろうか。それとも主の生ける予言者を愚ろうし、神はもう人に何もお語りにはならないと言ってはいないだろうか。現代のすべての人が解答を迫られており、私たちの救いがかかっている重大な問いは、「ジョセフは神に召されたのか」ということである。

私と家族は、彼と、彼が持っていた権能を現在所有している人々からの、勧告と権能と祝福を常に求めたいと考えている。

さてここではっきり理解していただきたい。私たちはキリストの証人である。キリストは救い主であり、門である。主は、「ここには僕をお使いにならない。そしてこのほかには一つも通る所がないからこの門から入るほかはない。しかし、門を守る者が主なる神であるから、人にこれを欺くことができない。」（IIニーファイ9：41）

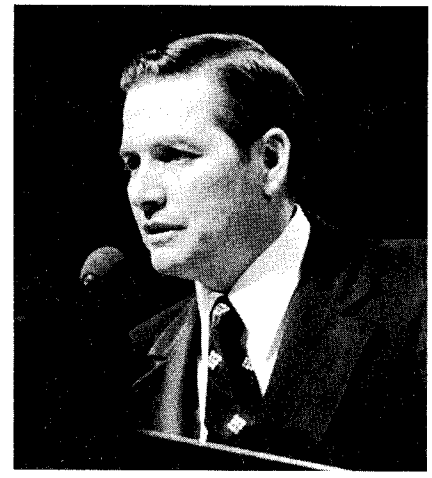
しかし、同時に私たちはジョセフ・スミスの証人でもある。私たちは彼によってキリストを知った。彼は地上でつなぎ、天で結び固める権能を与えられた正統な福音の管理者である。

私たちは証の中にイエス・キリストとジョセフ・スミスの名を連ねる。そして私たちはここで、神が私たちに証するままに、ジョセフ・スミスが神の予言者であることを証する。私たちならびにすべての予言者がよろずのものの主であると証する。イエス・キリストの聖なるみ名により申し上げる。アーメン。

4月6日(火)　午後の部における説教

キリストの模範に従っているだろうか

「汝らが見たるわが行いを汝らもせよ」
(Ⅲニーファイ27：21)



七十人第一定員会会員
ウイリアム・R・ブラッドフォード

私はこの大会において福音の真理の光を輝かして来られた、ここにいる立派な兄弟たちに賛辞を呈したいと思う。この大会で明らかにされた真理を生活に取り入れるならば、必ずや心に喜びと平安を得、サタンの教えによって暗くなっているこの世において完全な守りとなる光を得るであろう。

主イエス・キリストはすべての事柄に模範を示された。主はすべての人々が主の模範に従うよう次のように言われた。

「われまことに、まことに汝らに告ぐ、以上はわが福音なり。わが教会に於てなすべきことは、汝らすでによく知れり。すなわち、汝らが見たるわが行いを汝らもせよ。これらのことは汝らも行うべきことなればなり。

汝らはいかなる人物にてあるべきか。まことに汝らはわれと同じ人物ならざるべからず。」(Ⅲニーファイ27：21、27)

さて、皆さんの生活は主のこの模範に従っているだろうか。主の模範について幾つか挙げるので、それらを各自の生活と比較してみていただきたい。

皆さんは、何という名で呼ばれているだろうか。

「そもそも、イエス・キリストとは、御父より賜わりたる御名にして、この名のほかにはよりて以て人類の救われ得る名一つもなし。」(教義と聖約18：23)

皆さんが考え、行なっている事柄は、イエス・キリストのみ名を身に受けるにふさわしいものであろうか。自分自身を高め啓発し、さらに世のすべての人々に、主を知り、主の聖なるみ名をその身に受けさせることを望みとするほどに、皆さんはその聖なるみ名を愛しているだろうか。神の御子のみ名がみだりに口にされるのを聞くとき、心が刺し貫かれるような痛みを感じているだろうか。キリストなら決してなさらないようなことを行なったり、あるいは決して足を踏み入れないような場所へ行ったりしないであろうか。あなたの行ないにより、主のみ名が汚されることのないよう、主のみ名を聖く保っているだろうか。主のみ名によって王国を築いているだろうか。だれもふたりの主人に兼ね仕えることはできないのである。人はキリストの僕となって主のみ名を引き受け、主の業をなすか、それとも、サタンのわなにかかって、サタンに加担するかのいずれかである。

御父に対する皆さんの愛はどうであろうか。キリストは御父を愛しておられた。御父に祈り、讃美を捧げられた。キリストの行ないはすべて、御父を代表するものであり、み業のために喜んで働き神に仕えたもうた。また御父の指示に完全に従われた。もし私たちもキリストのようになりたければ、これらのことを行なわなくてはならないのである。キリストはこう言われた。

「すなわち汝らが見たるわが行ないを汝らもせよ。これらの事は汝らも行なうべきことなればなり。」(Ⅲニーファイ27：21)

あなたの仲間に対してはどうであろうか。主はこのことに対しても模範を示しておられる。

「この故に汝らわが声を聞きてわれに従え。……ことごとくの者、兄弟を己が身の如くに思い、わが前に徳と聖きをふみ行なうべし。

われ重ねて汝らに告ぐ。汝ら皆、己が身の如くに兄弟を思うべし。……

汝らひとつとなれ。もし汝らひとつとならざれば我ものにあらず。」(教義と聖約38：22、24、25、27)

皆さんは自分の周囲にいる人々を本当に愛しているだろうか。愛だけが人の心をなごませるのである。キリストは、私たちを愛するが故に、自ら進んで苦しみを受け、御自分を犠牲として捧げられたのである。主がゲッセマネの園において苦しみ、全人類のため行なわれた事柄の大きさを深く思うとき、最も誇り高い人でさえ謙虚とならざるを得ないのである。主はその出来事を啓示し、このように述べておられる。

「その苦しみたるや、われ神、すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と、両つながらを苦しめ、すなわちこの苦きさかずきより呑まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。

然はあれども、父なる神は讃むべき

かな。さればわれはこの苦しみをなめ、人の子らの為に準備を為し終りたり。」（教義と聖約19：18、19）

皆さんの仲間のために、どれほど自分自身を犠牲にしているだろうか。

バプテスマについて主が示された模範についてはどうであろうか。主はすべての人がバプテスマを受けなくてはならないと教えられた。

「われを信じてバプテスマを受くる者は誰にても救わるべし。かかる者は神の王国に住むことを得る者なり。

われを信ぜず、バプテスマを受けざる者は救われず。」（Ⅲニーファイ11：33、34）

世の多くの人々が、この大切な儀式をあざけり軽んじている。そしてこれは人々の都合に合わせて変えられ、また全く無意味なものとして廃されてしまったこともある。神は死に、教会はもはやないのですべての儀式は無意味であると説く、邪悪で偽りに満ちたサタンの教えが世にはびこっている。それ故、キリストのみ名を自らの身に受け、バプテスマの水をくぐって王国に入る人は比較的少ない。

この教会のメッセージは全人類に対するものであり、世の初めからキリストによって説き続けられている教えなのである。

悔い改めて、バプテスマを受けなさい。キリストもそうなさったからである。「汝らはいかなる人物にてあるべきか。まことに汝らはわれと同じ人物ならざるべからず。」（Ⅲニーファイ27：27）

イエス・キリストのようになるためには、変わらなくてはならない。

私は心から真剣に、皆さんが主の模範に従って自らを変えるようお勧めする。

父親であるあなたは、キリストがなさるように、家族の諸事を改め、指導していただきたい。

母親であるあなたは、夫を愛し敬い、キリストのように振る舞っていただきたい。不信仰を家庭から追放し、家庭を子供たちが言葉と行ないによって神について学ぶ聖なる場所として整えていただきたい。

子供たちよ。キリストに従うことを習慣としなさい。ポルノグラフィーや麻薬、アルコールをしりぞけなさい。キリストを伴侶としなさい。そうすれば、キリストはあなたに近づき、あなたの最も新しい友となって下さるであろう。

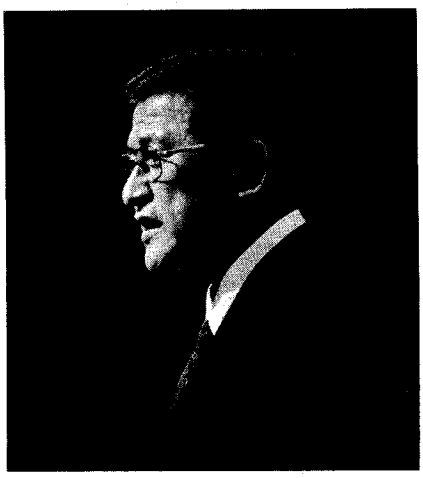
若人の皆さん、あなた方は最も素晴らしい時代に生を受けている。純潔を守りなさい。すべての人を主のもとへ導く高い標準を守りなさい。聖典にある永遠の真理を学び、心を満たしなさい。両親に従い、神に従順でありなさい。天の聖歌隊に耳を傾けなさい。俗悪で下品なサタンの音楽を避けなさい。サタンは肉感的なリズムであなたを捕え、ついには地獄へひきずり落とそうとしている。イエス・キリストとの絆を強め、誘惑に打ち勝ちなさい。この絆ほどあなたに大いなる喜びと幸せをもたらすものはないであろう。

今、私の声を耳にしている方々の中で、主の模範に従っていないすべての人々は、変わらなければならない。心を開いて主の愛を受け入れていただきたい。主の僕を受け入れなさい。キリストのようになるために主の僕を家庭に招き、その教えを聞いて欲しい。主のみ業を行なうために、また救いをもたらす主の模範を教えるために遣わされている主の僕を拒む者は、騒然としたこの世の暗黒と絶望の中に取り残されることであろう。

イエス・キリストは、地上における義の源である。またスペンサー・W・キンボール大管長は生ける神の予言者であり、主の指示に従って予言者に従うすべての人々を救いに導く方であることを、私は心から証する。すべての人々が、予言者に従うようイエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

十二使徒評議員会補助　ジョセフ・アンダーソン長老

神殿建設のもたらす祝福



神殿は私たちに儀式を執り行なう場を与えるだけでなく、福音を宣べ伝える機会をも与えてくれる。

十二使徒評議員会補助
アドニー・Y・小松

愛する兄弟姉妹の皆さん、この素晴らしい大会に出席し、教会幹部の語る霊感に満ちた言葉を通して主のみたまを感じることができ、心から感謝している。彼らの語る言葉に私は心を動かされ、証を強められた。この教会は生ける神の予言者スペンサー・W・キンボール大管長によって導かれている主の教会であることを心から証したい。

キンボール大管長は、世の人々に福音のメッセージを伝えるために、もっと多くの宣教師が必要であることを繰り返し告げている。ふさわしい若者はすべて伝道に行くように言われた。今日、多くの献身的な若い男女が宣教師として主に仕える召しを受けるにつれて、バプテスマを受けて改宗する人もますます増えている。教会は世界各地で急速な発展を遂げている。私たちに指導と指示を与える生ける予言者がいるためである。

キンボール大管長はまた、もっと多くの神殿が必要であることを霊感と啓示によって発表した。昨年、世界の3地域が、主の宮居につける大いなる祝福にあずかることのできる地として選ばれた。その場所は、ブラジルのサンパウロ、日本の東京、ワシントンのシアトルである。

この末の日にイエス・キリストの福音が回復され、それと共に神殿建設と神殿の儀式もまた予言者ジョセフ・スミスを通じて回復された。1830年4月6日に教会が組織されてから間もなく、主は聖徒たちに神殿を建てるよう命じられた。当時の教会員は2,000人に満たなかったにもかかわらず、予言者ジョセフ・スミスと聖徒たちはオハイオ州カートランドで神殿の建設を開始した。

当時の聖徒たちには、財産と呼ばれるようなものはなかった。それでも多大の犠牲を払い、主の宮居を建てるためにすべての持ち物をさし出したのであった。確かに犠牲は大きかった。しかし、その後に与えられた大きな祝福に比べれば、彼らが主に捧げた捧げ物はごく少ないものであった。

神殿の完成後、1836年4月3日の安息日の集会で、静かに厳粛な祈りを捧げた後、予言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは偉大な現われを受けた。ふたりに示現が開かれ、主イエス・キリストが親しく現われて、神殿を嘉納されたのである。次いで、鍵と権能を持つ偉大なる予言者が訪れ、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにそれぞれの持つ権能と召しとを託した。こうして、完き福音の回復が始まったのである。

現在でも神殿が建てられる予定の地域の会員たちは、その義務と責任を果たすために犠牲を払い、信仰ある生活を送っている。日本をはじめ、東洋の各地の教会員は、ステーキ部センターや礼拝堂の建設と並行して、神殿建設の決意を固めている。

最近、ひとりの若い父親が、神殿基金のための献金に関連して次のような証を述べてくれた。彼は神殿基金のための献金のチャレンジを監督から受けた。その額は、彼が自分の家を建てるために何年間も貯めてきたお金とほぼ同額であった。そこで彼は妻や子供たちと話し合い、新しく家を建てるという夢をあきらめて、貯金をすべて東京神殿建設のために主に捧げることに決めた。

監督にこの献金をしてからしばらく経ったある日、彼は会社の上司に呼ばれ、突然の昇進を聞かされた。給料も大幅に上がったうえ、新しい家を建てるための手当まで追加されたのである。

確かに、この地上に神の王国を築くために自らの生活を捧げる教会員の間に、信仰を促す数多くの出来事が起こるのである。

会員の献身と忠実な生活を目にすることは喜ばしいことである。この地上に神の王国を築くために時間と才能と資力を尽くして犠牲を払い、責任を果たそうとしている人々を確かに神は祝福し、彼らに誉れを与えられる。主は末日の啓示で、忠実な人々に次のような約束を与えておられる。

「主かくの如く言う。主なるわれはわれを畏(おそ)るる者に恩恵(めぐみ)と憐みとを与え、終りまで義しく且つ真実にわれに仕うる者に誉を与うるを喜ぶ者なり。

彼らの得る報いは大きく、その栄は永遠なるべし。」(教義と聖約76：5、6)

カートランド神殿で予言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現われた3人の偉大な予言者のひとりは、死を味わわないで天に取り上げられた予言者エライジャ（エリヤ）である。彼はこの神権時代の鍵をふたりの手に託してこう言った。「見よ、ここに於て正にその時は全く至れるなり。そは嘗てマラキの口によりて言われしことにして、すなわち主の大いなるおそるべき日の来らん前に、彼(エライジャ)遣わさるべし。

すなわちエライジャは来りて先祖の心に子らを思わせ、子らの心に先祖を思わせん。然らずば、全地は咀いをもて打たるべし。」(教義と聖約110：14、15)

ここで、日本のある若い男女が経験した事柄についてお話したいと思う。ふたりは結婚しようと思い、日本の慣習に従って、両親に結婚の許可を求めた。ふたりの両親は共に教会員ではなかった。その兄弟の両親からは結婚の許可が得られず、ふたりは落胆した。しかしどのようにしたら満ち足りた教会生活が送れるかをよく祈って考え、またいつか結婚の許可を得られるものと信じていた。

当時教会員たちはハワイ神殿訪問を計画していた。そして系図探求の重要性が特に強調されていた。そこでふたりは他の教会員と同じように先祖を調べ、先祖のために神殿の儀式を行なおうと計画した。姉妹は役所や墓地やお寺に行って熱心に調べた。その結果、77名の名前を提出することができた。ところが家族の中で尊敬され、影響力も大きかった兄弟の伯父は、このことを聞いて深い感銘を覚え、彼女の行なっていることに関心を持つようになった。そして彼は自分の先祖を尊ぶ姉妹の大きな献身を見て、そのような女性ならば、きっと自分の甥のよい嫁になるに違いないと言ってくれたのである。こうして若いふたりに結婚の許可が与えられ、ふたりは結婚し、後にハワイ神殿で結び固められたのであった。

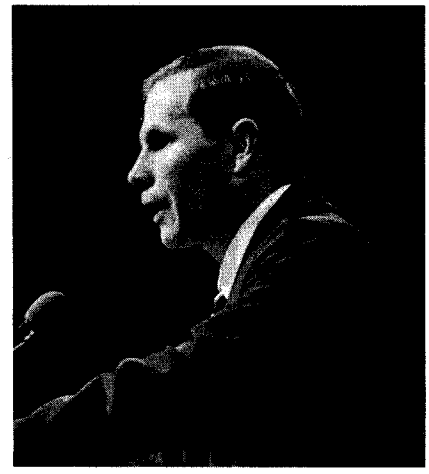
1月と8月には、親族が集まるのが日本の慣習である。この若い夫婦もこの集りに加わった。そして、ふたりは自分たちの覚えの書を見せた。するとそこに集まった人々は、系図活動とその理由に大きな関心を示したのである。そこでふたりは先祖のことと、系図探求を完成することの大切さについて話した。なぜキリスト教の教会が「先祖崇拝」の原則を教えているのか、教会員でない親族には理解し難いことであった。なぜなら、それは仏教の教えであり、伝統であったからである。

今では多数の若い男女が家族の記録を完成し、同じような方法でこのイエス・キリストの福音を両親や親戚に教えている。会員が系図を探求し、先祖のために神殿の儀式を行なうことによって、特に東京に神殿が建設されようとしている現在、福音はさらに多くの東洋の人々の間にゆきわたるに違いない。この大いなるみ業は今始まったばかりである。

私はイエス・キリストの福音が生者にも死者にも救いをもたらす道であることを証する。神は私たちの祈りを聞き、祈りに答えて下さる。また神は私たちが先祖の記録を集めるとき、導きと助けを与えたもう。そして私たちが、この世の事柄で私たちに幾多の幸せを与えてくれた先祖に喜びと救いをもたらすことができるように道を開いて下さるのである。証申し上げる。ジョセフ、スミスは主のみ手の器として、この末日に福音を回復じた。そして今、この末日聖徒イエス・キリスト教会を導く生ける予言者スペンサー・W・キンボール大管長がいる。これらのことをすべてイエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

タバナクルの外で祈りに加わるアロン神権者

あなたは宣教師だろうか



自らが福音を全世界に宣べ伝える器であることを、今や全教会員が認識すべき時である。

七十人最高評議員会会員
ジーン・R・クック

愛する兄弟姉妹の皆さん、この大会を進めるにあたって、主は大いなる祝福を注いでこられた。あなた方はこれまで、幹部の兄弟たちが聖霊の力を通して語る言葉に耳を傾けてきたが、みたまによって聞いた人は、その話により心を開き、また一段と力を得て、戒めを守ろうと決意したことと思う。

私たちは伝道プログラムについて多くのことを聞いた。さて、ここでひとつの質問をしたい。伝道活動を行なう責任は、実際のところだれにあるのだろうか。キンボール大管長は、全教会員が宣教師とならなければならないことを指摘した。また宣教師となるための準備を、生涯を通じて一日も欠かさず行なうようにとの提案もあった。これはフルタイムの伝道に出る備えだけでなく、真理を知らないすべての人に神のみ言葉を教えるための備えをするということでもある。

主は教義と聖約第38章40、41節でこう述べておられる。

「われ、再び汝らに告げて一つの誡命を与う。汝ら長老、祭司、教師また会員に至るまで、あらゆる人々精力を尽しその手の働きを尽して為すべきことを為し、わが命じたることを準備し且つこれを為し遂ぐべし。

また汝らはすべて温和にしてへりくだり、皆ことごとくの人その隣人にとりて警めの声となる教えを説くべし。」

私には、主がすべての人に対して、ことごとく温和にしてへりくだり、声をあげてイエス・キリストの福音を説くよう求めておられることがはっきりわかる。また教会員がこの伝道の責任を果たすのを助ける責任が、全世界の神権指導者にあることも明らかである。

多くの会員はこう言う。「クック長老、口で言うのは簡単ですよ。でもどのようにすればいいんですか。隣人を警めて伝道の責任を果たしたいのですが、何か特別に私にできることがあるでしょうか。」そこで私は、だれにでも応用できるふたつの提案をしたい。

まず第一に、あなた方はいつどこにあっても、真理を擁護する側に立つことができる。人は時々、クラブや仲間の間で、また時には教会員の間でさえも、真理を擁護する立場に立った発言をするに当たって気遅れを覚えるものである。主が言われたように、大胆に真理を語るべきである。しかし横柄であってはならない。この時代の重大な問題について、主を代行して、また予言者を代行して語ろうではないか。

ひとつ例をあげよう。私はある立派な女性を知っている。彼女はあるとき大きな試練に立たされた。大勢の教会員とごく少数の非教会員とが参加して行なわれた昼食会でのことである。参加した教会員の中にはあまり熱心に教会に出席していない人もいた。話が堕胎と産児制限に発展したとき、ひとりの非教会員が5分ほど熱弁をふるった。堕胎は決して悪いものではなく、産児制限も男女双方の側で自由に行なうようにすべきだと言うのである。こうしてかの姉妹は窮地に立たされた。天気のことや何かあたりさわりのないことを言ってその場を繕ったらいいのだろうか。それとも堂々と真理を語るべきなのだろうか。彼女は後者を選んだ。そして問題になっているふたつの事柄について主が何と言っておられるかを説明し、その後で自分自身の気持を証として述べたのである。御想像通り、昼食会はその場でお開きになってしまった。しかし、後でひとりの不活発な姉妹が彼女のところに来て、堕胎や産児制限についての主のみこころが初めてわかったこと、また彼女の主張したことが真理だと感じられたことを切々と訴えたのであった。

兄弟姉妹の皆さん、あなた方が真理であると理解している原則について、証を述べるようにみたまの促しを受けたなら、ぜひそうしていただきたい。真摯な思いが、証という媒体を経て心から心に伝わるとき、人は愚かでくだらない、議論がましい主張の一切ない真理へと心の向きを変えるのである。

いつもチラシやモルモン経、その他教会の出版物を持ち歩き、職場や乗り物、商店などで会う友人やその他の人々にあげようではないか。こうすれば、その人たちがやがて宣教師の訪れを受け、福音を教わるときに心の準備ができていることになる。教会員の中で、チラシやモルモン経などの道具を持たないで伝道したいと思う人は何人いる

だろうか。

主がモルモンの泉で予言者アルマに授けたもうたチャレンジは、特に教会員に対して与えられたものと思われる。これは全教会員がその身に引き受けなければならないバプテスマの際の誓約で、モーサヤ18：9にはこう記されている。「悲しむ者を思いやって共に悲しむこと、慰めが要る者を慰めること……いついかなる時でも、どのような所に居ても、どんなことについても、死に至るまでも神の証し人になりたいと心から思っている。」

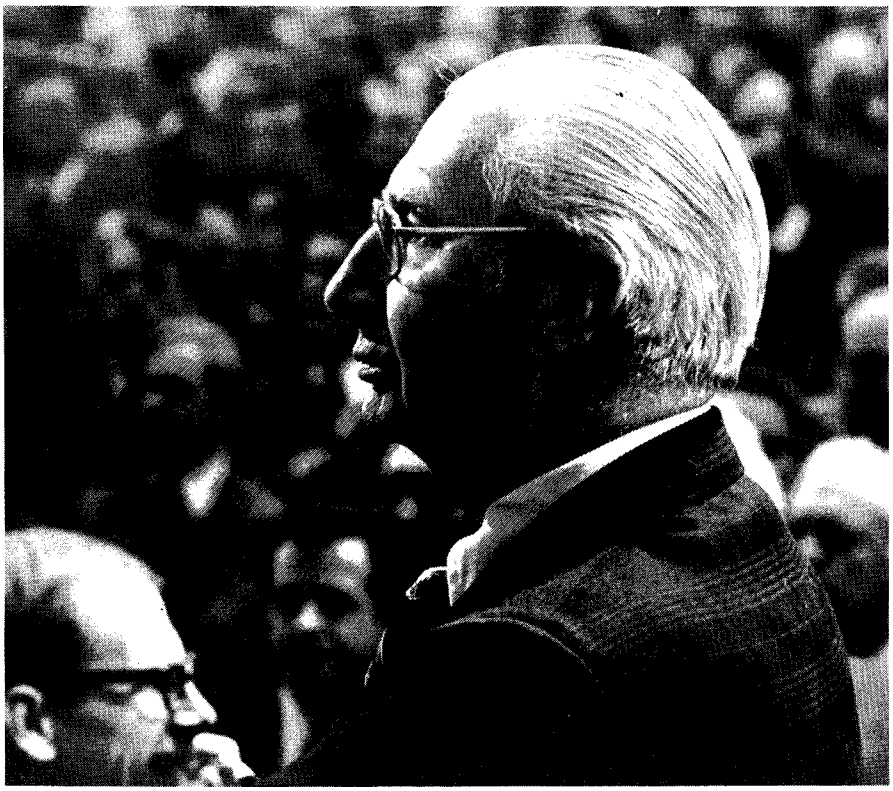
あなた方に求めたいのは、恐れを退け、主により力を受け、世の人々に福音が真実であると証することである。

さて、第二番目の提案である。キンボール大管長は、親しく接触する家族を祈りの気持をもって選ぶように私たち一人一人に求めている。「父親である皆さん、あなたが先頭を切って歩むのです。そして家族が一体となって努力することにより、私たちは大いなる業を成し遂げることができるのです。家族全員で祈りを捧げ、交際したいと思う家族を2、3選んで下さい。親戚や友人のだれに教会を紹介するかを決めて下さい。月曜日以外の夕べに彼らを招いて家庭の夕べを開いてもよいでしょう。一緒にできる活動はたくさんあります。そしてその家族が関心を示したら、ワード部もしくは支部の伝道主任を通じて、宣教師があなたの家でその家族に回復のメッセージを伝えるよう、手配して下さい。この極めて単純な手順に従うことによって、多くの素晴らしい家族を教会に導くことができるのです。」（フィルムストリップ『神権伝道活動により福音を分かち合う』より）

このように、キンボール大管長は、祈りの気持を持って家族を選ぶようにと語ったのである。

私は主が息子アルマを通して語りたもうたことを思い起こしている。アルマ6：6である。「しかし神の子らは、まだ神を知らない者の身も霊ものためにたびたび集合し、一しょに断食して一心に祈るように命ぜられた。」

あなた方は、アルマが言った「まだ神を知らない者」のために祈っているだろうか。



十二使徒評議員会補助　ジョン・H・バンデンバーグ長老

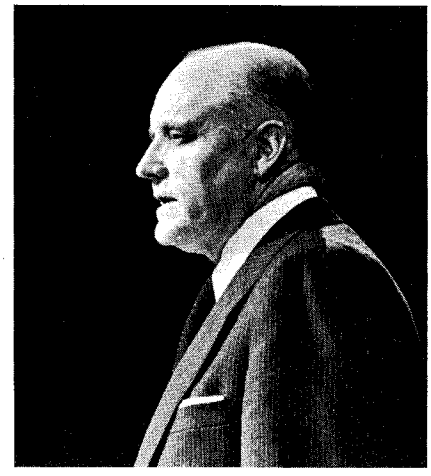
主のみ業を行なうとき、私たちは主の方法に従って行なわなければならない。あなた方が祈りの気持を持ってこの業を進め、人々を教会に導くにあたり主のみ手の器となるにはどうすればよいかを天父に尋ねるならば、天父はその方法をお与え下さるであろう。

ここで、この大会の話をお聞きになっている、まだ教会員でない方々にお願いしたい。この教会の教義を祈りの気持を持って研究し、祈っていただきたい。そうすれば私と同じように、この教会がこの地上における唯一真の教会であることをおわかりいただけるであろう。教会員と語り、今日この地上に確立されている神の王国がどのようなものか学んで欲しい。

主が偉大なる予言者ジョセフ・スミスに語られたことを、ここで再び心に留めていただきたい。「私たちの宣教師は様々な国々へ出で立ち……今や真理の旗が掲げられている。いかなる汚れた者の手も、このみ業の発展を止めることはできない。迫害は威を振い、暴徒は連合し、軍隊は集合し、中傷の風が吹き荒れるかもしれない。しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は成し遂げられるであろう。かくして、大いなるエホバは、み業は成ったと告げられることだろう。」（*History of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史」、4：540）

私は福音があらゆる人々の耳に達することを証したい。この教会は全地の面にある唯一真の教会である。今日この地上には生ける予言者が存在することを証する。そして私たち教会員にとって、この地球に住む人々に警告の声を挙げることが正に急務であることを証する。私がこう証するのは、主がそのように宣言されたからである。私たちが目的を深く心に抱いて主に従うときに、主によりその目的を達成する力を賜わらんことを、イエス・キリストのみ名により祈る。アーメン。

彼らもひとつになるため



国にいかなる一致と調和があろうと、教会にはそれよりもさらに大きな一致と調和が必要である。

十二使徒評議員会会員
ハワード・W・ハンター

モーセの死後、西部パレスチナ征服のとき、古代イスラエルの十支族はヨシュアの下に団結した。諸々の準備が整えられ、陣営にヨルダン川を渡ってエリコを攻略するよう命令が下された。ヨシュアは民に、主が奇跡を起こされ、契約の箱をかついで先頭を行く祭司たちの足が水に触れると川の水は干上がると告げた。そしてその予言の通り、奇跡的にヨルダンの水はせきとめられ、民は乾いた川を渡った。

イスラエルの民が川床を渡りきると、主はヨシュアに命じて各支族から1名ずつ計12名を選ばせ、ヨルダン川から12の石を運ばせ、その夜の露営地に置かせた。そして言われた。「これはあなたがたのうちに、しるしとなるであろう。後の日になって、あなたがたの子どもたちが『これらの石は、どうしたわけですか』と問うならば、その時あなたがたは彼らに、むかしヨルダンの水が、主の契約の箱の前で、せきとめられたこと、すなわちその箱がヨルダンを渡った時、ヨルダンの水が、せきとめられたことを告げなければならない。こうして、それらの石は永久にイスラエルの人々の記念となるであろう。」（ヨシュア4：6、7）

時の初め以来、父は子のために記念物を残し、子は父のために記念碑を建ててきた。このテンプルスクェアにも、そのような記念物がある。古めかしいノーブーの鐘、カモメの記念碑、福音回復の像、ソルバルセンのクリスタル像、これらはほんの数例である。これらは世代と世代をつなぐのに貢献し、私たちの共有の遺産である重要な出来事を連綿とした鎖の中に保ってきた。時の流れと組織の発展は、えてして私たちの相互の間を疎遠にし、そればかりでなく共通の目的から引き離そうとする。しかし私たちは歴史を通じて、記念物を残すように、あるいは過越の祭を行なうように、また変わらぬ永遠の目標をめざして一致した信仰の力を保ち、神の戒めを忘れないために総大会を開くように命じられてきた。

しかし、私たちにとっては、記念物や祭以上に、自分の力を強め、私たちの一致を守ることの方がもっと必要である。アブラハム・リンカーン大統領は、救い主御自身の言葉を引いて次のように警告した。「もし国が内部で分れ争うなら、その国は立ち行かない。また、もし家が内わで分れ争うなら、その家は立ち行かないであろう。」（マルコ3：24、25）

国民の一致は必要である。しかしそれにもまして、全世界の末日聖徒イエス・キリスト教会の一致と相互依存が必要である。本大会の閉幕が近づくにあたって、私は近代の予言者が「この世における最も大いなる祈り」と呼んだ祈りを読んでみたい。ヨハネは主と使徒たちが最後の晩餐を共にした後、夕べの終りに、神の御子の唇から直接に聞いた印象深い祈りを詳細に記録している。

「父よ、時がきました。あなたの子があなたの栄光をあらわすように、子の栄光をあらわして下さい。……

わたしは、あなたが世から選んでわたしに賜わった人々に、み名をあらわしました。彼らはあなたのものでありましたが、わたしに下さいました。そして、彼らはあなたの言葉を守りました。

わたしは彼らのためにお願いします。わたしがお願いするのは、この世のためにではなく、あなたがわたしに賜わった者たちのためです。彼らはあなたのものなのです。……

聖なる父よ、わたしに賜わった御名によって彼らを守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。……

あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました。……

わたしは彼らのためばかりでなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。

父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。

わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは、わ

たしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。」（ヨハネ17：1、6、9、11、18、20－22）

この教会には一致が常になければならない。なぜならば、私たちはひとつとならなければ、主のものでないからである。（教義と聖約38：27参照）

私たちは本当にお互い依存し合っており、「目は手にむかって、『おまえはいらない』とは言えず、また頭は足にむかって『おまえはいらない』とも言えない。」（Ⅰコリント12：21）北米人がアジア人に向かって、あるいはヨーロッパ人が海の島々の住人に向かって、「おまえはいらない」とは言えない。この教会にはあらゆる教会員が必要であり、私たちはパウロがコリントの教会に書き送ったように祈るものである。「それは、からだの中に分裂がなく、それぞれの肢体が互にいたわり合うためなのである。

もし一つの肢体が悩めば、ほかの肢体もみな共に悩み、一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶ。」（Ⅰコリント12：25、26）

パウロのこの言葉は、コリントの聖徒だけでなく、現在の私たちにもあてはまる。

この教会の非常な発展と、言語と文化の多様さと、前途に待ち受ける不朽の大事業について考えるとき、主による一致のみたまが受けられる生活をすることこそ、一番大切な私たちの目標ではないかと思う。イエスの祈られた通り、私たちを罪から贖うために父なる神がイエスを遣わされたことを世が信じるには、私たちがひとつとならなければならないのである。

私たちがこれまでに何万という宣教師を伝道事業のために送り出し、全世界に証を宣べ伝えることができたのは、一致のゆえである。これからさらに多くのことが行なわれるに違いない。これまでに教会、ワード部、ステーキ部、支部、地方部、そして個々の教会員が神殿や教会堂を建て、福祉計画を実施し、死者を捜し求め、教会を見守り、信仰を強くしてこられたのは、一致のお陰である。これから、さらに多くのことが行なわれるに違いない。これらの主の偉大な目的は、不和や嫉妬や利己心ではなし遂げられなかった。私たちの考えは必ずしも管理者と完全に一致しないかもしれない。しかしこの教会は主の教会であり、私たちがプライドを捨て、力を祈り求め、全体の利益のために働くとき、主は私たち一人一人を祝福して下さる。

フランクリン・D・リチャーズ長老(左)とウイリアム・G・バンガーター長老

また思うに、この教会の男女いずれにとっても、敵対する者の最大の武器は分裂とあら捜しと対立である。教会の歴史上困難な時代に、予言者ジョセフ・スミスは、私たちが支持と援助の精神をなくすときに教会の業を妨げる対立が起こることを次のように語った。

「私たちを覆っていた霊は、私たちの頭に授けられた祝福によって吹き飛ばされた。サタンは、ある兄弟たちの心にねたみを起こして私や教会を滅ぼそうとしたが、その試みは敗れた。私は天父に、今教会の中に広く見受けられる一致と調和を感謝する。」（*History of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史」2：355）

教会を一致へと導く鍵が穏やかで落着いた心、すなわちそれ自体平安で、内部の葛藤や緊張のない心にあることは当然である。世間には、様々な罪や誘惑によってその平安を乱そうとするものが実に多くある。私たちは聖徒たちの生活がナザレのイエスによって示された理想と一致することを祈るものである。

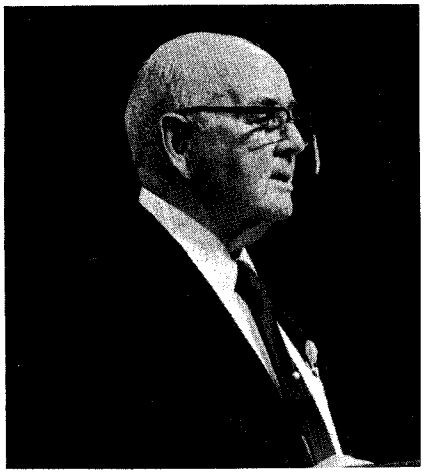
また、サタンの試みがくじかれて、人々の生活が平安、平穏となり、家族が互いに親しく関心を抱き合い、ワード部やステーキ部、支部や地方部がキリストの偉大な肢体となってすべての必要に応え、すべての苦痛をいやし、すべての傷を治して、やがて全地がニーファイが懇願したように「キリストを確く信じて疑わず、完全な希望の光を抱き、神とすべての人とを愛して強く進む」ようになることを、私たちは祈っている。

ニーファイはさらに続けて言った。「さてごらん私の兄弟たちよ、これがすなわち道である。このほかには、人を神の王国に救う道も名も天下にない。」（Ⅱニーファイ31：20、21）

全世界の教会のために、東西南北に及ぶ聖徒たちの大きな肢体のために、私たちがひとつとなることを祈るものである。

本大会は栄えある大会であった。良きみたまがあり、私たちが神の予言者を支持してその指示の下にひとつとなったことで、主は私たちを祝福したもうた。私は証する。神は生きておられる。私たちがひとつになって戒めに従うならば私たちを祝福される。私たちにそれができるように、へりくだり祈るものである。救い主イエス・キリストのみ名によって、アーメン。

4月6日(火)　午後の部における説教



永遠の富を求めて

「私たちは、未来への明確なビジョンと健全な判断力とをもって前進する。そして私たちの家庭を、また家族を、高い道徳標準に合わせ、霊的に価値あるもののためにささげるのである。」

大管長
スペンサー・W・キンボール

愛する兄弟姉妹の皆さん、4日間にわたり数々の集会が開かれた今回の総大会もやがて閉じようとしている。

この大会は、歓喜あふれる大会であった。世界中の多くの国々から、愛する兄弟姉妹たちが大挙して出席して下さった姿を見ているからである。これらの人々に再三お会いし、また彼らの中にも成長と発展を見受けることができ、心から喜んでいる。

私たちの望みとするところは、大会を契機に、人々が一層霊的に高まろうとする熱意を持って下さることである。主の言われたことを思い起こしてみよう。「たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。」(マタイ16：26)

主は導きと教えの業を始められて間もない頃、「何を求めているのか」と尋ねられた。主がここで問われたのは、富やこの世的な名誉や賞賛や財産に心を傾けているのか、それとも人の身と霊を永遠に豊かにするものを目指すのか、ということである。それはその人にとってなんの得になるだろうか。このようにして主は、この世の名誉と人の身と霊とにもたらされる名誉との間に一線を画したもうたのである。主はこの世の事柄と、天の望みやみ業にかかわる事柄を比較対象して明らかに示された。

私たちは次のような主の勧告を再三再四繰り返し述べている。主は聴衆に向かい次のように警告された。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6：33)

主によるこの壮大な呼びかけは、世界中の数多くの人々に、物質的なものを取るか、霊的なものを取るかを選択することの大切さを教えている。

この総大会の説教で強調されていたことは、指導的な政治家や著名な教育者や一般大衆が、現代は明らかに霊的貧困状態であり、道徳的倫理的標準も衰退しているということである。

私たちは、そうした傾向がないよう望んではいるが、私たちの高い標準や家族生活、社会生活を崩壊しようとする風潮があれば、それに対して断固として反対する。

数年前のことであるが、イギリスのジェット機が、ほんの数時間で大西洋を往復したことがあった。その直後、「ニューヨーク・タイムス」紙にひとつの漫画が登場した。空には素晴らしい速度で飛んでいる飛行機が描かれ、その機体には「人類の科学の進歩」と書かれていた。一方地表には巨大なかめがいて、ゆっくりと重々しく進んでいる。甲らには「人類の道徳の進歩」と記されてあった。

この漫画に論評が加えられていた。

「この漫画は、現代の悲劇が一体何であるかということを赤裸々に表現している。私たちの家庭で、また学校で、もっと道徳的、霊的に価値のあるものに注意を払わなければならないという、差し迫った状態を如実に示している。」

このために、私たちは、毎週各家庭で家庭の夕べを開くよう、強く教えているのである。これは、霊的な成長や宗教的な霊感といったものにもっと心が向くよう、導き、教え、訓練し、指導を与えるためである。

次のように書いた人がいる。「我々は闇から光に至る長い長い道のりを、どれ位まで進んで来たのだろうか。光、すなわち全人類が自由と平和を享受する時代に近づいているであろうか。新たな夜の影が、我々に襲いかかろうとしてはないであろうか。」

私たち教会員は、自分の家族は自ら管理できること、また神が定めた永遠の道徳律によって治めることにより、子供たちが真理を愛し、人としての尊厳を決して犯されることなく幸福になれるよう、育てる自由を有し、それに対して確信と信仰を有していることをここに改めて宣言する。

数多くの国々において、専門的かつ熟練を要する職業に従事している教会員の数が飛躍的に増大している。しかしながら同時に、石炭採掘、溶鉱炉の火入れ、帳簿管理、旋盤、綿摘み、果樹栽培、医療、とうもろこし栽培といった職業についている、立派な指導者や会員も数多くいる。皆、誇りをもち、良く働く人々である。

信仰に敵対する者たちは、神を知ら

ず力に頼る。力の使用以外に人を動かす方法を知らないのである。そして人に反逆することを教え、他人の飢えにつけ込む。敵対するものは何であれ、痛めつけようとする。真理に対しては特にそうである。このため私たちは、なおのこと未来への明確なビジョンと健全な判断力とをもって地の果てまでも行くのである。そして私たちの家庭を、また家族を、高い道徳標準に合わせ、霊的に価値のあるもののためにささげるのである。

それゆえ私たちは、子供たちが正しく教えられ、訓練を受け、指導を受けているかどうか、常に見守っている。それは家族が国家の基であり、子供たちは私たちの持つ最も貴重な宝だからである。そして私たちは子供たちに正しく歩むことを教え、神の王国にふさわしい民となるよう教えているのである。

私たちは、宗教や道徳について教えるのは親の仕事であることを深く認識している。父親と母親の責任なのである。

私たちは、皆さんが10月の総大会にもう一度ここに集って下さるようお招きする。次の大会でも、この大会においてわかりやすく平明に教えられた基本的なテーマを、再度強調することになろう。

私たちは今後共、私たちの家族や家庭を整えていこうではないか。そしてまた、世界の国々に福音を広める業を続けていくのである。

もし白アリがあなたの住居や家庭の土台をむしばんでいることに気付いたら、時を移さずにその建物を調べ、白アリを絶滅させて、建物の崩壊を食い止めようとすることであろう。

それよりもはるかに重大なことがある。あなたの家庭や家族に入り込んで、破壊してしまおうとするものがあるということである。

ペスタロッチの次のような考え方を、私たちは支持する。

「家庭の喜びは、地上で最も喜ばしいものである。両親が子供たちに抱く喜びは、人間的に最も神聖な喜びである。その喜びは、心を汚れなく、輝かしいものにし、天父のみもとまで引き上げるのである

あなたも私も、この偉大な、何ものにも優る喜びが、それぞれの両親という囲いの中に存在することをよく理解することができる。そのためには、両親が夫婦としてまた家族としての責任を果たしていなければならないし、結婚と家族生活のもつ高い理想が家庭の中で実現していなければならないのである。

中傷、陰口、悪口、あら探し、これらは皆、家庭を崩壊させる恐ろしい白アリである。けんかやののしりが、時折家庭の中で見受けられるが、これも悪である。

ジョージ・ワシントンは、この点に関して立派な模範を示した。士官の中に汚らわしい言行の者がいることを知ったワシントンは、1776年7月1日付で彼らに書簡を送った。その中から引用してみよう。

「私は、汚らわしいのろいやののしりといった、愚かで不道徳な行ないが一般化しつつあると聞き、心を痛めている。従来わがアメリカ軍には、そうした不道徳な行為はほとんど見られなかった。私は、将校たちが、影響力と模範とによって、そうした言動をいさめ、もし我々の軍に天の恵みを望むなら、そうした不正や愚行によって天の恵みにつばを吐きかけることがないよう、部下共々努めてくれることを希望する。さらに付け加えて、何も誘惑されないのに、ひとかどの理性を持つ人間が、そのような愚行に加担するのは、極めて卑しく、低俗な行為であると申し上げる。」

両親の中には、ある作家の次のような言葉に賛成する方々も多いことだろう。

「人生は、どの年代をとってみても素晴らしい。何の責任もない幼年期、感激的な思春期に求愛時代、生産的であり、闘志に満ちながらも重荷を背負う親としての時代、皆それぞれに素晴らしい。だが人生で最も素晴らしい時は、父親と母親が一人前に成長した息子や娘と親友になるときであり、また、子供たちの子供を楽しみに待ちもうけるときである。

少年期には、数々の抑圧、制約、予定、仲間で縛られている。思春期は、神秘とあこがれと挫折で満ちている。父親になりたての頃は、苦闘と問題の解決で時を過ごしてしまう。老年が過度に進むと、永遠の神秘の影に包まれてしまう。だが、中年の時代と老年でも健壮な時代は、もしそれまでの人生が正しくまた満ち足りたものであれば、単に社会的な成功という意味からだけでなく、子供たちや孫たちに囲まれて暮らすことができるという意味で、感激に満ちた時期となる。」

家族は私たちの喜びと幸福の基となるものであるが、その家族の話を進めるにあたり、R・J・スプレーグの言葉をもう少し引用してみよう。

「通常の人間は皆、人生の周期を完全に全うしてはじめて喜びと満足とを得る。その周期は、自然の秩序に従い、幼児期、思春期、青年期、そして親となる年代、中年の年代、そして孫のいる年代と順にやって来る。それぞれの年代では、体験することによってのみ知ることのできる、その年代特有の満足感を味わうことができる。だが、人間の幸福の全容を知るためには、人は何度も何度も生まれ変わらなければならない。最初の赤ん坊が生まれるとき、母も生まれ、父も生まれ、祖父母も生まれる。生まれることによってのみ、こうしたことが現実化するのである。自然な一生の周期に従ってはじめて、人類は、偉大なまた進歩的な喜びに到達することができるのである。

いかなる社会制度といえども、個人が人生の普通の周期に従って生きるのを妨げたり、若くして結婚し、50歳前後までに子供たちを育て上げ、その後中年、老年特有の深い喜びを得るという過程を妨げたりするような制度であっては、宇宙の神聖な秩序を害するだけでなく、あらゆる種類の社会問題の基を作ることになるのである。

知的、肉体的に問題のない青年男女が、20代の初期に結婚し、生計を立てる準備をし、家庭を維持していく備えができるとしたら、人生の周期としては最も妥当な道を歩み出したことになる。そのような人々は、同年代の未婚

者に比べ、犯罪、不道徳、離婚そして貧困という面で、社会問題を起こす比率が極めて少ない。まだ丈夫なうちに子供をもうけて育て、さらに成熟して社会的に成功を修める頃には、子供たちと共に楽しみ、年老いたときには子供たちに頼り、そして、作り出したのは人か神かは知らぬが、養老保険から必要なだけの物質を買えるよう年金を支払ってもらうのである。しかしながら、最大の報いは、愛と友情の豊かな喜びの中に存在する。……人の経験の中でも最大の喜びは、中年の頃に始まり、それ以降、子供たちや孫たちに囲まれ、愛と名誉を受けて過ごすことにある。』

私たちの望みは、すべての教会員が自分たちの生活を秩序正しいものにし、またこうした人生の周期を楽しんで過ごすことができるよう常に注意を払っていただきたいということである。

そして今、この偉大な総大会を終えるにあたり、教会員の皆さんにもう一度注意を喚起したいと思う。肩の力もて車を押そうではないか。またすべての指導者がキリストの福音に従い、また人々に福音について教え、それによって福音が広く世界中に伝えられるよう、見守っていただきたい。兄弟姉妹たち、私たちは、ふさわしい生活をして前進するのである。私たちは什分の一や断食献金を納め、神殿に参入し、死者のために系図記録を探求する。必ず毎週、効果的な家庭の夕べを開く。子供たちに、義しく生活することを教え、息子たちを伝道に出るにふさわしい状態にして送り出す。また、隣人に福音を教え、警告を発するという私たち自身の責任をも果たすのである。

主は、この神権時代の初めに次のような啓示を与えられた。

「聴け、汝らわが教会の人々よ。いと高きところに住みて、すべての人を見まもる者の声は告ぐ。曰く、誠にわれ告ぐ、汝ら民よ、遙かなる所より耳を傾けよ。海の島々にある者よ、共に聴け。

誠に主の声はすべての人々に及ぶものなれば、一人ものがるる者なし、目として見ざるはなく、耳として聞かざるはなく、心として刺し貫かれざるはなし。

また、およそ教えにそむく者たちは大いなる悲しみに刺し貫かれん。そは、彼らの罪悪は公に告げ知らされて、そのかくれたる行為の発かるべきを以てなり。

而して、この王の世にわが選びたる弟子たちの口より、すべての人々に警めの声は及ばん。……

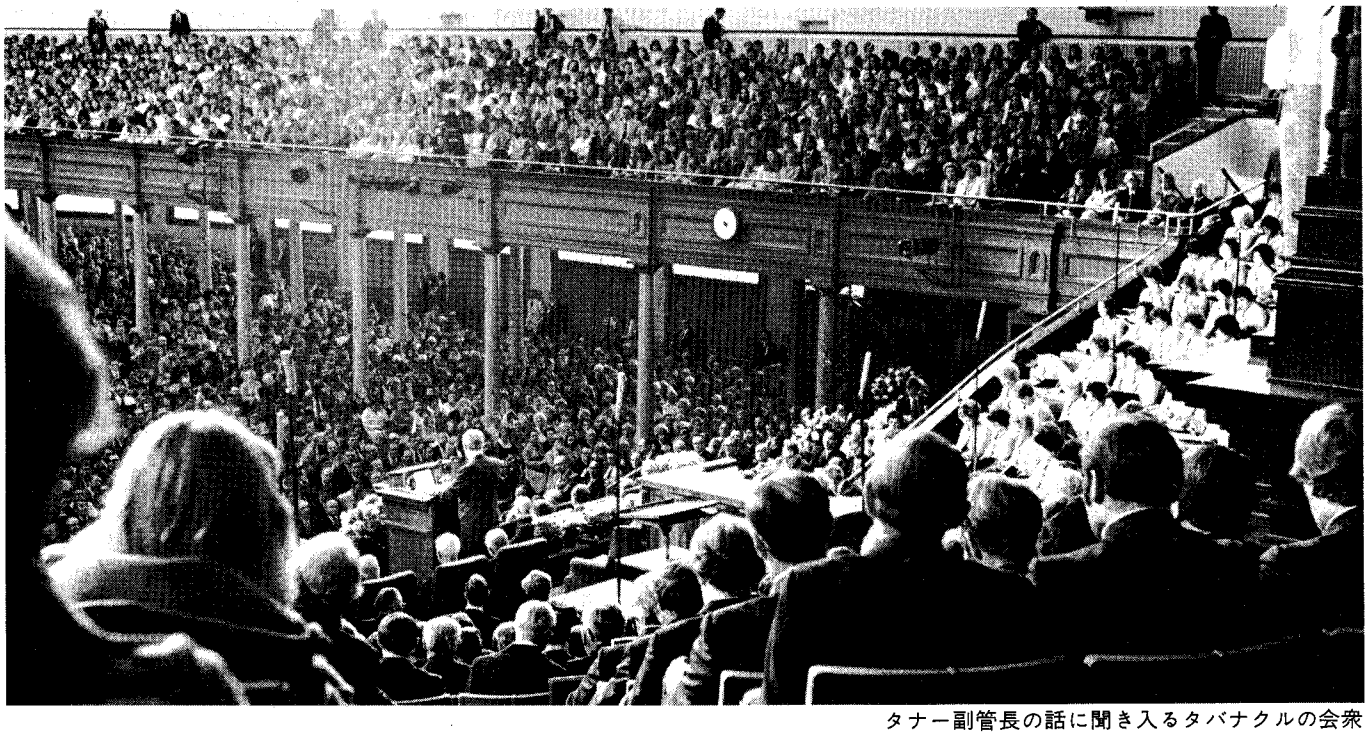
されば汝ら備えをなせ、まさに来るべき事のために備えをなせ、そは主の来るは近ければなり。

而して主の怒りは燃え、主の剣は天にてうるおいたれば、今やこの世に住む人々の頭に下されん。

その時主の腕現われて、主の声もまた主の僕らの声も聞かんとせず、予言者にして使徒なる者たちの言にも耳傾けんとせざる者のその民の中より絶たるべき日来るなり、（ここで申し上げたいことは、私たちはこの総大会の数日間を通じて、予言者たち、使徒たち、そして主の僕たちの証を数多く耳にしているということである。）……

彼らは主の義を打建てんために主を求めずして、あらゆる者おのが心のままに振舞いおのれらの神の姿を求むれども、その姿は人の世の像にしてその本質は一個の偶像なり。そは古びてついにバビロンにて、すなわちついに亡ぶべき大バビロンにて朽ちん。……

すなわち世の弱き者たち出で来たり、人その同胞を譏りまた肉の権力に依り



タナー副管長の話に聞き入るタバナクルの会衆

頼まざらん様力ありて強き者たちを打ち破らん。

されどこは、あらゆる人々主なる神……の名によりて語らんため、……。」（教義と聖約1：1－4、12－14、16、19、20）

私は最後に、ヨブについて思うことを申し上げて、話をしめくくりたいと思う。ヨブの妻は、ヨブのもとへ来て、挑発的な提案をした。

「時にその妻は彼に言った、『あなたはなおも堅く保って、自分を全うするのですか。神をのろって死になさい』。

しかしヨブは彼女に言った、『あなたの語ることは愚かな女の語るのと同じだ。われわれは神から幸をうけるのだから、災をも、うけるべきではないか』。

『わたしの息がわたしのうちにあり、私の息がわたしの鼻にある間、

わたしのくちびるは不義を言わない、わたしの舌は偽りを語らない。

わたしは断じて、あなたがたを正しいとは認めない、わたしは死ぬまで、潔白を主張してやめない。

わたしは堅くわが義を保って捨てない。わたしは今まで一日も心に責められたことがない。……

神が彼を断ち、その魂を抜きとられるとき、神を信じない者になんの望みがあろう。』」（ヨブ2：9、10、27：3－6、8）

この大会を通じ数多くの説教を聞いてきたが、その中でも、マタイ伝の第16章が度々引用された。私はここでもう一度引用したいと思う。繰り返すことにより、心に強く残るからである。

「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、『人々は人の子をだれと言っているか』。

彼らは言った、『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言いまた、エレミヤあるいは予言者のひとりだ、と言っている者もあります』。

そこでイエスは彼らに言われた、『それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか』。

シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです。』」（マタイ16：13－16）

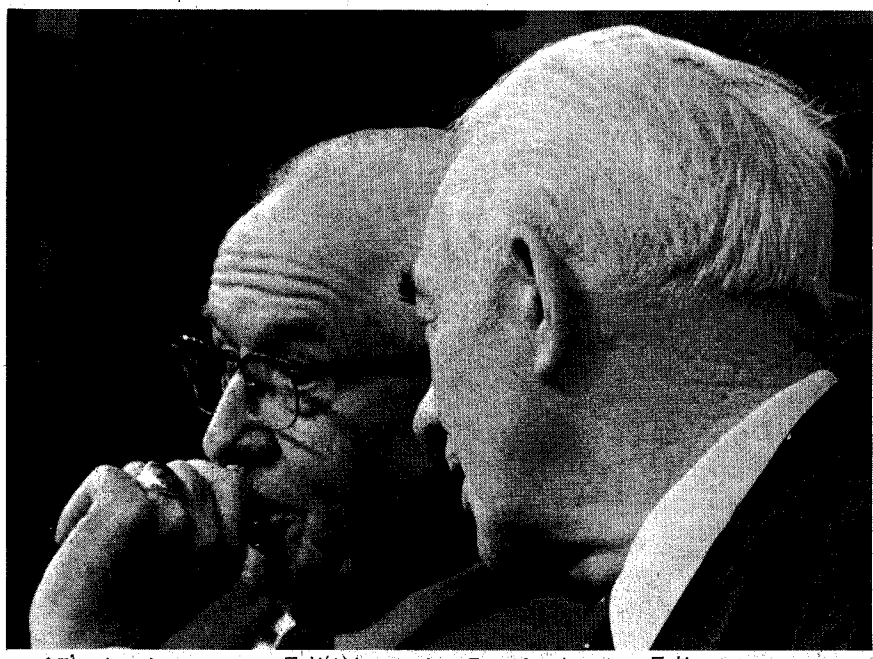
今日この会場には、50人程の特別な証人がいる。私の声に耳を傾けている人々も何千、何万といる。その人々も皆、声をひとつにして、その質問に答えるのである。「あなたこそ、生ける神の子キリストです。』

すると主は、数千数万という私たち一人一人に次のように言って下さることであろう。「わが子よ、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。

そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロ、ヤコブ、ヨハネ、あるいはビル、サムである。そして、わたしはこの啓示の岩の上に（ペテロの岩ではない。教会は、人の生命の上に建てられるものではなく、啓示の岩の上に建てられるのである）、イエスがキリストであることをあらわしたのである。

わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつながれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。』（マタイ16：17－19参照）

これはまた、私が皆さんに申し上げる証でもある。兄弟姉妹の皆さん、私たちは、こうして喜びを共にしてきたこの素晴らしい大会を閉じようとしている。私の申し上げる証は、主の僕たちに与えられている権能と権威によって地上でつながれることは、天でもつながれるということである。その権能は、昔、十二使徒たちに与えられた。そして今日再び、十二使徒たちに与えられているのであるが地上でつなぐことは、天でもつながれるのである。王国の鍵は現在、地上にある。私たちは知っている。主の望みは、私たちがその鍵を使って、救い主のみ業を推進するためのとびらを開けることである。私たちはそのために特別な努力をしている。私は以上の証を申し上げ、また、主の祝福が皆さんの上にあるよう祈る。無事に帰宅できるように、また安全に守られるように、そして、この大会の話が、皆さんの心の奥深くしみ通り、それが永遠に留まるように、イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。



エズラ・タフト・ベンソン長老(左)とマーク・E・ピーターセン長老

4月3日(土)　福祉事業集会における説教

福祉活動における教会と家庭

教会の備えは家庭の備えをその基としている。

管理監督
ビクター・L・ブラウン

愛する兄弟姉妹の皆さん。今朝、再び皆さんに教会の福祉活動プログラムの基本原則について話す機会があることを感謝している。

私たちは常に、次のことを自分自身に問うてみる必要があるのではないかと思う。「隣人の必要を満たす上で、個人、家族、教会は、どのような責任を負っているだろうか。」長年勧告が与えられてきたにもかかわらず、まだそれを理解していない人、あるいはそれほど真剣に取り組んでいない人々がいる。それは明らかに、自分でどれだけのことをしたかということに全く関係なく、教会が援助の手を差し伸べてくれるだろうという考えを持つことによるものである。

教会の福祉活動プログラムは、個人と家族が備えをなし、自らのことは自らの手で行なうという原則の上に基を置くものであるということを認識する必要がある。これらの教えは主が私たちを愛しておられるが故に、またその限りない知恵により特に困難な状態にあるときに祝福が得られるように授けられたものである。私は、人々がこのことを理解できればと思っている。そしてしばしば引用されるように、主は「必ずわが道に適いて行われざるべからず」と言っておられるのである。（教義と聖約104：16）

ステーキ部長、監督ならびに扶助協会会長の皆さんは、自立の基本原則について教えて下さるようお願いしたい。教会員をこの原則に立ち返らせることは非常に重要である。もし教会員が一丸となってこの教えを実行するならば、いつの日か必ずや起こる困難な事態に対して、それがいかなるものであろうと、何の恐れも抱く必要がないであろう。

主は言われた。「汝らもし、日の栄の世界に一つの所を得んことをわれに願わば、わが命じて汝らに求むるところを行いてその備えを為さざるべからず。

見よ、こはわれ汝らを備うる準備と、わが与うる礎と範例とにしてこれによりて汝らに与えらるる誡命を成就すべし。

これ、汝らに如何なる艱難下るといえども、わが摂理によりて日の栄の世界に在る他の一切の生くる者の上にわが教会員の自立せんがためにして…」（教義と聖約78：7、13、14）

主はさらに、「もし汝らに備えあらば怖るることなからん」（教義と聖約38：30）とも言っておられる。

さて、ここで福祉活動における教会の役割について述べさせていただきたい。この神権時代の初め、教会が設立されてまだ数ヵ月の頃、主は予言者ジョセフ・スミスに啓示をお与えになり、私たちはひとつの民として、「貧しき人々乏しき人々に心を留めて、その苦しまざるよう救助を施すべし」（教義と聖約38：35）と言われた。

それから数ヵ月後、主はさらに次のように警告された。「また汝ら貧しき者、乏しき者および病める者、悩める者たちを万事に憶えて憐れむべし。これらの事を為さざる者はわが弟子にあらざればなり。」（教義と聖約52：40）

福祉活動プログラムが組織されたのは、教会全体としてこの責任を果たせるようにするためである。助けを必要としている人々を援助する方法において、教会と政府とでは、根本的な違いがいくつかある。その最も重要な点についてJ・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は次のように語っている。「教会は施しをしない。貧困者への世話を地方の問題とし、引き続き地方にその責任を課さねばならない理由はそこにある。教会は施しができない。教会は大貯蔵庫を備えて、合衆国の財務省に代わり、貧しい人々に必要なすべてのものを監督から支給するようなことはしない。またそうするはずもないのである。」（「大会報告」1944年10月）

主はさらにこう言っておられる。「汝怠惰なることなかれ。およそ怠惰なる者は働く者のパンを食することもなく、またその衣服も着るべからざればなり。」（教義と聖約42：42）施し、すなわちただで物を与えることは、人間を怠惰にし、依頼心を起こさせ、ひいては自尊心を損なうことになる。

教会では、主の方法が取られている。それは、私たち各人が自らの必要を満たせるように備え、また援助を必要としている人が独立心と勤勉さと自尊心

を維持し、あるいはそれを取り戻すように助ける方法である。「真にへりくだりたる心を持たず深く罪を悔いる精神なく、腹に満足を抱かず、他人の物を取ることを止めず、その眼は貪りに満ち、己れの手を以って働かんとせざる」怠惰な者たちは主のみこころにかなわない。（教義と聖約56：17）

しかし、「清き心、真にへりくだりたる心、悔いる精神を持てる」（教義と聖約56：18）貧しい人々を捜し出し、助けを与えるのは、喜ばしいことである。

教会では、個人的にも、組織されたプログラムにおいても力を結集して、これらの善良で恵まれない聖徒たちが自活できるよう、援助の手を差し伸べている。これが「教会の備え」と呼ばれるものである。教会員は、ワード部ごとに自分の持つ時間、労力、財力の限りを尽くして生産事業を進め、かん詰工場、倉庫、雇用事務所、その他の福祉活動機関を経営している。また、自分自身のように隣人を愛するという第二の大切な戒めに従い、自分以外の教会員に、社会的、情緒的、経済的援助を与える。

さらに毎月断食献金を納めることによって教会が貧しい人々の必要を満たせるよう援助する。しかしながらこうした援助は、未亡人、孤児、一時的に働けない人、情緒障害のある人や病人その他、どうしても自活できない少数の限られた人々にのみ与えられるものである。しかしこれとても、本人ならびに家族がなし得ることをすべてなした後に与えられるのである。

昨年のこの福祉事業集会で、マリオン・G・ロムニー副管長は、このように語った。「私は災いを予見したいとは思わない。また将来何が起こるか詳しいことは私にはわからない。しかし予言者たちが予言してきたことは必ず起こることを私は知っている。教会員の需要に供すべく組織された福祉プログラムは、当初の目的をまだ果たしてはいないから、私たちはいつの日か、その目的である自給自足の生活を送ることができるようになるであろう。」（「福祉事業集会」1975年4月5日p.25）

また、スペンサー・W・キンボール大管長も次のように語っている。

「これまで様々な災害が起きている。毎日、あるいは一日おきに、地震、洪水、トルネード、その他数々の天変地異により、多くの人々が悩まされている。私は、教会員と指導者が、自立のビジョンを抱き始めていることを感謝している……。

もっと多くの災難に見舞われる日が来るであろう。終りに近づくにつれて、トルネードや洪水はさらに頻繁に起こるに違いない。従って、備えをしなければならない。」（「大会報告」1974年4月p.183－184）

私たちはこうした勧告の言葉に幾度となく思いをはせ、多種多様な社会的、経済的状態の下で将来どのようなことが起きるか心にその様を描こう。ここで、将来、個人と教会全体に起こり得る事柄についてお話したいと思う。次のような3つの状態を仮想してみた。仮想と言っても実際に起こる可能性を十分に含んでいるものである。

状態1．経済が比較的安定していて、失業者もそれほど多くはなく、災害もめったに起きない。ちょうど現在、合衆国ならびに他の多くの国々に見受けられる状態である。医療、情緒、経済面で一時的な援助を監督に申し出るのは、少数の教会員または家族だけである。自らの必要をまかなえないそれらの家族や個人のために、生産事業、倉庫、雇用の促進、断食献金などを利用して必要を満たすようにする。教会の医療奉仕と社会奉仕には、神権組織を支援し、これらの特別な必要を満たす力がある。状態1においては、現在の教会の備えで必要を満たすことができる。

状態2、健康、社会、経済の緊張はもっと深刻である。不景気による深刻な失業状態あるいは局地的な自然災害がある。社会は動揺する。教会が自給できない人々の必要を満たすためには、現在行なわれている生産、配布の種類を減らして量を最大にするようにし、人々に広範囲にわたる労働の機会を提供する必要がある。また定員会による特別な救済活動も設けられる。さらには医療、奉仕と社会奉仕が至る所で必要となる。この必要を満たすために、教会の物資供給機関に大きな負担がかけられることは明らかである。特に、状態2が長びいたり、地域的に広範囲に及んだりするようなことがあればなおさらである。

状態3、状況は非常に深刻である。非常な不景気で、経済破綻も来たしかねない。失業者はさらに増え、社会の分裂が広まる。このような状態は農作物の不作や広範囲に及ぶ自然災害による経済恐慌、もしくは国際紛争の結果として生じる。このような状況の下では、現状の手段だけでは状態2における以上の援助を与えることは不可能である。従って、福祉の必要を完全には満たせない。

私はここで、教会で言っている備えが単に物質的なものだけに止まらないということを皆さんに強調したい。特に、状態2や状態3においては、社会の分裂、不安、恐れ、不景気など、社会、経済状態からくるあらゆる緊張感に取りまかれることだろう。このような事態を切り抜けるためには、家族ならびに個人の情緒的、肉体的な備えが必要である。また教会員は、強め合い、助け合うために、今まで以上の相互依頼が必要となるに違いない。

これらの例は、仮空のものである。私たちのこの世の救いが、指導者の勧告に従い、家族、個人、ワード部、ステーキ部として、各々備えをなすことによってのみ得られることを物語っている。彼らの勧告に従うならば、主が言われたように、私たちは、シオンを避け所とし、あらゆる義のはたじるしにすることができるのである。「誠にわれ汝らすべてに告ぐ、汝ら起ちて己が光を輝かせ。これ汝らの光よろずの国民のはたじるしとならんため、シオンの土地とまたシオンのステーキ部とに集合すること、一つは防禦のためとなり、また暴風雨の避所とならんためなり。」（教義と聖約115：5、6）

では、ここで根本的な原則、すなわち家族と個人の役割について述べてみたいと思う。個人は、自分自身と家族を扶養する責任を負っている。使徒パ

ウロは言っている。「もしある人が、その親族を、ことに自分の家族をかえりみない場合には、その信仰を捨てたことになるのであって、不信者以上にわるい。」（Ⅰテモテ5：8）個人は自分自身に、また両親は子供に、子供が成人した場合は、年老いた両親や祖父母に対する扶養の義務を負っている。

以前の福祉事業集会で語られた家族の備えに関する5つの基本要素について、もう一度考えてみたい。

雇用条件の改善　よく備えのできた家族では、父親が自分の職業に十分な備えをしており、子供もまた、自分にとって満足のいく適切な職業に就くために備えをしている。

財政管理　よく備えのできた家族では、両親が予算の立て方を知っており、財政管理がよく行き届いている。子供は、実際の経験によりこの技術を学ぶ。

家庭生産と貯蔵　よく備えのできた家族では、最低1年分の必要を満たせるだけの食糧や日用品を貯蔵している。できる所では、栽培、かん詰作り、裁縫、生産等に積極的に携わっている。

健康　よく備えのできた家族では、栄養、衛生、事故防止、歯の手入れ、応急手当て等、予防の原則をよく生活に取り入れており、医療施設の利用のしかたも心得ている。また特に主が教義と聖約89章で聖徒たちに約束された事柄に、細心の注意を払っている。

社会的・情緒的強さ　よく備えのできた家族では、正しい生活、福音の勉強、愛ある家族関係によって、社会的・情緒的な強さを伸ばしている。また悲しみと喜び、窮乏と富裕、失敗と成功など、人生につきものの相反する事柄にも、主イエス・キリストへの信仰と永遠の生命の望みをもって敢然と立ち向かうことができるのである。（「エンサイン」1975年11月号p.115）

家族の備えは、家族の必要を満たす鍵であり、教会の備えの基である。

家族の備えを実行していると語る人は、次のような簡単でしかも基本的な事柄について言明しているのである。父親は息子に自分の仕事について語り、息子が幼い頃から父親の重要な役割についてよく理解できるようにしている。家庭の予算を組むときには子供たちと共に行ない、母親は娘に裁縫や料理など家事に関する技術を教える。また、たとえ苦難にあるときにも、家族全員があわてずに平安な心で生活するにはどうすればよいかを親子で話し合っている。そうすることにより情緒的に健全な状態とはどういうものかを心に深く感じるようになるのである。

救い主は、永遠の家族生活の法則についての鍵を説いておられる。「よくよくあなたがたに言っておく。子は父のなさることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。父のなさることであればすべて、子もそのとおりにするのである。

なぜなら、父は子を愛して、みずからなさることは、すべて子にお示しになるからである。そして、それよりもなお大きなわざを、お示しになるであろう。あなたがたが、それによって不思議に思うためである。」（ヨハネ5：19、20）

両親が子供たちに、主の望まれる人生に向けていかにして備えをなしまたいかにしてそうした生活を実践するかを真に教えるのは模範によってである。

福祉活動の中で言われている家族の備えという言葉は、単なるスローガンやプログラム以上のものである。それは、家族にこの世の救いを得させる鍵である。そして、父親や母親が聖典に述べられている「父は子を愛して、みずからなさることを、すべて子にお示しになるからである」という教えを身を持って子供たちに教える機会を与えているのである。

父親にとって家族の備えは、家長としての真の役割の多くを果たす手段を与えてくれるものである。父親が家族の備えの5つの分野において子供たちを備えさせるならば、子供は自信を持ってこの世に立ち向かうことができるであろう。こうして、子供たちの教師や助言者として、現実の仕事や将来の計画、考えを共にするならば、父親は家長としての責任を一層よく果たすことができるのである。

教会の備えと家族の備えの重要性、ならびにその両者の関係に焦点を当ててきた。私たちが責任を果たし、指導者から与えられているチャレンジに十分に応えるためには、家族の備えと教会の備えの両方が必要である。教会の備えを充実させるためには、各ワード部が生産事業雇用プログラムを実施し、監督の倉庫を充実させる必要がある。家族の備えを十分に行なうためには、計画を立て、それを実行に移さなければならない。このようにしてこそ私たちは、十分自立できるようになるのである。

今朝ここにお集まりの指導者の皆さんにお願いしたい。皆さんの光を人々の前に輝かし、人々があなた方の模範に従えるようにしていただきたい。会員の皆さんに自立を教え、他人に頼らないように忠告していただきたい。

また、各ワード部やステーキ部の実状に合った福祉活動プログラムを実施して、聖徒たちの生活に祝福をもたらし、全世界のすべてのステーキ部を避け所とするように、皆さんにチャレンジしたいと思う。

これまで家族と個人の備えについて語ってきたがこの責任はすべて主から与えられたものであることを決して忘れないでいただきたい。主は私たちの父である。主は私たちを愛しておられるが故に、このような教えを与えられたのである。これまで話してきたことはすべて主の教えにかなった精神で推し進めなければならない。主は、教会、家族および個人に霊感を与える源であり、備えがあるならば恐れる必要はないと約束しておられる。私たちが指導者として、あるいは教会員として祝福を受け、主の勧告に従って備えができるように、イエス・キリストのみ名によってへりくだり祈るものである。
アーメン。

☆　　☆

4月3日(土)　福祉事業集会における説教

教会雇用制度

神権定員会、扶助協会、ワード部福祉活動委員会、およびワード部、ステーキ部雇用関係者による教会雇用制度の運用。

管理監督会第一副監督
H・バーク・ピーターソン

兄弟姉妹、私たちは、人生で遭遇する数々のチャレンジに備えることの大切さについて、再び思い起こす機会を得た。ブラウン監督は、家族の備えと教会の備えについて重要な点をいくつか述べられたので、私は今日、教会雇用制度についてお話したいと思う。これは教会の備えに含まれるものである。ここで皆さんよく御存知の事柄についてもう一度考え直してみることにしよう。これは今に始まったものではないが、再度強調する必要があると思われるものである。

「あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る」（創世3：19）という自給自足の原則は、アダムとイブがエデンの園を追われる際に与えられたもので、現在にまで至っている。

私たちは親として、また指導者として、この偉大な永遠の原則を子供たちに教える機会を神から与えられている。誇りをもって正直に働くという原則と共に、自立の原則がある。自立とは、強情かつごう慢な気持で独り立ちするのではなく、謙遜なしかも強い自尊心と自己に対する責任感をもって行動することである。

これらの正しい原則を教える責任の多くは、神権定員会に課せられている。しかし、私たちの生活を支える第一の責任は、自分自身と家族にある。私たち福祉活動に携わる者は、私たちの第一の目的であり、かつ神権者としてなすべきことは、人々が自立するよう援助することであることを忘れてはならない。

ワード部の会員が失業したり、不適当な職に就いている場合、新しい仕事を捜す責任は本人にある。この場合神権指導者は、どうすべきかを教え、奨励する必要がある。また、職を見つけ、雇用条件の改善を図る方法を知らない多くの人々に対して、定員会指導者は援助を与えなくてはならない。こうした人々は、新聞の求人欄に目を通し、職業安定所を訪れ、履歴書を会社に送り、親戚友人にあたり、その他可能な方法をとることによって、賢明にまた根気よく仕事を捜す必要がある。

就職先を捜す場合、まず家族にあたってみることが大切である。ここで言う家族とは、兄弟、姉妹、おじ、おば、両親などが含まれる。家族は一致団結してその一員を援助するときに、その絆は強まるのである。これは何と素晴らしい機会ではなかろうか。落胆しているときこそ、家族が互いに心のこもった積極的な関心を示すことにより、その人をしっかりと支えることができるのである。

個人や家族では、どうしても就職先を見つけることができない場合がある。この場合、教会雇用制度の助けを借りて、問題解決を図る必要がある。これを簡単に言うと、雇用制度の目的は、ふさわしい人が適切な仕事をできるだけ速やかに見つけることができるよう援助することである。さらに砕いて言うならば、適切な人を適切な時に適切な職に、就かせることである。早ければ早いほどよいケースが多い。

雇用制度は3つの部分から成る。今日、私はこのことについてお話したいと思う。第1の最も大切なものは、神権定員会である。第2は、ワード部福祉活動委員会と援助提供者、第3はステーキ部の雇用に関する援助提供者である。ここで再び強調したいのは、これらの手段は、個人と家族が神権指導者とホームティーチャーの適切な助けを得てその問題解決に努力した後に初めて適用される、ということである。

雇用プログラムの成功の鍵は神権定員会にある。すなわち、単なる登録上だけの定員会ではなく、ひとりの兄弟のために積極的に働く定員会でなくてはならない。「福祉活動の手引き」には次のように記されている。「定員会指導者とホームティーチャーは、支出過多、営業不振、現在および将来の職業から判断した教育の不適性、その他財政圧迫の予想される点など、財政問題を引き起こす徴候に注意を払わなければならない。」（「福祉活動の手引き」p. 14）　従って、定員会指導者とホームティーチャーは、担当家族に絶えず注意を払い、こうした事態が生じたときに、彼らを援助することができるようにする必要がある。

ホームティーチャーは、雇用に関する必要に気づいたら、直ちにまた内密に定員会会長またはグループリーダー

に報告する。定員会集会で、指導者が効果的にしかも簡単に情報を集める方法がある。それは、1枚の用紙に、「あなたは求職者を御存知ですか」「あなたは求人先を御存知ですか」というふたつの欄を設け、それを定員会会員に回覧する方法である。知っているという返事があれば、定員会書記は、定員会指導者にその日のうちにそのことを伝える。そして定員会指導者は、報告のあった人から直ちに詳しい情報を入手する。就職の機会と必要は、時を争うもので、一両日中にめどをつける必要がある。

定員会の働きについて、手引きにはさらに次のように記されている。定員会は「高度な職業を望む人の養成や再訓練にあたって援助を与えるべきである。その方法としては、職業専門学校、見習い訓練、場合によっては現在の仕事の質の向上を目指す訓練の方法等に提案することがある。…… 経済上の問題を解決するためには、幅広い知識、技能、定員会の協力が大きな助けとなるものである。援助の必要が生じたら、定員会はそれをワード部福祉活動委員会にはかることもできる。」(「福祉活動の手引き」 p.14)

定員会だけで就職の問題を解決できない場合、定員会指導者と会員は雇用制度の次の段階をとる。これがワード部福祉活動委員会である。できれば定員会指導者は、解決法を前もって準備した上でワード部福祉活動委員会に諮るようにすべきである。

福祉活動委員会の義務は、就職先を早く捜すことである。多くの場合委員会は、求職者にワード部の就職問題について援助を提供できる人と相談させるよう神権指導者に促すことが望ましい。なお各ワード部に少なくとも1名、就職問題について援助を提供できる人を置く必要がある。できれば、就職問題に関する基礎技術をすでに身につけ、福祉活動委員会から割り当てられたときに直接働きかけのできる人が望ましい。技術をまだ習得していない場合は、ワード部かステーキ部のいずれかで訓練を受ける必要がある。

私たちのもとには、こうした人々を活用しているワード部から多くの成功例が寄せられている。こうした援助提供者は、神権指導者およびホームティーチャーを通じて、十代から年配者に至る人々を対象に、自らを備える方法を教え、実用的な技術を身につけさせることができる。また扶助協会の訪問教師は、訪問先の家族の就職問題に心を配り、緊急を要する場合には直ちに扶助協会の会長に報告し、会長は福祉活動委員会か監督に報告する。

ワード部神権指導者は、さらに援助が必要であると感じた場合、雇用制度の第3段階、すなわちステーキ部の援助提供者の助けを借りる。この援助提供者は、ステーキ部長会によって召され、ワード部の援助提供者の働きを補い、単一ワード部では解決できない就職問題や機会を処理する。勿論ステーキ部における援助の課程は、ワード部のそれと同様である。

すべてのワード部、ステーキ部が今申し上げた雇用制度の3つの面を実施するよう私たちは望んでいる。第1は、神権定員会と扶助協会がその会員の援助に全力を尽くすこと、第2に、ワード部福祉活動委員会が援助提供者の協力を得て必要な援助を与えること。第3は、ステーキ部の援助提供者が要請に応じて援助することである。

ここで皆さんにお願いしたい。それぞれのステーキ部、ワード部に戻ったら、このプログラムを実施していただきたい。これを実施するならば、あらゆる年代の聖徒に恵みをもたらすことができる。それには以下の事柄を今すぐ始めていただきたい。

1．神権指導者、ホームティーチャー訪問教師を通じて、個人と家族に、自給自足し、自分の問題はできるだけ自分で解決するように教える。

2．皆さんを代表するホームティーチャーと訪問教師に、雇用問題に絶えず注意を払い、報告してもらうようにする。

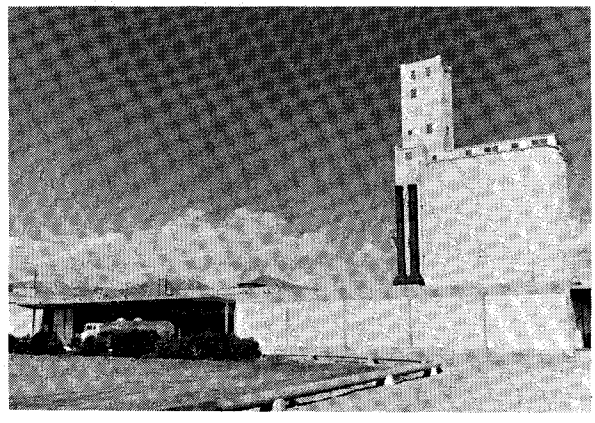
3．各ステーキ部、ワード部は、就職に関して援助を提供できる人を明らかにしておく。

最後に、次のことをよく心に留めていただきたい。すなわち、雇用に関する努力を成功に導くためには、他の人々を援助する際、永遠の原則に従って行動するということである。

何年も以前、教会はある特別な雇用制度を確立した。それは現在も続いている。私は少年の頃、アリゾナ州フェニックスからソルトレーク・シティーに住む祖父母に会いに来た時のことを覚えている。当時80代の元気な祖父は、私を仕事場に連れて行くのを楽しみにしていた。その仕事場というのは、シュガーハウスにある旧デゼレト産業である。私は祖父のもとを訪れ、ピーターソン家の族長がなおも立派に働き、また幸福そうなのを見て、感動を覚えたものである。それは教会の雇用プログラムのお陰であった。父はこの祖父から勤労の尊さを学んだ。そしてそれはさらにその子供たちへの最大の贈り物のひとつとなっている。

神の子供たちは、尊い雇用の経験を決して恥じる必要はない。

主の祝福があって、私たちが人々にこれらの原則を伝えることができるよう、イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



4月3日(土)　福祉事業集会における説教

食糧貯蔵

目標：食糧の1年分貯蔵を1977年4月までに達成する。

管理監督会第二副監督
ボーン・J・フェザーストーン

神権者の兄弟ならびに扶助協会の姉妹の皆さん、ヘンリー・D・モイル副管長はかつて、人の話を聞くときはその話から3つの事柄を学ぶべきであると言われた。まず第一に、これは3つの中で3番目に大切なことであるが（しかし非常に大切なことである）、話し手の話の内容をつかむこと。第二は、霊的な経験を味わうこと。そして最後に、最も大切なことは自分で固く決意したことを守るということである。私たちもモイル副管長の勧めに従って自分の決意した事柄を書き留め、実行しようではないか。守る意志のないのに決意しないこと。仮に決意したとしても結局は守ることができず、自分で自分の人格を弱めることになる。

私は15歳の時から26年間、食料品関係の仕事に従事し、その間、人間の本性について多くのことを学んだ。ストライキや地震、戦争のうわさが、非常に活発な多くの末日聖徒にどのような影響を与えたか今でも覚えている。彼らは5人の思慮の浅い処女たちのように、食物を買いにどっと店に駆け込んだのである。彼らは予言者から指示が与えられていたのに従わなかったことと、そして、どうしようもなくなるまで引き延ばせば恐ろしい結果になりかねないことを知って、あわてふためいたのだった。

末日聖徒の地域社会の中にさえ、人々が何の羞恥心もなく堂々と品物を買いあさっているような様子が見受けられるのは、興味あることであった。それも、かなりの数の末日聖徒がそうしていたのである。こうして急激な需要の増加を生む原因となった。実際、このような事態は教会外の人による、いわゆる予言が大々的に公表されたときに起こったのである。

私たちは時にいかに愚かな者になることであろう。私たちには生ける予言者がおり、神の生ける代弁者、大管長会と十二使徒評議員会がある。これらの兄弟たちに常に従おうではないか。準備ができていれば何も恐れる必要はないのである。

兄弟姉妹の皆さん、私たちはすべて末日聖徒が1年分の食料貯蔵をしているかを確認するために、自分のステーキ部やワード部で何をしただろうか。原則を教えることにのみ終始していないで、どのようにすればよいのか、その方法も教えるようにしようではないか。

今朝、私は食糧貯蔵についてお話したいと思う。まず最初に、私たちに実行できる提案を少しさせていただきたい。初めに在庫を調べて、貯蔵品全体の量を算出する。これは準備ができていれば、家庭の夕べの一大計画となるであろう。もし準備ができていなければ、家族を前にしてひどくきまり悪い思いをするかも知れない。生ける予言者について述べるあなたの証がどんなに力強く子供たちの胸に響くか想像していただきたい。子供たちは、家族の長であるあなたが手元に1年分の食糧貯蔵をするよう長年にわたって勧告されてきたことを知っているのである。私たちは今、自分がどれだけ準備できているかを知る必要がある。すべての家族は現在あるだけの貯蔵量を残らず算出すべきである。

そうして現在の貯蔵量が把握できたら、次は、1年分のレベルにまでもっていくには何が必要であるかを調べる。そしてリストを作成し、貯蔵の計画を立てるのである。まず基本となる食糧、すなわち麦（またはあなたの地方で収穫できる穀物）、砂糖または蜂密、粉ミルク、塩、水のことを考慮すること。ほとんどの人はこのような基本食糧を買うだけの余裕がある。毎月の食費に当てた予算の中からそれらを購入しなさい。教会は借金をしてまで食糧貯蔵をするようには勧めていない。

さて、現在の貯蔵量と必要な物がわかったところで、3番目に行なうことは、目標に到達するまでの予定表を作成することである。私は、きょうから1年、活発な教会員の家庭ではすべて、また多くの不活発な会員の家庭でも1年分の食糧貯蔵をするべきであると勧めるものである。食糧貯蔵が国の法律に違反する国では、法律に従いなさい。しかしそういう場合でも、家庭菜園を設けて野菜や果樹を栽培したり、にわとりやうさぎを飼うことはできる。法律の範囲内でできることは何でも実行しなさい。そうすれば、主は必要なときに祝福して下さるであろう。これか

ら具体的な方法を幾つか述べてみたい。

1．予言者に従う。私たちは、野菜や果樹を植えるようにという勧告を受けた。今年はもう考えてばかりいないで実行することにしよう。自分の手で栽培できる食料はすべて栽培しなさい。また、不足した場合、次の年も栽培できるように野菜の種も1年分買って貯えておくことを忘れないように。ここで私は皆さんに、どのようにすれば私がお勧めする事柄を全部実行するための資金が得られるかについてお話したいと思う。

2．穀物を大量に一括販売してくれる業者を捜し、トン単位で購入する契約を結ぶ。

3．蜂密を大きな容器で販売してくれる業者を見つけ、定期的に購入する契約を結ぶ。または店に行くたびに少しずつ砂糖を買い足していく。

4．粉ミルクを定期的に販売店や酪農場から購入する。

5．次に買い物に出かけるときは、塩を余分に買ってくる。

6．家族の一人一人が最低2週間は生き長らえるだけの水を貯蔵する。

私が取り上げた食糧が手に入らなかったり基本となっていない所では、それらに代わる適当な食糧を貯えるようにしなさい。

ここで皆さんは次のように言われるだろう。「それを買う資金がどこにあるのですか。必要なことはよくわかっていますが、今だって家計は火の車なんです。」

次に資金を得る方法をあげてみよう。あなたの国に当てはまるものもあれば、そうでないものもあると思う。

1．今年のクリスマス予算の25パーセントから50パーセントを1年分の食糧貯蔵に回すよう家族で決める。

2．新しい洋服を買いたくても我慢する。手持ちのものを縫ったりリフォームしたりして2、3ヵ月間は間に合わせ、その分を食糧購入の費用とする。できれば家具や衣類などのような食糧以外の生活必需品も作るようにしなさい。

3．レクリエーションにかける費用を半分に減らす。お金のかからないレクリエーションを楽しみなさい。ただ、子供たちにはいつまでも心に残るような活動をさせてやるよう配慮する。

4．1年分の食糧貯蔵が達成できなければ、翌年の休暇は全くないものとする。多くの教会員は休暇を取らなければ、その節約した分で衣食住の1年分貯蔵に必要なものをすべて整えることができるであろう。また休暇を取ったときは家庭菜園で働きなさい。家族

左よりH・バーク・ピーターソン第一副監督、ビクター・L・ブラウン管理監督、ボーン・J・フェザーストーン第二副監督

全員で働けばきっと楽しいに違いない。

5．食料品店の廉価販売広告に気をつけ、格安のものは余分に購入する。

6．食事の材料を変える。蛋白質は肉より安価なものから摂る。食費は切り詰められるものである。買い物に行くたびに人目を引く広告宣伝につい誘われて、クッキーやキャンデー、アイスクリーム、その他食料品以外の品物や雑誌に手を出したくなるが、絶対に買わないようにする。よく考えて、必要なものだけ買うこと。そして節約したお金を貯蔵計画に回す。

もし末日聖徒のすべての家族が必ず1977年の4月までに1年分の食糧を貯蔵するのだという固い決意をするならば、主はそれを達成できるようにして下さるであろう。私たちがしなければならないことは、必ず実行すると決意することであり、その決意を守り通すことである。そうするならば奇跡が起こり、道は開かれるだろう。そして来年の4月には、貯蔵場所を一杯にすることができるであろう。私たちは、愛する予言者や他の幹部の兄弟たちに喜んで従うことを行ないによって証明するのである。そこに、私たちや私たちの家族の安全がもたらされるのである。

では次に家族生産についてお話しよう。自治体の条例にふれない所では家畜を飼育しなさい。また果樹やぶどうの樹、いちご類、野菜などを植えなさい。そうすれば、自家生産で家族の食事をまかなうことができるようになり、しかも新鮮なものを食べることができる。家族で食べきれなかった残りのものは保存して、家庭貯蔵の一部に含めることができる。可能な所ではどこでも、食物以外の生活必需品を生産すること。自分の着る物は自分で縫ったり繕ったりしなさい。また必要品は家で作るようにしなさい。私はこれらにつけ加えて、皆さんの所有地をすべて美しく手入れし、維持されるように申し上げたい。

食物ならびに食物以外の品を自家生産することは、家計をやりくりし、あなたの技量や才能を高めるための手段である。また家族に自給自足を教える手段でもある。私たちの子供には労働、勤勉、倹約の原則を身につけるために必要な多くの機会が備えられている。ロムニー副管長は次のように述べている。「私たちはその日、自ら生産するもので生活しなければならないことを知るであろう。」（「大会報告」 1975年4月　p.165）

私はまた、次のような疑問を持っておられる方々に2、3申し上げたいと思う。「勧告に従わなかった隣人にも分け与えるのですか。1年分の食糧貯蔵をしていない非教会員にはどうするのですか。彼らにも分けてあげなければなりませんか。」 分けてあげなければならないのではない。私たちは分けることができ、人々と喜びを共にする機会に浴することができるのである。従って、そのような愚かなことは案じないようにしようではないか。当然、私たちは分け与えるべきである。イエスならどうされるだろうか。私なら隣人が飢えているのを目にしながら、自分だけ食べることは到底できない。もしあなたが食物を分け与えた後、飢え死にするとしても、「これよりも大きな愛はない」（ヨハネ15：13）のである。

では、私たちが家族のために貯えておいたものを略奪したり、押し入って奪ったりする者についてはどうだろうか。つまらないことを考えるのはやめよう。私たちが従っているのは天の父なる神である。戒めを守る者を神が見捨てられるだろうか。「もし汝らに備えあらば怖るることなからん」（教義と聖約38：30）と主は言っておられる。

シオンの民よ、備えをなせ。そうすれば恐れることはない。シオンよ、美しい衣を身にまとえ。神の完全な武具で身を固めようではないか。そして清い心と愛と隣れみをもち、聖なる所に立とうではないか。食糧の1年分貯蔵を1977年の4月までに達成することを決意していただきたい。

ステーキ部長ならびに監督の皆さん、ワード部、ステーキ部の聖徒たちを代表してこのチャレンジを受け入れようではないか。皆さんには、それが真実のキリスト教徒らしい行ないであるとおわかりになると思う。今から1年分の貯蔵をするに必要なものを調べて、確実に成果をあげられるようにしようではないか。

1973年10月の大会の説教の中で、エズラ・タフト・ベンソン十二使徒会会長は、家庭貯蔵について素晴らしい教えを幾つか授けて下さっている。

「義人にとって福音は、災いに備えて警告を与えるものであり、また危機に対応するプログラムとその時々の災害の避け所を提供するものである。……

主は飢きんについて警告しておられるが、義人は予言者の声に耳を傾けて最低1年分の食糧を貯蔵するであろう。……

兄弟姉妹の皆さん、私はこの福祉プログラムが神の啓示により与えられたものであることを知っている。私はこの目で飢えと貧困による惨状を目のあたりにしてきた。それは、第二次世界大戦末期、戦争で荒廃したヨーロッパで、教会の大管長の指示の下に、家族と離れて1年間、食糧や衣類や寝具を貧困にあえぐ会員たちに配送したときであった。私は餓死寸前の聖徒たちの落ちくぼんだ目を見た。献身的な母親が3、4歳の栄養失調のため動けなくなった子供たちを抱きかかえて歩いている姿を目にした。飢えた女性がただ一巻きの糸を買うために食物を断っているのも見た。また、大の男が感激のあまりシオンであるアメリカから送られてきた麦や豆を手ですくいあげては涙している光景を目にした。

私は予言者とこの霊感あふれるプログラムに、また自らの管理の職を実行して、自らのためばかりでなく人々にも分け与えるために備えをなす聖徒たちに、感謝している。」（『汝ら備えをなせ』「エンサイン」1974年1月号）

私は父なる神が天の窓を開き、私たちには想像もできないような方法で、真に1年分の貯蔵を確保したいと願っている人々を助けて下さることをへりくだり証申し上げる。私たちが必ず実行すると決意し、その決意を守るならば、必要な時間と資金が得られるであろう。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

末日聖徒の女性たちに自給自足を教える

小クラスの活動によって姉妹たちは家庭における生産と貯蔵に役立つ技術を学ぶ。

扶助協会中央管理会会長
バーバラ・B・スミス

愛する兄弟姉妹の皆様、今朝と同様に、昨年10月の福祉集会において、管理監督でいらっしゃるビクター・L・ブラウン監督は教義と聖約78章13－14節を引用して話をされました。そこで主は、「日の栄の世界の下に在る他の一切の生くる者の上にわが教会員の自立せんがため」（教義と聖約78：14）降りかかってくる幾多の災難にも耐えられるように私たちに備えをさせると言っておられます。

私たちはこの自立が、主の言葉に従順な教会員だけが従順さの程度に応じて達成できるものであると教えられてきました。従順であれば、安心して生活を送れるばかりか、自給自足も可能になります。そして私たちには、自信と安らぎが生まれるのです。

扶助協会役員は、教会員の姉妹たちが、家庭での生産と貯蔵に関する指導者の勧告に従順に応えられるよう物質的な援助を与え、各家庭で少なくとも1年分の日用必需品の貯蔵ができるように助ける責任があります。末日聖徒の女性たちは、事情が許す限り、食物の栽培、生産、保存に力を尽くして携わらなければなりません。扶助協会は、姉妹たちがそれらを実践する際に、大小にかかわらず、利用できる物を上手に利用できるよう指導する必要があります。上手という意味は、日常生活のやりくりをする傍、将来に備えて、生活を質素にし、節約をするということです。

扶助協会では、姉妹たちに専門的な知識を与え、実際に行なう機会を提供して、直接的な援助をすることができます。ワード部でのホームメーキングのレッスンや小クラスの活動は、このことを学ぶ最も良い機会です。またステーキ部や地方部扶助協会主催によるホームメーキングの品評会、セミナー、研究会などでも学ぶことができます。さらに、各家庭で貯蔵をするようにというのを、夏の家庭訪問教師メッセージとし、ワード部やステーキ部の集会で貯蔵をテーマとした話合いが為されるよう提案することもできます。ステーキ部及び地方部の扶助協会教師たちは、貯蔵を活動計画の主題にし、その実行にあたって、ワード部扶助協会の協力を要請することもできます。

ワード部及び支部の扶助協会会長会は、自分たちの担当している姉妹たちの状態をよく把握するようにします。そしてそれをもとにして家庭での生産や貯蔵に関するホームメーキング活動の年間計画を立てます。この活動で扱うものとしては、以下のようなものがあげられます。

1．緊急事態に備えて計画性のある一貫した貯蔵をする方法
2．家庭貯蔵の品目、場所、方法について
3．菜園のための種の貯蔵、土壌の整備及び道具について
4．野菜の作り方
5．缶詰と乾燥食品の作り方
6．健康維持に必要な食物を取る方法
7．ミシンのかけ方及び裁縫、繕い、衣服の仕立て直し
8．貯蔵食品と手もとにある食品とを上手に使って栄養豊富で食欲をそそる食事をつくる方法

図書館や公共施設の資料を効果的に利用すると良いでしょう。姉妹たちは、御主人と協力して家庭での貯蔵計画を適切に立てられるよう指導を受けます。これは御主人が中心になって家庭貯蔵を推進するためです。

これらの計画が認可された場合、扶助協会会長会は次のようなチェックリストを使用するよう提案いたしたいと思います。

1．扶助協会役員として、姉妹たちが家庭の備えにとって必要な技術を実際に習得するよう助けているだろうか。
2．家庭での生産と貯蔵を効果的に推進するために、扶助協会役員の間で話し合いが十分なされているだろうか。また、そのことについて神権指導者とよく連絡がとれているだろうか。
3．ホームメーキングにおける小クラスのレッスン計画は、ワード部の姉妹たちの必要に即したものだろうか。
4．姉妹たちが自分自身の家庭の生産と貯蔵にとって必要な物が何であり、どのように補充したら良い

かについて理解できるよう助けているだろうか。

もし私たちが、これらの事柄を行なうならば、緊急事態にあっても、私が存じているある家族のように振る舞うことができるでしょう。その家族は、昨年、思いもよらない経済的な困難に遭遇しました。父親が重病にかかり、そのため、家族の収入が一時的に途絶えてしまったのです。今まで冷蔵庫にあった新鮮な食物は食べ尽くしてしまいましたので、貯蔵食品を食べ始めました。また、父親の病気が全快したときには、別の町へ行って仕事を捜さなければなりませんでした。彼が行ってしまった後に、家族が住んでいた町の水道が故障してしまいました。けれども、故障がなおるまでの数日間、家族は、貯蔵していた何リットルかの水を使うことができました。この危機とも言える経験の間中、あわてふためくようなことがないばかりか、苦難にあっているという意識さえ持たなかったのです。彼らは、緊急事態に対して十分な備えをしていました。貯蓄も行なわれていました。それによって家賃も大丈夫でしたし、家族は他の人の手を借りずに自立して、すべてを賄うことができたのです。

家庭における備えの原則と、それに占める女性の役割についての勧告は、私たちの時代だけに与えられたものではありません。恐らく、箴言31章に語られている女性は慎ましい女性ではないかと思います。彼女が持っている知恵、賢さ、節約、備えなどの諸徳を思い起こしましょう。

「彼女は羊の毛や亜麻を求めて、手ずから望みのように、それを仕上げる……

その手の働きの実を持って、ぶどう畑をつくり、……

彼女は手を糸取り棒にのべ、その手に、つむを持ち、……

彼女はその家の者のために雪を恐れない、その家の者はみな紅の着物を着ているからである……

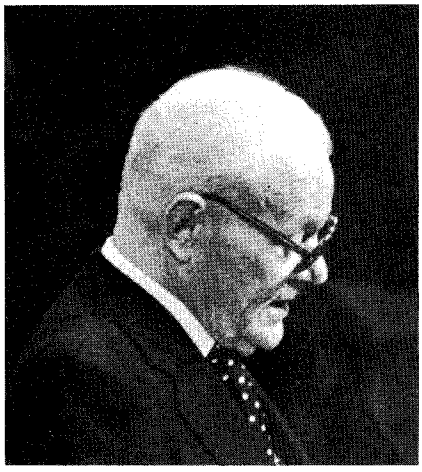
彼女は家の事をよくかえりみ、怠りのかてを食べることをしない。」（箴言31：13－27）

時の始めより、幾多の苦脳や様々な試練は、地球での経験の一部として計画されていました。しかし主は愛に満ちていらっしゃるので、私たちが真理に対して従順である限り、それらの試練に耐えられるように道を備えて下さいます。聖書の時代における女性たちだけでなく現代の私たち末日聖徒の姉妹たちにとっても指針となることは「従い、計画し、準備し、教え、実行する」ことです。

扶助協会の姉妹たちは、神様から命じられたことはいつも固い決意をもって立派にやり抜くということで知られてきました。彼女たちには、義しいことを行なうときに報いと喜びが得られるというビジョンがあるのです。

私たちすべてが賢い主婦となり、兄弟姉妹がお互いに助け合い、各々の分を果たすことによって家庭での備えを効果的に行なえるようお祈りします。このことは、天父が、愛する子供である私たちに望んでおられることだと確信しております。イエス・キリストのみ名によって、アーメン。

4月3日(土)　福祉事業集会における説教



教会福祉活動の基本原則

主の福祉活動は、労働と愛の原則を基としている。

第二副管長
マリオン・G・ロムニー

兄弟姉妹、今朝私たちは素晴らしい発表を耳にした。これに従うなら、私たちすべてが恵みを受けることができるであろう。私は、教会福祉活動の基となっているふたつの基本的な原則についてお話したい。これは決して忘れてはならない原則である。そのふたつとは、第一に、愛、神と隣人に対する愛。次に、労働である。

話を進める前に、自由意志について少し申し上げたい。

自由意志は選び行動する自由と力を意味する。これは、人間にとって生命に次いで貴い受け継ぎである。

自由意志は霊界でも働いていた。そこにおいて福音の計画が提議され採用されて、人々は地上においても自由意志を授かることとなった。これに反対したサタンは3分の1の霊を率いて戦い、そして敗れた。しかしこの原則への反抗をあきらめたわけではない。

エデンの園において、神はアダムとその子孫に自由意志を授けられた。そのときから今に至るまで、サタンとサタンに従う者たちは、ありとあらゆる手段を用いて、自由意志の原則を強制の原則に置き換えようとしている。

サムエル記上には、判断の誤りがどのような結果をもたらすかが述べられている。第8章には、イスラエルの民がさばきづかさによる統治を不服としていることが記されている。彼らは王を望んだ。王はイスラエルの民を僕とするだけであると予言者が忠告したにもかかわらず、彼らはこれに耳を貸さず、王を立てることを主張したのだった。このことを嘆くサムエルに、主はこう言われた。「民が……言う所の声に聞き従いなさい。彼らが捨てるのはあなたではなく、わたしを捨てて、…」(サムエル上8：7)

こうしてイスラエルの民は、神が与えられた自由な統治を放棄したのである。望み通り王を立てたものの、数十年の後イスラエルの民は捕われ、奴隷と化してしまった。自らの選びによるものであっても、外部の力によって課せられたものであっても、奴隷の境涯には何の変わりもないのである。

次に、愛の原則についてお話したい。教会の福祉活動を行なうにあたり、時間や金銭を捧げ、奉仕の気持をかきたてるもの、それは愛である。

「互いに愛し合おうではないか」と愛弟子ヨハネは言い、こう続けている。「愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生まれた者であって、神を知っている。

愛さない者は、神を知らない。神は愛である。

神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。

愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互いに愛し合うべきである。」(Ⅰヨハネ4：7－9、11)

「世の富を持っていながら、兄弟が困っているのを見て、あわれみの心を閉じる者には、どうして神の愛が、彼のうちにあろうか。」(Ⅰヨハネ3：17)

イエスはこう言われた。「汝らもしわれを愛すれば……貧しき者のことを思い起し、……己が財物を神に奉献せよ。

また汝らの財物を貧しき者に分ち与うれば汝らこれをわれに為すなり。」(教義と聖約42：29－31)

イエスは、「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか」と尋ねられたとき、次のように答えられた。

「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあたなの神を愛せよ。

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である。『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。

これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている。」(マタイ22：36－40)

このことは、マタイ、マルコ、ルカの3人とも記している。しかしさらにルカは、「では、わたしの隣り人とはだれのことですか」(ルカ10：29)という律法学者の質問にも触れている。

この質問の答えとして、イエスは良きサマリヤ人のたとえ話を語られた。

このたとえ話から、教会福祉活動の

3原則中のふたつ、自由意志と隣人への愛をよく学ぶことができる。

私たちが心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、体力を尽くして主なる神を愛するときに、自分自身のように兄弟たちを愛するようになり、自由意志によって、進んで自分の持ち物を彼らのために与えるようになるであろう。

次に労働について申し上げたい。労働は福祉活動を成功させる上で、第一と第二の戒め、ならびに自由意志の行使と同じように重要なものである。

私たちは、1936年10月に発表された福祉プログラムに関する大管長会の声明を心に留めなければならない。

「私たちの第一の目的は、可能な限り、いまわしい怠惰や施しのもたらす悪弊を除去し、独立心、勤勉、倹約、自尊心を再び私たちの間に確立する体制を築くことである。教会の目的は、人々の自立を助けることにある。勤労が再び教会員の生活を貫く原則にならなければならない。」(「大会報告」1936年10月)

クラーク副管長は、1938年4月の大会で次のように述べている。

「私は老人の方々に敬意を表わしている。老人の方々が、周囲で援助できるにもかかわらず貧困や病気で苦しんでいる姿は、見るに忍びない。彼らはあらゆる世話、あらゆる親切な行ない、あらゆる愛を、地域社会と家族から受ける当然の権利がある。

私は老人に対して同情を禁じ得ない。彼らは現代のこの経済社会になかなか適応できないでいる。……

老人が寒さや空腹に悩まされ、裸で放置されることのないような計画を考える必要がある。しかし、老人の援助は第一にその家族に課せられており、社会に依存すべきではない。私たちの国は社会主義国家でも共産主義国家でもない。家畜のように、あちらの棚からこちらへと追い立てられるような国ではない。私たちには自由がある。従って、その責任と義務は家族に課せられる。これは神から与えられたものである。これを拒む家族は、義務を怠っていることになる。年老いた親に身寄りがないか、あっても経済的余裕がない場合に限り、社会が慈善の手を差し伸べることになるのである。これほど明白な事実はない。

しかし、ある年齢に達したら、その後はなまけていても国が世話をするというのは、この賢明な原則とあまりにかけ離れている。社会は、年齢に関係なく、怠惰な者に対しては責任を負わないのである。私は、このことを正しいとした言葉を聖書の中に見たことがない。過去において、怠惰な者を援助し、自由に生活させたという自由社会は存在しなかった。」(「大会報告」1938年4月　p.106、107)

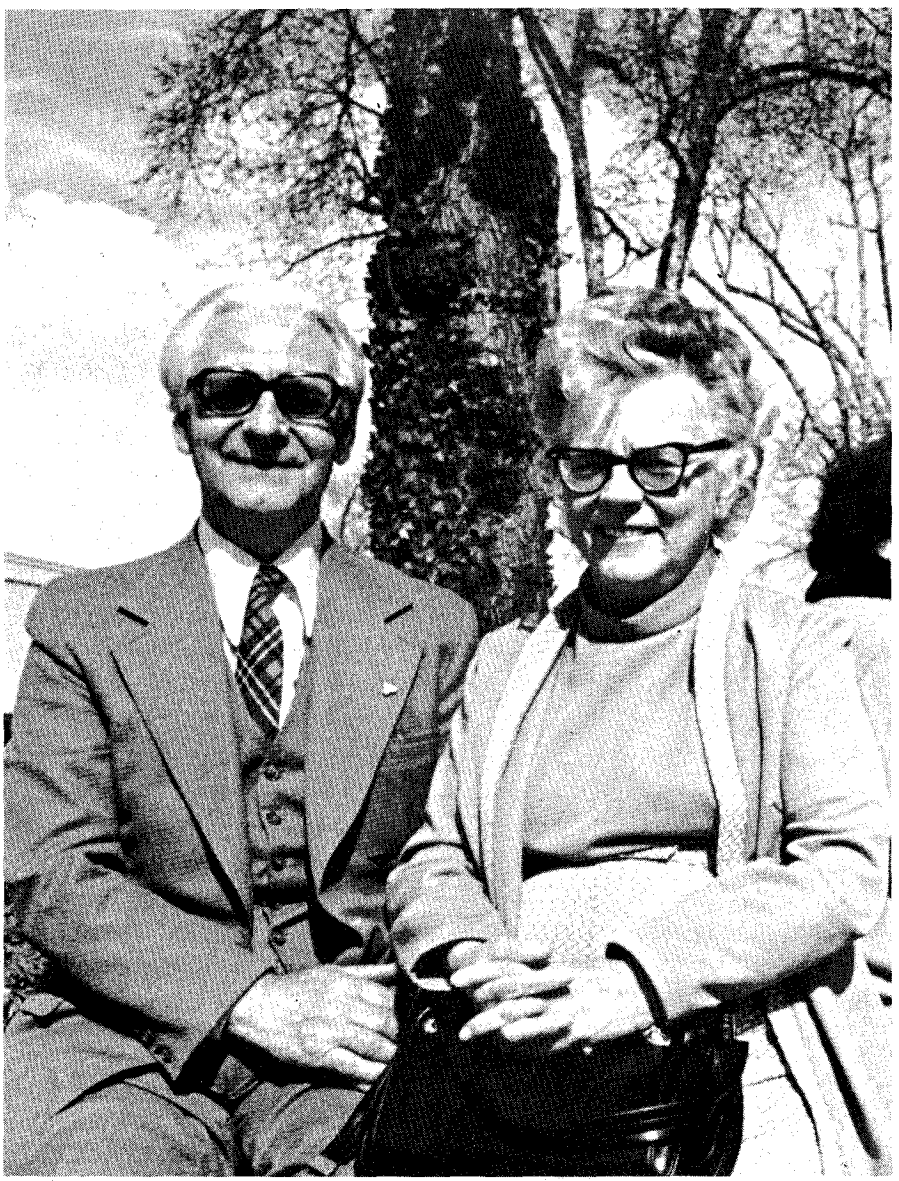
このようなことのできる社会は、今後も存在しないと、私は申し上げたい。

主は、教会の回復にあたって下したもうた数々の啓示の中で、福祉活動は愛と労働を基とすべきであることを告げられ、歴代の大管長もそれを繰り返し述べてきた。

主は、教義と聖約第42章に記された啓示の中で、予言者ジョセフ・スミスを通して、次のことを教会の律法として明らかにされた。

「汝怠惰なることなかれ。およそ怠惰なる者は働く者のパンを食することもなく、またその衣服も着るべからざればなり。」(教義と聖約42：42)

その後こう言われた。



ソルトレーク・シティーのアレックス・モリス兄弟とアイビー・モリス姉妹

「シオンに住む民は、その任命せられたる働きあらば、これを憶えて全く忠実に務むべし。およそ怠る者は主の前に憶えらるべければなり。

今やわれ主は、シオンに住める民を悦ばず。そは、怠る者その中にあり、彼らの子らもまた今や次第に悪事に増長し、永遠の富を熱心に求めずしてその眼は貪欲を以て充さるればなり。

かかることはあるべからず。故にすべからく彼らの中よりこれを無くすべきなり。」(教義と聖約68：30－32)

そして再びこう言われた。

「見よ、われ汝らに告ぐ、汝ら出行き、ひまどることもなく怠ることもなくして、全力を尽して働くはわが意なり。

また、われ誡に汝らに告ぐ、およそ己れの家族を扶養せざるべからざる男子には、ことごとく彼をして扶養せしむべし。然もこの者は決して冠を失うことなし。而してかかる者は教会の中にて働かしむべし。

あらゆる人は、すべてのことに精励せよ。怠惰なる者は悔い改めて行いを改むるにあらざれば、教会の中にて地位を与えらるることなし。」(教義と聖約75：3、28、29)

主は怠惰を非難されると同時に、労働の価値についても語っておられる。「われはわが葡萄園に働く者に大いなる祝福を与うれば……」(教義と聖約21：9)

9ヵ月後、さらに主は次のように言われた。

「われ、再び汝らに告げて一つの誡命を与う。汝ら長老、祭司、教師また会員に至るまで、あらゆる人々精力を尽しその手の働きを尽して為すべきことを為し、わが命じたることを準備し且つこれを為し遂ぐべし。」(教義と聖約38：40)

ノーブー館の株を得ようとした人について、主は次のように言われた。「人々の信用を得んがために自らの手を以て働くべし。」(教義と聖約124：112)

主は、与える者と受ける者の双方に、次のような偉大な言葉を語られた。

「貧しき者に財物を与えんとせざる汝ら金持は禍なるかな。汝らの富は汝らを腐蝕すればなり。而して主の来りたもう日、また審きの日、また主の怒りの日に汝らは歎き悲しみて言わん。あゝ、刈り入れは終り夏はすでに過ぎ去りぬ、われは救われず、と。

また真にへりくだりたる心を持たず深く罪を悔いる精神なく、腹に満足を抱かず、他人の物を取ることを止めず、その眼は貪りに満ち、己れの手を以て働かんとせざる汝ら貧乏人たちは禍なるかな。

されど清き心、真にへりくだりたる心、悔いる精神を持てる貧しき者は幸福なるかな。」(教義と聖約56：16－18)

啓示の中には、労働に関する聖句が100以上もある。そしてそれらすべてが、「誠に主来りてあらゆる人にその為せる行為に従いて応報を与え」(教義と聖約1：10；112：34をも参照)という二度繰り返し宣言された聖句に帰着するのである。

これまで話してきたことを明確にし、さらに理解を深めてくれるものに、「労働についての論説」がある。これは1844年10月15日、ノーブーにおいてジョン・テイラーが執筆し、出版したものである。私はつい先日これを見つけ、実に、驚くべき声明であると思った。これは予言者が殉教した直後に書かれたものである。それには次のように記されている。

「富も生産するのは労働である。そして労働は、生計を立てる手段として、神が授けたもうたものである。それゆえ、労働は生きるための普遍的な条件と言える。

神は御自身の創造物の品位を落とすようなことは決してなさらない。なぜなら、創造は神々の働きにより行なわれたからである。ましてや人間は、御自身に似せて造られたのであるからなおさらである。旧約聖書によれば、神御自身、この世を造るために6日働かれた。そして、アダムが、ちりの体に息を吹き込まれて霊が宿り、生ける人間となったとき、神はアダムを園に置き、これを耕すように命じられた。それ故私たちは、あらゆる聖者の指示に従って、労働を愛する人を敬い、怠惰な者をいやしむのである。……

バビロンとそのあらゆるこの世的な知恵、数々の美、偽りが崩壊し、二度と立ち上がって地上の人々を悩ますことがないようになる時が来る。その時のために備える人々として、民を働かそうではないか。」そしてこう続けている。「大酒飲みの罪の町バビロンが崩れ落ち、その灰の上に神の王国が聖く輝き、民が常に心をひとつにして神に仕える姿は何と輝かしいことであろう。」(「タイムズ・アンド・シーズンズ」5：679、1844年10月15日)

兄弟姉妹、ベルシャザル王の神殿の壁に書かれた文字の「解き明かしは確かである。」(ダニエル2：45)

バビロンは亡び、その亡びは大きいであろう(教義と聖約1：16参照)。

しかし失望しないでいただきたい。シオンはバビロンと共に亡びることはない。シオンは神が指示されたように、神と隣人に対する愛、労働、労働への意欲、この原則の上に建てられるからである。

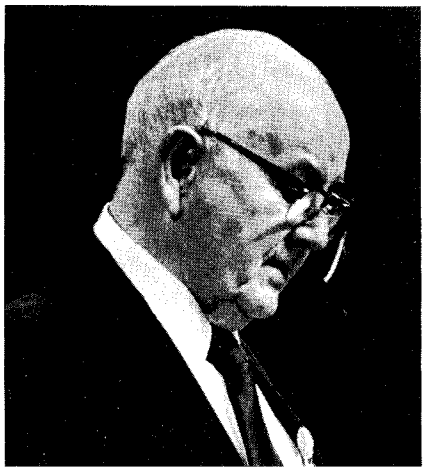
思い出していただきたい。エノクのシオンは、今日のように悪がはびこっていた時代に建てられたのである。当時、神のみ言葉を拒む者の間には、「戦と流血」があり、彼らはますます罪悪の中に落ち込んでいった。「然るに、主来りてその民と共に住みたまいたれば、彼ら正義の中に住みたりき。……彼ら心を一にし、精神を一にし、義に住みたればなり。されば彼らの中に貧しき者一人もなかりき。」(モーセ7：16：18)

私たちは、シオン建設の備えをするときに、教会福祉活動の根底をなしているふたつの原則、すなわち、神と隣人に対する愛、労働と労働に対する意欲、この原則を忘れてはならない。

私たちは人々が自立できるように援助し、「怠惰という悪弊が一掃され、施しの害悪が廃され、自立、勤勉、倹約、自尊心が再び人々の間に確立されるまで耐え忍ばなければならない。」

これらの証をイエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

4月3日(土)　福祉事業集会における説教



家族の備え

食糧生産、食糧貯蔵、および食糧品以外の日用品の貯蔵についての予言者の勧告。

大管長
スペンサー・W・キンボール

兄弟姉妹の皆さん、今朝私たちは、扶助協会会長のバーバラ・スミス姉妹と兄弟たちから、素晴らしい話を伺ったが、是非彼らの言葉に従っていただきたい。

彼らの話を聞きながら、私は救い主の次の言葉を幾度も思い返していた。「わたしを主よ、主よ、と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。」　この言葉が私の心の中を駆けめぐった。「わたしを主よ、主よ、と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。」（ルカ6：46）

今日、多くの教会員が、この偉大な組織が求め、提案している事柄を踏み行なっておらず、従うことに反論を唱えている。

主はさらに次のように言っておられる。「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。」（マタイ7：21）

この教会には、この会場にお集まりの人々と同じ位多くの会員を擁するワード部や支部が組織されている。このことを考えたとき、次のような思いが私の心をよぎった。全世界の監督と支部長全員が、（もちろん、貯蔵を認められていない一部の国は別として）今朝この集会で提案されたように貯蔵を行なったとしたらどうであろうか。そして主が求めておられる事柄を行なうよう、聖典を引用しながらワード部や支部の会員に強調し、300人、400人、あるいは500人の会員に同じメッセージを伝えるならば、何と素晴らしい成果を期待できることであろうか。これらの事柄を行なっていない人が多いからである。

また、「でも、たくさん貯蔵しても、福音を信じてもいない隣近所の人が来て持って行ってしまうのではねえ」と言う人もいる。

それについて、先にあげたふたつの聖句を強調したいと思う。「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。」　「わたしを主よ、主よ、と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。」

今日この場にお集まりのステーキ部長、伝道部長、およびその他の指導者の管理下にある多くの人々について考えていただきたい。何百人、何千人の会員を擁している750のステーキ部すべてがこれを行ない、実際に達成の段階に至るまでこの業を推し進めるならば、私たちは、持てる力を十分に発揮することができるであろう。

兄弟姉妹、私たちは今朝、決して忘れてはならない、またなおざりにしてはならない大切なプログラムについて考えるために、ここに集まっている。生活が豊かになり、貯金も増えてくると、私たちは安心感を抱くようになり、教会幹部から提案された貯蔵の必要性を感じなくなることが時としてある。しかし、そういった心配はその場限りのもので、やがては朽ちてしまう。そうではないだろうか。しかし私たちにはこの安心感を保ち続ける手段がある。次のことをよく心に留めていただきたい。やがて世の情勢が変わるであろう。そのとき、1年分の生活必需品の貯えがあれば、どんなに助けになることだろう。この意味から、私たちは今日話されたことによく耳を傾け、それに従う必要がある。

イギリスでのストライキの話である。電力会社がロックアウトしたために、週に3日しか電気が来なかった。そのとき、ある小さな店のウインドーに次のような言葉が貼り出された。「ろうそくのエネルギー、電池のエネルギー、そして意志のエネルギーで週6日営業します。」　この意志のエネルギーこそ、最も大切なものである。

ある国では貯蔵あるいは剰余の産出を禁じている。私たちは自分の国の法律を敬い、守り、支持するものである（信仰箇条第12条参照）。しかし貯蔵を許可された世界の大半の国においては、兄弟たちの勧告と主のみ言葉に耳を傾けるべきである。

家族が教会と社会の基本単位であることを認識して、私たちは、次の点について家庭をさらに強く麗しい場所とするため新たな努力を払うよう、各地の末日聖徒に呼びかけたいと思う。すなわち、食糧生産、保存、貯蔵、食糧

品以外の物の生産と貯蔵、家庭内外の修理と清掃である。これらの事柄については、次の集会で詳しくお話したいと思う。

私たちは皆さんに、庭を利用してできるだけいろいろな作物を栽培するようにお勧めしたい。気候が適切であれば、果樹やいちごなどを栽培してはいかがだろうか。庭で野菜を育て、それを食用としていただきたい。アパートに住んでいる人でも、ポットなどを使えば栽培できるはずである。最も適切な栽培方法をよく研究していただきたい。ただ収穫を得るだけでなく、きれいで魅力的な庭にしようではないか。また子供のいる家庭では、責任を与えて、子供も参加させるとよい。

ロムニー副管長が先程話したことは基本的なことである。子供たちは働くことを学ぶ必要がある。両親は子供の関心を引くものを捜そうとして無下に時を費やす必要はない。子供たちが熱中できるものを見つけ、また価値ある事柄に彼らを没頭させることである。

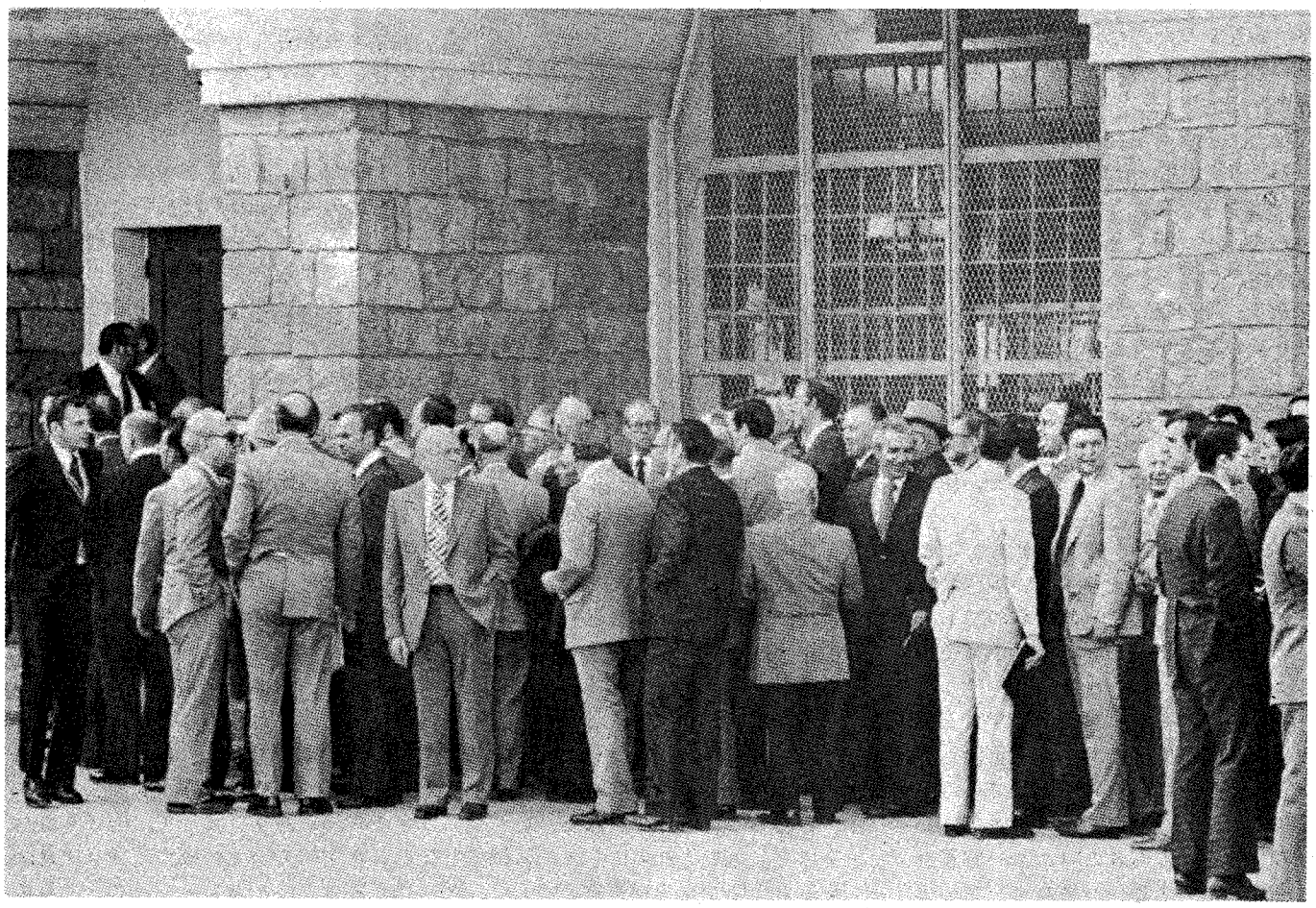
食糧保存および貯蔵の技術を高めていただきたい。教会がかねてから与えている勧告、すなわち1年分の生活必需品の貯蔵計画に従い、それを継続すべきである。このことをここで再び強調したい。先程フェザーストーン兄弟は、この点について非常にわかりやすく説明して下さった。

できれば、食糧品以外の生活必需品も自らの手で生産するようお勧めする。また女性は裁縫の技術を伸ばし、家族の衣服の縫製や繕いをしていただきたい。若い女性は皆タイプを習い、就職することを望んでおり、家にいて裁縫をしたり、自分たちが使うものを自分で作ろうとする人々はいないようである。姉妹たちが語っているように、手仕事の技術を伸ばし、必要なものを自らの手で作るようにしていただきたい。

それぞれの家族が、1年分の必需品を貯えるように私たちはお勧めする。これまで何度も何度も、繰り返し繰り返し引用されてきた主の言葉をもう一度申し上げる。「わたしを主よ、主よ、と呼びながら、なぜわたしの言うことを行なわないのか。」 いわゆる霊性を活動させ、主の尊いみ名を呼びながら、一方では主のみ言葉に従わないでいるとしたら、何と空しいことであろうか。

皆さんの家屋、庭、畑、職場をきれいにし、必要な箇所に手を加えていただきたい。垣根を修理し、必要ならば掃除をし、塗装を怠ることのないように。また絶えず庭の手入れをしていただきたい。事情がどうあれ、家庭を幸福で麗しく、秩序ある場とする必要がある。入念な計画を立て、秩序正しくまた組織的にその計画を実行していただきたい。

負債を避けなさい。私たちはこのことについてたびたび話してきた。しかし、今日あらゆるものを負債で求めよ



タバナクルへの入場を待つ兄弟たち

うとする傾向があるように思える。「クレジットカードを使って、今すぐあなたのお手もとに。」　皆さんはこのような誘いを多く受けている。しかし、実際に生活する上でこれは全く必要のないことである。

食糧品および食糧品以外の日用品の保存法について、信頼できる情報を地元の機関から入手していただきたい。さらに資料が必要な場合、神権指導者および扶助協会指導者は、教会本部宛に手紙を書いて（宛先：*Home Production and Storage, 50 East North Temple Street, Salt Lake Cjty, Utah 84150, U.S.A*）必要な情報をすべて入手していただきたい。私たちはすべての末日聖徒の家族に自立するようお勧めする。偉大な民と国家の基は家庭である。あらゆる面で家庭を堅固で麗しい場とするよう努めようではないか。

パウロはその書簡の中で次のように述べている。「人からパンをもらって食べることもしなかった。それどころか、あなたがたのだれにも負担をかけまいと、日夜、労苦し努力して働き続けた。

また、あなたがたの所にいた時に、『働こうとしない者は、食べることもしてはならない』と命じておいた。

ところが、聞くところによると、あなたがたのうちのある者は怠惰な生活を送り、働かないで、ただいたずらに動きまわっているとのことである。

こうした人々に対しては、静かに働いて自分で得たパンを食べるように、主イエス・キリストによって命じまた勧める。」（IIテサロニケ3：8、10－12）

「もしある人が、その親族を、ことに自分の家族をかえりみない場合には、その信仰を捨てたことになるのであって、不信者以上にわるい。」（Iテモテ5：8）

本日兄弟たちが、神権福祉プログラムについて再度私たちに注意を促して下さったことを心から感謝している。特にこの大切なプログラムを長年にわたり指導してこられたロムニー副管長に感謝したいと思う。彼なくして神権福祉プログラムとその推進について考えることはできない。

主の道は個人の自尊心を築き、個人の尊厳を増し、また回復する。それに対して世の道は、自分自身を軽んじ、深い憤りを生じさせる。

特別な状況下にあって一時的に援助を必要とする場合もあろうが、主の道に従う人は、経済的な自立を図ろうと熱心に努めるものである。これに対して、世の道に従う人は、福祉プログラムに対する依頼心を深め、経済的な自立どころか、ますます福祉に頼る気持を起こす。

主の道は私たち会員に、労働についての福音の教えに対する個人的な証も得させる。労働は、生産を得るためだけでなく、人類の幸福にとっても非常に大切なものである。しかし世の風潮は、レジャーに増々その心を向け、労働を回避する傾向を強めている。

さてここで気を付けていただきたいのは、これはすべて国の法律の範囲内で行なわなければならないということである。

私たちすべての教会員は、断食の律法を守るべきことを今一度思い起こす必要がある。私たちはしばしば様々な個人的理由から断食をする。しかしそのほかにも、伝道の歩みが早まり、まだ伝道が許されていない国々に福音が伝えられる道が開かれるように断食をしていただきたい。このように、様々な事柄および様々な目的のために断食し、祈ることはよいことである。

私の父はよく石けんで馬具を洗っては油を塗って手入れをしていた。私はそのような父に育てられたことをとてもうれしく思っている。私は、塀、水槽、物置き、穀物倉庫、馬車、荷車、そして最後には家まで塗装した。また、手に火ぶくれを作ることもあったが、そのような経験を疎ましく思ったことは一度もない。

私は、編細工や編物をしたり、家にいつも何か新しく清潔なものを備えている姉妹を見ると、賛辞を送りたくなる。私たちは、自分で衣服を縫い、食事を作り、家をきれいにしている姉妹を見ると、いつも喜びを覚える。

私たちが今日の若人に求めていることは正にこれである。私たちは、彼らの興味を引く方法を見出そうとして非常に多くの時間を費やしている。私は労働によって損なわれるものは何もないと信じている。労働は御父の創造の中で、賢明かつ最も大切な欠かすことのできないもののひとつである。

歴史の変遷に伴い、神は多くの律法を廃止されたが、労働の律法について神がこれを取り消されたことは一度としてない。体内の目に見えない細胞の一つ一つから月着陸に至るまで、労働すなわち働きは、物に生命を与える条件のひとつである。私たちは、日々の労働は目的をもった活動であり、余暇を犠牲にしてエネルギーを注ぎ込む必要があることを学んできた。

銀行、商店、会社で働く人々の中に、努力もせずに自分の仕事に不平を言い、給料に見合う以上のことはしないという態度を取る人を見るにつけ、私は心を痛めている。確かに働く時間は長いし、また労働条件を規制する法律がたくさんあることも私は知っている。しかし、少なくとも、彼らのこうした態度は現実の問題としてあり得るのである。

1週間ほど前のことである。レストランに入った私たちは長いこと待たされ、一向に注文を取りに来る様子はなかった。するとウェートレスの会話が耳に入った。「なぜ注文を取りに行かないの。」　「だって、あのテーブルは私の担当ではないもの。」　彼女たちは何をするでもなく、ただじっと立っているだけであった。

私たちの先祖は、一生懸命に働かなくてはならなかった。私たちは今、その先祖の模範に従う必要に迫られているように思う。

兄弟姉妹の皆さん、話を終えるに当たり、私は皆さんに、スミス姉妹や管理監督会、およびロムニー副管長の言葉に従うようお勧めしたい。この福音は実践の福音であり、私たちは学んだことをすべて行動に移す必要がある。主の祝福があり、私たちに告げられたこれらすべての主の戒めに従う決意が持てるよう、イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

高価なる真珠に追加された聖文

4月3日土曜日、一般大会午後の部において、大管長会のN・エルドン・タナー副管長は以下の声明を発表した。

「1976年3月25日、ソルトレーク神殿において開かれた大管長会と十二使徒評議員会の集会で、次のふたつの啓示が高価なる真珠に付け加えられることが承認された。

第一は、1836年1月21日、オハイオ州カートランド神殿において、予言者ジョセフ・スミスに与えられた日の光栄の王国に関する示現である。これは福音の知識なくしてこの世を去った人々の救いに関するものである。

第二は、1918年10月3日、ユタ州ソルトレーク・シティーにおいてジョセフ・F・スミス大管長に与えられた示現である。これは、主イエス・キリストが霊界を訪れた次第を明らかにし、死者の贖いの教義を確立するものである。

私たちはこの決定を支持し、また承認し、これらの啓示を末日聖徒イエス・キリスト教会の標準聖典に付け加えることを提議する。」

この提議は全会一致で承認された。以下の翻訳は仮の翻訳であり、節に分けられていない。正式な原文が完成し、高価なる真珠に編入する準備が整い次第、再度掲載する予定である。

日の光栄の王国に関する示現

1836年1月21日，オハイオ州カートランドの神殿において予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示。エンダウメントの儀式の執行中にこの啓示が与えられた。当時，エンダウメントの儀式については，部分的な啓示しか与えられていなかった。(「教会歴史」2：380－81参照)

1836年に日の光栄の王国の示現を受けた予言者ジョセフ・スミス

諸天が私たちの前に開かれ、私は神の日の光栄の王国とその栄光とを見た。肉体にあってか、肉体を離れてか告げることができない。私はその王国を受け継ぐ者たちが入るこの上なく美しい門を見た。それは、渦巻く炎のようであった。また、輝く神の王座に御父と御子が座しておられるのも見た。私はその王国の美しい街路を見た。それは金を敷きつめたかのようであった。私は父祖アダムとアブラハムを見た。また私の父の母、この世を去ってかなりの歳月を経た兄のアルビンがいた。私は兄がなぜその王国で受け継ぎを得ているのか不思議に思った。兄がこの世を去ったとき、主はいまだ、イスラエルの第二の集合に着手しておられず、兄自身罪の赦しのためのバプテスマを受けていなかったからである。

ここにおいて主の声が私に臨んだ。

この福音の知識なくして世を去り、もし世にとどまることを許されていれば福音を受け入れたであろうすべての人々は、神の日の光栄の王国を受け継ぐであろう。さらに、これより後も福音の知識なくして世を去り、かつ心から福音を受け入れるであろう人々はすべて、日の光栄の王国を受け継ぐであろう。主なる我は、すべての人をその仕業に応じ、その心の望みに応じて裁くからである。」私はまた、責任をとることのできる年齢に達する前に世を去った子供がすべて天の日の光栄の王国において救われているのを見た。

死者の贖いの示現

1918年10月3日，ユタ州ソルトレーク・シティーにおいてジョセフ・スミス大管長に与えられた示現。これは，主イエス・キリストが霊界を訪れた次第を明らかにし，死者の贖いの教義を確立するものである。

1918年10月3日、私は自分の部屋において聖典の言葉に思いを留め、世を贖うために神の御子が払われた大いなる贖いの犠牲と、贖い主の降臨にあたって御父と御子の表わされた大いなる驚嘆すべき愛について深く考えていた。御子の贖罪により、また福音の諸原則に従うこととにより、人類が救われ得る愛である。

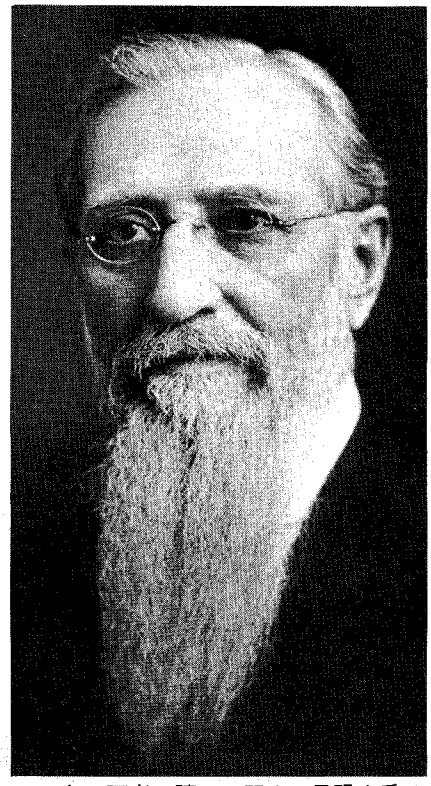
私はこのように思いをめぐらしていると、主が十字架上で亡くなられた後に福音を宣べ伝えられたポンタス、ガラテヤ、カッパドキア等、アジアの地方に散在する初期の聖徒に宛てた使徒ペテロの書簡が心に浮んできた。私は聖書を開いて、ペテロ第一の手紙の第3章と4章を読み始めた。そして、次の聖句にかつてなく強く胸を打たれた。

「キリストも、あなたがたを神に近づけようとして、自らは義なるかたであるのに、不義なる人々のために、ひとたび罪のゆえに死なれた。ただし、肉においては殺されたが、しかし霊によっては生かされたのである。

こうして、彼は獄に捕われている霊どものところに下って行き、宣べ伝えることをされた。

これらの霊というのは、むかしノアの箱舟が造られていた間、神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった者どものことである。その箱舟に乗り込み、水を経て救われたのは、わずかに8名だけであった。」（欽定訳Ⅰペテロ3：18－20）

「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである。」（Ⅰペテロ4：6）



1918年に死者の贖いに関する示現を受けたジョセフ・F・スミス大管長

これらのことについて深く考えていると、私の理解の眼が開かれ、また主のみたまが私の上にとどまった。そして、小さき者と大いなる者の死者の群が見えた。おびただしい数の義人の霊が群をなしてひとつ所に集まっていた。彼らはこの世においてイエスの証に忠実であった者たちであり、神の御子の大いなる犠牲に似た犠牲を捧げ、贖い主のみ名のもとに艱難を受けた者たちであった。これらの者はすべて、父なる神と御父の生みたまいし独り子イエス・キリストの憐みによりもたらされる栄えある復活に確固たる望みを抱きつつ世を去った者たちであった。

私は彼らが喜びに満たされ、解き放たれる日が目前に迫っていることで共に喜んでいるのを見た。彼らは集まり、神の御子が霊界に来て、死の縄目から贖いを宣言したもうのを待っていた。彼らの眠れる塵は、骨と骨とが結合して腱と肉とで覆われ、その完全な形に回復されるはずであった。すなわち、彼らが完き喜びを受けるために、霊と肉とが再び分かれることのないように結び合わされるのであった。

この大群衆が死の鎖から解き放たれる時を喜び、互いに語り合いながら待っていると、神の御子が現われたもうた。そして忠実であった捕われ人に自由を宣言し、また永遠の福音、復活の教義、堕落からの人類の贖い、悔改めを条件とする個人の罪の贖いについて彼らに説き教えられた。しかし、御子は邪悪な者たちの所へは行かれなかった。そして、神を敬わない者、肉体を得ていたときに自らを汚して悔改めなかった者には、御子の声はあげられなかった。また、古代の予言者たちの証と警告に耳を傾けなかった者たちは、御子の訪れを受けることも、御子の顔を仰ぎ見ることもなかった。これらの

者のいる所は闇に支配されていた。しかし、義人の間には平安があった。そして聖徒たちは、自分たちの贖いを喜び、ひざをかがめ、神の御子が死と地獄からの贖い主、解放者であることを認めた。彼らの顔は輝き、主のみ前より放たれる光が彼らの上にとどまった。そして彼らは主の聖きみ名を讃美した。

私はそのとき不思議に思った。なぜなら、救い主はユダヤ人とイスラエル家の人々の間にあって約3年間導きと教えを施す業に携わり、彼らに永遠の福音を教え、悔い改めを呼びかけることに力を尽くされた。しかし、主の力ある働きと奇跡、大いなる権威と権能に基づく真理の宣言にもかかわらず、主の声に耳を傾け、主の来臨を喜び、救いを手にした者はほんの少数であることを私は知っていたからである。しかも主の死者への伝道は、十字架上の死と復活の間のわずかな時に限られていた。神の御子は、昔ノアの時代に神が寛容をもって待っておられたにもかかわらず従わなかったために獄に捕われた霊たちのところへ行って宣べ伝えられた、とペテロは語っている。私は、主がこのわずかな時間内にこれらの霊たちに宣べ伝え、なすべき業を果たすことがどうしてできたのだろうかと、不思議に思った。

こうして思いあぐねていると、悟りの眼が開かれた。そして私は、主が真理を受け入れなかった邪悪な者、不従順な者の間へ自ら行って教えられたのではないことを知った。見よ、主は義人の中から軍勢を組織し、権威と権能を持つ使者を任命し、闇の中にいる者たち、さらにはすべての人の霊のもとに福音の光を携えて行くよう命じられたのであった。このようにして死者に福音が宣べ伝えられたのである。選ばれた使者は行って主に受け入れられる日の到来を言明し、捕われの身の者、さらに言うならば、罪を悔い改めて福音を受けいれるすべての者に解放を宣言した。このようにして、真理の知識がなく罪のあるまま死んだ者、予言者を拒み罪のうちに死んだ者に対して福音が宣べ伝えられた。神を信じる信仰、罪の悔改め、罪の赦しを受けるための身代りのバプテスマ、按手により授かる聖霊の賜、その他肉においては人間として裁きを受けるが、霊においては神に従って生きるようになる資格を得るため知っておかねばならない福音のすべての原則が、これらの霊に教えられた。

このように、小さき者にも大いなる者にも、不義な者にも忠実な者にも、神の御子の十字架上での犠牲を通して贖いがもたらされたことが死者に知らされた。こうして贖い主が霊界での滞在期間をどのように過ごされたかが明らかになった。贖い主は、この世で予言者として主を証した忠実な霊を教え、備えて、反抗と罪のゆえに主御自身が行くことのできないすべての死者のもとに贖いのおとずれを携えて行かせ、僕の業により彼らにもみ言葉を伝えさせた。

この義人の群に加わっていた大いなる力ある者たちの中に、日の老いたる者、全人類の父である父祖アダムがいた。また栄えある母イブが、この世において生ける真の神を礼拝していた多くの忠実な娘たちと共にいた。最初の殉教者アベルも、さらにその弟で、力ある者のひとり、父アダムに生き写しのセツもいた。洪水を警告したノア、偉大な大祭司セム、忠実なる者の父アブラハム、イサク、ヤコブ、イスラエルの偉大な立法者モーセもいた。さらに、へりくだりたる者を集め、捕われた人に自由を宣言し、その獄を開くよう油注がれていた贖い主について予言したイザヤもそこにいた。

死者の復活のときに肉体をまとって生ける霊の結合体となる乾いた骨が大きな谷を埋め尽くしているのを示現で見たエゼキエル、末日に神の王国が建てられ、決して滅びることも他の民の手に渡されることもないことを予見し、予言したダニエル、変貌の山でモーセと共にいたエライジャの姿もあった。また、モロナイも予言者ジョセフ・スミスに告げているが、エライジャが主の大いなる恐るべき日に先立って来ると証し、宣言したマラキもそこにいた。予言者エライジャは、全地が呪いをもって撃たれ、主の来たるときにことごとく荒廃することのないように、時満ちたる神権時代に主の宮居において死者の贖いと親子の結び固めが行なわれる大いなる業を予告し、父に与えられた約束を子らの心に植え付けた。

これらすべてに加えて、ニーファイ人の間で神の御子の降誕を証した予言者たちを含む多くの者が、大きな群となって解放を待っていた。なぜならば、死者は肉と霊とが長い間分離していることを束縛と考えていたからである。主は、御自分の復活の後に、彼らもよみがえって御父の冠を受け、その後主が約束されたように各々の働きを続け、主を愛する者のために備えおかれたすべての祝福にあずかる者となることを教え、そのための力を授けられた。

神殿の建築、また、死者の贖いのためにそこで行なわれる儀式を含む偉大な末日の業の基を置くために、時満ちたる時代までこの世に来るのをとどめおかれた予言者ジョセフ・スミス、私の父ハイラム・スミス、ブリガム・ヤング、ジョン、テイラー、ウイルフォード・ウッドラフ、その他選ばれた霊たちも霊界にいた。私は、神の教会において治める者となるよう時の初めに選ばれた高貴にして偉大なる者たちの中に彼らがいるのも見た。彼らは、生まれる前から他の多くの者と共に霊界で最初の教えを受け、主の定められたときに出て行って人を救うために主のぶどう園で働くよう準備をしていた。

私は、この神権時代の忠実な長老たちが、この世を去った後も、死者の霊が住む大きな世界において、闇に包まれ罪のかせにつながれている者たちの間で、神の生みたまいし独り子の犠牲を通じてもたらされた悔改めと贖いの福音を引き続き宣べ伝えているのを見た。悔い改めた死者は、神の宮居の儀式を受けることによって贖われるであろう。そして自らの罪の代価を支払い、洗われて清くなった後に、その行ないに応じて報いを受けるであろう。彼らは救いを受け継ぐ者だからである。

このようにして、死者の贖いに関する示現が私に明らかにされた。私はこれを証する。そして、私は救い主イエス・キリストの恵みにより、この証が真実なものであることを知っている。アーメン。

聖徒の道
1976年8月20日発行（毎月1回20日発行）　第20巻第8号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可